上大利北土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書X

牛頸本堂遺跡群Ⅷ

～ 第8・13 次調査 ～

大野城市文化財調査報告書　第82 集

2008

大野城市教育委員会

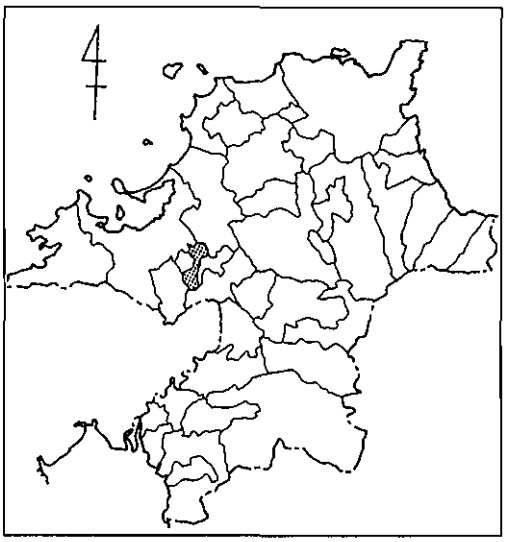
九州国立博物館
20015818

上大利北土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書X

牛頸本堂遺跡群Ⅷ

～ 第8・13 次調査 ～

大野城市文化財調査報告書　第82 集



2008

大野城市教育委員会



8次SD02出土遺物集合写真



13次2・3区調査全景

序

今回報告する牛頸本堂遺跡は、九州最大の須恵器窯跡群「牛頸窯跡群」の一角に位置し、旧石器時代から現代にいたる活動の痕跡が確認されている遺跡です。第８・13次調査は、上大利北土地区画整理事業に伴い平成16・17年に実施したものです。調査の結果、弥生時代から平安時代の集落跡が発見され、連綿と人々が生活していた場所であったことが分かりました。また奈良時代の窯跡と失敗品の須恵器を大量に棄てた溝跡が発見されたことで、九州最大の牛頸窯跡群では奈良時代に大規模に生産がおこなわれていたことが再確認されました。

今後、このような成果を研究者だけではなく広く市民に知らせ活用することで地域の歴史の素晴らしさを再確認していただき、地域愛護につないでいきたいと思います。そのためにも本書が広く活用され、文化財への理解と認識を深める一助となり，文化財愛護の精神が高揚する手掛かりとなれば幸いです。

最後になりましたが、上大利北土地区画整理組合をはじめ㈱大成建設、工事関係者及び地元の方々にご理解とご協力をいただきましたことに対し厚く御礼申し上げます。

平成20年9月30日

大野城市教育委員会

教育長　古賀　宮太

例　言

1．　本書は、大野城市教育委員会が上大利北土地区画整理事業に伴って発掘調査を実施した、大野城市大字上大利所在の本堂遺跡第８・13次調査の報告書である。なお上大利地区は牛頸窯跡群の範囲に含まれており、こうした歴史事象を踏まえたことから本書の表題を『牛頸本堂遺跡群』とした。

2．　発掘調査は、大野城市上大利北土地区画整理組合の委託を受け大野城市教育委員会が実施した。

3．　遺構写真は、早瀬賢・一瀬智（現福岡県教育委員会）・久住愛子（旧姓井上）が撮影した。

4．　遺物写真は、㈱埋蔵文化財サポートシステム（松尾直子・毛利恒彦）が撮影した。

5．　遺構平面実測図・地形測量図は、㈱埋蔵文化財サポートシステムに委託し、個別遺構実測図は早瀬・一瀬・久住が作成した。なお、地形測量図のコンターは25cm間隔である。

6．　遺構実測図中の方位は磁北を表し、図上の座標は国土座標（第Ⅱ系）を示す。

7．　遺物実測図・拓本・観察表・製図は、㈱埋蔵文化財サポートシステムが作成した。

8．　本書に掲載した遺跡分布図は、国土地理院発行の１／25,000地形図『福岡南部』『太宰府』を使用したものである。

9．　遺物の名称の内、須恵器蓋杯については平城宮分類による呼称を用いる。

10.　本書の遺物・実測図・写真はすべて大野城市教育委員会が管理・保管している。

11.　本書に使用する土色名は、『新版標準土色帖』農林水産省農林水産技術会議事務局監修を使用した。

12.　本書の執筆は、Ⅱ．調査の結果　Ｂ．遺構と遺物を㈱埋蔵文化財サポートシステム（平島義孝・松﨑卓郎）、他の項目は早瀬が担当した。編集は早瀬の指導の下㈱埋蔵文化財サポートシステム（平島義孝・松﨑卓郎）　が行った。

本　文　目　次

Ⅰ．はじめに

１．調査経過…… 1

２．調査体制…… 1

Ⅱ．調査の結果

１．第８次調査

Ａ．調査概要…… 8

Ｂ．遺構と遺物…… 8～53

Ｃ．小結…… 54

２．第13次調査

Ａ．調査概要…… 57

Ｂ．遺構と遺物…… 57～108

Ｃ．小結…… 108

Ⅲ．まとめ

奈良時代の牛頸窯跡群…… 134～135

図　版　目　次

図版１（１）８次１号窯跡灰原検出状況（北東から）

（２）８次１号窯跡検出状況（南西から）

図版２（１）８次１号窯跡焚口部遺物出土状況（北から）

（２）８次１号窯跡焼成部右側壁（東から）

（３）８次１号窯跡焼成部左側壁（北から）

図版３（１）８次１号窯跡　ｃ－ｃ’間天井部残存状況（北東から）

（２）８次１号窯跡　ｄ－ｄ’間天井部残存状況（北東から）

（３）８次１号窯跡焼成部天井崩落状況（北東から）

図版４（１）８次１号窯跡　ｃ－ｃ’間土層（北東から）

（２）８次１号窯跡　ｄ－ｄ’間土層（北東から）

（３）８次１号窯跡　ｅ－ｅ’間土層（北東から）

図版５（１）８次１号窯跡天井部残存状況（北東から）

（２）８次１号窯跡　ａ－ａ’間土層（北から）

（３）８次１号窯跡焚口部土層（北から）

図版６（１）８次１号窯跡　ａ－ａ’間主軸土層（東から）

（２）８次１号窯跡　ａ－ａ’間主軸土層（東から）

（３）８次１号窯跡主軸断割（北から）

図版７（１）８次１号窯跡焼成部１次床面検出状況（北東から）

（２）８次１号窯跡焼成部側壁　ｃ－ｃ’間断割（北から）

（３）８次１号窯跡焼成部側壁　ｅ－ｅ’間断割（東から）

図版８（１）８次１号窯跡焼成部側壁　ｅ－ｅ’間断割（東から）
（２）８次１号窯跡最終床面検出状況（北東から）
図版９（１）８次１号窯跡完掘状況全景（北東から）
（２）８次北側斜面平坦部完掘状況（北から）
図版10（１）８次北側斜面平坦部完掘状況（北東から）
（２）８次北側斜面平坦部第２面完掘状況（北東から）
図版11（１）８次ＳＤ０１完掘状況（東から）
（２）８次ＳＤ０２　ａ－ａ’間土層（北東から）
図版12（１）８次ＳＤ０２　ｂ－ｂ’間ベルト土層（北東から）
（２）８次ＳＤ０２　ｃ－ｃ’間土層（南から）
（３）８次ＳＤ０２北端壁　ｄ－ｄ’間土層（東から）
図版13（１）８次ＳＤ０２底面ピット完掘状況（北東から）
（２）８次ＳＤ０２完掘状況（南西から）
図版14（１）８次ＳＤ０２完掘状況全景（南西から）
（２）８次ＳＤ０３　ａ－ａ’間土層（北東から）
図版15（１）８次ＳＤ０３　ｂ－ｂ’間土層（北から）
（２）８次ＳＤ０３　ｃ－ｃ’間土層（北東から）
（３）８次ＳＤ０３　ｄ－ｄ’間土層（北東から）
図版16（１）８次ＳＤ０２・０３完掘状況（南から）
（２）８次ＳＤ０３完掘状況全景（南西から）
図版17（１）８次ＳＤ０３完掘状況全景（北東から）
（２）８次ＳＤ０４完掘状況全景（北東から）
図版18（１）８次ＳＫ０２・ＳＸ０４完掘状況（北から）
（２）８次ＳＫ０３内白磁出土状況（南西から）
（３）８次ＳＫ０６完掘状況（北東から）
図版19（１）８次ＳＫ０７土層断面（南から）
（２）８次ＳＫ０７完掘状況（西から）
（３）８次ＳＫ０８土層断面（北から）
図版20（１）８次ＳＫ０８完掘状況（南から）
（２）８次ＳＫ０９完掘状況（南東から）
（３）８次ＳＫ１０完掘状況（北から）
図版21（１）８次ＳＫ１３完掘状況（北から）
（２）８次ＳＸ０３遺物出土状況１（東から）
（３）８次ＳＸ０３遺物出土状況２（北東から）
図版22（１）８次ＳＸ０４遺物出土状況（東から）
（２）８次ＳＸ０４完掘状況（南西から）
（３）８次ＳＸ０９遺物出土状況（北東から）

図版 23　　８次ＳＸ０７完掘状況（北東から）
図版 24（１）13 次調査区全景（南から）
（２）13 次１区全景（南東から）
図版 25（１）13 次２区斜面裾部全景（ＳＸ０７周辺）（南から）
（２）13 次１号窯跡全景（南東から）
図版 26（１）13 次３区全景（南西から）
（２）13 次貯蔵穴群全景（ＳＫ０７周辺）（南東から）
図版 27（１）13 次灰原検出状況（南東から）
（２）13 次灰原１区　ｂ－ｂ’間土層（南東から）
（３）13 次灰原２区　ｂ－ｂ’間土層（南東から）
図版 28（１）13 次灰原３区　ｂ－ｂ’間土層（南東から）
（２）13 次灰原１－１・２区　ａ－ａ’間土層（南から）
（３）13 次灰原１－２・３区土層（南から）
図版 29（１）13 次２－３・４区　ｃ－ｃ’間土層（南から）
（２）13 次２－５・３－１区　ｅ－ｅ’間土層（南から）
（３）13 次１号窯跡煙道部　ａ－ａ’間土層（南東から）
図版 30（１）13 次１号窯跡右側壁面（南西から）
（２）13 次１号窯跡左側壁面（東から）
（３）13 次１号窯跡底面直上遺物出土状況（南東から）
図版 31（１）13 次１号窯跡焼成部　ｃ－ｃ’間土層（南東から）
（２）13 次１号窯跡焼成部　ａ－ａ’間土層（東から）
（３）13 次１号窯跡主軸　ａ－ａ’間土層（南東から）
図版 32（１）13 次１号窯跡前庭部遺物出土状況（北西から）
（２）13 次１号窯跡前庭部　ａ－ａ’間土層（南西から）
（３）13 次１号窯跡焚口床面直上遺物出土状況（南西から）
図版 33（１）13 次１号窯跡横断割（北東から）
（２）13 次１号窯跡縦断割１（南東から）
（３）13 次１号窯跡縦断割２（南東から）
図版 34（１）13 次ＳＫ０１土層（南から）
（２）13 次ＳＫ０２土層（南西から）
（３）13 次ＳＫ０２完掘状況（南東から）
図版 35（１）13 次ＳＫ０５土層（南西から）
（２）13 次ＳＫ０５完掘状況（南から）
（３）13 次ＳＫ０７・１３完掘状況（南から）
図版 36（１）13 次ＳＫ０８土層（西から）
（２）13 次ＳＫ０８完掘状況（南から）
（３）13 次ＳＫ０８・０９完掘状況（西から）

図版 37（１）13 次ＳＫ１０土層（南から）
（２）13 次ＳＫ１０完掘状況（南から）
（３）13 次ＳＫ１１完掘状況（南から）
図版 38（１）13 次ＳＫ１２完掘状況（北東から）
（２）13 次ＳＫ１３・１７・ＳＸ０７・１１完掘状況（南から）
（３）13 次ＳＫ１３土層（東から）
図版 39（１）13 次ＳＫ１６完掘状況（東から）
（２）13 次ＳＸ０３土層（南西から）
（３）13 次ＳＸ０３－１・２遺物出土状況（東から）
図版 40（１）13 次ＳＸ０３－３遺物出土状況（大型杯蓋）（南から）
（２）13 次ＳＸ０４－２・３遺物出土状況（南から）
（３）13 次ＳＸ０５遺物出土状況（北東から）
図版 41（１）13 次ＳＸ０７土層（北東から）
（２）13 次ＳＸ０７遺物出土状況（北東から）
（３）13 次ＳＸ０７全景（北東から）
図版 42（１）13 次ＳＸ１３完掘状況（西から）
（２）13 次ＳＸ１４完掘状況（南から）
（３）13 次ＳＸ１５完掘状況（南から）
図版 43（１）13 次ＳＸ１９土層（南西から）
（２）13 次ＳＸ１９・０１完掘状況（東から）
（３）13 次ＳＸ２２竈全景（南東から）
図版 44　　８次調査出土遺物集合写真
図版 45 ～ 63　８次調査出土遺物①～⑲
図版 63 ～ 76　13 次調査出土遺物①～⑭、８次調査ＳＸ０４出土遺物（341 ～ 351）

挿　図　目　次

第１図　上大利北土地区画整理地内調査地位置図（1 ／ 5,000）…… 3
第２図　上大利土地区画整理地周辺旧地形測量図（1948 年米軍撮影）（1 ／ 5,000）…… 4
第３図　周辺遺跡分布図（1 ／ 50,000）…… 5 ～ 6
第４図　上大利土地区画整理事業地内計画平面図 …… 7
第５図　８次調査遺構全体図（1 ／ 300）…… 9 ～ 10
第６図　８次１号窯跡実測図（1 ／ 40）…… 11
第７図　８次１号窯跡出土遺物実測図（１／３）…… 12
第８図　８次灰原１出土遺物実測図（１／３）…… 13
第９図　８次灰原３・平坦部包含層出土遺物実測図（１／３）…… 14
第 10 図　８次ＳＤ０１土層実測図（1 ／ 40）…… 16
第 11 ～ 12 図　８次ＳＤ０２土層実測図①～②・礎石実測図（1 ／ 40）…… 17 ～ 18

第13～18図　８次ＳＤ０２・１層出土遺物実測図①～⑥
（119・125・126は１／６、他は１／３）…… 19～21・23～25
第19～20図　８次ＳＤ０２・２層出土遺物実測図①～②（１／３）…… 26～27
第21～22図　８次ＳＤ０２・３層出土遺物実測図①～②
（210～212・214は１／６、他は１／３）…… 28・30
第23図　８次ＳＤ０２・４～７層出土遺物実測図（227・231は１／６、他は１／３）…… 32
第24図　８次ＳＤ０２出土縄文・弥生時代遺物実測図（247は１／２、他は１／３）…… 33
第25図　８次ＳＤ０２・撹乱出土遺物実測図（１／３）…… 34
第26～27図　８次ＳＤ０３土層実測図①～②（1／60）…… 35～36
第28～31図　８次ＳＤ０３出土遺物実測図①～④（１／３）…… 37～40
第32図　８次ＳＤ０３出土石器実測図（305は１／２、他は１／３）…… 41
第33図　８次ＳＫ０２・０６・０７実測図（1／40）…… 42
第34図　８次ＳＫ０８・０９・１０・１３・１４実測図（1／40）…… 43
第35図　８次ＳＫ０３・０６・０９・１４、ＳＰ１１出土遺物実測図
（307は１／２、他は１／３）…… 44
第36図　８次ＳＸ０３実測図（1／20）…… 45
第37～38図　８次ＳＸ０３出土遺物実測図①～②（360は１／６、他は１／３）…… 46～47
第39図　８次ＳＸ０４実測図（1／20）…… 48
第40図　８次ＳＸ０４出土遺物実測図（１／３）…… 49
第41図　８次ＳＸ０７・０８・０９実測図（1／40）…… 50
第42図　８次北側斜面包含層出土遺物実測図（368・369は１／２、他は１／３）…… 51
第43図　８次撹乱３出土遺物実測図（１／３）…… 52
第44図　８次調査地表採遺物実測図（１／３）…… 53
第45図　13次調査遺構全体図（1／200）…… 55～56
第46～47図　13次調査区内土層実測図①～②（1／60）…… 58～59
第48～49図　13次１号窯跡実測図①～②（１号窯跡は１／40、灰原土層は１／60）　60～61
第50～51図　13次窯跡窯体内出土遺物実測図①～②（１／３）…… 62～63
第52図　13次灰原１区出土遺物実測図（411は１／６、他は１／３）…… 64
第53図　13次灰原２区出土遺物実測図（１／３）…… 65
第54図　13次灰原３区１層出土遺物実測図（１／３）…… 67
第55～56図　13次灰原３区２層出土遺物実測図①～②（１／３）…… 68～69
第57図　13次灰原３区３・４層出土遺物実測図（472は１／２、他は１／３）…… 71
第58図　13次灰原ベルト出土遺物実測図（１／３）…… 72
第59図　13次ＳＫ０１・０２実測図（ＳＫ０１は１／40、ＳＫ０２は１／60）…… 74
第60図　13次ＳＫ０１・０２・０５・０７出土遺物実測図
（488～491は１／２、他は１／３）…… 75
第61図　13次ＳＫ０５・０６実測図（1／40）…… 76

第62図　13次ＳＫ０７・ＳＸ１０実測図（1／40）…… 77
第63図　13次ＳＫ０８実測図（1／40）…… 78
第64図　13次ＳＫ０８・１０・１１・１７出土遺物実測図（496は1／2、他は1／3）… 79
第65図　13次ＳＫ０９・１０実測図（1／40）…… 80
第66図　13次ＳＫ１１実測図（1／40）…… 81
第67図　13次ＳＫ１２実測図（1／40）…… 82
第68図　13次ＳＫ１３実測図（1／40）…… 83
第69図　13次ＳＫ１６・１７実測図（1／40）…… 84
第70図　13次ＳＸ０１実測図（1／60）…… 85
第71図　13次ＳＸ０２・１９実測図（1／60）…… 86
第72図　13次ＳＸ０２・０３出土遺物実測図①（1／3）…… 87
第73図　13次ＳＸ０３・０４実測図（1／60）…… 88
第74～75図　13次ＳＸ０３出土遺物実測図②～③（1／3）…… 89～90
第76図　13次ＳＸ０４・０５・０７出土遺物実測図（534・535は1／2、他は1／3）……91
第77図　13次ＳＸ０５実測図（1／40）…… 92
第78図　13次ＳＸ０６・０７実測図（1／40）…… 93
第79図　13次ＳＸ０８実測図（1／40）…… 94
第80図　13次ＳＸ０９・１１実測図（ＳＸ０９は1／40、ＳＸ１１は1／20）…… 95
第81図　13次ＳＸ０９・１４出土遺物実測図（1／3）…… 97
第82図　13次ＳＸ１３・１４実測図（1／40）…… 98
第83図　13次ＳＸ１５・１８実測図（1／40）…… 99
第84図　13次ＳＸ２０実測図（1／40）…… 100
第85図　13次ＳＸ２０・２２出土遺物実測図（1／3）…… 101
第86図　13次焼土２実測図（1／40）…… 102
第87図　13次ＳＸ２２実測図（1／40）…… 102
第88～89図　13次２区出土遺物実測図①～②（552は1／2、他は1／3）……103～104
第90図　13次３区出土遺物実測図（571は1／6、他は1／3）……105
第91図　13次検出時出土、試掘時表採遺物実測図
（591は1／2、588～590は1／6、他は1／3）…… 107

表　目　次

表1～16　本堂遺跡第８次調査出土遺物観察表①～⑯…… 109～124
表17～25　本堂遺跡第13次調査出土遺物観察表①～⑨…… 125～133

巻頭図版目次

巻頭図版　８次ＳＤ０２出土遺物集合写真、13次２・３区調査全景

Ⅰ．はじめに

1．調査経過

上大利北土地区画整理事業地内における埋蔵文化財の調査経緯については『牛頸梅頭遺跡群Ⅰ』（大野城市文化財調査報告書第60集）に詳述している。また平成16年度・17年度の埋蔵文化財調査については『牛頸本堂遺跡群Ⅵ』・『牛頸本堂遺跡群Ⅶ』に詳述している。以下では、本堂遺跡８・13次調査の経過について簡単にまとめておきたい。

８次調査は、平成16年８月23日から平成17年３月28日にかけて実施した。調査面積は4,200㎡である。13次調査は、平成17年５月９日から平成17年７月31日にかけて実施した。調査面積は1,500㎡である。

整理・報告書作成作業については、平成20年９月に上大利北土地区画整理組合が事業終了を予定しており、それまでにすべての報告書を刊行する必要があった。しかし調査を実施した遺跡は非常に多く、本市ですべての作業を行い、報告書を刊行するのは不可能な状況であった。そのため、遺物整理作業については、平成19年度に㈱埋蔵文化財サポートシステムに業務委託し実施した。さらに報告書作成作業についても、平成20年度に㈱埋蔵文化財サポートシステムに業務委託した。原稿の作成は本市教育委員会が業者と分担して執筆し、全体の図面・原稿等の検査については本市教育委員会が行った。（早瀬）

2．調査体制

平成14～20年度における発掘調査ならびに整理作業における調査体制は以下のとおりである。なお、整理作業は平成20年度に完了した。

［大野城市教育委員会］

教育長	堀内貞夫（～15年６月） 古賀宮太（15年６月～）
教育部長	鬼塚春光（14年３月～17年３月） 小嶋 健（17年４月～20年３月）
	森岡 勉（20年４月～）
社会教育課長	秋吉正一（14年４月～17年３月） 水野邦夫（17年４月～18年３月）
ふるさと文化財課長	舟山良一（18年４月～）
文化財担当係長	舟山良一（～18年３月） 中山 宏（18年４月～）
主　　査	徳本洋一　石木秀啓　緒方一幹（16年４月～18年３月） 丸尾博恵
主任主事	大道和貴（～16年３月）
主任技師	林 潤也　早瀬 賢（16年４月～）（調査・整理担当）
技　　師	上田龍児（19年４月～）
嘱　　託	平島義孝（～16年３月） 上田 恵（14年４月～15年４月） 島田 拓
	（14年４月～15年６月） 岸見泰宏（14年４月～16年３月） 一瀬 智
	（15年11月～17年７月） 西堂将夫（15年４月～18年３月） 井上愛子
	（16年４月～20年３月） 北川貴洋（16年４月～19年３月） 城門義廣

（18年4月～19年8月） 岡田裕之（18年5月～19年3月） 田尻義了（19年4月～6月） 遠藤 茜（19年4月～） 石川 健（19年7月～） 大里弥生（19年10月～） 甲斐康大（20年4月～） 中島 圭（20年4月～） 粟津剛史（16年4月～18年6月） 能塚由紀（18年8月～20年8月）

整理作業員　松岡信子　町井裕子　鬼塚穂子　白井典子　村山律子　井上理香　渡部美香　城 真奈美　橋本悦子　渡辺直美　仲村美幸

発掘作業員

原田敬子　大海雅子　高木幸子　満富スエコ　吉嗣波津子　岩切ふえ　前田チエ子　西田幸子　那波幸子　高木冴子　藤田和子　三原ひろみ　吉田香織　岡本妙子　馬場孝子　田中照子　寺垣みゆき　中垣 親　松山洋子　日野律子　小林敏子　坂本泰子　渡辺久美子　小林久美子　西村清子　貞包由起子　広渡隆子　穴井和子　立石律子　船越桃子　樋之口浩一　深野人美　大薗英美　仲前冨美子　井口るみ子　倉富倫子　釣屋種利　飯田三治　溝口忍　金澤好子　田浦秀子　小川ケイ子　三善公子　山下隆子　團野ハマ子　篠崎繁美　東島真弓　安里由利子　中山文子　牧野和美　川村真樹子　村岡真由美　槙坂陽子　原口美奈子　山口文代　大島五津子　大浦旗江　清成健悟　高木由佳　木村奈津子　織田 徹　松田和美　戸渡京子　野崎美智子　倉住孝枝　稲富久子　山田賢治　松尾純子　末永 勝　安達はるみ　西本福雄　田中悦子　田野和代　吉村秀子　宮原ゆかり　尾ノ口英晴　碓井ふき子　木室友希　川岸昌子

［上大利北土地区画整理組合］

理事長　伊藤雅都

副理事長　樋口敬記　林 尚司

事務局長　平川松丸

技術職　吉次俊二（～19年3月） 林 圭一（～18年3月） 山下 健（16年4月～20年6月） 濱本泰司（18年4月～20年3月）

事務職　伊藤衆子

［㈱埋蔵文化財サポートシステム　福岡支店］

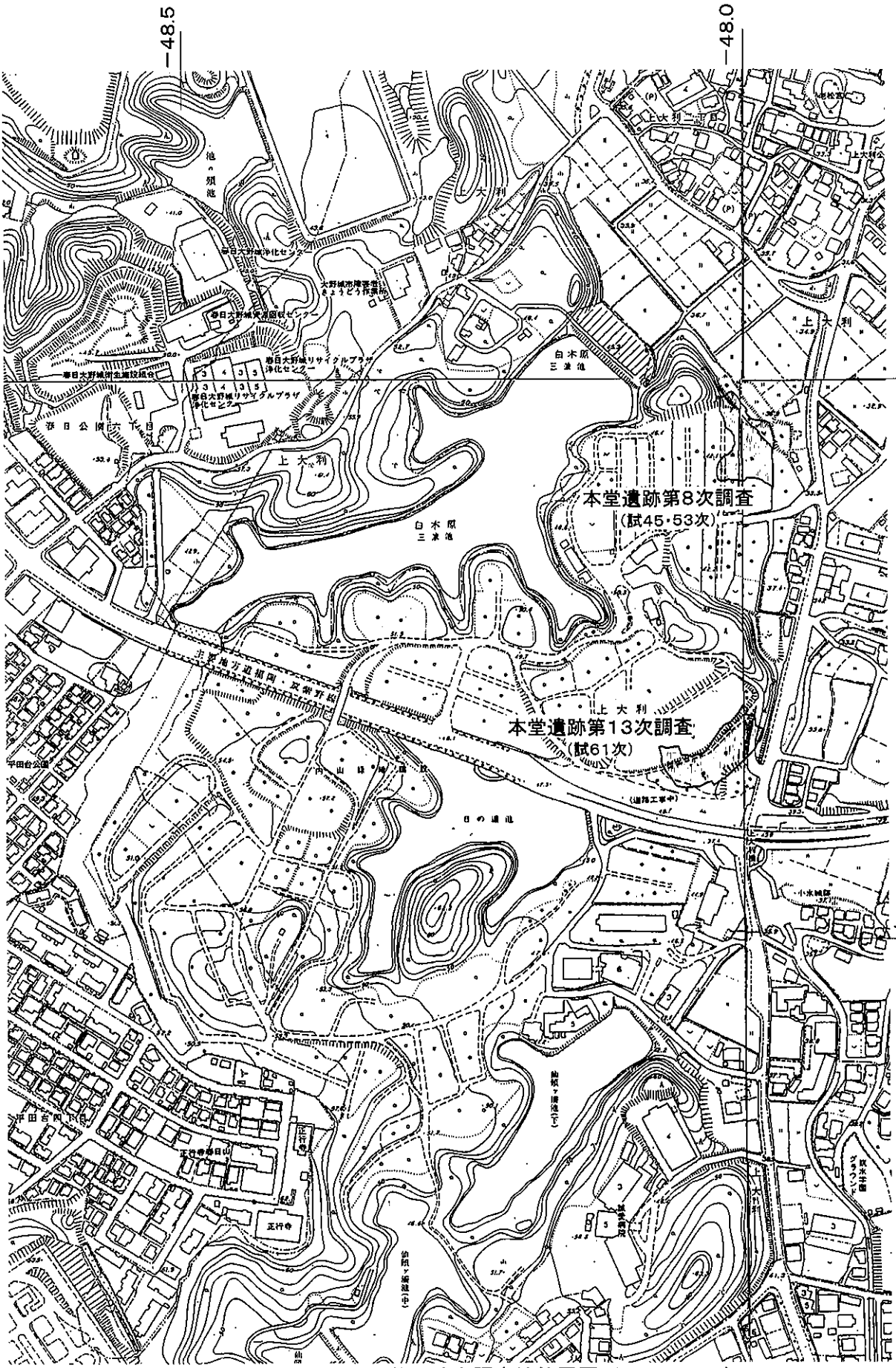
支 店 長　松尾直子

係　　長　古閑健一

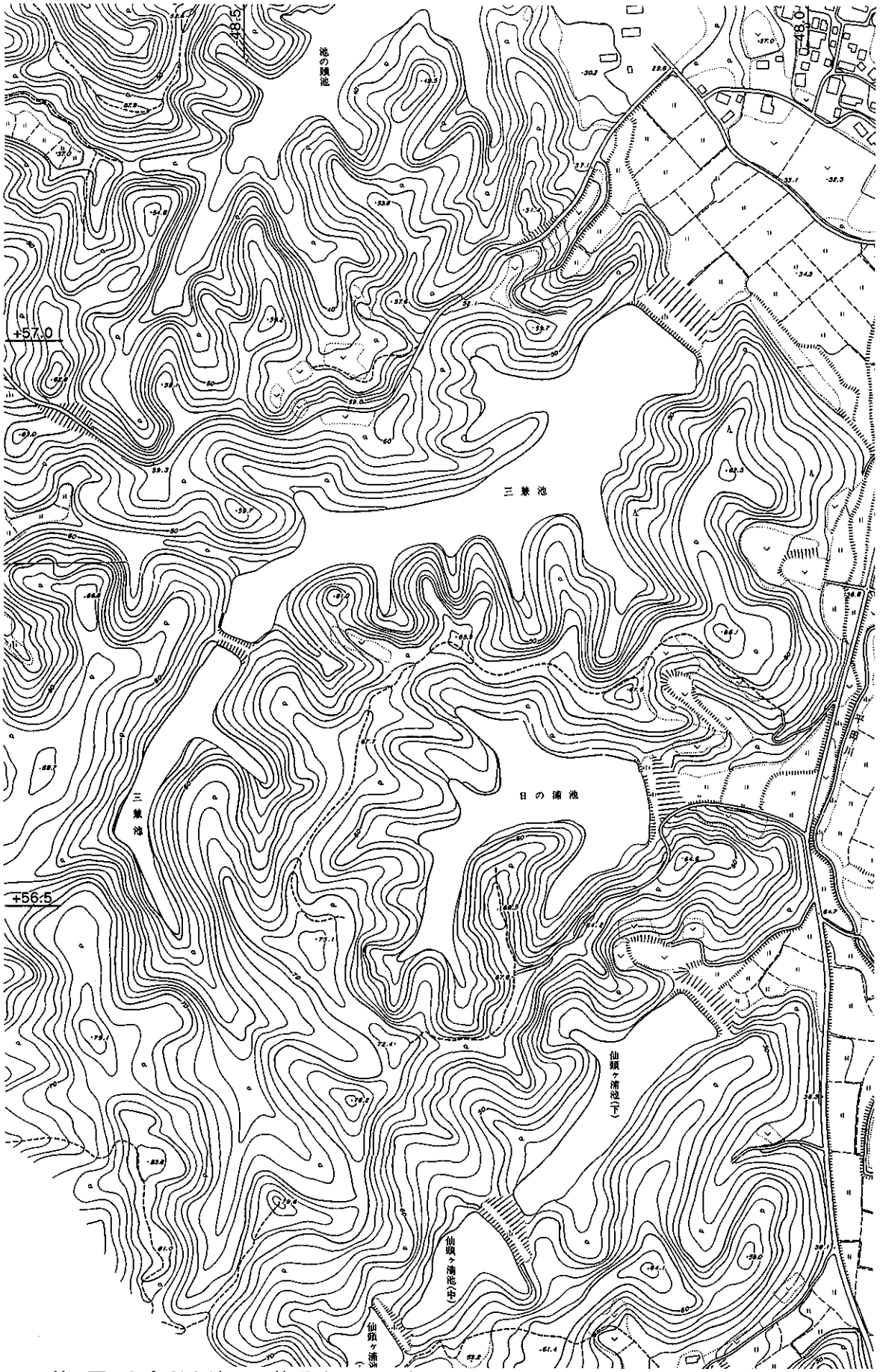
主　　任　中尾陽介

技　　師　毛利恒彦　本川美穂子　平島義孝　嶋田 聡

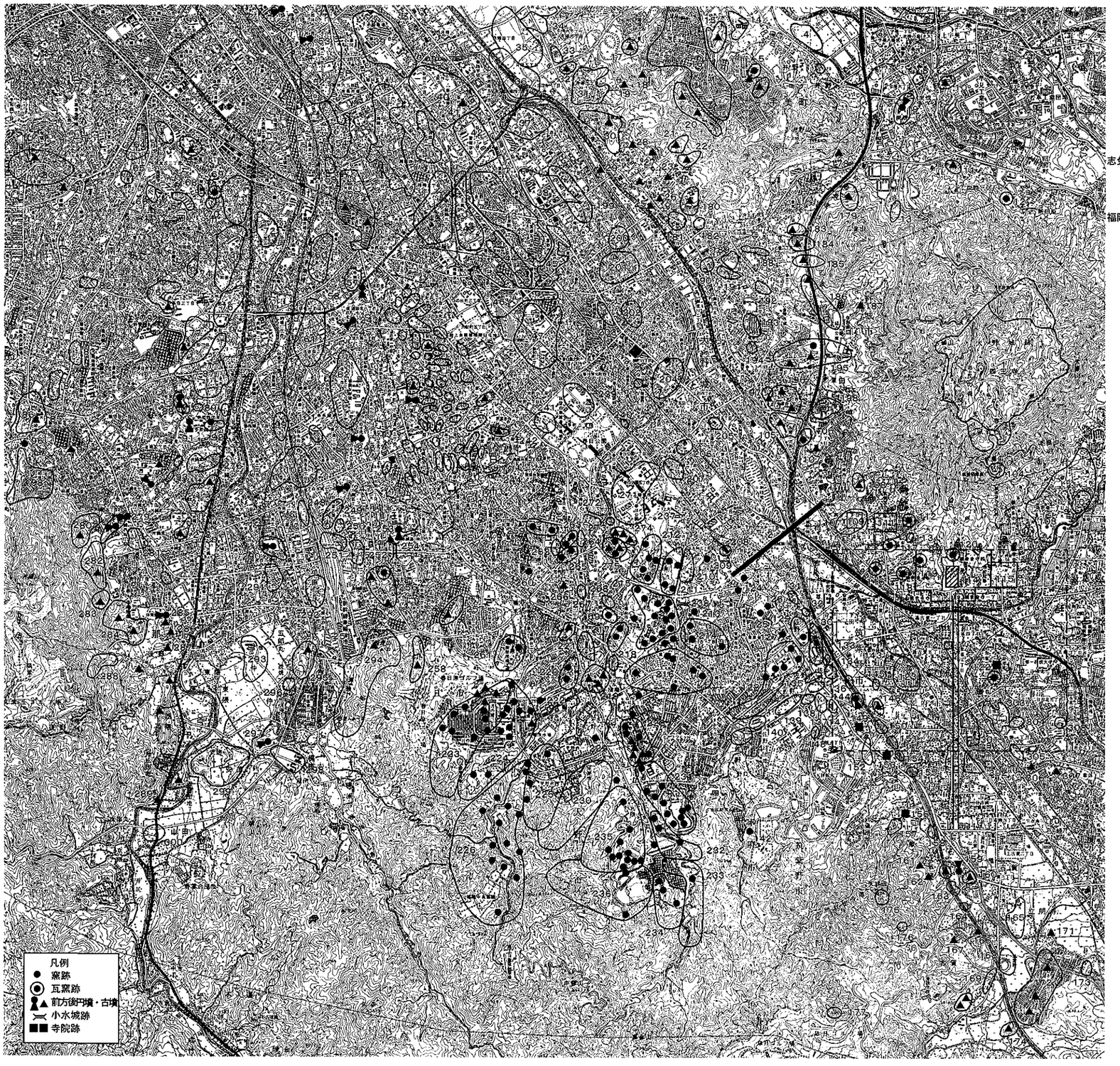
整理作業員　藤井文子　上田光子　木村美子　山内由美　長沼貞子



第1図　上大利北土地区画整理地内調査地位置図（1／5,000）



第2図　上大利土地区画整理地周辺旧地形測量図（1948 年米軍撮影）（1／5,000）



第3図　周辺遺跡分布図（1／50,000）

宇美町
3. 神領・浦尻古墳群
4. 川原田・供田遺跡群
5. 岩長浦古墳群
6. 観音浦古墳群
7. ウソフキ古墳
8. 宇美中学校遺跡
9. 正龍古墳群
10. 湯湧古墳群
11. 花ノ木古墳群
12. 寺浦窯跡
13. 内野谷古墳群

志免町
14. 松ヶ上・松ヶ下遺跡
15. 松ノ尾古墳群
16. 桜ヶ丘古墳群

福岡市
17. 熊野古墳群
18. 七曲古墳群
19. 金剛山古墳群
20. 持田ヶ浦古墳群A群
21. 持田ヶ浦古墳群B群
22. 持田ヶ浦古墳群C群
23. 持田ヶ浦古墳群D群
24. 持田ヶ浦古墳群E群
25. 持田ヶ浦古墳群F群
26. 今里不動古墳
27. 堤ヶ浦古墳群
28. 影ヶ浦古墳群
29. 丸山古墳
30. 金隈遺跡群
31. 立花寺遺跡群
32. 文殊谷古墳群
33. 上月隈B遺跡
34. 上月隈遺跡群
35. 下月隈C遺跡群
36. 立花寺B遺跡群
37. 井相田D遺跡群
38. 井相田C遺跡
39. 那珂君休遺跡群
40. 板付遺跡
41. 板付八幡古墳
42. 高畑遺跡
43. 麦野A遺跡
44. 麦野B遺跡
45. 麦野C遺跡
46. 南八幡遺跡群
47. 雑餉隈遺跡群
48. 三筑遺跡
49. 笹原遺跡群
50. 諸岡B遺跡
51. 諸岡A遺跡
52. 比恵・那珂遺跡群
53. 那珂八幡古墳
54. 五十川遺跡群
55. 井尻B遺跡
56. 井尻B－1号古墳
57. 寺島遺跡
58. 笠抜遺跡
59. 井尻A遺跡
60. 横手遺跡群
61. 日佐遺跡群
62. 弥永原遺跡群
63. 野間A・B遺跡
64. 中村町遺跡
65. 若久A遺跡
66. 若久B遺跡
67. 大橋B遺跡
68. 大橋C遺跡
69. 大橋D遺跡・三宅瓦窯跡
70. 三宅A遺跡・三宅廃寺
71. 大橋E遺跡
72. 三宅C遺跡
73. 三宅B遺跡
74. 和田A遺跡群
75. 和田B遺跡群
76. 野多目A遺跡
77. 野多目B遺跡・古墳群
78. 野多目浦ノ池遺跡
79. 穴観音古墳
80. 寺塚A古墳群
81. 寺塚B古墳群
82. 屋形原遺跡
83. 花畑C遺跡群
84. 花畑B遺跡群
85. 花畑A遺跡群
86. 三十田古墳
87. 野多目C遺跡群
88. 卯内尺古墳・古墳群
89. 老司A遺跡
90. 老司B遺跡
91. 老司古墳
92. 老松神社古墳群
93. 老司池A・B遺跡群
94. 中尾古墳
95. 浦ノ田古墳群
96. 中島窯跡
97. 箱池古墳
98. 四十塚・大牟田古墳群
99. 警弥郷A遺跡
100. 警弥郷B遺跡
101. 弥永遺跡群

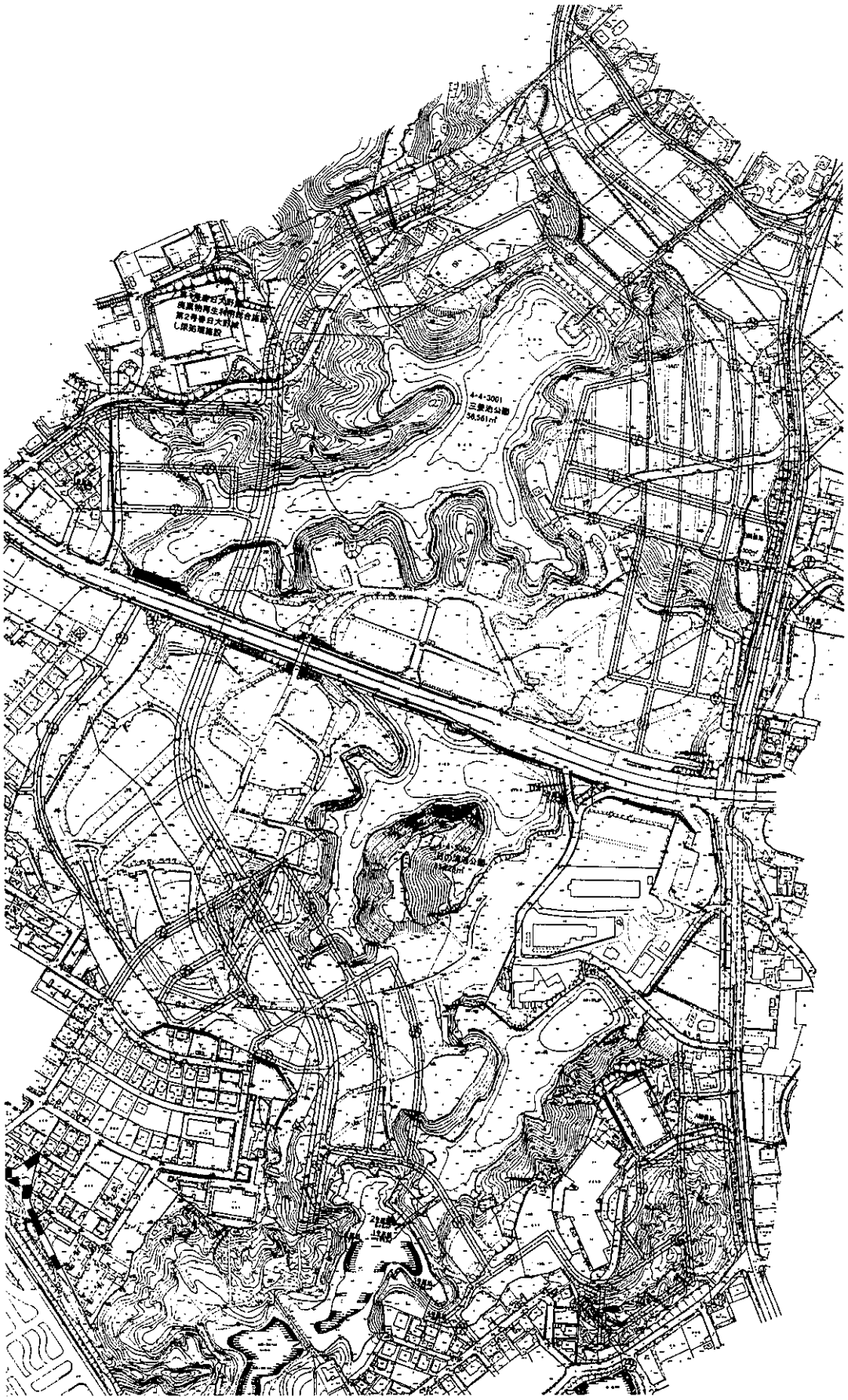
太宰府市
102. 浦城跡
103. 原遺跡
104. 岩屋城跡
105. 成屋形古墳群
106. 裏ノ田遺跡
107. 裏ノ田古墳
108. 陳の尾古墳群・遺跡群
109. 筑前国分尼寺跡
110. 国分松本遺跡
111. 筑前国分寺跡
112. 国分瓦窯跡
113. 御笠団印出土地
114. 大宰府政庁跡
115. 観世音寺
116. 松倉瓦窯跡
117. 坂本瓦窯跡
118. 来木古墳群・瓦窯跡
119. 来木北瓦窯跡
120. 都府楼北瓦窯跡
121. 榎寺
122. 般若寺・瓦窯跡
123. 市ノ上遺跡
124. 神ノ前窯跡群
125. 篠振遺跡・窯跡
126. 尊田窯跡
127. 長浦窯跡
128. 宮ノ本遺跡群・窯跡群
129. 日焼遺跡群・窯跡群
130. 前田遺跡
131. 原口遺跡
132. 久郎利遺跡
133. 上川久保遺跡
134. 雛川遺跡
135. フケ遺跡
136. 尾崎遺跡
137. 脇道遺跡
138. 殿城戸遺跡
139. 京ノ尾遺跡
140. カヤノ遺跡
141. 長ヶ坪遺跡
142. 野口窯跡

筑紫野市
143. 井ノ尻遺跡・古墳
144. 剣塚遺跡・古墳群・瓦窯跡
145. 杉塚大坪遺跡
146. 埴安神社古墳
147. 和久堂城跡
148. 杉塚山の谷遺跡
149. 杉塚廃寺
150. 唐人塚遺跡・古墳群
151. 前田遺跡
152. 脇田遺跡
153. 塔原廃寺
154. 塔原遺跡
155. 樋田山遺跡
156. 武蔵寺跡
157. 武蔵寺経塚群
158. 道場山遺跡
159. 原口古墳・古墳群
160. 鷲田山遺跡・古墳群
161. 八隈裏山古墳
162. 八隈古墳群
163. 畑添遺跡
164. 山の口遺跡
165. 立明寺地区遺跡
166. 扇庭古墳群
167. 江永浦古墳
168. 貝元遺跡
169. トドキ遺跡
170. 古賀古墳群
171. 厳島神社古墳
172. 上の山古墳群
173. 大牟田西遺跡
174. 萩原古墳群
175. 天判山城
176. 飯盛城跡
177. 博多見城跡
301. 二日市宿跡
302. 堀池遺跡
303. 峯畑遺跡
304. 修理田遺跡
305. 通り浦遺跡
306. 五毀神古墳
307. カケ塚古墳
308. 米噛城

大野城市
178. 唐山古墳群
179. 乙金北古墳群
180. 御陵古墳群
181. 塚口遺跡
182. 御陵前の椋遺跡
183. 善一田古墳群
184. 王城山古墳群
185. 古野古墳群
186. 原口古墳群
187. 此岡古墳群
188. 松葉園遺跡
189. 森園遺跡
190. ヒケシマ遺跡
191. 中・寺尾遺跡
192. 薬師の森遺跡
193. 銀山遺跡
194. 原門遺跡
195. 雉子ヶ尾遺跡・窯跡
196. 釜蓋原古墳群
197. 金山遺跡
198. 釜蓋原遺跡
199. 仲島遺跡
200. 川原遺跡
201. 御笠の森遺跡
202. 村下遺跡
203. 雑餉隈遺跡
204. 石勺遺跡
205. 原ノ畑遺跡
206. 後原遺跡
207. 御供田遺跡
208. 谷川遺跡
209. 出口窯跡・遺跡
210. 上園遺跡
211. 本堂遺跡群
212. 梅頭遺跡群
213. 谷蟹窯跡
214. 大浦窯跡群
215. 野添遺跡群
216. 平田窯跡群
217. 華無尾遺跡群
218. 屏風田遺跡
219. 塚原遺跡群
220. 畑ヶ坂遺跡群
221. 日ノ浦遺跡群
222. 月ノ浦Ⅰ号窯跡
223. 後田遺跡群
224. 小田浦遺跡群
225. 大谷窯跡群
226. 石坂窯跡群
227. 東浦窯跡
228. 中通遺跡群・古墳群
229. 坡ノ山窯跡群
230. 原窯跡
231. ハセムシ窯跡群
232. 道ノ下窯跡群
233. 長者原窯跡群
234. 笹原窯跡群
235. 井手窯跡群
236. 足洗川窯跡群
237. 池田・池の上遺跡
238. 上大利水城跡

春日市
239. 駿河遺跡
240. 原ノ口遺跡
241. 立石遺跡
242. 須玖・岡本遺跡群
243. 御陵遺跡群・古墳
244. 小倉木城跡
245. 野藤1号墳
246. 下白水大塚古墳
247. 日拝塚古墳
248. 柏田遺跡
249. 辻田遺跡
250. 上白水西遺跡
251. 門田遺跡
252. 天神の木遺跡
253. 天神山古墳
254. 天神山水城跡
255. 大土居水城跡
256. ウトグチ遺跡群
257. 白水池古墳群
258. 西浦古墳群
259. 惣利窯跡群
260. 大牟田窯跡
261. 浦ノ原窯跡群
262. 惣利西遺跡
263. 惣利遺跡
264. 惣利北遺跡
265. 惣利東遺跡
266. 惣利古墳
267. 円入遺跡
268. 春日平田遺跡群
269. 春日平田西遺跡
270. 塚原古墳群
271. 九州大学筑紫キャンパス遺跡群
272. 春日水城跡
273. 向谷北遺跡
274. 向谷古墳群
275. 春日平田北遺跡

那珂川町
276. 野口遺跡群
277. 観音堂遺跡群
278. 井河古墳群
279. 小丸古墳群
280. 浦ノ原古墳群
281. 井河遺跡群
282. 丸ノ口古墳群
283. 白石古墳群
284. 荒平池古墳群
285. 妙法寺古墳
286. 油田古墳群
287. 大万寺前古墳
288. 国太子古墳群
289. 松尾古墳群
290. 今光宗石遺跡群・貝徳寺古墳
291. 松ノ木遺跡群
292. 中原・塔ノ元遺跡群
293. 仲遺跡群
294. 観音山古墳群・深原遺跡
295. エゲ古墳・カクチガ浦古墳群
296. 炭焼古墳群
297. 安徳大塚古墳
298. 平蔵遺跡群
299. 安徳台遺跡群
300. 山田西遺跡群



第4図　上大利土地区画整理事業地内計画平面図

II．調査の結果

１．第８次調査

Ａ．調査概要（第５図）

第８次調査地は、牛頸山から北側へ派生する樹枝状の丘陵上、標高 38.00 ｍ～ 42.00 ｍの北東向き緩斜面にあたる。大野城市大字上大利 619 他にあたり、調査面積は約 4,200 ㎡である。調査地は、後世の大規模な造成により旧地形を留めていなかった。

試掘調査は平成 15 年 11 月 11 日から平成 16 年８月 19 日の間に 45・53 次試掘調査としておこなった。植木の伐根より開始し、トレンチを設定し遺構の確認をおこなったところ、斜面部や東側で遺構が確認された。そのため全体を表土剥ぎして遺構確認をすることとした。西側は大きく削平されて遺構は確認できなかったが、斜面部・東側では散漫ではあるが、遺構が確認された。

発掘調査は平成 16 年８月 23 日から平成 17 年３月 28 日にかけておこなった。調査地は造成により２段になっており、上段の南側から開始し順次北側に向かって進めた。その後下段へと調査を進めていった。調査区を北東－南西に走るＳＤ０２・０３は最大幅 6.0 ｍ、深さ 1.0 ｍ、長さ 60.0 ｍを越え、これを人力により掘削するのに非常に手間取り、当初の終了予定より大幅に遅れる結果となった。

調査の結果、窯跡１基･灰原･溝跡４条･土坑やピットが確認された。遺物は、須恵器が主であり、土師器、弥生土器、陶磁器、石器、瓦、土製品などが出土した。遺物の大半は溝跡ＳＤ０２・０３より出土した。

Ｂ．遺構と遺物

（１）窯跡

１号窯跡（第６図、図版１～ 10）

窯跡は調査区北側の緩斜面に位置する。主軸はＮ－39°－Ｅ、南西－北東方向にとり、焚口は北東方向に当たる。排煙部は撹乱のため欠失していたが、他の部分は残存していた。平面形は、窯尻付近で若干幅が狭くなるものの、焚口・燃焼部から焼成部にかけては幅がほぼ等しくなる。地山を掘りぬいて作られる地下式の窯で、天井部は焼成部から窯尻にかけての一部が残存していた。窯体の残存長は主軸上で 3.68 ｍである。

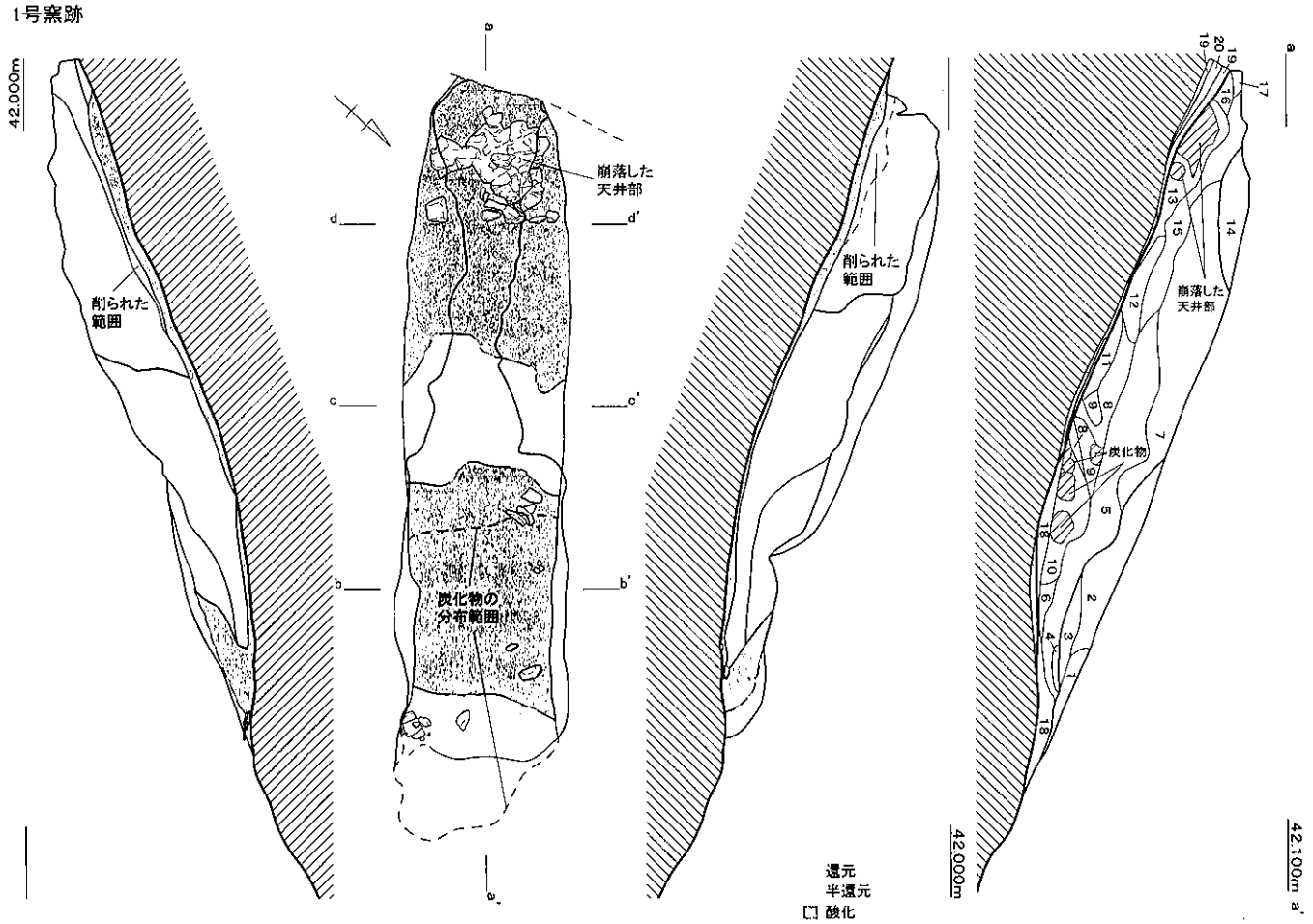
床面は焼成部に一部残存しているのみで、そこから排煙部側および焚口・燃焼部側にかけては床面が見られず、熱を受けた際の酸化（赤色化）した面が見られるのみであった。側壁の観察において、削られたような痕跡が見られることから、床面を故意に除去したものと思われる。床面の残存部分では貼床は見られなかったが、貼壁の痕跡は認められた。

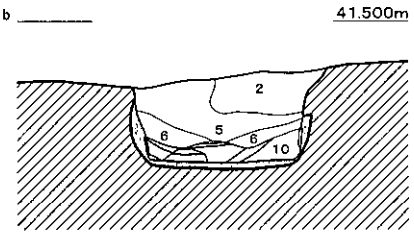
窯体内から遺物の出土はほとんど見られず、床面残存付近の酸化（赤色化）面上および焚口付近の炭化物層中からわずかに出土した程度である。また、焼成部の窯尻付近から崩落した天井壁が出土しているが、硬くしまってはいるものの還元された様子が見られず、色調は黒色を呈して燻されたような状態であった。古い床面を除去し、次の操業のため空焼きをした段階で天井部が崩落した

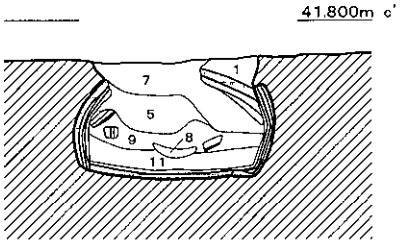


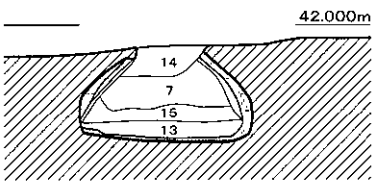
第5図　8次調査遺構全体図（1／300）

1号窯跡









1. 灰黄色砂質土(2.5Y6/2)マンガン粒多く含む。しまり弱い。流土。
2. にぶい黄褐色土(10YR5/4)鉄分付着地山粒(径2～5mm)を少し含む。しまりあり。流入土。
3. 褐色土(10YR4/4)赤褐色焼土(5YR4/3)を少し含む。しまりあり。流入土。
4. 赤褐色焼土混じりにぶい黄色粘質土(5YR4/3・2.5Y6/3)しまり強い。天井崩落土。
5. にぶい黄色粘質土(2.5Y6/3)焼土粒が極わずかに混じる。しまり固い。天井上の地山崩落土。
6. 赤褐色焼土(5YR4/4～4/6)炭化物を少し含む。しまり弱い。天井崩落土。
7. 褐色粘質土(10YR4/4)炭化物を少し含む。しまり弱い。流入土。
8. にぶい黄褐色粘質土(10YR5/4)窯壁を含む。炭化物・赤褐色焼土ブロックを少し含む。しまりあり。
天井崩落土(地山・酸化層が主)
9. 赤褐色焼土(5YR4/6)窯壁ブロックを多く含む。しまり強い。天井崩落土(酸化層が主)
10. にぶい赤褐色粘質土(5YR5/4)窯壁ブロックを極多量に含む。しまり弱い。
天井崩落土(半還元・還元層が主)
11. 黄褐色粘質土(2.5Y5/3)窯壁を極多量に含む。しまり固い。
12. にぶい黄褐色粘質土(10YR5/4)窯壁小片を含む(径5～10mm大)。酸化焼土ブロックを少し含む。
しまり弱い。天井崩落土(スサ入り・黒色窯壁)
13. 褐色粘質土(10YR4/4)窯壁を非常に多く含む。炭化物(径3～10mm)を多く含む。しまりややあり。
天井崩落土(スサ入り・黒色壁)
14. にぶい黄褐色粘質土(10YR5/4)径2～5mmの地山礫を少し含む。径5mm前後の炭を多く含む。
流入土(煙道部から?)
15. 黄褐色粘質土(10YR5/6)径1～3mmの砂粒を少し含む。しまり強い。崩落土(地山とは違う土。
窯体側面裏の埋土に近い。)
16. 褐色粘質土(10YR4/4)しまりあり。やや砂質。
17. 褐色砂質土(10YR4/4)径1mm前後の砂粒を少し含む。径5mm大の酸化焼土粒・炭化物を多く含む。
18. 炭化物層(灰原)
19. 酸化(赤変)層(5YR4/4)炭化物径5～20mmの窯壁小片を含む。径1～3mm大の砂粒を少し含む。
しまりあり。焼成受けて若干上面硬化。下の19層は硬化しない。
20. にぶい黄褐色砂質土(10YR5/3)径2～5mmの砂粒を少し含む。径1～5cmの窯壁小片を
わずかに含む。しまり強い。均質。焼成受けて硬質化。

0 2m

第6図 8次1号窯跡実測図（1／40）

たため破棄された状況が想定される。

焚口・燃焼部　焚口・燃焼部では、天井崩落土や地山崩落土の下層から、炭化物層（18層）の広がりが確認できた。その下層には床面は確認できず、酸化（赤色化）した層のみが確認できた。

焚口は、酸化（赤色化）している部分と酸化（赤色化）の見られない部分の境付近にあたると思われる。また炭化物層の広がりから、主軸上で焚口から0.98ｍ程窯尻へ入った辺りまでが燃焼部になると考えられる。燃焼部幅は0.80ｍを測る。

焼成部　焼成部は、窯尻部分が若干すぼまるものの、ほぼ同じ幅でつくられており、長さ2.25ｍ、焼成部中央での幅0.89ｍ、窯尻での幅0.63ｍである。床面は一部残存している以外は剥がされており、床を剥がした際の痕跡が両側面にて確認できた。また、貼壁の痕跡も見られた。遺物はほとんど出土していない。残存している床面の計測では床面傾斜角度は21°を測る。

排煙部　排煙部は撹乱のため欠失しており、不明である。

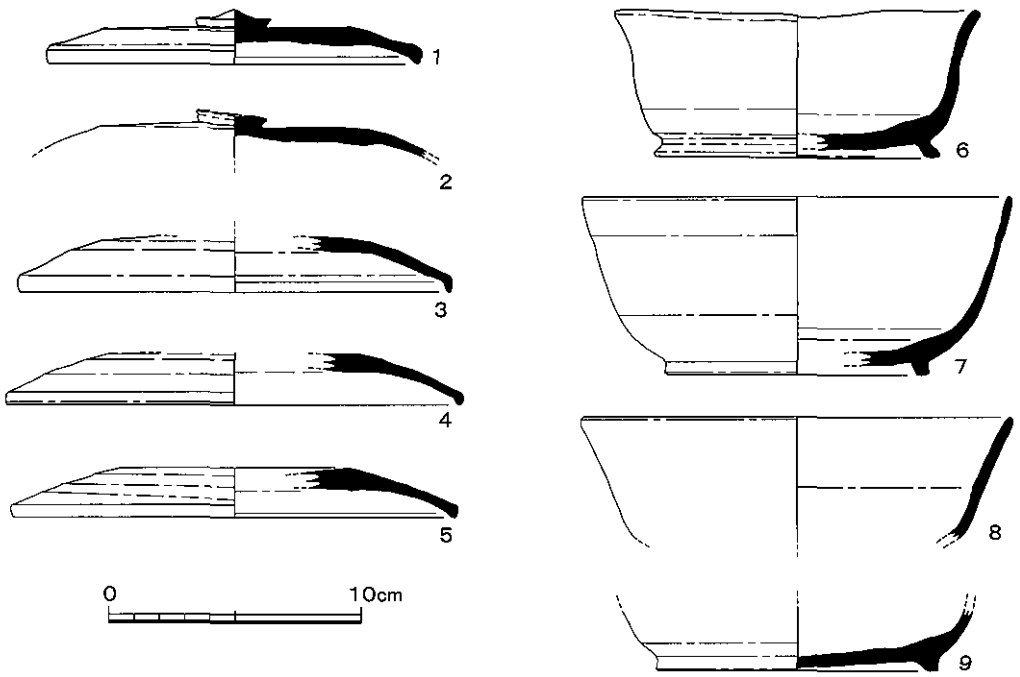
灰原　灰原は窯跡の斜面下方（灰原２）および、南東側の斜面（灰原１）に広がる。不整な楕円形状を呈し、最大長8.49ｍ、最大幅3.57ｍである。須恵器の出土はほとんど見られなかった。

灰原３は最大長4.65ｍ、最大幅2.92ｍを測り、窯跡の北西側の斜面に広がる。遺物の出土はほとんど見られない。窯跡から直線距離にして7.9ｍ程離れた位置にあたる。削平されているものの、灰原３の斜面上方に窯があった可能性が考えられる。

１号窯跡出土遺物（第７図、図版45）

須恵器（１～９）　１～５は杯Ｂ蓋で、口径及び復元口径は14.9cm～18.15cmを測る。天井部はいずれも回転ヘラ削りを施し、平坦を呈す。１は擬宝珠状、２はボタン状のつまみが付く。口縁端部は断面三角形のもの（１・３・４）、断面が四角形に近いもの（５）がある。

６～９は杯Ｂ身で、復元口径は14.55cm～17.1cmを測る。杯部は深く、口縁部は緩やかに外反するもの（６）、直線的に上方へのびるもの（７・８）がある。高台は比較的高く、高台端部が広



第7図　8次1号窯跡出土遺物実測図（1／3）

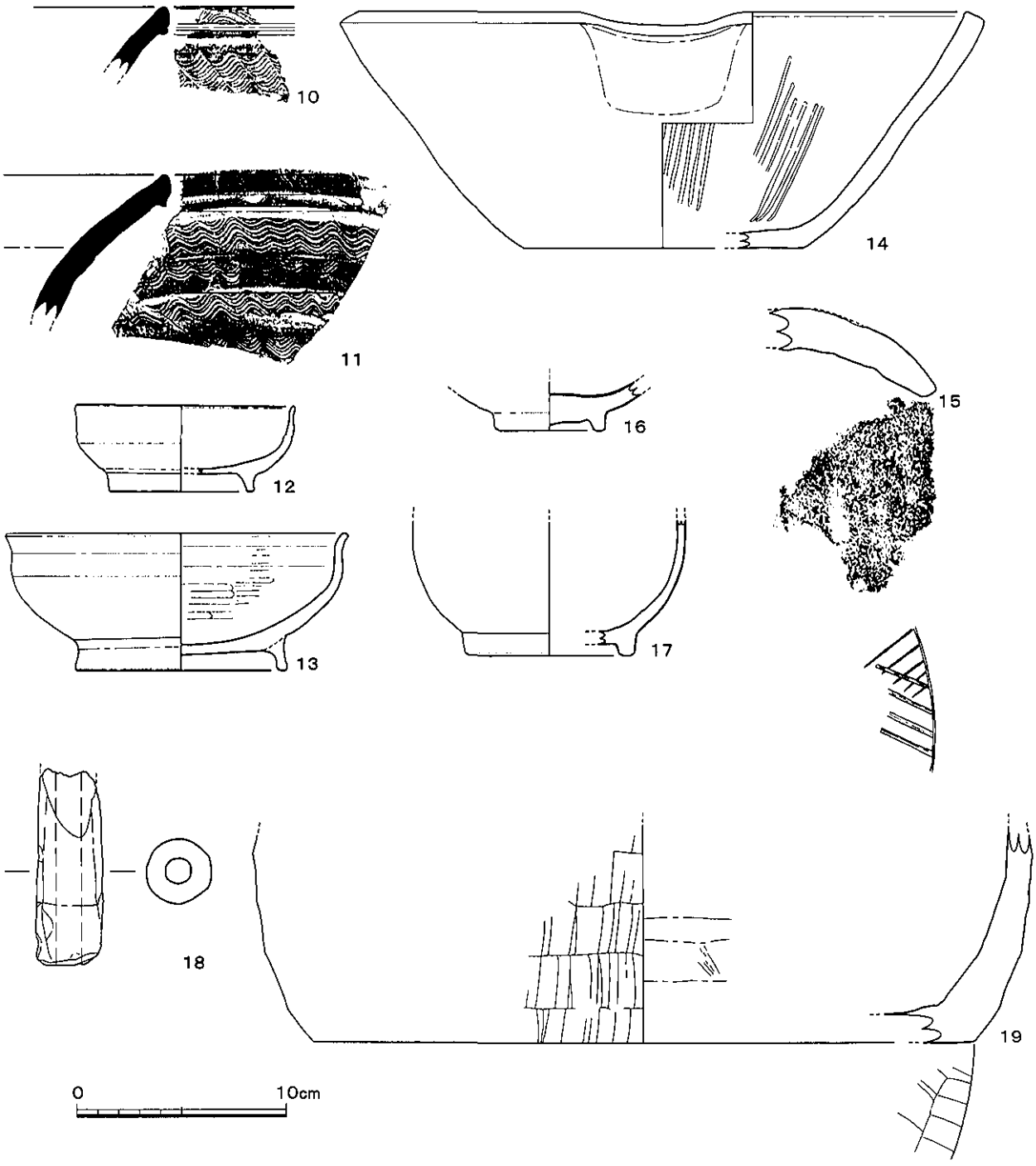
がるもの（6）、断面四角形のもの（7）、断面台形のもの（9）がある。

灰原1出土遺物（第8図、図版45）

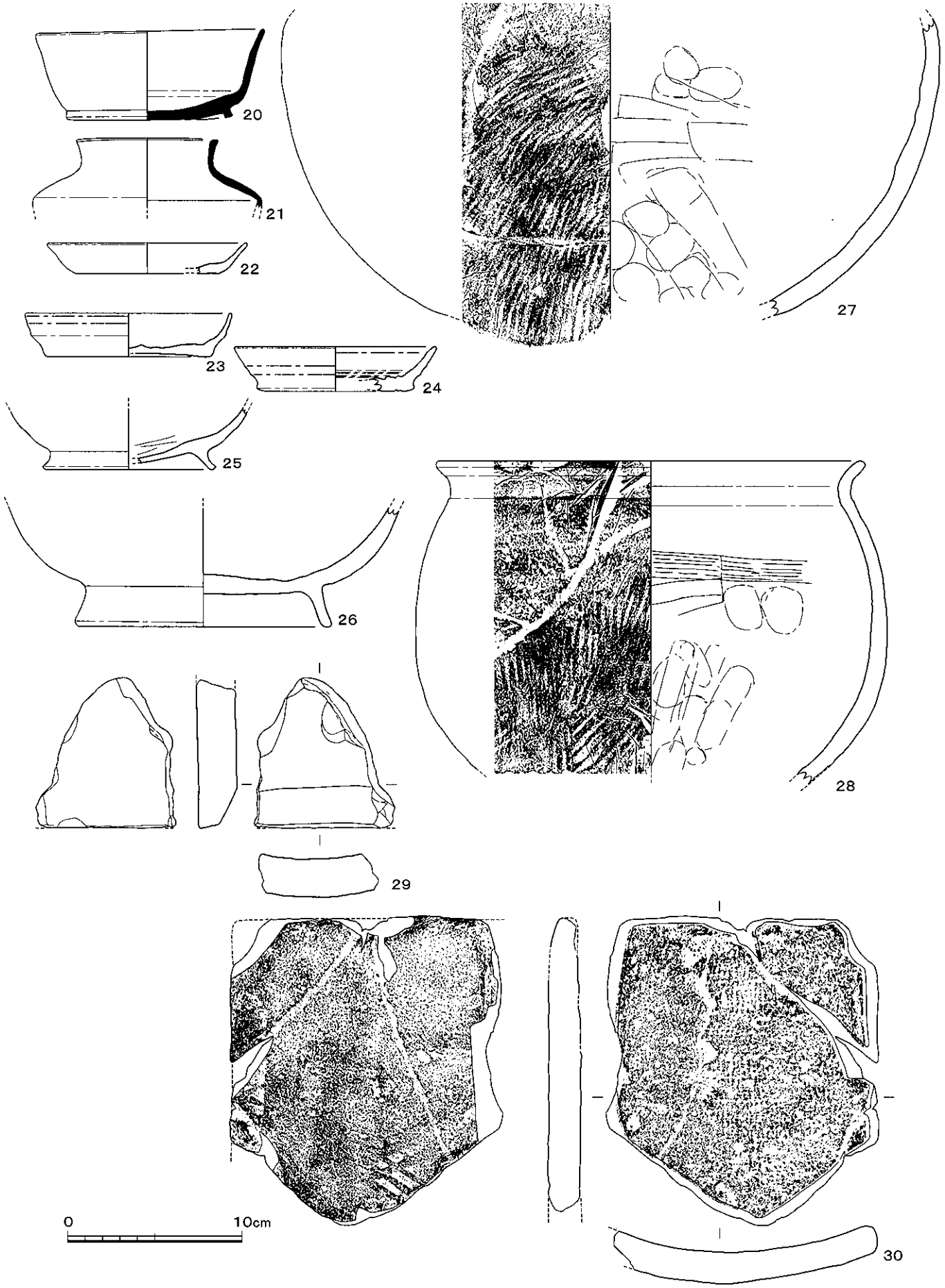
須恵器（10・11） 10・11は甕である。口縁端部は三角形状を呈し、外面に沈線が巡る。10は口縁端部外面と頸部外面に波状文を施文する。11は頸部外面に2段波状文を施文する。

土師器（12） 椀である。復元口径10.5cmを測り、杯部は比較的浅い。ほぼ直立する口縁部から体部中位でなだらかに屈曲する。高台は高く、端部は断面四角形を呈す。

黒色土器（13） A類の椀である。復元口径16.4cmを測り、杯部は深い。外反する口縁部から体部上位でなだらかに屈曲し下位は直線的になる。高台は高く、端部は断面四角形を呈す。内面には



第8図 8次灰原1出土遺物実測図（1／3）



第9図　8次灰原3・平坦部包含層出土遺物実測図（1／3）

横方向のミガキが施される。

瓦質土器（14） 片口の擂鉢で、復元口径30.7cmを測る。平底の底部から体部～口縁部は大きく開く。口縁端部は断面四角形を呈す。内面の擂目は１単位６条を施す。

瓦（15） 平瓦と思われる。凹面は布目痕が残る。凸面は調整が不明瞭である。

磁器（16・17） 16は青磁の椀である。底部は厚く、高台畳付け～底部外面以外に施釉する。17は白磁の椀である。内面・高台畳付け以外に施釉する。

土製品（18） 筒状土製品で、中心が空洞である。断面直径は3.2cm、孔径は1.2cmを測る。

石器（19） 滑石製の石鍋である。削りにより成形し、工具の違いによるためか底部内面では２種類の沈線状の削り痕が見られ、１つは細くて浅く、もう１つは太くて深い。

灰原３・平坦部包含層出土遺物（第９図、図版46）

須恵器（20・21） 20は杯Ｂ身で、口径13.15cmを測る。杯部は深く、体部～口縁部は直線的にのびる。高台は低く、断面四角形を呈す。

21は壺で、復元口径8.1cmを測る。口縁部はほぼ直立し、体部中位で屈曲し稜をなす。

土師器（22～24・26～28） 22～24は皿で、復元口径11.5cm～11.9cmを測る。底部外面では回転ヘラ切り痕（22）と回転糸切り痕（23・24）が見られる。

26は椀である。体部は丸みを持ち、底部は平底である。高台は高く、端部断面は隅丸方形を呈す。

27・28は甕で、28の復元口径は24.6cmを測る。いずれも体部外面では平行タタキ痕が見られ、内面はナデ調整・指頭圧痕が残る。28では体部上位内面にハケメを施す。

黒色土器（25） Ａ類の椀である。体部下位～底部は丸みを持ち、高い高台が付く。高台端部は断面四角形を呈す。

瓦（29・30） いずれも平瓦である。29は凹面～側面にナデを施し、凸面は調整が不明瞭であるが、タタキ後ナデ調整を行ったと思われる。30は凹面に布目痕が見られ、凸面に格子タタキ痕が残る。

（２）溝跡

ＳＤ０１（第10図、図版11）

調査区の最北端に位置する溝跡である。標高約41.00ｍ付近の緩斜面上から斜面裾へ向かって、直線状に南西－北東方向へ延びる。長さ13.71ｍ、最大幅3.38ｍ、中央付近で深さ約1.00ｍを測る。東側に隣接する本堂２・６次調査のＳＤ０１と同一の溝跡と考えられる。

溝のほぼ中央付近から東側は一段低くなっている。埋土内からは須恵器・土師器・陶磁器が出土した。

ＳＤ０２（第11～12図、図版11～14）

調査区南西に位置し、直線状に南西－北東方向に延びる溝跡である。長さ約24.10ｍ程北東方向に延びたところで後世の削平による段差でとぎれているが、本来はＳＤ０３と同一の溝であったと思われる。溝幅は2.10ｍ～6.22ｍで、北東に向かうにつれて溝幅が広くなる。深さは約0.65ｍ～1.11ｍで、断面は「Ｕ」字状～逆台形状になる。溝の底面はやや起伏が見られ、北東方向へ向

かうにつれて底面が下がっており、南西端と北東端の底面の比高差は約 0.69 mになる。

溝の埋土は時期別に分けると大きく２層に分かれ、上層からは古墳～奈良時代の須恵器・土師器が大量に出土し、下層からは主に弥生時代中期の遺物が出土した。また、下層からは弥生時代前期の表面が摩滅した土器もわずかに出土しており、周辺でのこの時期の活動も想定される。土層の観察から、埋土は自然堆積層であり、通水・滞水状態であったと思われる。

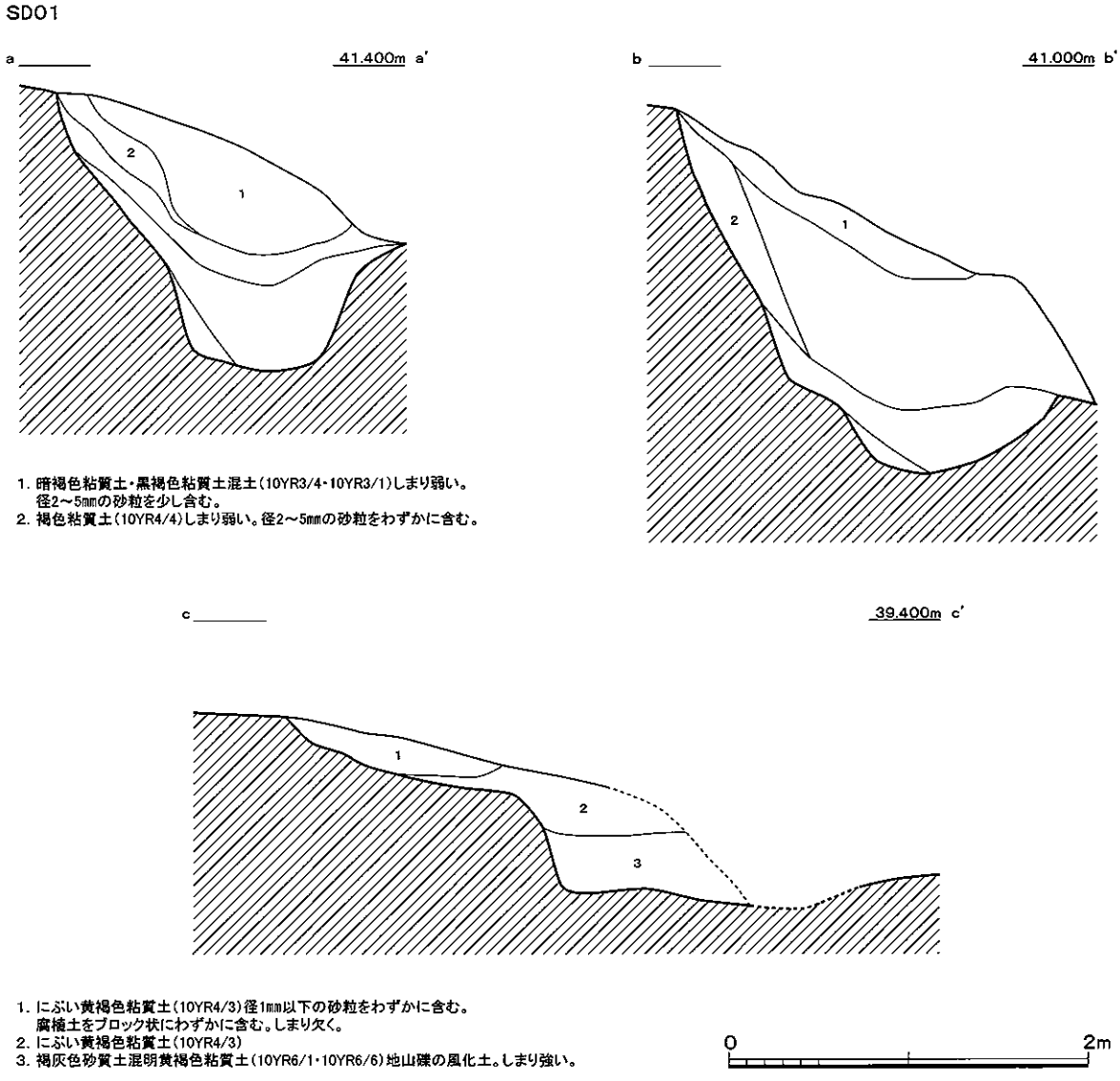
ＳＤ０２の南西隅では、溝埋没後にＳＫ０２、ＳＸ０４が掘られている。溝底面ではピットが検出され、また、北東端の後世の段差付近では、１層中から礫石が１点出土した。

出土遺物

１層出土遺物（第 13 ～ 18 図、図版 46 ～ 51）

須恵器（31 ～ 126） 31 ～ 51 は杯Ｂ蓋で、33 の復元口径は 17.8cm を測る。いずれもかえり端部と口縁端部はほぼ同じ高さになる。33 の天井部は外面約１／３範囲に回転ヘラ削りを施し、ボタン状のつまみを付ける。

34 ～ 51 の口径及び復元口径は 10.45cm ～ 19.65cm を測る。口縁端部は断面三角形のもの（34 ～



1. 暗褐色粘質土・黒褐色粘質土混土(10YR3/4・10YR3/1)しまり弱い。
径2～5mmの砂粒を少し含む。
2. 褐色粘質土(10YR4/4)しまり弱い。径2～5mmの砂粒をわずかに含む。

1. にぶい黄褐色粘質土(10YR4/3)径1mm以下の砂粒をわずかに含む。
腐植土をブロック状にわずかに含む。しまり欠く。
2. にぶい黄褐色粘質土(10YR4/3)
3. 褐灰色砂質土混明黄褐色粘質土(10YR6/1・10YR6/6)地山礫の風化土。しまり強い。

第10図　8次SD01土層実測図（1／40）

48・50)、断面四角形のもの（49)、断面尖頭状になるもの（51）がある。天井部外面の調整はナデ(34・42・44)、ヘラ切り後未調整（35）と回転ヘラ削り（36～41・45～51）に分かれる。つまみ形状は擬宝珠状（37・39・40・48・51)、ボタン状（38・41・45・46・50）算盤玉状（47）がある。

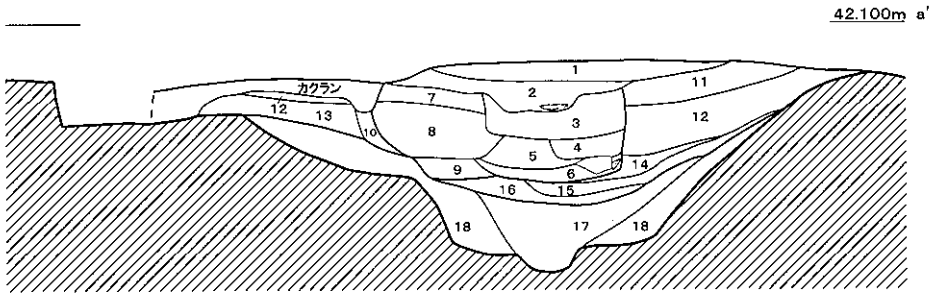
52～81は杯B身で、復元口径9.8cm～19.6cmを測る。器体が歪むものが見られる。杯部は53～63は浅く、他のものは深い。ほとんどは箱形を呈し、比較的低い高台の付くものが多い。

54は皿に近く、高台は断面三角形である。

65は体部に丸みを持ち椀形に近く、高い高台が付く。71・75は土師質に焼成される。

82～83は杯G身で、復元口径12.2cm・12.7cmを測る。いずれも体部～口縁部は直線的にのびる。底部外面は82でナデ調整、83は回転ヘラ削りを施す。

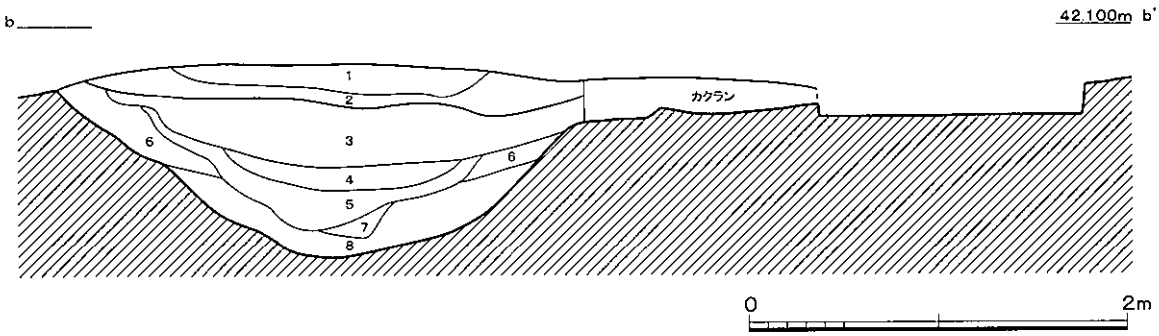
SD02



1. 灰黄褐色砂質土(10YR5/2)径1～3mmの砂粒を非常に多く含む。炭化物を含む。マンガン粒非常に発達。しまり固い。(奈良)
2. にぶい黄橙色砂(10YR7/2)炭化物を少し含む。酸化鉄が少量入る。しまり強い。(古墳・奈良)
3. 灰黄褐色細砂・粘質土(10YR6/2)互層状。炭化物を少し含む。酸化鉄が入る。しまり強い。短期間に埋まる。
4. 灰色粘質土(7.5Y5/1)しまり強い。
5. 灰色粘質土・にぶい黄褐色砂質土互層(7.5Y6/1～10YR5/4)炭化物少し含む。しまりあり。
6. 黄灰色細砂(2.5Y6/1)しまり欠く。
7. 黄灰色砂質土・明褐色砂質土互層(2.5Y6/1～7.5YR5/6)径2～5mmの砂粒を多く含む。しまり強い。
8. 灰色粘質土(7.5Y5/1)径1～3mmの砂粒を多く含む。灰色粘質土(5Y6/1)を互層状に少し含む。
9. 灰白色粘質土(7.5Y7/1)径1mm以下の砂粒を少し含む。しまり強い。

} SK02埋土

10. にぶい黄橙色粘質土(10YR6/4)酸化鉄が多量に入る。しまり弱い。(古墳・奈良)
11. 黄灰色砂質土(2.5Y6/1)径1～3mmの砂粒を多く含む。マンガン粒が少量入る。しまり固い。(古墳・奈良)
12. にぶい黄橙色粘質土(10YR6/3)径1～3mmの砂粒を多く含む。マンガン粒を多量に含む。しまり固い。
13. にぶい黄橙色粘質土(10YR7/2)径1mm大の砂粒を少し含む。しまり固い。
14. にぶい黄橙色粗砂(10YR7/2)炭化物粒を少し含む。しまり欠く。
15. 黄灰色粘土・粗砂互層(2.5Y6/1)炭化物粒を少し含む。しまり弱い。
16. 灰色粘質土(5Y6/1)層境に酸化鉄が沈着。しまり弱い。
17. 灰色粘質土混灰黄色粗砂(5Y6/1～2.5Y7/2)粘質土は互層状に入る。下層との層境に酸化鉄沈着。しまり欠く。
18. 灰黄色粘質土(2.5Y7/2)マンガン斑非常に多く入る。しまり固い。



1. 灰黄褐色砂質土(10YR5/2)径1～3mmの砂粒を非常に多く含む。炭化物を含む。マンガン粒非常に発達。しまり固い。
2. にぶい黄褐色砂質土(10YR5/3)径1～3mmの砂粒を非常に多く含む。炭化物を含む。上層に褐灰色粘質土(10YR6/1)がうすく互層状に入る。下層にマンガン粒、酸化鉄が入る。しまり固い。

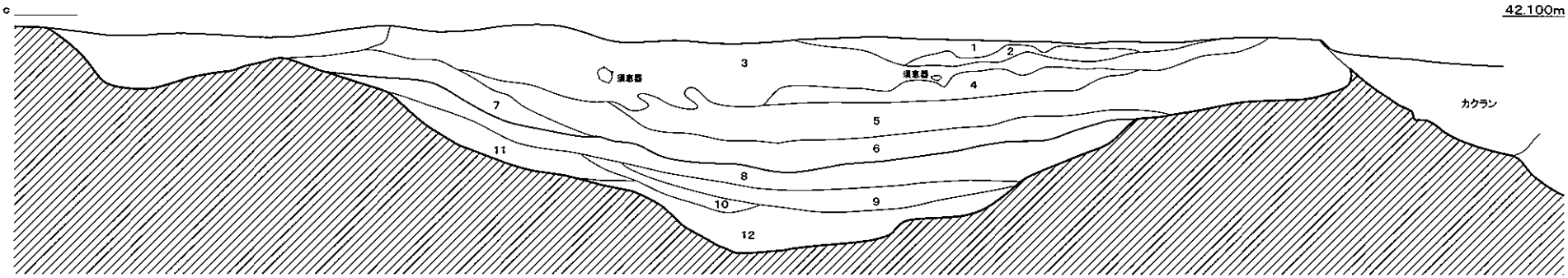
} 奈良

3. 灰黄褐色粘質土(10YR4/2)径2～5mmの砂粒を多く含む。炭化物を少し含む。マンガン粒が少し入る。しまり強い。
4. 褐灰色粗砂(10YR6/1)長石粒多含。酸化ぎみ。しまり欠く。
5. 灰色粗砂(5Y6/1)径2～5mmの粗砂を少し含む。炭化物を少し含む。還元ぎみ。しまり弱い。
6. 灰黄褐色粘質土(10YR6/2)径1～2mmの砂粒をわずかに含む。酸化鉄多く入る。しまり強い。
7. 灰黄褐色細砂(10YR6/2)径2～5mmの粗砂を少し含む。しまり弱い。

} 弥生

第11図　8次SD02土層実測図①（1／40）

SD02

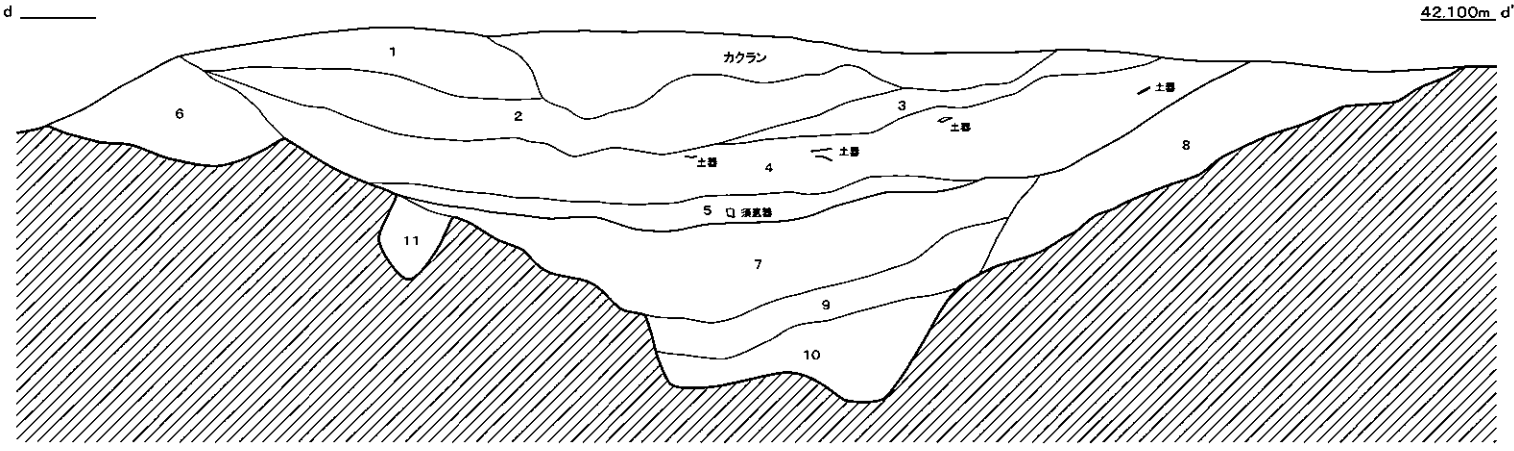


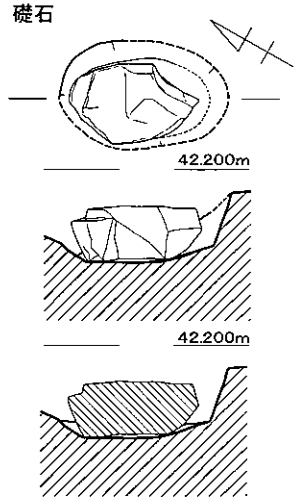
1. 黄灰色砂質土(2.5Y4/1)粘性あり。径2～5mmの白色砂粒を含む。
2. 黒褐色粘土(2.5Y3/1)径1～3mmの白色砂粒を少し含む。均質。
3. 褐灰色砂質土(10YR6/1)下層に黄灰色砂(2.5Y6/1)が入る。酸化鉄が目立つ。径2～5mmの白色粒子を多く含む。
4. 褐灰色粘質土(10YR6/1)径1～2mmの白色粒子がわずかに入る。酸化鉄が目立つ。
5. オリーブ灰色砂・灰色粘土互層(5GY6/1～10Y5/1)径1～3mmの白色粒子を少し含む。径2～5mmの炭化物を含む。酸化鉄がわずかに入る。
6. オリーブ黒色細砂～粗砂(10Y3/1)やや粘質。径1～3mmの白色粒子を少し含む。
7. 褐灰色砂質土(10YR6/1)径1～3mmの砂礫を多く含む。炭化物粒を少し含む。マンガン斑を非常に多く含む。しまり固い。

} 奈良

8. 灰色粘質土(5Y6/1)径1～3mmの砂礫を多く含む。しまり固い。やや砂質。
9. 灰白色細砂～粗砂(2.5Y7/1)中位に植物を非常に多く含む。灰色粘質土(5Y4/1)が入る。径5mm大の礫少し含む。しまり弱い。
10. 灰色粘質土(7.5Y7/1)径1～2mmの砂粒を少し含む。しまりあり。
11. 灰黄色砂質土(2.5Y7/2)径1～3mmの砂礫を多く含む。マンガン斑非常に多く入る。上層との境に酸化鉄沈着。しまり固い。やや粘質。
12. 灰白色細砂～粗砂(5Y7/1)径2～5cm大の礫を少し含む。

} 弥生





1. 灰黄褐色砂質土(10YR6/2)径2mm以下の砂粒を多く含む。炭化物を多く含む。上位酸化鉄、下位マンガン斑が多く入る。粒性ややあり。しまり固い。
2. 褐灰色細砂 混褐灰色粘質土(10YR6/1・10YR4/1)互層状に入る。径1～3mmの砂粒を含む。炭化物を少し含む。しまり固い。
3. 褐灰色粘質土 混褐灰色砂質土(10YR5/1・10Y6/1)粘質土ブロック状に入る。径1～2mmの砂粒を多く含む。しまり固い。
4. 黄灰色粘質土(2.5Y6/1)径1～3mmの砂礫を少し含む。炭化物を少し含む。上位に酸化鉄多く入る。しまり強い。
5. 黄灰色砂質土(2.5Y5/1)黄灰色粘土(2.5Y4/1)をブロック状に少し含む。炭化物を少し含む。しまり強い。
6. 黄灰色粘質土(2.5Y6/1)径1～2mmの砂粒を少し含む。マンガン斑が多く入る。しまり強い。

} 奈良

7. 灰白色細砂～粗砂(5Y7/1)上位と下位に灰色粘土(5Y4/1)が互層状に少し入る。粘土中に植物遺存体が入る。層境にマンガン斑集積。しまり弱い。
8. 灰色粘質土(5Y6/1)径1～3mmの砂礫を多く含む。マンガン斑が非常に多く入る。しまり固い。
9. 灰色砂質土(7.5Y6/1)径1～5mmの砂礫を非常に多く含む。層境を中心にマンガン斑多く入る。粘性ややあり。しまりあり。

} 弥生

10. 灰色細～粗砂・粘土互層(7.5Y6/1)しまり弱い。
11. 灰色粘質土(5Y6/1)径1～3mmの砂礫を多く含む。炭化物を多く含む。しまりあり。

遺構埋土

0 2m

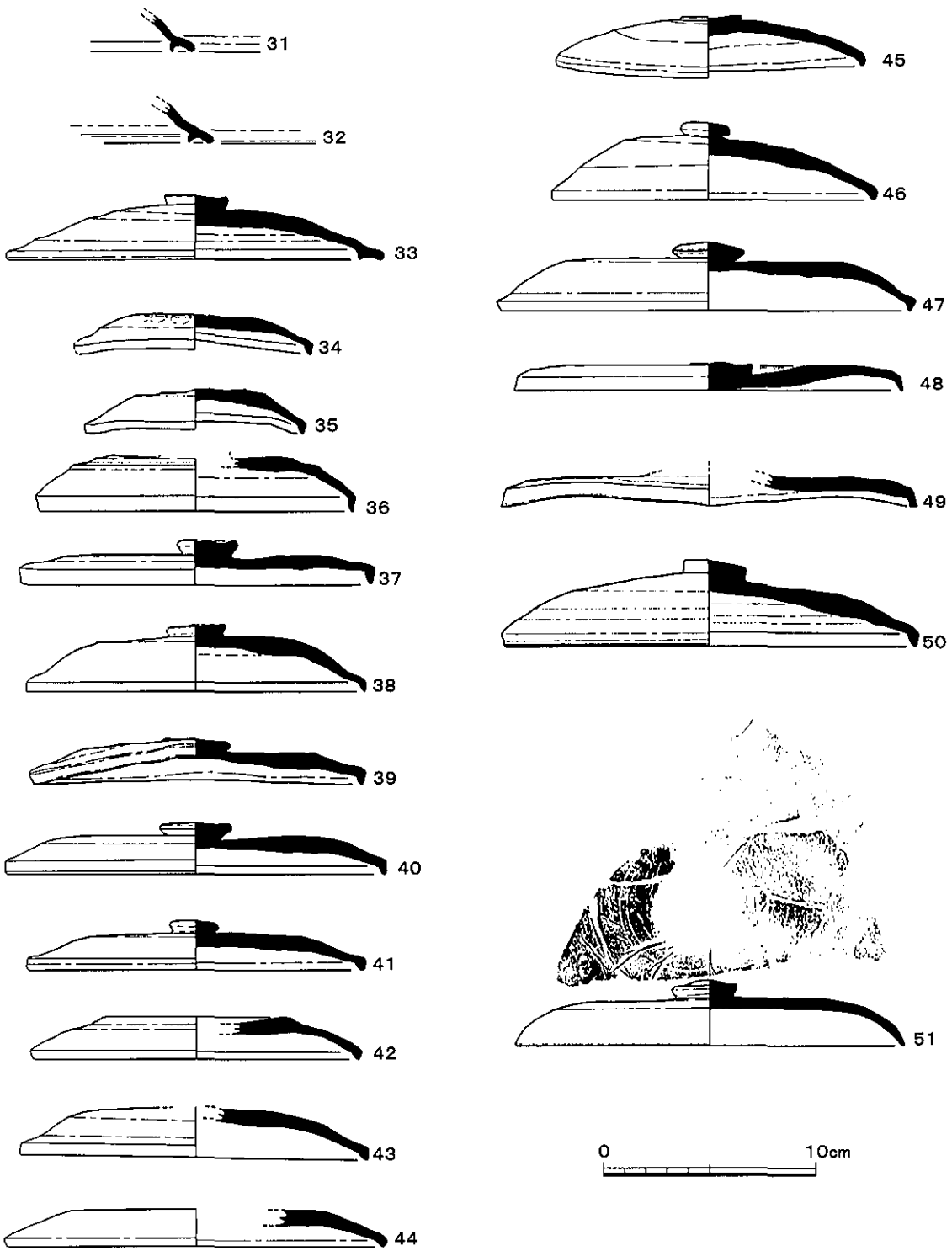
第12図 8次SD02土層実測図②・礎石実測図（1／40）

84は杯Aで、復元口径13.0cmを測る。体部上位～口縁部にかけて外反し、底部外面は回転ヘラ削りを施す。

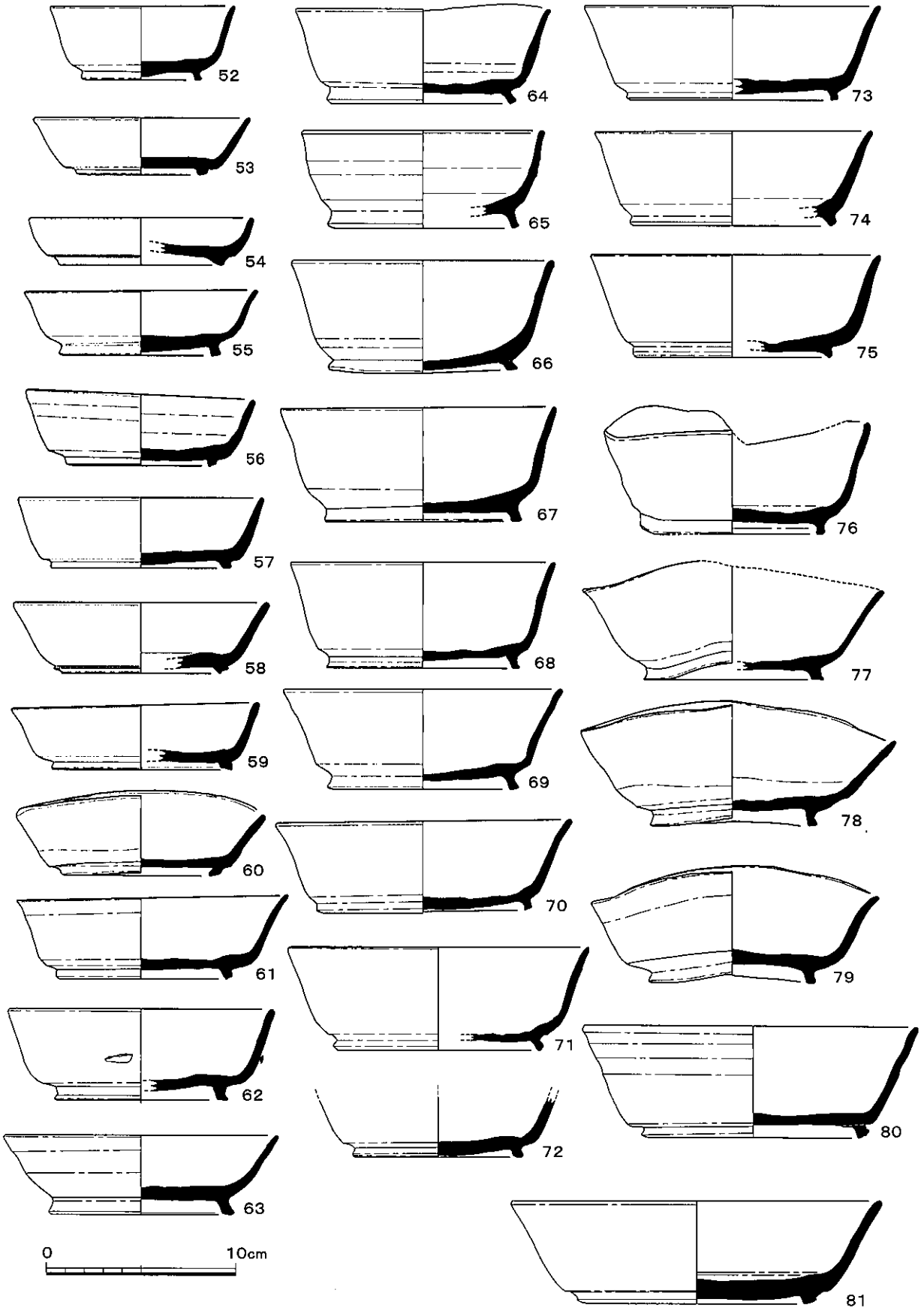
85は杯で、復元口径14.8cmを測る。体部～口縁部は直線的にのび、口縁端部は断面四角形を呈す。体部外面には沈線を施し、底部外面では回転ヘラ削りを行う。

86は杯か皿で、箱形を呈すようである。底部外面はナデ調整を施す。

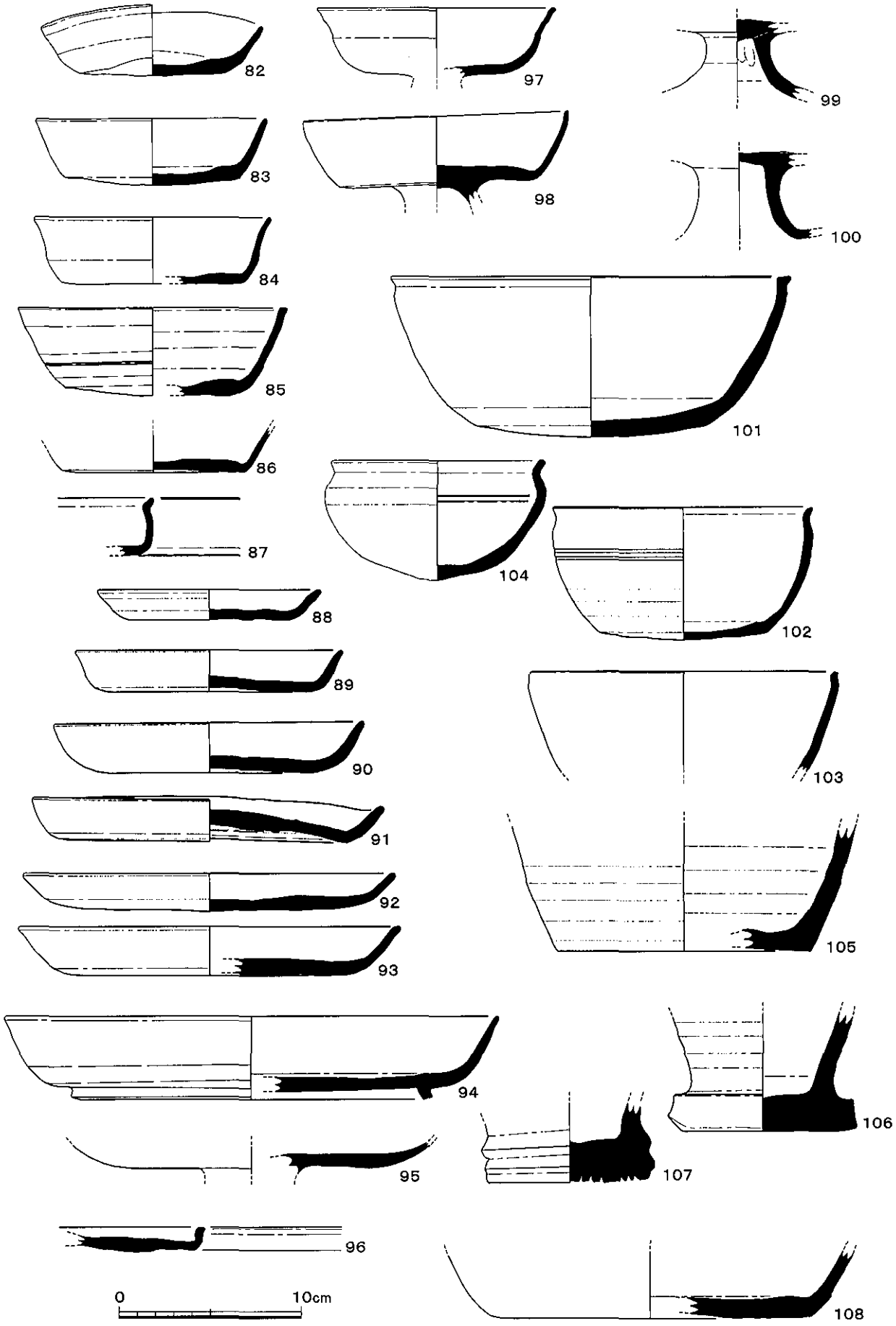
87は皿か盤である。ほぼ直立する体部から口縁部は外側に屈曲する。



第13図　8次SD02・1層出土遺物実測図①（1／3）



第14図　8次SD02・1層出土遺物実測図②（1／3）



第15図　8次SD02・1層出土遺物実測図③（1／3）

88 ～ 93･108 は皿で、口径及び復元口径は 12.3cm ～ 21.0cm を測る。底部外面の調整にはナデ（88 ～ 90）、回転ヘラ削り（91）がある。93 は底部外面の調整の一部に手持ちヘラ削りがある。108 は復元底径 17.6cm で、土師質に焼成されている。底部は平底を呈し、外面に回転ヘラ切り後のナデ調整が見られる。

94 は盤で、口径は 27.1cm を測る。底部には低い高台がつき、端部は断面四角形を呈す。

95 ～ 100 は高杯である。95・96 の杯部は盤形で、97・98 は杯形である。99・100 は短脚で、脚部中位から大きく開くようである。

101 ～ 104・109 は鉢である。101 は復元口径 22.0cm を測り、口縁端部が嘴状に成形される。102 は復元口径 14.2cm を測り、口縁部は外側に屈曲する。体部外面には沈線を施す。103 は復元口径 17.0cm を測り、口縁部はわずかに内側へ折り曲げられる。104 は口径 11.7cm を測る。口縁部は外側に屈曲し、体部は丸みを持ちながら底部で尖底気味になる。109 は復元口径 22.05cm を測る。口縁部は緩やかに外反し、端部は丸く仕上げられる。体部は直線的な器形を呈し、外面に沈線を施す。底部はやや丸みを持つ平底になる。

105・110・123 は壺である。105 は体部下位～底部外面は回転ヘラ削りを施し、直線的な器形に仕上げる。110 は体部が算盤玉状になり、底部は平底を呈す。123 は体部は丸く仕上げ、底部は平底を呈す。

106・107 はこね鉢である。回転ナデにより成形し、106 の底面部は平滑に、107 の底面部は刺突により凹凸を付ける。

111 は短頸壺蓋で、復元口径は 14.8cm を測る。口縁部は直立に近い傾きになり、端部が断面台形を呈す。天井部は平坦に仕上げられる。

112・113 は短頸壺で、復元口径はそれぞれ 10.0cm・13.1cm を測る。いずれも口縁部は直立に近い傾きになり、端部は 112 が断面四角形、113 は丸く仕上げられる。112 の体部は扁平な球形を呈し、底部に高い高台が付く。

115 は短頸壺の体部で、扁平な把手が付く。

114 は甑の把手で、扁平な形を呈す。ナデにより成形する。

116 ～ 119 は長頸壺で、116・117 の復元口径は 10.6cm・13.6cm を測る。何れも口縁部は屈曲し、外側にのびる。118 は肩部外面に沈線を施し、体部はわずかに丸みを帯びる。底部には低い高台を付ける。119 は口縁部が屈曲し、受口状を呈する。頸部外面では沈線を施し、肩部２ヵ所には突帯を付ける。体部は回転ヘラ削りにより直線的な器形を呈し、底部には低い高台が付く。器形等の特徴から肥後系壺と考えられる。

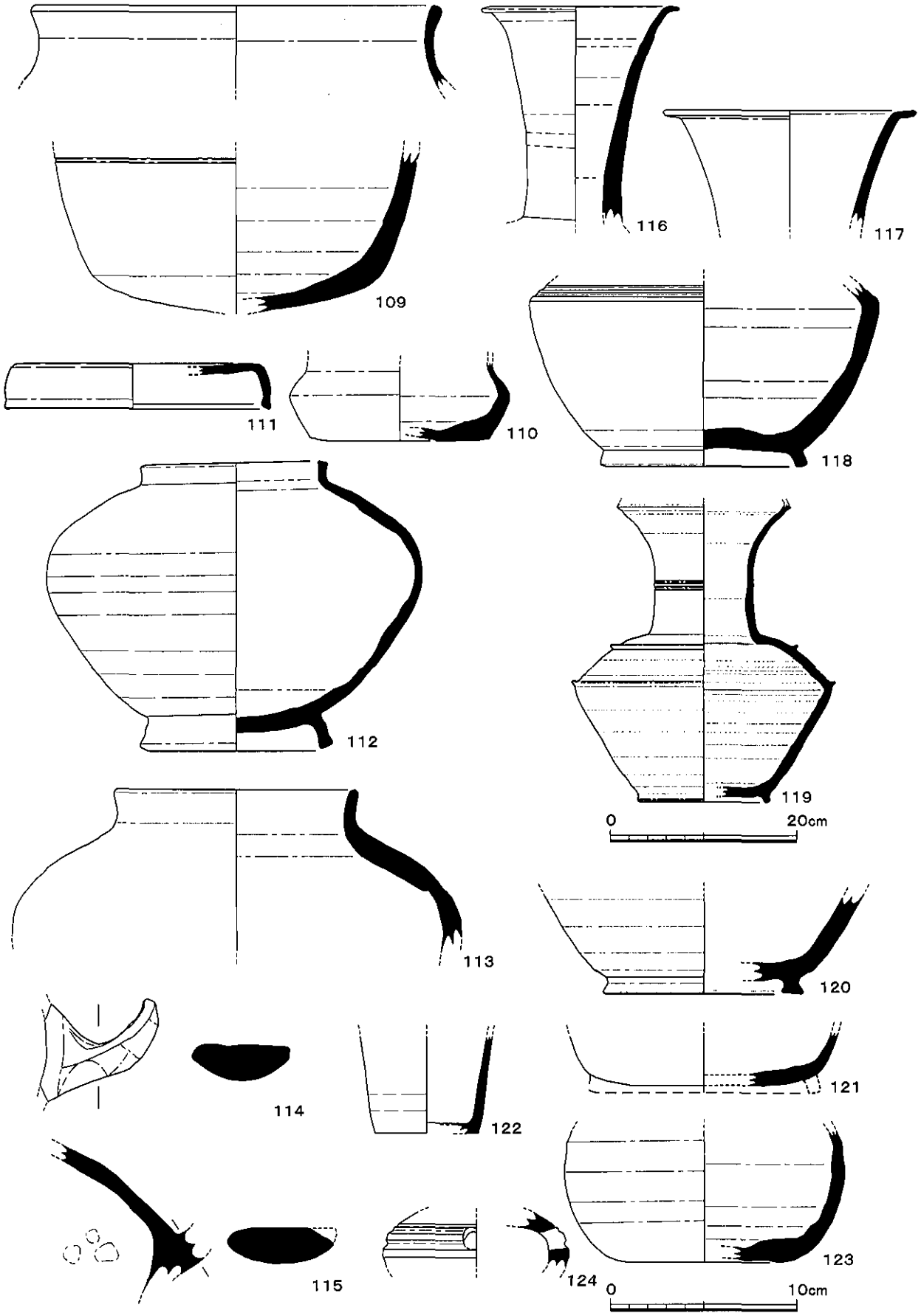
120 は壺である。体部下位外面に回転ヘラ削りを施し、底部に断面台形の高台を付ける。

121 は杯と思われる。底部には高台が付いていた痕跡が残る。

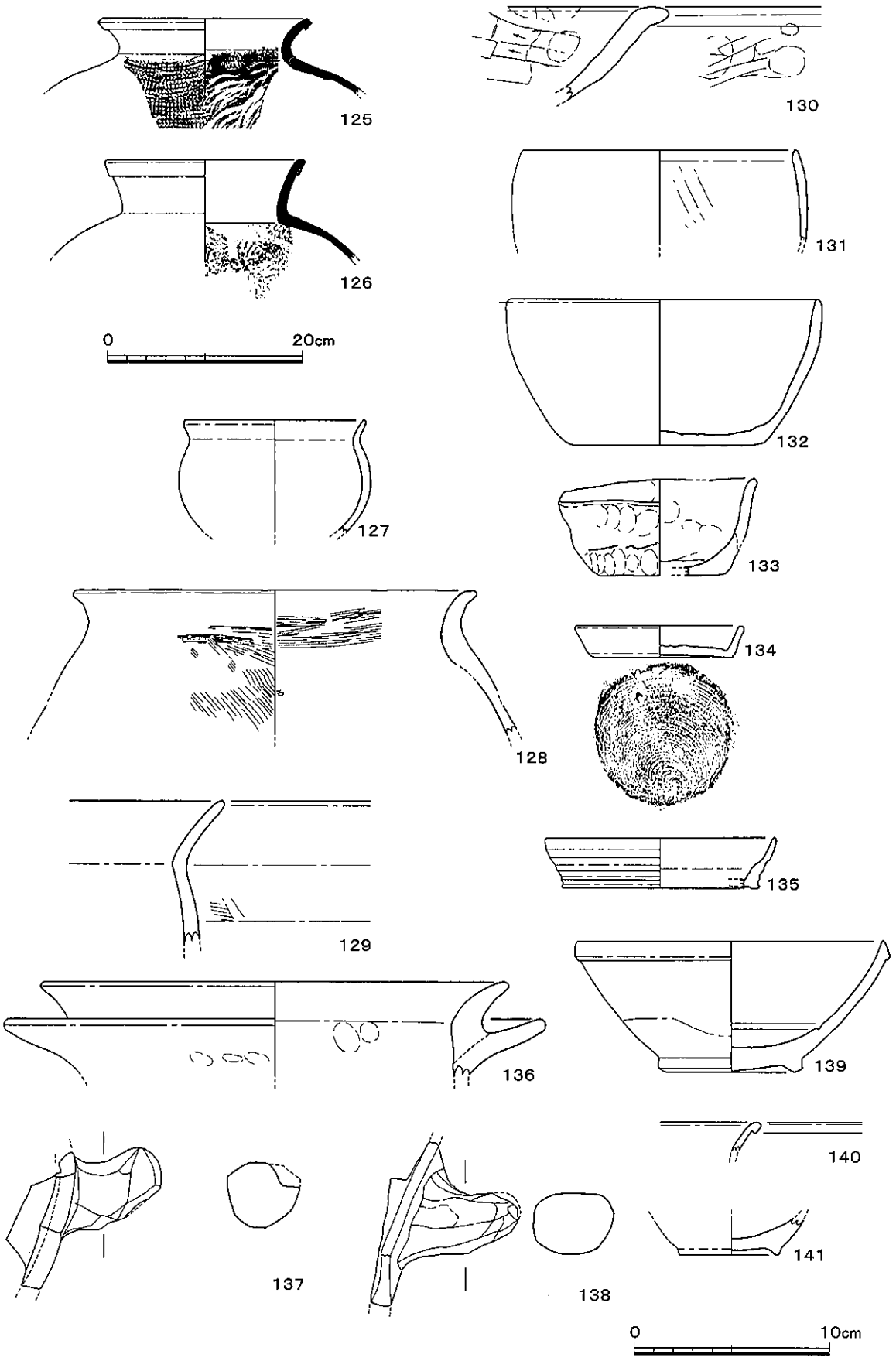
122 は鉢である。体部は回転ヘラ削り後回転ナデにより直線的に仕上げ、底部も回転ナデを施す。

124 は甑である。扁平な球形を呈し、体部外面に沈線を施し、穿孔を行う。

125・126 は甕で、125 の復元口径は 21.8cm、126 の口径は 20.55cm を測る。口縁端部はいずれも四角形を呈す。



第16図　8次SD02・1層出土遺物実測図④（119は1／6、他は1／3）



第17図　8次SD02・1層出土遺物実測図⑤（125・126は1／6、他は1／3）

土師器（127 ～ 138・142 ～ 144） 127 は壺で、復元口径 9.2cm を測る。口縁部は外傾し、体部は球形を呈す。

128・129 は甕である。128 は復元口径 20.7cm を測り、口縁部は外反する。129 は口縁部が長く、外傾する。また、頸部内面には稜が付く。

130 は鉢と思われる。体部は大きく開き、口縁部は外側に屈曲する。ナデ調整により成形する。

131・132 は椀である。131 は復元口径 14.1cm を測り、体部～口縁部にかけて内傾する。132 は復元口径 16.6cm を測り、大きく開く体部から口縁部は直立に近い傾きになる。底部は平底を呈す。

133 は鉢で口径 10.2cm を測る。ナデにより成形され、指頭圧痕が多数見られる。

134・135 は皿で、134 の口径は 8.6cm、135 の復元口径は 12.0cm を測る。いずれも底部外面には回転糸切り痕が残る。

136 は鍔付甕で、復元口径 24.0cm を測る。大きく開く口縁部の上に、同形の口縁部分を貼付たように見える。ヨコナデにより成形する。

137・138 は把手である。いずれもナデにより成形する。138 の胎土は同遺構で出土した移動式カマドの胎土と同様に見えるため、移動式カマドの把手である可能性がある。

142 は移動式カマドの庇部である。ナデ調整により成形される。外面に煤が付着する。

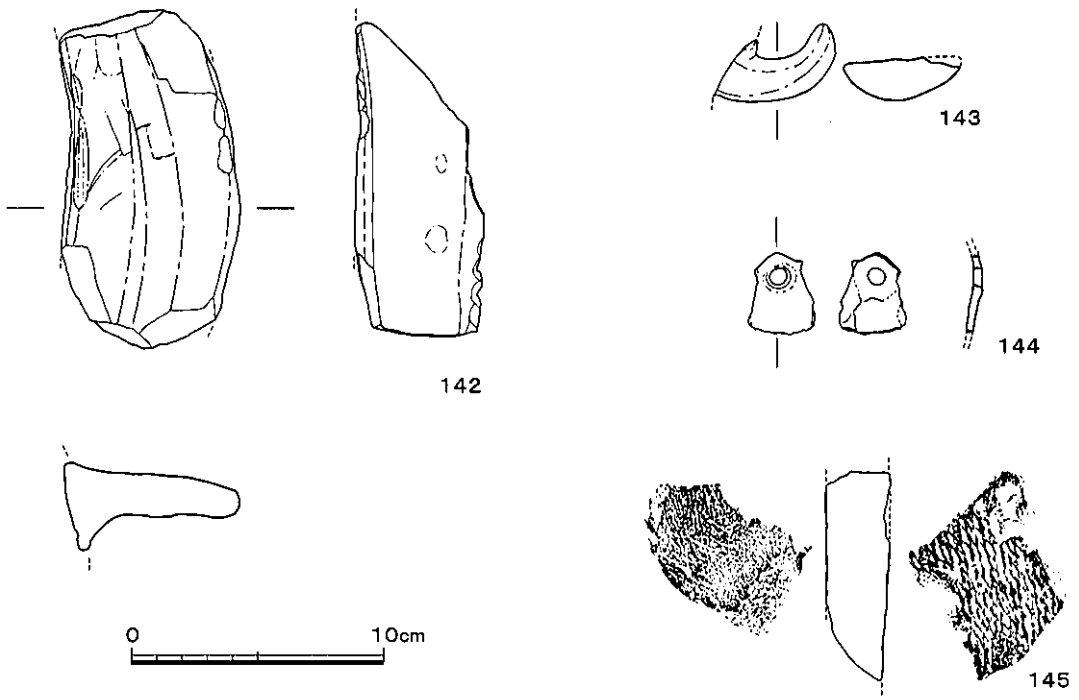
143 は把手である。断面は扁平な半月形を呈す。

144 は用途不明品である。器体はやや湾曲し、穿孔が見られる。傘状土製品か。

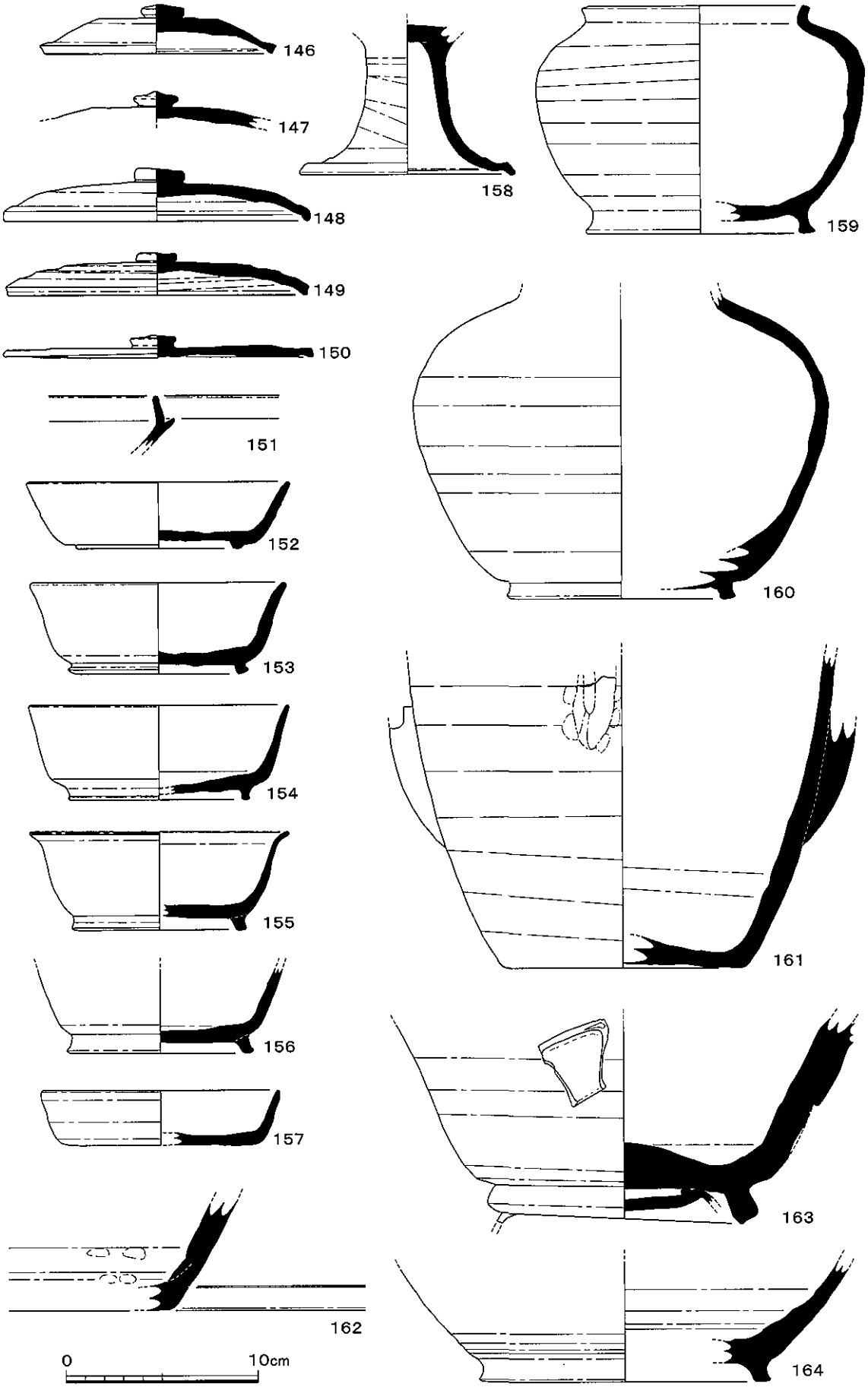
陶磁器（139 ～ 141） 139 は白磁の椀で、口径 16.7cm を測る。玉縁口縁部で、低い高台を削りだす。

140・141 は陶磁器の椀である。いずれも施釉見られず、須恵質に焼成されている。

瓦（145） 平瓦である。凹面はナデ調整か。凸面は縄目タタキ痕が残る。



第18図 8次SD02・1層出土遺物実測図⑥（1／3）



第19図　8次SD02・2層出土遺物実測図①（1／3）

２層出土遺物（第 19 ～ 20 図、図版 51 ～ 52）

須恵器（146 ～ 164） 146 ～ 150 は杯Ｂ蓋で、口径及び復元口径は 12.4cm ～ 16.2cm を測る。口縁端部は断面三角形（146・148・150）と四角形（149）に分かれる。天井部外面の調整には回転ヘラ削り（146・147・150）、ナデ調整（149）がある。いずれもつまみが付き、擬宝珠状（146・147・150）とボタン状（148・149）に分かれる。

151 は杯Ｈ身で、立ち上がりは内傾する。

152 ～ 156 は杯Ｂ身で、復元口径は 13.4cm ～ 13.7cm を測る。152 の杯部は浅く、他のものは比較的深い。口縁部はほぼ直線的に上方にのびるもの（152 ～ 154）と大きく外反するもの（155）がある。155 は形状から金属器模倣須恵器の椀である可能性が高い。

157 は杯Ａ身で、復元口径 12.4cm を測る。杯部は浅く、口縁部はほぼ直線に上方へのびる。底部外面はナデ調整を施す。

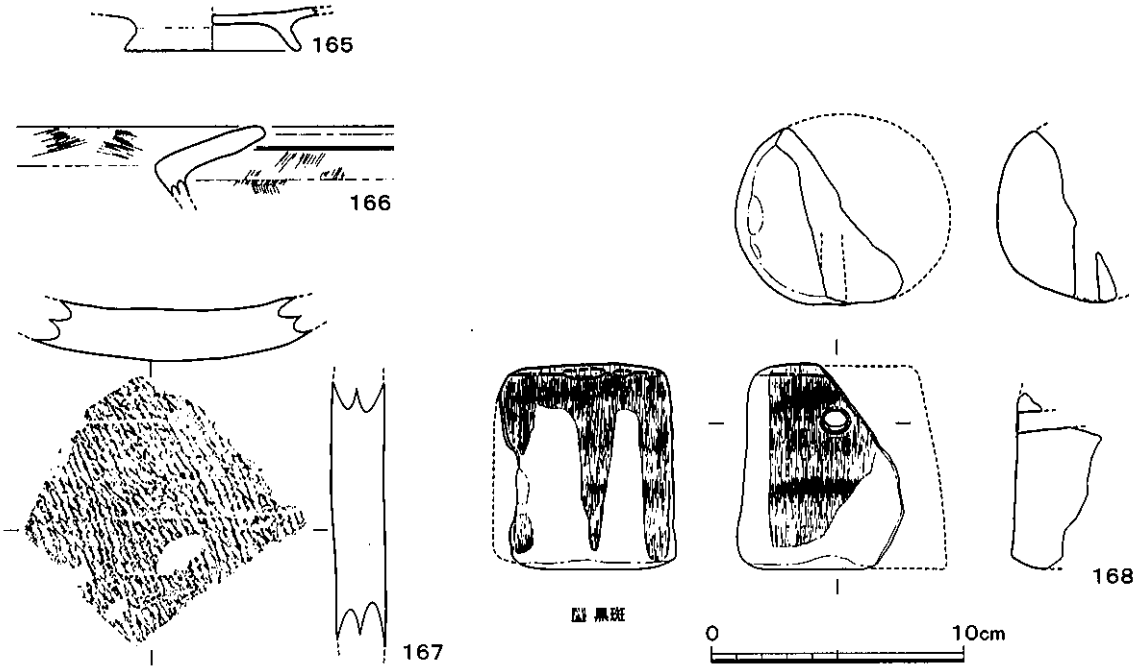
158 は高杯の脚部である。脚部は裾部から大きく開き、端部で屈曲する。

159・160・164 は短頸壺である。159 は復元口径 11.9cm を測り、口縁部はやや外傾する。体部上位は張り、最大径になる。体部中位～下位外面まで回転ヘラ削りを施す。底部には高い高台が付く。160 は体部中位が丸みを持ち、下位外面では回転ヘラ削りが施され、直線的に底部に至る。底部には低い高台が付く。164 の体部は回転ナデを施し、底部に低い高台が付く。

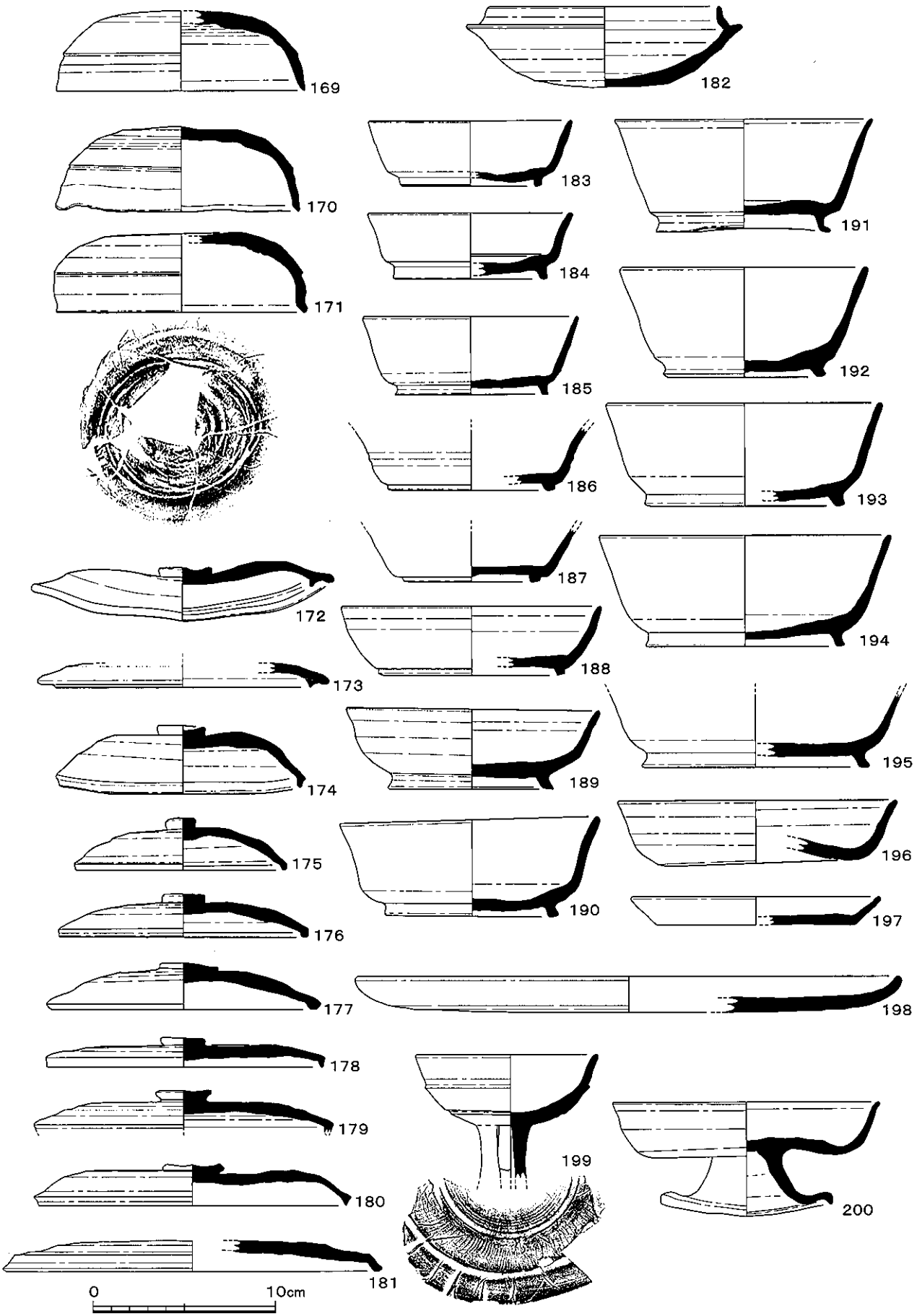
161 は四耳壺と思われる。体部外面は回転ヘラ削りが施され、ほぼ直線に上方へのびる。耳部はナデにより成形され、体部中位と下位に付く。

162・163 は壺である。162 は体部下位外面に回転ヘラ削りを施し、器形を直線的にする。底部は平底を呈すと思われる。163 は回転ナデにより成形する。底部には太く高い高台が付く。体部には別固体破片、底部には杯Ｈ身と思われる器体が釉着する。

土師器（165） 椀である。底部に高い高台が付く。



第20図　8次SD02・2層出土遺物実測図②（1／3）



第21図　8次SD02・3層出土遺物実測図①（1／3）

弥生土器（166） 甕の口縁部である。「く」字に屈曲する口縁部は水平よりやや立ち上がる傾きを呈す。口縁部にはハケメが施される。

瓦（167） 平瓦である。凹面はナデが施され、凸面は縄目タタキ痕が残る。

土製品（168） 用途不明品である。円錐台形状を呈し、上位に穿孔する。権状土製品か。

3層出土遺物実測図（第21～22図、図版52～54）

須恵器（169～213） 169～171は杯H蓋で、口径及び復元口径は13.4cm～13.8cmを測る。いずれも天井が高く、口縁部外面に段を付ける。口縁端部内面が平坦面を成し、天井部外面は回転ヘラ削りを施すもの（169・170）と口縁端部が外側に屈曲し、内面に平坦面を付け、天井部外面に不定方向ナデを施すもの（171）がある。また、171の内面では同心円の当て具痕が確認できる。172～181は杯蓋である。口径及び復元口径は11.7cm～20.8cmを測る。172・173はかえりの付くもので、172は器体が歪んでいるため法量は不確定である。173のかえりはわずかに口縁部下へ突出する。172は擬宝珠状のつまみが付く。174～181は口縁端部は断面三角形またはそれに近い形に成形されるのがほとんどで、181では断面四角形の端部を軽く内側に折り曲げている。天井部外面は174～176でナデ調整を施し、177～181は回転ヘラ削りを行う。つまみは中央部が窪むボタン状（174）、ボタン状（175～178）、擬宝珠状（179・180）に分けられる。

182は杯H身で、口径12.6cmを測る。立ち上がりは内傾しつつ端部で直立する。底部は外面約1／3範囲で回転ヘラ削りを施す。

183～195は杯B身で、復元口径は11.2cm～16.0cmを測る。体部～口縁部はほぼ直線状に上方にのびるものがほとんどであるが、186は外反し、大きく開くようである。188はやや内湾し、体部に丸みを持つ。189は体部が丸みを持ち、口縁部がやや外反する。高台は低いものが多いが、191は高く、端部が屈曲している。

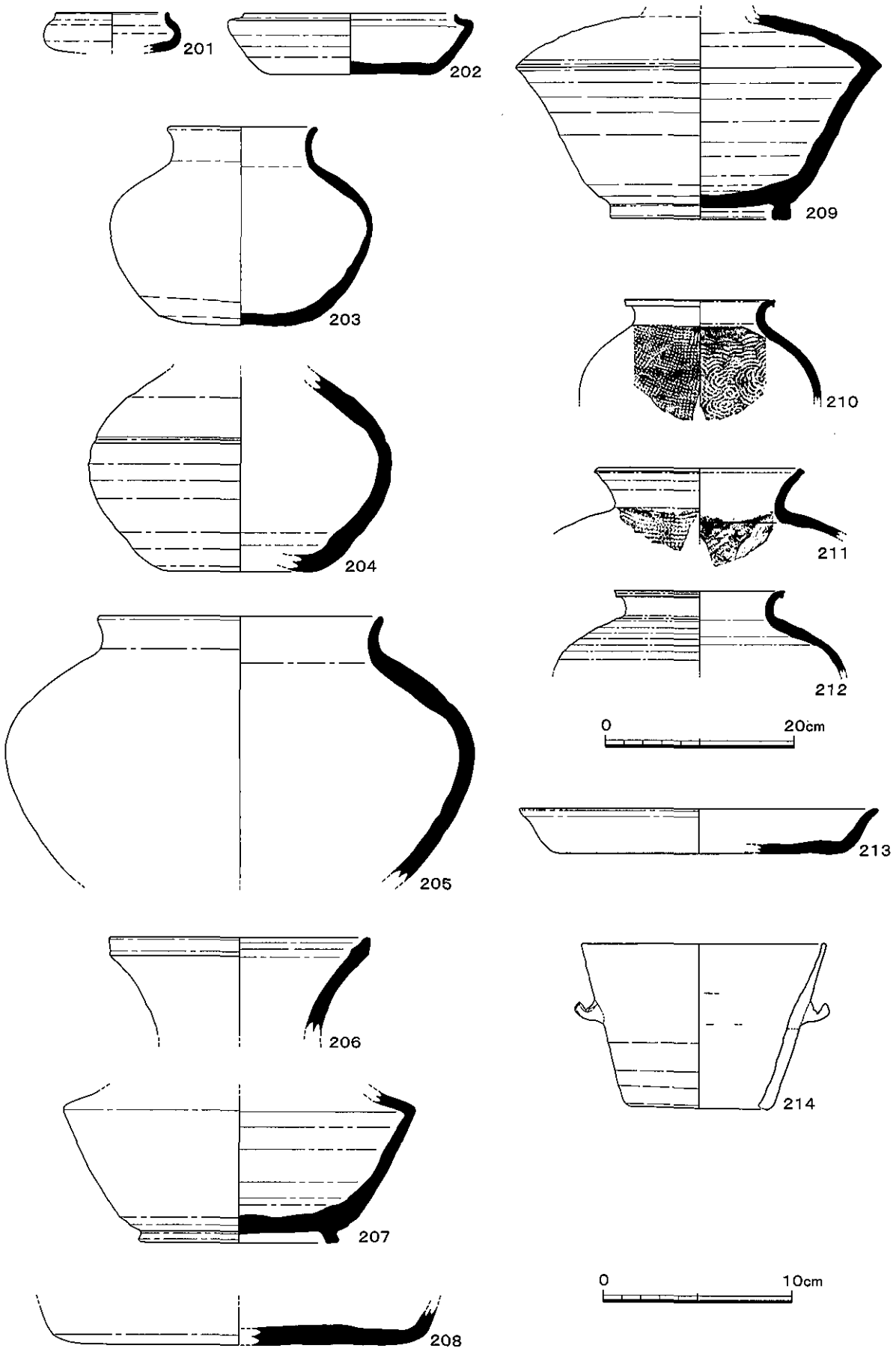
196は杯身で、口径15.35cmを測る。体部～口縁部は直線状になり、底部は回転ヘラ削りを施し平底を呈す。

197・198・213は皿で、復元口径13.7cm～30.0cmを測る。197の口縁部は直線状を呈し、底部で屈曲する。198の口縁部は平底の底部からなだらかに立ち上がっていく。213の口縁部は外反し、底部外面はヘラ切り後ナデを施す。

199・200は高杯である。199の復元口径は10.1cmを測り、丸みを持つ杯部の体部外面は中位に段、下位に沈線を施す。脚部は長脚と思われ、透かしが入る。200の口径は14.7cmを測り、杯部は浅い。脚部は短脚で、裾部が大きく開き、端部が断面三角形を呈す。

201～203・205は短頸壺である。201は復元口径6.1cmを測る。口縁部は直立し、体部は扁平な器形になる。202は復元口径11.3cmを測る。口縁部は直立し、体部は丸みがなく、箱形を呈す。203は復元口径8.0cmを測り、口縁部が外反する。比較的頸部が長く、体部はやや扁平な球形を呈す。底部は平底である。205は復元口径15.1cmを測り、口縁部がやや外反する。体部はやや扁平な球形を呈す。

204・208は壺である。204は球形を呈し、体部外面に沈線を施す。底部は平底と思われ、復元底径8.0cmを測る。208は平底を呈し、復元底径19.6cmを測る。



第22図　8次SD02・3層出土遺物実測図②（210 ～ 212・214 は1／6、他は1／3）

206は瓶類である。口径13.8cmを測り、外反する頸部から口縁端部外面は直立気味に成形される。

207・209は長頸壺である。207は肩部に丸みを持ち、屈曲部に稜を成す。体部は回転ヘラ削りを施す。底部に低い高台が付く。209は肩部が屈曲し稜を成す。体部は回転ナデを施し、底部に低い高台が付く。

210～212は甕で、復元口径16.0cm～22.2cmを測る。口縁端部はいずれも断面四角形を呈すが、210・212は大きく外反し、端部上面が水平になる。212の体部は回転ナデで成形される。

土師器（214） 214は甑で、復元口径25.9cmを測る。底部部は直線的に上方へのびる。口縁端部・底端部は断面四角形を呈す。体部中位には把手が付く。

4～7層出土遺物（第23図、図版54）

須恵器（215～229） 215は杯H蓋で、復元口径13.0cmを測る。器高は高く、丸みを持つ天井部から口縁部は直立に近い傾きを成す。口縁部外面は沈線が巡り、端部内面は段を付ける。

216～219は杯B蓋で、口径及び復元口径は13.1cm～18.0cmを測る。口縁端部は断面三角形を呈すもの（216～218）、端部を軽く折り曲げるもの（219）がある。天井部外面の調整は回転ヘラ削り（216・219）と回転ナデ（217・218）に分かれる。216・217にはつまみが付き、擬宝珠状を呈す。220～222は杯B身で、復元口径9.0cm～15.4cmを測るが、222は器体が歪んでいるため法量は不確定である。いずれも体部～口縁部は直線的にのび、222は大きく開く。高台は低いものが付く。

223は杯身で、復元口径12.6cmを測る。体部～口縁部は直線的にのびる。

224・225は皿である。224は底径17.7cmを測り、底部外面は回転ヘラ切り後未調整である。225は口縁部が外反する。

226は椀で、体部と底部の境は丸みを持つ。

227は鉢で、復元口径32.6cmを測る。口縁部は屈曲して大きく開く。体部はやや丸みを持ち、強い回転ナデを施す。

228・229は壺である。228の体部は直線的にのび、回転ナデを施す。底部は平底を呈し、不定方向ナデにより成形する。229は口径8.8cmを測り、頸部～口縁部はわずかに開く。頸部外面には浅い沈線が施される。体部は球形を呈し、底部は回転ヘラ削りにより丸く仕上がる。

土師器（230～232） 230・232は甕である。230は復元口径12.0cmを測り、口縁部は外反する。体部は丸みを持つ。232は復元口径28.6cmを測り、口縁部は長く、頸部で屈曲し大きく開く。体部は丸みがなく、直線的になる。

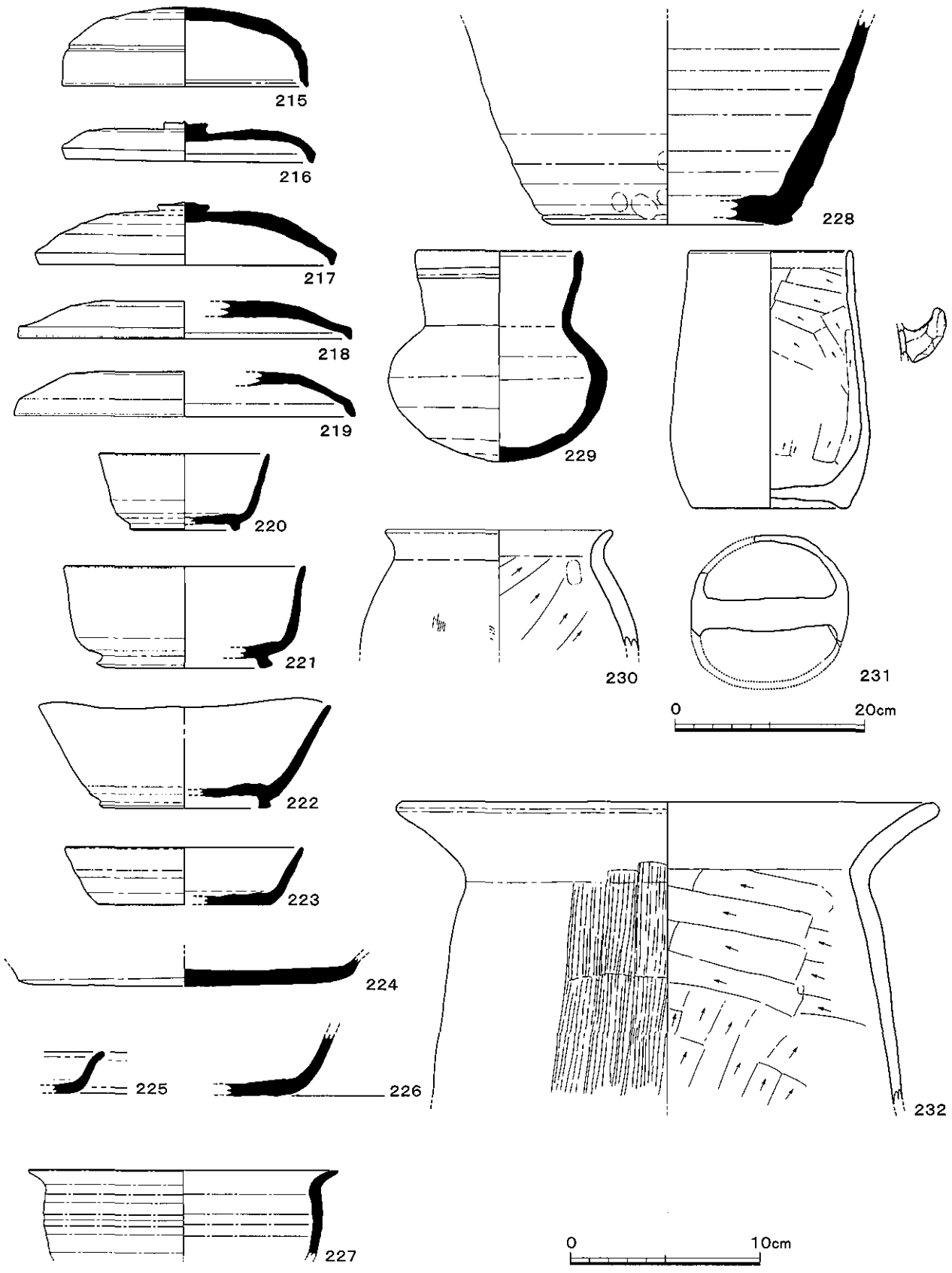
231は甑で、復元口径17.3cmを測る。やや内傾する体部から口縁部は直立に近い傾きになる。底部は底抜け状態に桟を通し、2つの半月形の通気孔を形成する。把手は接合できなかったが貼付けられていたと思われる。

縄文時代遺物（第24図）

縄文土器（238） 深鉢の破片と思われる。内外面は貝殻条痕の上にナデ調整を施す。

弥生時代遺物（第24図、図版54・55）

弥生土器（233～237・239～245） 233・235・236は壺である。233は復元口径12.0cmを測り、口縁部は大きく外反する。内外面では縦方向のミガキを施す。235は頸部の破片で、屈曲部に断面



第23図　8次SD02・4～7層出土遺物実測図（227・231は1／6、他は1／3）

三角形の突帯が付く。236は底部で、平底を呈す。

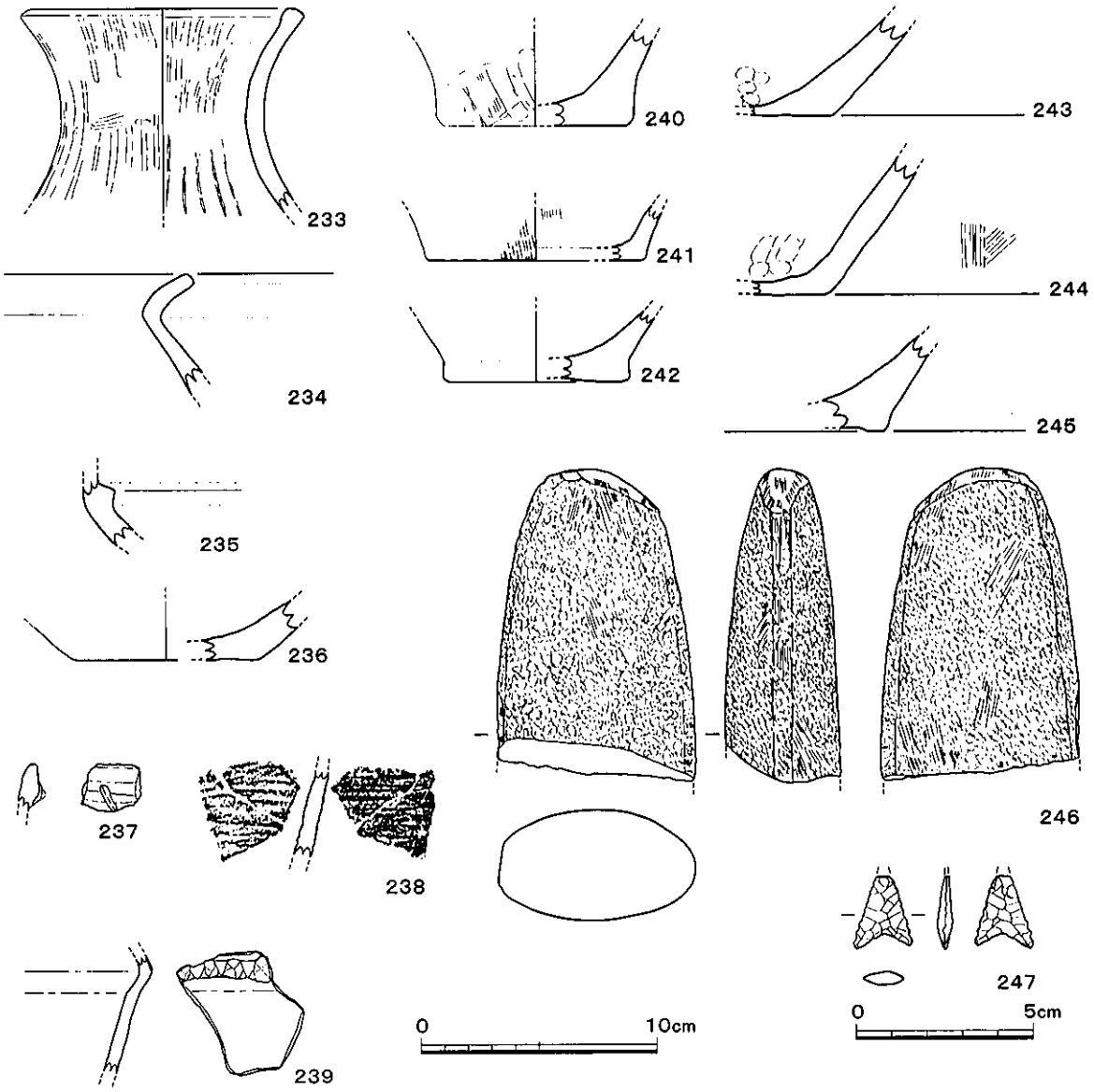
234・237・239～245は甕である。234は口縁部が「く」の字に屈曲し、水平より大きく立ち上がる傾きを呈す。237は口縁端部の破片で、外面に刻目突帯が付く。239は体部の破片と思われ、屈曲部には刻目突帯が付く。240～245は底部のみが残存する。底部には体部との境にくびれを持つもの（240・242・245）と持たないもの（241・243・244）がある。

石器（246・247） 246は太型蛤刃石斧である。敲打により成形し、所々に擦痕が見られる。側面の一部・基部には研磨痕が確認できる。247は石鏃である。二等辺三角形を呈し、基部に抉りを入れる。安山岩製である。

撹乱出土遺物（第25図、図版55）

須恵器（248～251） 248は杯H蓋の天井部である。天井部は丸みを持ち、外面に回転ヘラ削り、内面に回転ナデを施す。また内面では同心円の当て具痕が見られる。

249は杯B身で、口径14.7cmを測る。体部～口縁部は直線的に上方へのび、底部には低い高台



第24図 8次SD02出土縄文・弥生時代遺物実測図（247は1／2、他は1／3）

が付く。

250は皿である。復元口径22.0cmを測るが、器体が大きく歪んでいるため法量は不確定である。

251は瓶類の口縁部と思われる。口径8.75cmを測り、頸部～口縁部にかけて大きく開く。口縁端部の器壁は厚く、丸く仕上げられる。

ＳＤ０３（第26・27図、図版14～17）

調査区のほぼ中央を南西－北東方向に延び、調査区外へと続く溝跡である。ＳＤ０３のすぐ北側では、土坑・ピット群が検出されている。長さ38.0ｍで、幅0.65ｍ～4.56ｍ、深さ0.60ｍ～2.16ｍを測る。本来ＳＤ０２と同一の溝で、断面は「Ｖ」字～ゆるやかな「Ｕ」字状になる。底面はＳＤ０２と同様やや起伏が見られ、北東方向に向かうにつれて底面が下がり、南西端と北東端の底面の比高差は約1.46ｍになる。

溝の埋土は古墳～奈良時代の遺物を含む上層と、弥生時代の遺物を含む下層の大きく２層に分かれる。溝の西側では削平のため上層はわずかに残る程度であり、また、溝の西端より28.61ｍ程北東方向に延びたところで小規模な段造成が見られ、そこから北東側では弥生時代の遺物を含む層のみが残存していた。溝の下層には粘土や粘性の強い粘質土が堆積しており、植物遺存体や自然木が多く出土している。自然堆積層であり、通水・滞水状態であったと思われる。

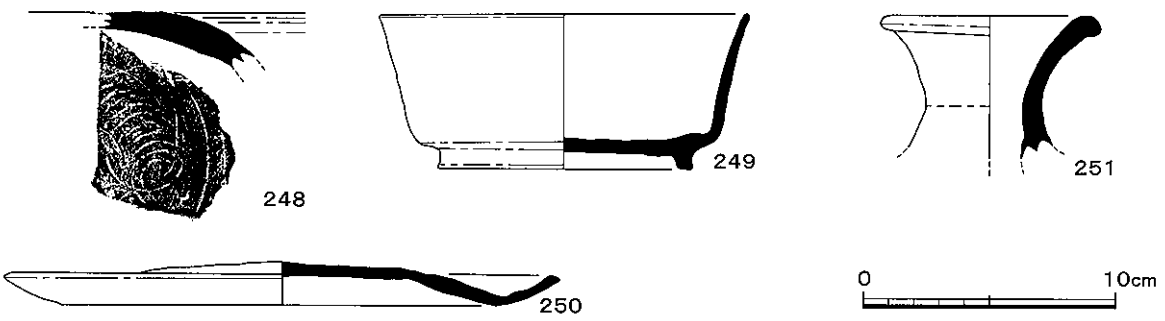
溝の中央付近から北東よりの位置にてＳＫ０３を検出した。ＳＤ０３と切り合い関係にあり、ＳＤ０３→ＳＫ０３の順となる。平面は楕円形状を呈し、長軸6.47ｍ、短軸4.29ｍを測る。削平により残存状況が悪く、最も深い箇所で深さ0.15ｍである。埋土中より白磁椀が１点出土した。

出土遺物（第28～32図、図版55～58）

須恵器（252～280）　252～259は杯Ｈ蓋で、口径及び復元口径は12.0cm～15.8cmを測る。口縁部外面には沈線または段が付き、口縁端部内面は沈線または段が付くもの（252～255）と丸く仕上げるもの（256・257）がある。いずれも天井部外面は回転ヘラ削りを施す。内面では同心円の当て具痕が見られるもの（253・254・259）がある。

260は杯Ｂ蓋で、復元口径15.6cmを測る。口縁端部は断面三角形を呈し、天井部は外面約１／４範囲に回転ヘラ削りを施す。また、天井部に擬宝珠状のつまみが付く。

261～267は杯Ｈ身で、復元口径10.4cm～12.8cmを測る。いずれも立ち上がりは比較的長く、わずかに内傾する。ほとんどの端部は丸く仕上げるが、261では段が付く。263・264の内面には同



第25図　8次SD02・撹乱出土遺物実測図（1／3）

心円の当て具痕が残る。

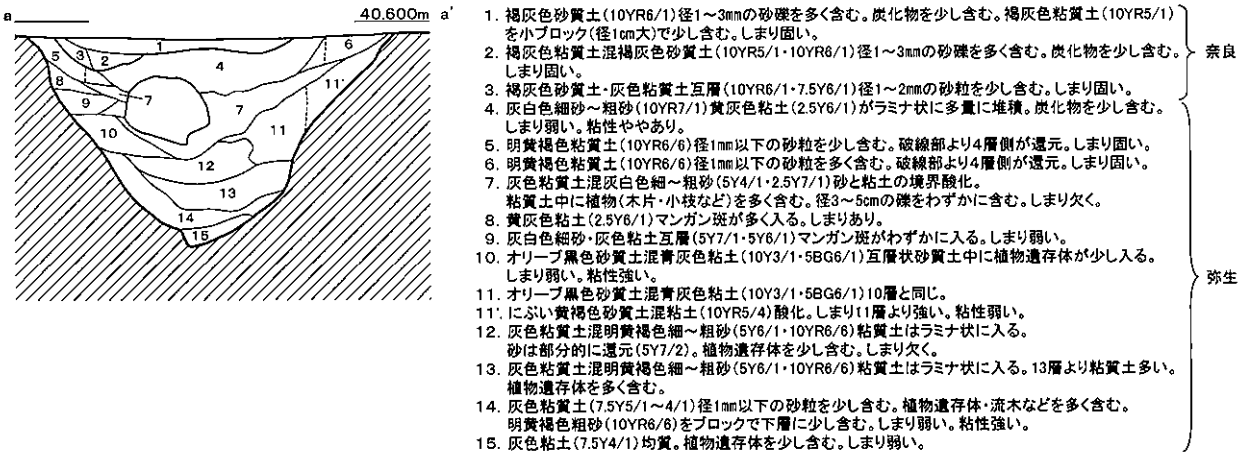
268 ～ 272 は杯Ｂ身で、復元口径 10.0cm ～ 17.2cm を測る。いずれも体部～口縁部は直線的に上方へのびる。268 は高い高台が付き、他は比較的低い高台が付く。272 の底部外面では不定方向のハケメが見られる。

273 は杯Ｇ身で、復元口径 13.8cm を測る。体部～口縁部は直線的に上方へのびる。底部外面は回転ヘラ切り後未調整である。

274 は杯で、復元口径 16.9cm を測る。体部～口縁部は内湾気味に立ち上がる。

275 は甕である。口縁部は外反し、土師器の甕と器形が類似する。体部外面は格子タタキ、内面は同心円の当て具痕が見られる。

SD03



1. 褐灰色砂質土(10YR6/1)径1～3mmの砂礫を多く含む。炭化物を少し含む。褐灰色粘質土(10YR5/1)を小ブロック(径1cm大)で少し含む。しまり固い。
2. 褐灰色粘質土混褐灰色砂質土(10YR5/1・10YR6/1)径1～3mmの砂礫を多く含む。炭化物を少し含む。しまり固い。
3. 褐灰色砂質土・灰色粘質土互層(10YR6/1・7.5Y6/1)径1～2mmの砂粒を少し含む。しまり固い。
4. 灰白色細砂～粗砂(10YR7/1)黄灰色粘土(2.5Y6/1)がラミナ状に多量に堆積。炭化物を少し含む。しまり弱い。粘性ややあり。
5. 明黄褐色粘質土(10YR6/6)径1mm以下の砂粒を少し含む。破線部より4層側が還元。しまり固い。
6. 明黄褐色粘質土(10YR6/6)径1mm以下の砂粒を多く含む。破線部より4層側が還元。しまり固い。
7. 灰色粘質土混灰白色細～粗砂(5Y4/1・2.5Y7/1)砂と粘土の境界酸化。粘質土中に植物(木片・小枝など)を多く含む。径3～5cmの礫をわずかに含む。しまり欠く。
8. 黄灰色粘土(2.5Y6/1)マンガン斑が多く入る。しまりあり。
9. 灰白色細砂・灰色粘土互層(5Y7/1・5Y6/1)マンガン斑がわずかに入る。しまり弱い。
10. オリーブ黒色砂質土混青灰色粘土(10Y3/1・5BG6/1)互層状砂質土中に植物遺存体が少し入る。しまり弱い。粘性強い。
11. オリーブ黒色砂質土混青灰色粘土(10Y3/1・5BG6/1)10層と同じ。
11'. にぶい黄褐色砂質土混粘土(10YR5/4)酸化。しまり11層より強い。粘性弱い。
12. 灰色粘質土混明黄褐色細～粗砂(5Y6/1・10YR6/6)粘質土はラミナ状に入る。砂は部分的に還元(5Y7/2)。植物遺存体を少し含む。しまり欠く。
13. 灰色粘質土混明黄褐色細～粗砂(5Y6/1・10YR6/6)粘質土はラミナ状に入る。13層より粘質土多い。植物遺存体を多く含む。
14. 灰色粘質土(7.5Y5/1～4/1)径1mm以下の砂粒を少し含む。植物遺存体・流木などを多く含む。明黄褐色粗砂(10YR6/6)をブロックで下層に少し含む。しまり弱い。粘性強い。
15. 灰色粘土(7.5Y4/1)均質。植物遺存体を少し含む。しまり弱い。

奈良
弥生

1. 灰黄褐色砂質土(10YR6/2)径1～3mmの砂粒を多く含む。炭化物を多く含む。酸化鉄が多く入る。しまり強い。やや粘性あり。
2. 緑灰色粘質土(7.5GY6/1)径1～3mmの砂礫を少し含む。炭化物を少し含む。しまり固い。(SD04埋土)
3. にぶい黄褐色粘質土・灰黄褐色粘質土混土(10YR4/3～10YR6/2)径1mm以下の砂粒を少し含む。しまりあり。
4. 緑灰色粘質土(10G6/1)径1～3mmの砂礫を少し含む。炭化物を少し含む。しまり固い。
5. 灰白色細～中粒砂(2.5Y7/1)うすいブロック状に黄灰色粘土(2.5Y6/1)をわずかに含む。しまり欠く。
6. 灰色粘質土(7.5Y6/1)うすいブロック状に黄灰色細～中粒砂(2.5Y6/1)を少し含む。層境に酸化鉄沈着。炭化物をわずかに含む。灰色粘質土(5Y4/1)を径1cm大の小ブロック状にわずかに含む。しまり強い。
7. 灰色～オリーブ黒色粘質土(5Y4/1～3/1)径1mm以下の砂粒をわずかに含む。植物遺存体(径1mm以下)を少し含む。しまり強い。
8. 灰黄色砂質土(2.5Y6/2)径1～3mmの砂礫を多く含む。溝中央に近い部分は還元ぎみ(5Y6/2)しまり強い。
9. 灰白色粘質土・細～粗砂互層(2.5Y7/1)層境にマンガン少し沈着。しまり弱い。
9'. 灰色粘質土・灰白色細～粗砂互層(7.5Y6/1、7.5Y7/1)9層の還元したもの。
10. 灰黄色粘質土(2.5Y6/2)マンガン斑非常に多く沈着。径1～3mmの砂礫を多く含む。しまり弱い。
11. 灰色～オリーブ黒色粘質土(5Y4/1～3/1)灰白色細～中粒砂(5Y7/1)がうすい層状に入る。植物遺存体多く含む。腐植質。しまり弱い。
12. 灰色粘土・中～粗砂互層(10Y6/1、10Y5/1)植物遺存体・自然木多く含む。しまり弱い。粘土中に径1mm以下の砂粒をわずかに含む。
13. オリーブ黒色粘質土(7.5Y3/1)互層状に灰白色粗砂(10Y7/1)を少し含む。径1mm以下の砂粒をわずかに含む。植物遺存体・自然木を多く含む。腐植質。

奈良・古墳
弥生

0 2m

第26図　8次SD03土層実測図①（1／60）

276は長頸壺で、口縁端部の内面には段を付ける。頸部～口縁部は直線的にのびる。

277は短頸壺で復元口径6.1cmを測る。口縁部は直立し、体部は扁平な球形を呈す。

278は瑕である。体部は扁平な球形を呈し、体部上位外面はカキメを施し、中位には連続刺突文を施文、その後穿孔する。体部下位～底部外面は回転ヘラ削りを施す。

279は壺である。体部は直線的にのび、底部では高い高台が「ハ」の字に付く。

280は甑である。体部は直線的にのび、扁平の把手が付く。

土師器（281 ～ 284・298） 281は高杯である。体部は屈曲部から大きく開く。体部外面ではミガキが施される。

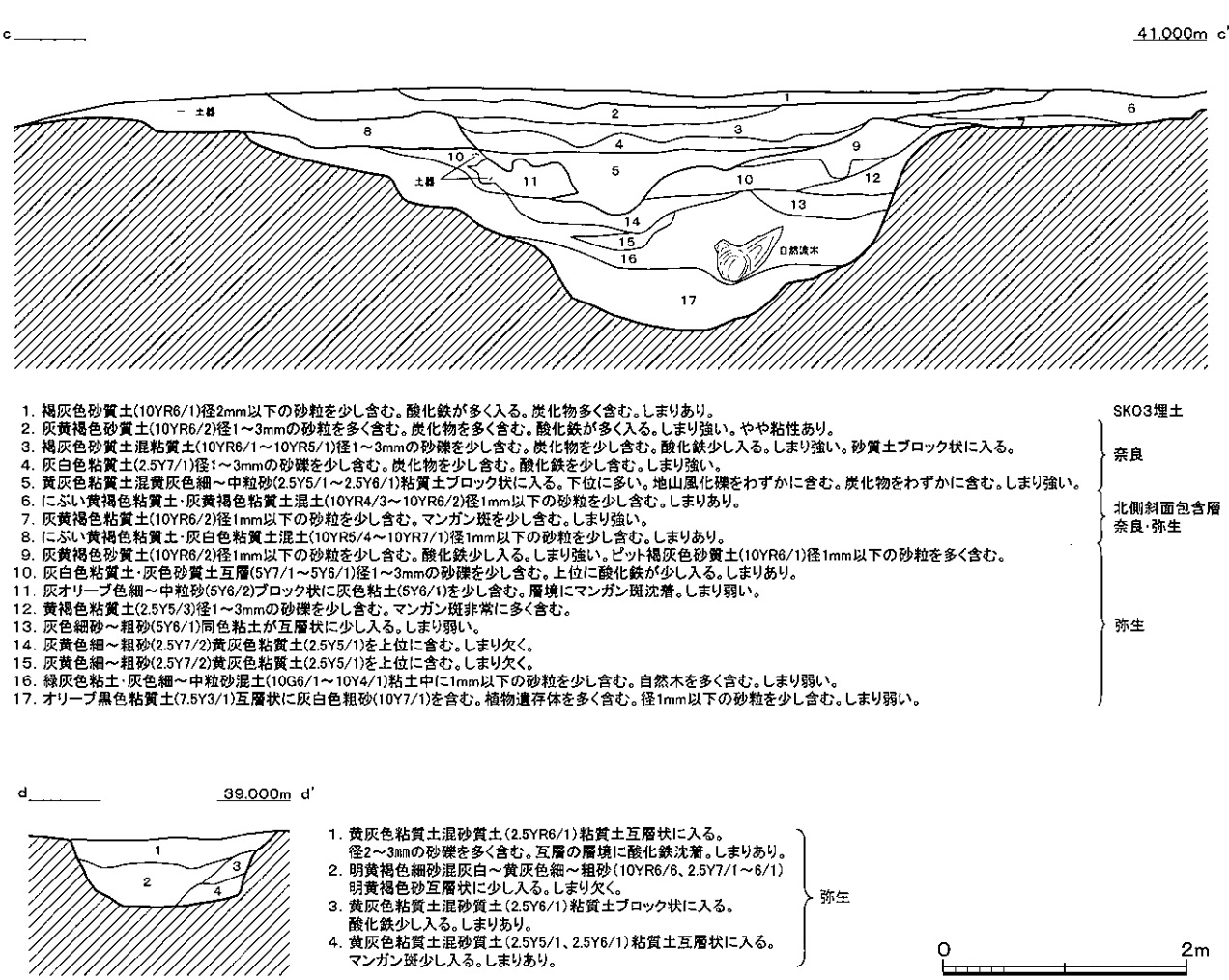
282は椀である。体部～底部は同じ傾きが続き、底部は丸底状を呈すと思われる。底部外面には高い高台が付く。

283・284は甑か鉢と思われる。いずれも口縁端部は断面台形状を呈し、283はやや外傾し、284は直立に近い傾きになる。

298は鉢形の手づくね土器である。ナデ調整・指頭圧により成形し、内面には工具痕が残る。

陶磁器（285 ～ 287） 285・287は青磁である。285は椀で、高台は端部外面を面取りしている。

287は器種不明で、円盤状を呈す。上面に施釉される。286は白磁の椀である。高台は低く、高台



1. 褐灰色砂質土(10YR6/1)径2mm以下の砂粒を少し含む。酸化鉄が多く入る。炭化物多く含む。しまりあり。
2. 灰黄褐色砂質土(10YR6/2)径1～3mmの砂粒を多く含む。炭化物を多く含む。酸化鉄が多く入る。しまり強い。やや粘性あり。
3. 褐灰色砂質土混粘質土(10YR6/1～10YR5/1)径1～3mmの砂礫を少し含む。炭化物を少し含む。酸化鉄少し入る。しまり強い。砂質土ブロック状に入る。
4. 灰白色粘質土(2.5Y7/1)径1～3mmの砂礫を少し含む。炭化物を少し含む。酸化鉄を少し含む。しまり強い。
5. 黄灰色粘質土混黄灰色細～中粒砂(2.5Y5/1～2.5Y6/1)粘質土ブロック状に入る。下位に多い。地山風化礫をわずかに含む。炭化物をわずかに含む。しまり強い。
6. にぶい黄褐色粘質土・灰黄褐色粘質土混土(10YR4/3～10YR6/2)径1mm以下の砂粒を少し含む。しまりあり。
7. 灰黄褐色粘質土(10YR6/2)径1mm以下の砂粒を少し含む。マンガン斑を少し含む。しまり強い。
8. にぶい黄褐色粘質土・灰白色粘質土混土(10YR5/4～10YR7/1)径1mm以下の砂粒を少し含む。しまりあり。
9. 灰黄褐色砂質土(10YR6/2)径1mm以下の砂粒を少し含む。酸化鉄少し入る。しまり強い。ピット褐灰色砂質土(10YR6/1)径1mm以下の砂粒を多く含む。
10. 灰白色粘質土・灰色砂質土互層(5Y7/1～5Y6/1)径1～3mmの砂礫を少し含む。上位に酸化鉄が少し入る。しまりあり。
11. 灰オリーブ色細～中粒砂(5Y6/2)ブロック状に灰色粘土(5Y6/1)を少し含む。層境にマンガン斑沈着。しまり弱い。
12. 黄褐色粘質土(2.5Y5/3)径1～3mmの砂礫を少し含む。マンガン斑非常に多く含む。
13. 灰色細砂～粗砂(5Y6/1)同色粘土が互層状に少し入る。しまり弱い。
14. 灰黄色細～粗砂(2.5Y7/2)黄灰色粘質土(2.5Y5/1)を上位に含む。しまり欠く。
15. 灰黄色細～粗砂(2.5Y7/2)黄灰色粘質土(2.5Y5/1)を上位に含む。しまり欠く。
16. 緑灰色粘土・灰色細～中粒砂混土(10G6/1～10Y4/1)粘土中に1mm以下の砂粒を少し含む。自然木を多く含む。しまり弱い。
17. オリーブ黒色粘質土(7.5Y3/1)互層状に灰白色粗砂(10Y7/1)を含む。植物遺存体を多く含む。径1mm以下の砂粒を少し含む。しまり弱い。

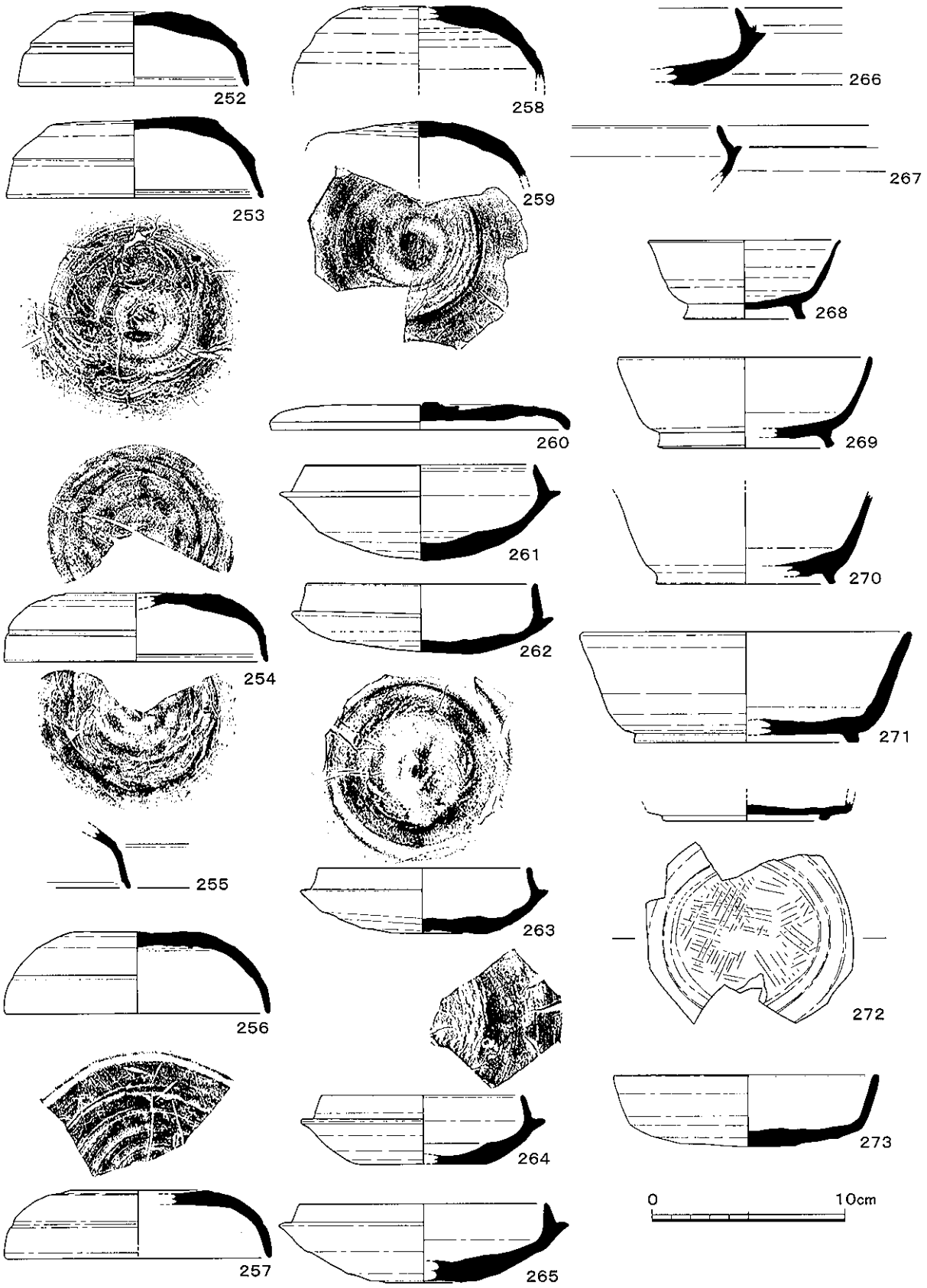
SK03埋土
奈良
北側斜面包含層
奈良・弥生
弥生

1. 黄灰色粘質土混砂質土(2.5YR6/1)粘質土互層状に入る。径2～3mmの砂礫を多く含む。互層の層境に酸化鉄沈着。しまりあり。
2. 明黄褐色細砂混灰白～黄灰色細～粗砂(10YR6/6、2.5Y7/1～6/1)明黄褐色砂互層状に少し入る。しまり欠く。
3. 黄灰色粘質土混砂質土(2.5Y6/1)粘質土ブロック状に入る。酸化鉄少し入る。しまりあり。
4. 黄灰色粘質土混砂質土(2.5Y5/1、2.5Y6/1)粘質土互層状に入る。マンガン斑少し入る。しまりあり。

弥生

0 2m

第27図 8次SD03土層実測図②（1／60）



第28図　8次SD03出土遺物実測図①（1／3）

内面は浅く削り出している。

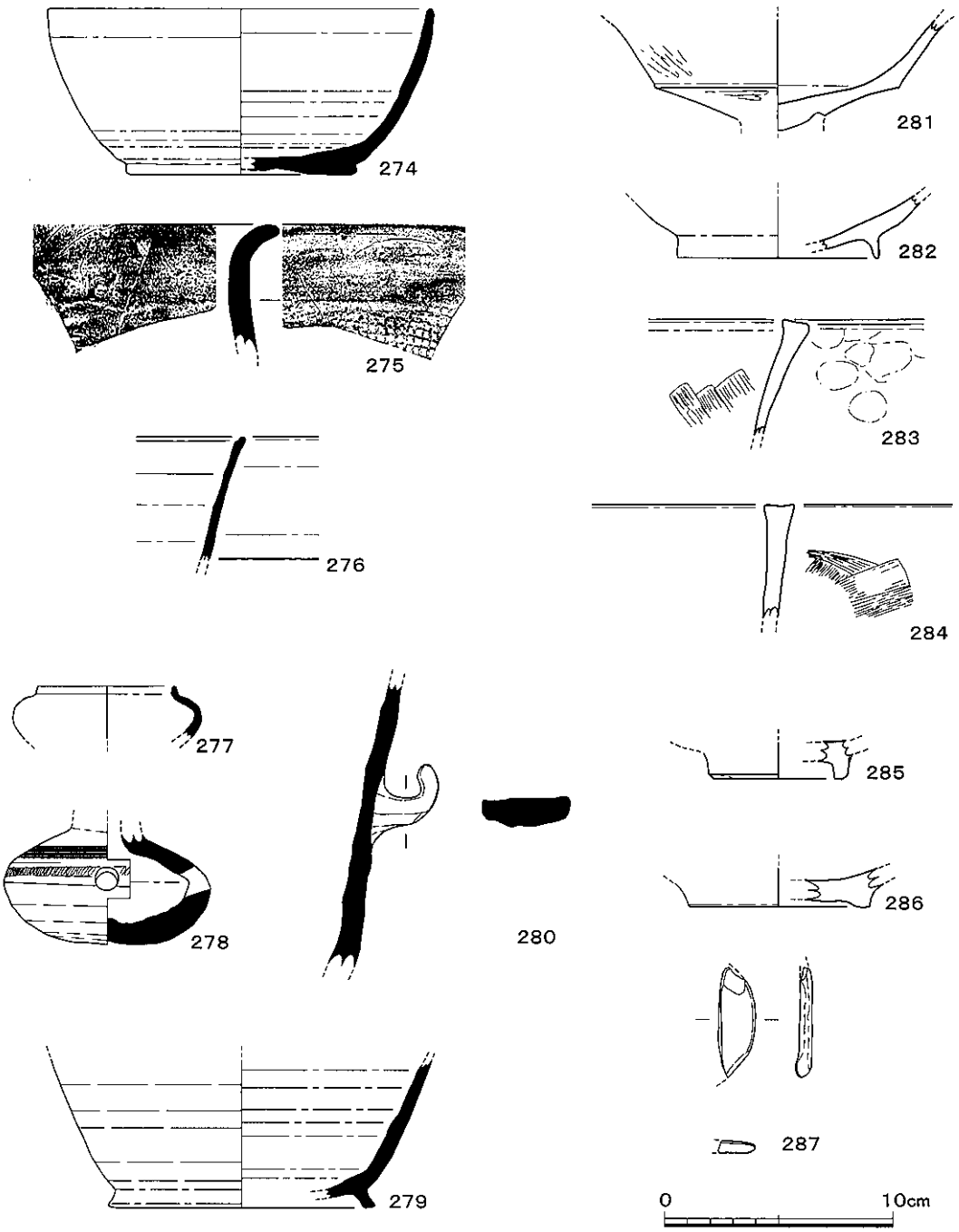
弥生土器（288 ～ 297・299・300） 288 は袋状口縁壺の口縁部である。外面にミガキ・丹塗りを施す。

289・290・292 は壺である。289・290 は扁平な球形を呈し、中位が最大径になる。289 では上位外面に断面三角形の突帯を施す。290・292 の底部は平底を呈す。

291 は無頸壺で、復元口径 14.2cm を測る。口縁部は短く「く」の字に屈曲する。また、口縁部２ヵ所に穿孔が見られる。

293 は蓋で、口縁部に穿孔を施す。

294 ～ 296・299・300 は甕である。294 は口縁端部外面に断面三角形の刻目突帯が付く。295 は

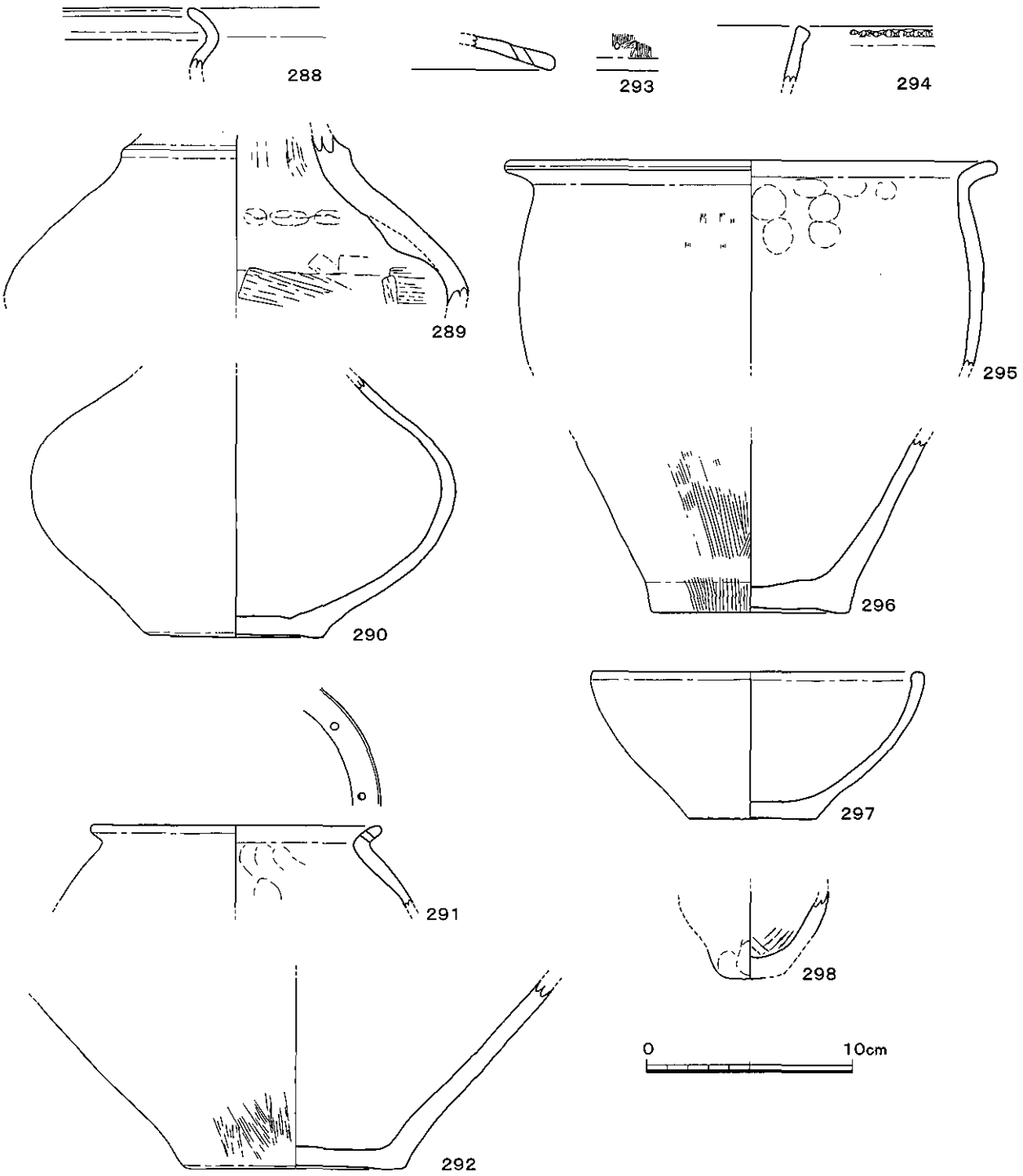


第29図　8次SD03出土遺物実測図②（1／3）

復元口径 24.0cm を測る。口縁部は屈曲し、水平よりやや立ち上がる傾きになる。296 は底部で、体部との境に稜が残る。299 は復元口径 34.0cm を測る。口縁部は屈曲し、口縁部上面がほぼ水平になる。頸部外面直下では「M」字形の突帯が付く。300 は復元口径 32.2cm を測る。口縁部は屈曲し、水平よりわずかに立ち上がる傾きになる。

297 は鉢で、復元口径 16.25cm を測る。体部は大きく開き、口縁部で垂直近くまで立ち上がる。底部は平底である。

石器（301 ～ 305） 301 は偏平片刃石斧である。頁岩製で、全面を研磨している。



第30図 8次SD03出土遺物実測図③（1／3）

302・303は砥石である。302は砂岩製で、４面に使用痕が残る。303は泥岩製で、全面に使用痕が残る。

304は敲石である。側面に敲打痕・擦痕が見られる。

305は掻器と思われる。側縁部に調整剥離を施す。

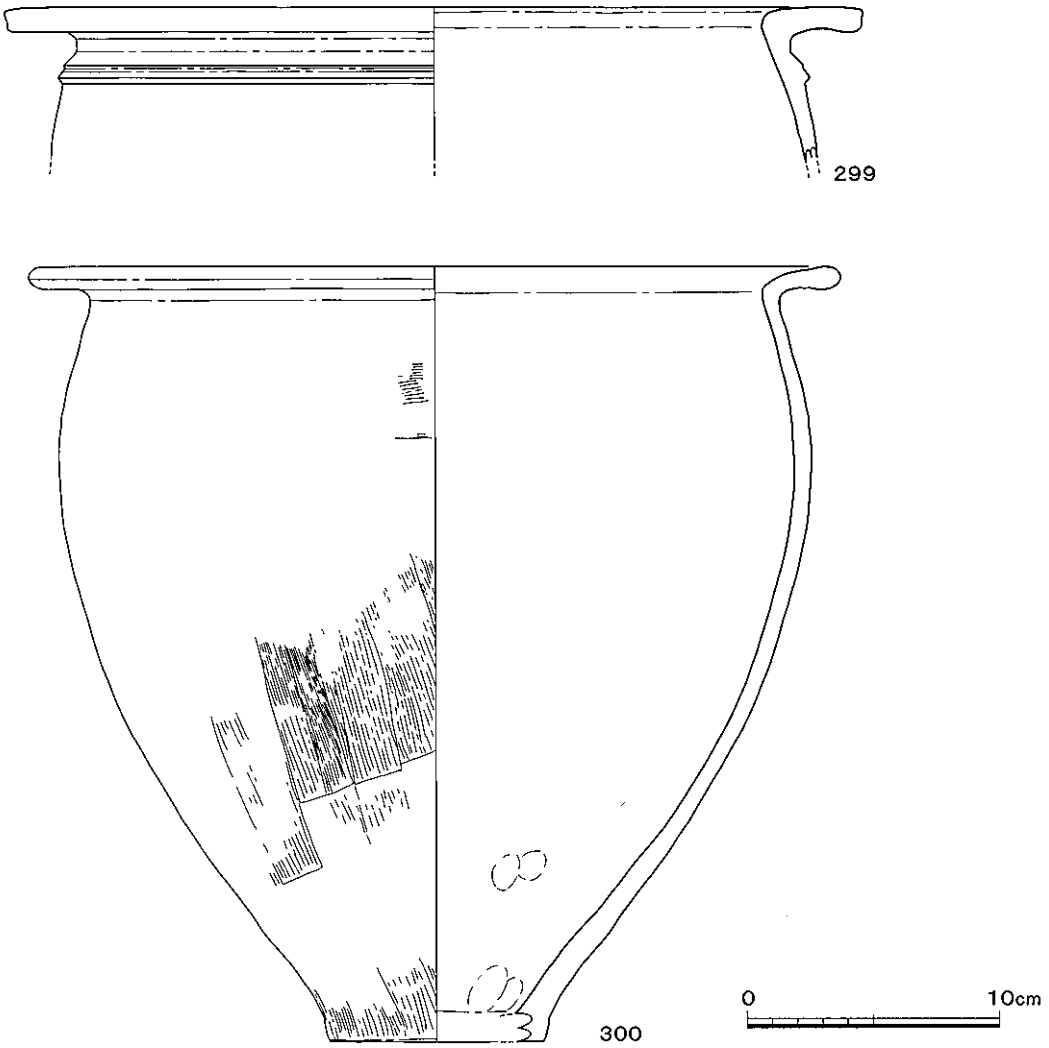
ＳＤ０４（図版17）

ＳＤ０３のほぼ中央付近から東側へと延びる溝跡である。長さ15.92ｍ、最大幅1.97ｍを測る。西側は楕円形状に一段深く掘り込まれており、深さ約0.50ｍを測る。底面は東へ向かうにつれて底面が下がり傾斜が急になる。西端と東端の底面の比高差は0.75ｍである。東側は削平により途切れているが、本来は調査区外へと延びる溝であったと思われる。

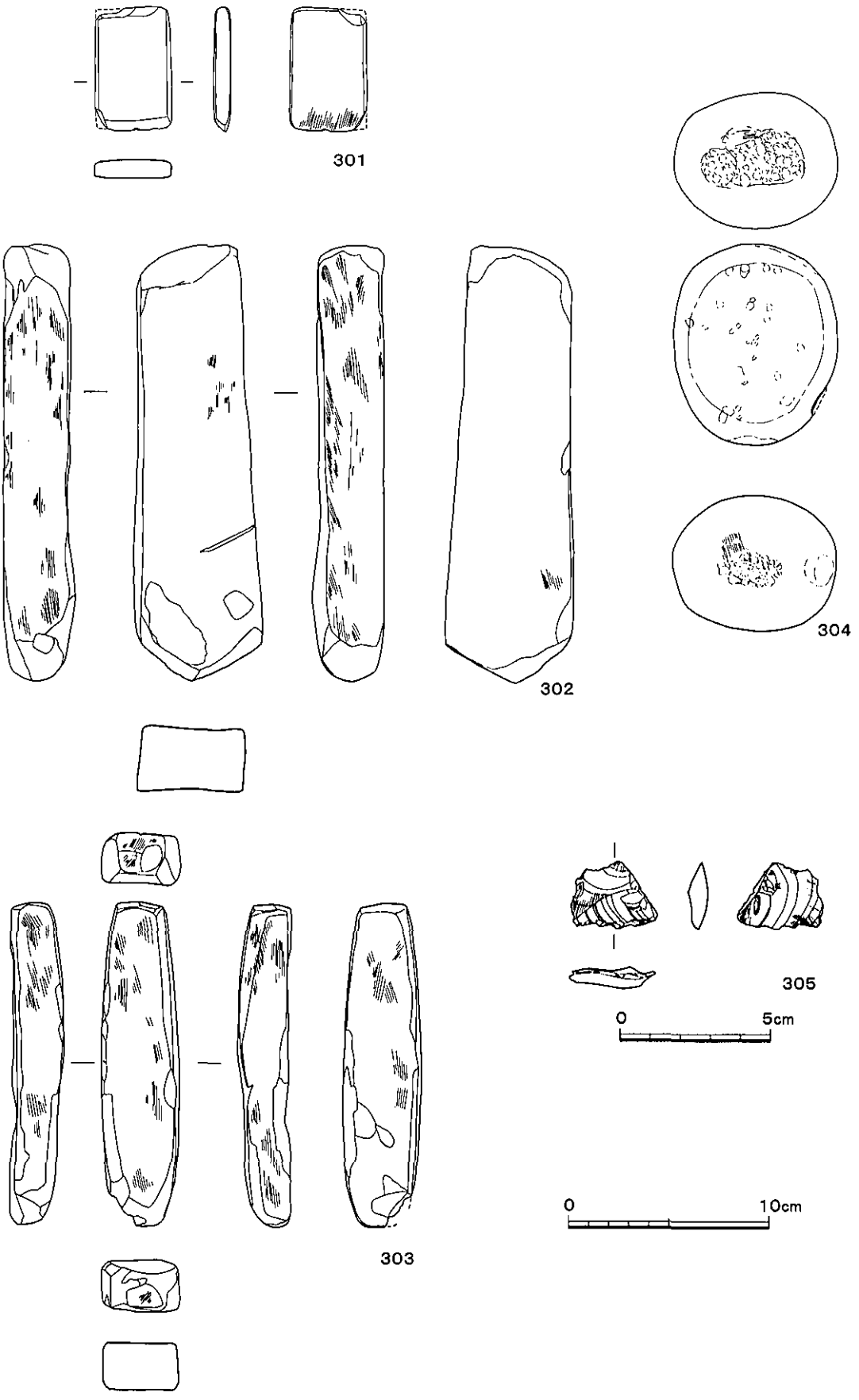
（３）土坑

ＳＫ０２（第33図、図版18）

調査区南西隅で検出された土坑で、ＳＤ０２の掘削途中で検出された。平面形態は長軸1.71ｍ、短軸1.40ｍの楕円形を呈する。断面は浅いすり鉢状で、床面の中央よりやや西側の位置からピッ



第31図　8次SD03出土遺物実測図④（1／3）



第32図　8次SD03出土石器実測図（305は1／2、他は1／3）

トが検出された。ピットの深さは約0.41ｍである。埋土の堆積状況から、遺構が幾度か掘り直されて使用されたと思われる。

ＳＫ０３出土遺物（第35図、図版58）

陶磁器（306） 白磁の椀である。底部外面は浅く削り低い高台を作り出す。

ＳＫ０６（第33図、図版18）

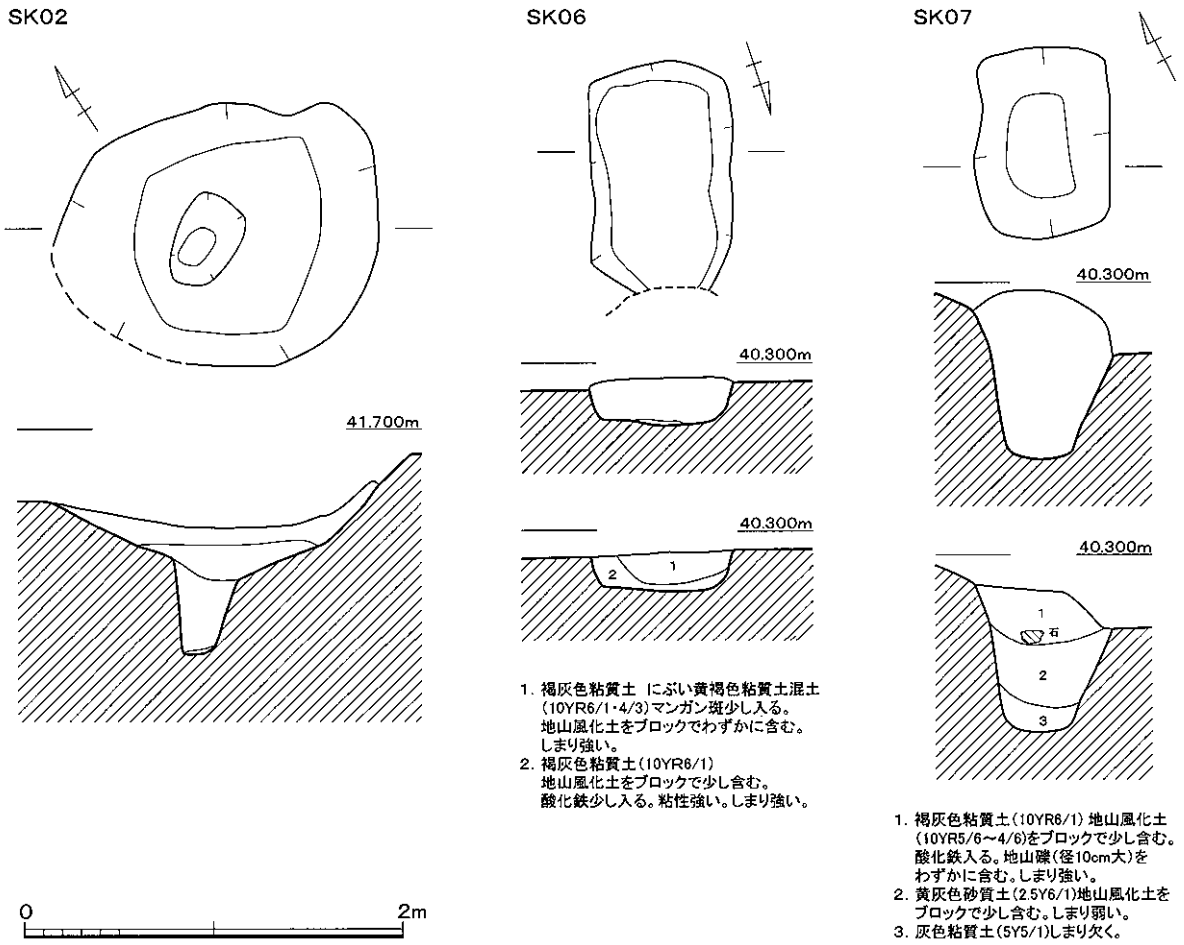
ＳＤ０４の北側で検出された土坑である。平面形は長方形を呈する。長さ1.20ｍ、幅7.20ｍである。床面は平坦で深さ約0.24ｍである。埋土中より須恵器と石鏃が出土しているが、石鏃は混入品と思われる。埋土は褐灰色土を主体として２層に分かれるが、一度に埋まったような様子が見られた。

出土遺物（第35図、図版58）

石器（307） 石鏃である。二等辺三角形を呈し、基部に抉りを入れる。安山岩製である。

ＳＫ０７（第33図、図版19）

ＳＫ０６の北西に位置し、ＳＤ０３の掘削途中で検出された。平面形はやや不整な長方形を呈する。長さ1.05ｍ、幅0.72ｍ、深さ約1.04ｍを測る。長軸方向はＳＫ０６とほぼ同じ方向となる。

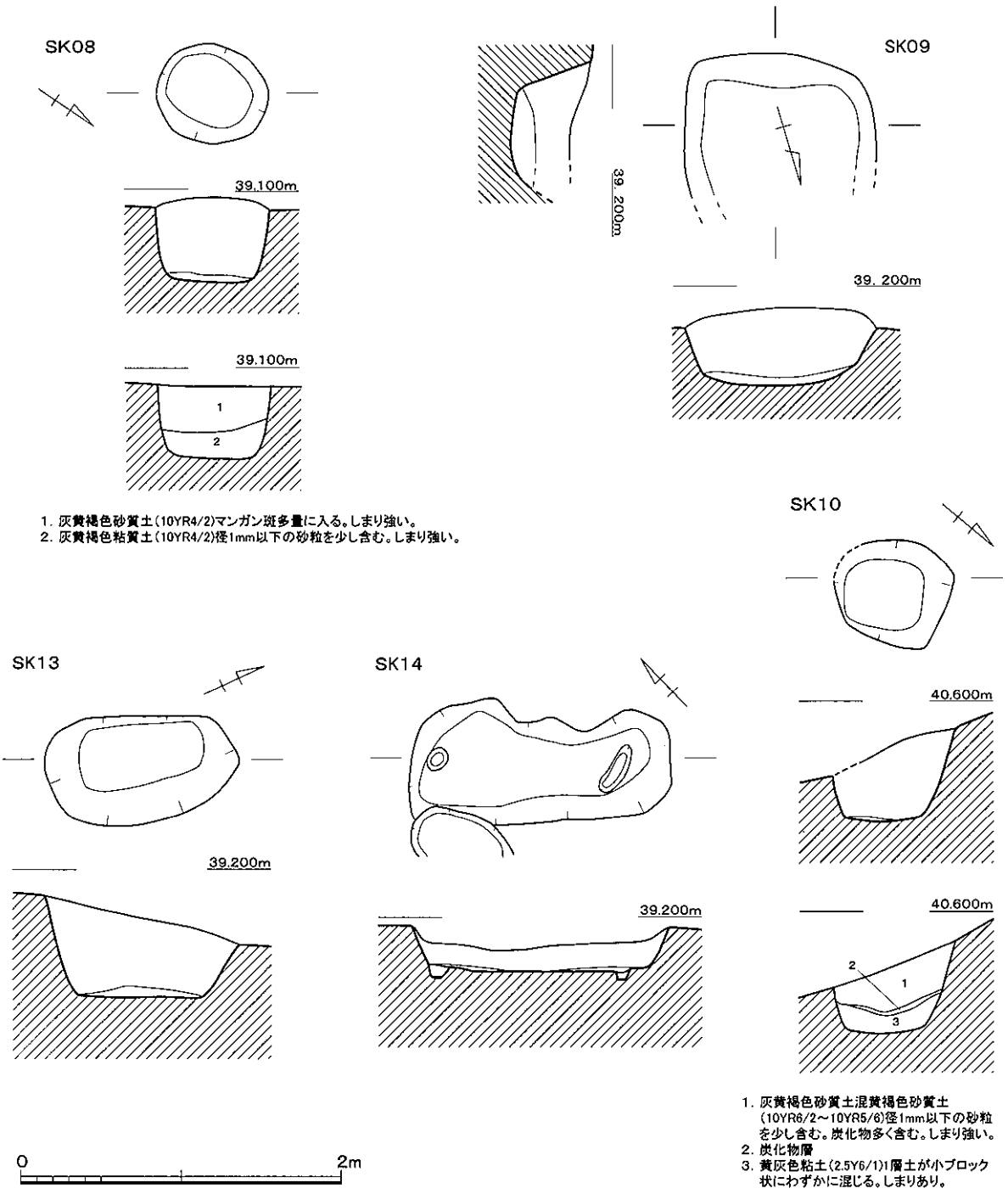


第33図 8次SK02・06・07実測図（1／40）

埋土は３つの層に分かれる。３層は水性堆積層であり、１・２層は一度に埋まったような様子が見られた。

ＳＫ０８（第 34 図、図版 19・20）

調査区北東に広がる平坦部分に位置し、ＳＤ０３の南側に近接する。平面形は長軸 0.70 ｍ、短軸 0.62 ｍの楕円形を呈する。深さ約 0.50 ｍを測る。埋土は灰黄褐色土を主体とする。埋土中より須恵器・土師器が出土している。



第34図 8次SK08・09・10・13・14実測図（1／40）

ＳＫ０９（第 34 図、図版 20）

ＳＸ０３の北側に位置する土坑である。遺構の北側は削平により残存していなかった。残存長 0.86 m、最大幅 1.18 m、深さ 0.49 mを測る。埋土中から須恵器片が出土した。

出土遺物（第 35 図、図版 58）

須恵器（308） 壺で、体部に耳部が付く。耳部はナデ調整により成形する。

ＳＫ１０（第 34 図、図版 20）

ＳＤ０３のほぼ中央付近で、ＳＤ０３を深さ約 0.20 m掘削したところで検出した。ＳＤ０３の北側の法面上に位置する。平面形は直径約 0.70 mの不整円形を呈する。深さ約 0.40 mを測る。床面はほぼ平坦で、１・２層中には炭化物が多く含まれていた。

ＳＫ１３（第 34 図、図版 21）

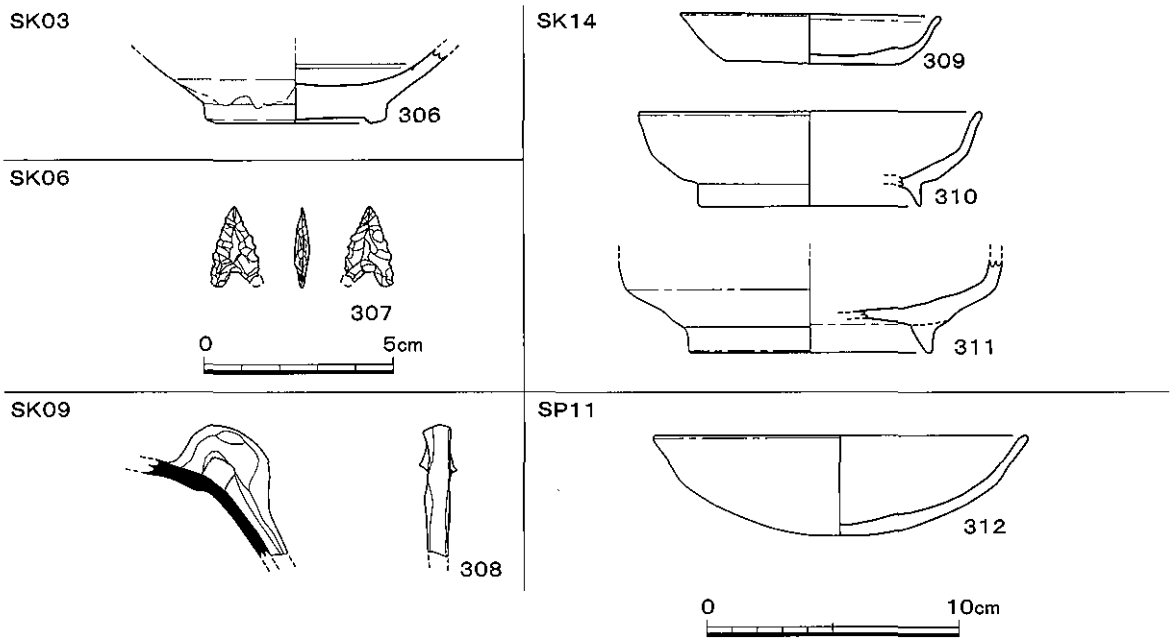
１号窯跡が築かれている緩斜面の斜面裾部に広がる平坦面に位置する。周辺にはＳＸ１４や多数のピットが見られる。長楕円形を呈する土坑で、長さ 1.20 m、幅 0.68 m、深さ約 0.49 mである。埋土中より土師器の杯・甕が出土している。

ＳＫ１４（第 34 図）

ＳＸ０７のすぐ北側にあり、ＳＫ１３と同様、斜面裾部に広がる平坦面に位置する土坑である。平面形は不整な長方形を呈し、長さ 1.60 m、幅 0.64 m、深さ 0.28 mを測る。床面は平坦であり、床の両端には浅いピットが掘られている。埋土中から土師器が出土した。

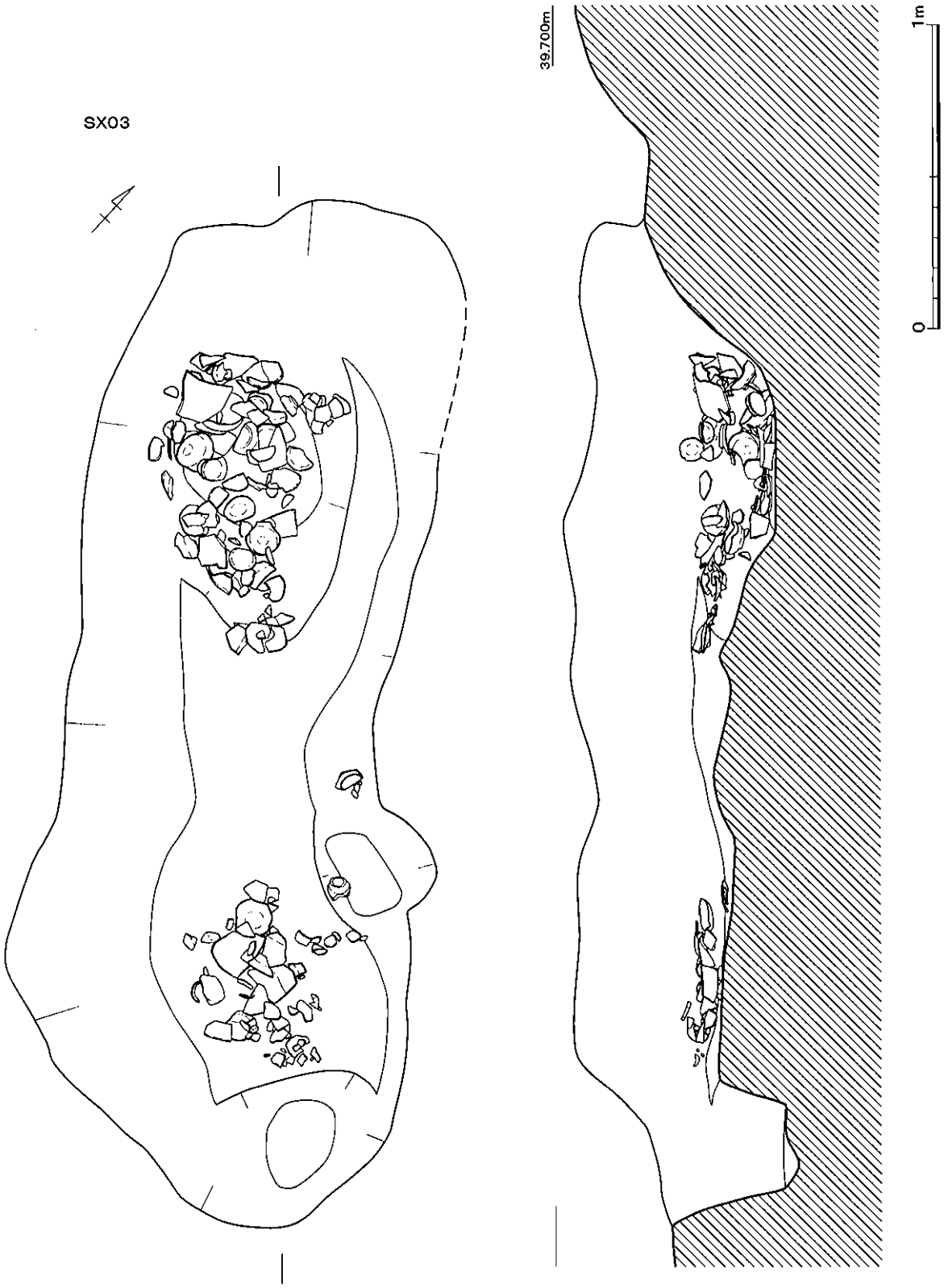
出土遺物（第 35 図、図版 58）

土師器（309 ～ 311） 309 は小皿で、口径 10.3cm を測る。底部外面には回転ヘラ切り痕が残る。



第35図 8次SK03・06・09・14、SP11出土遺物実測図（307 は1／2、他は1／3）

310・311は椀で、310は復元口径13.4cmを測る。いずれも体部で屈曲し、底部には断面二等辺三角形の高台が付く。



第36図　8次SX03実測図（1／20）

ＳＸ０３（第36図、図版21）

１号窯跡の北側にあり、１号窯跡が築かれている緩斜面の裾部に位置する。溝状の浅い掘り込みで、長さ3.37ｍ、幅1.00ｍ、深さ約0.30ｍである。床面付近からは、主に北西側と南東側の２箇所に分かれて黒色土器や土師器椀・皿等の完形品が大量に積み重なるようにして出土した。ほとんどの土器が正立状態であり、意図的に置かれた状況が復元できる。

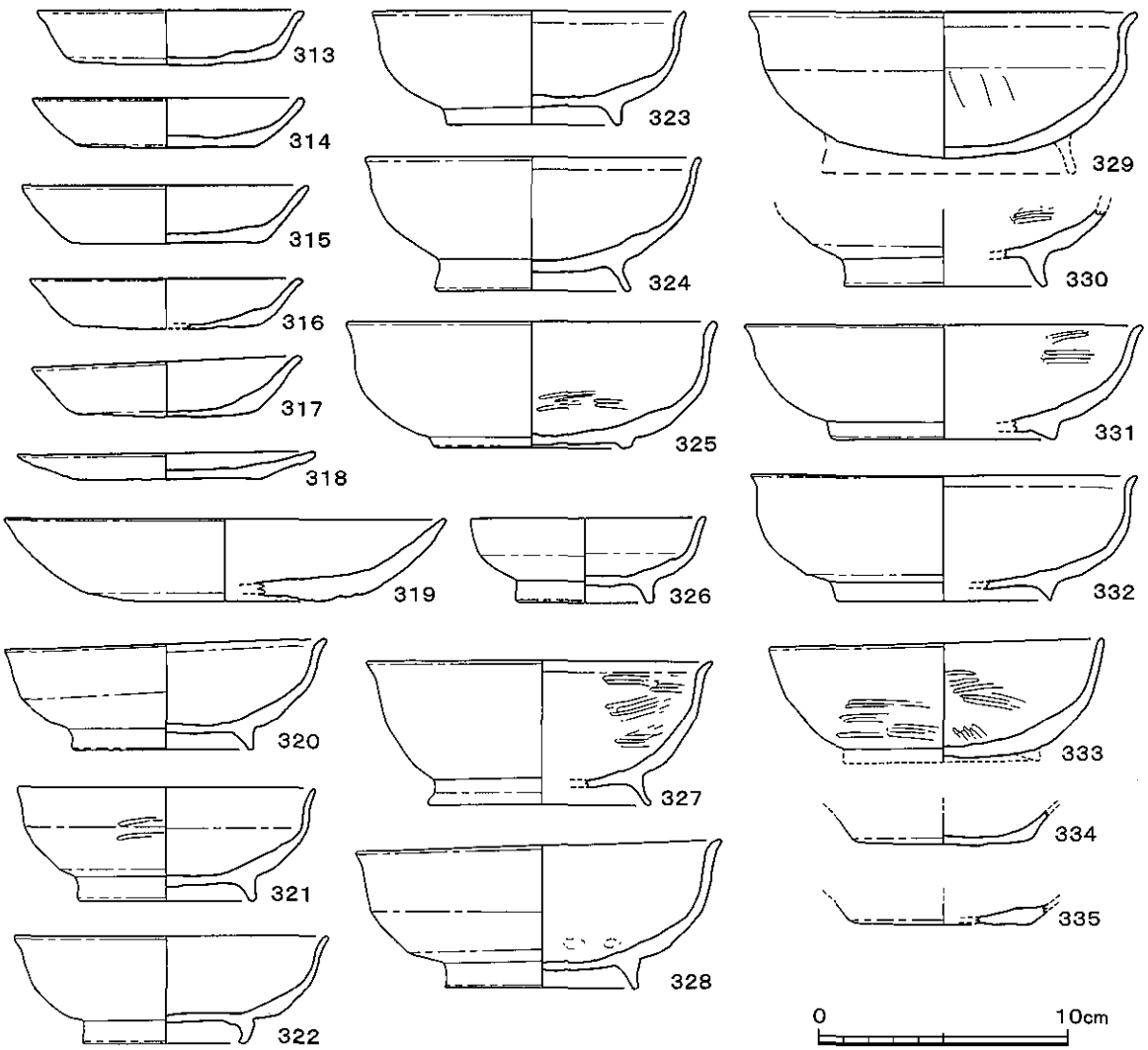
出土遺物（第37・38図、図版58～60）

土師器（313～326・334～339）　313～318・334・335は皿で、口径及び復元口径は10.7cm～11.9cmを測る。ほとんどの底部外面には回転ヘラ切り痕が残る。

319は杯で、復元口径17.7cmを測る。口縁部～体部にかけて丸みを持ち、底部外面には回転ヘラ切り痕が残る。

320～326は椀である。口径及び復元口径は9.5cm～14.9cmを測る。320・321・326は体部が屈曲するが、322～325の体部は丸みを帯びて口縁部に至る。321・325ではミガキが確認できる。

336・338は器台である。336は杯部は皿形になると思われる。338は復元口径31.1cmを測り、体部は直線的にのび、大きく開く。口縁部は内湾する。

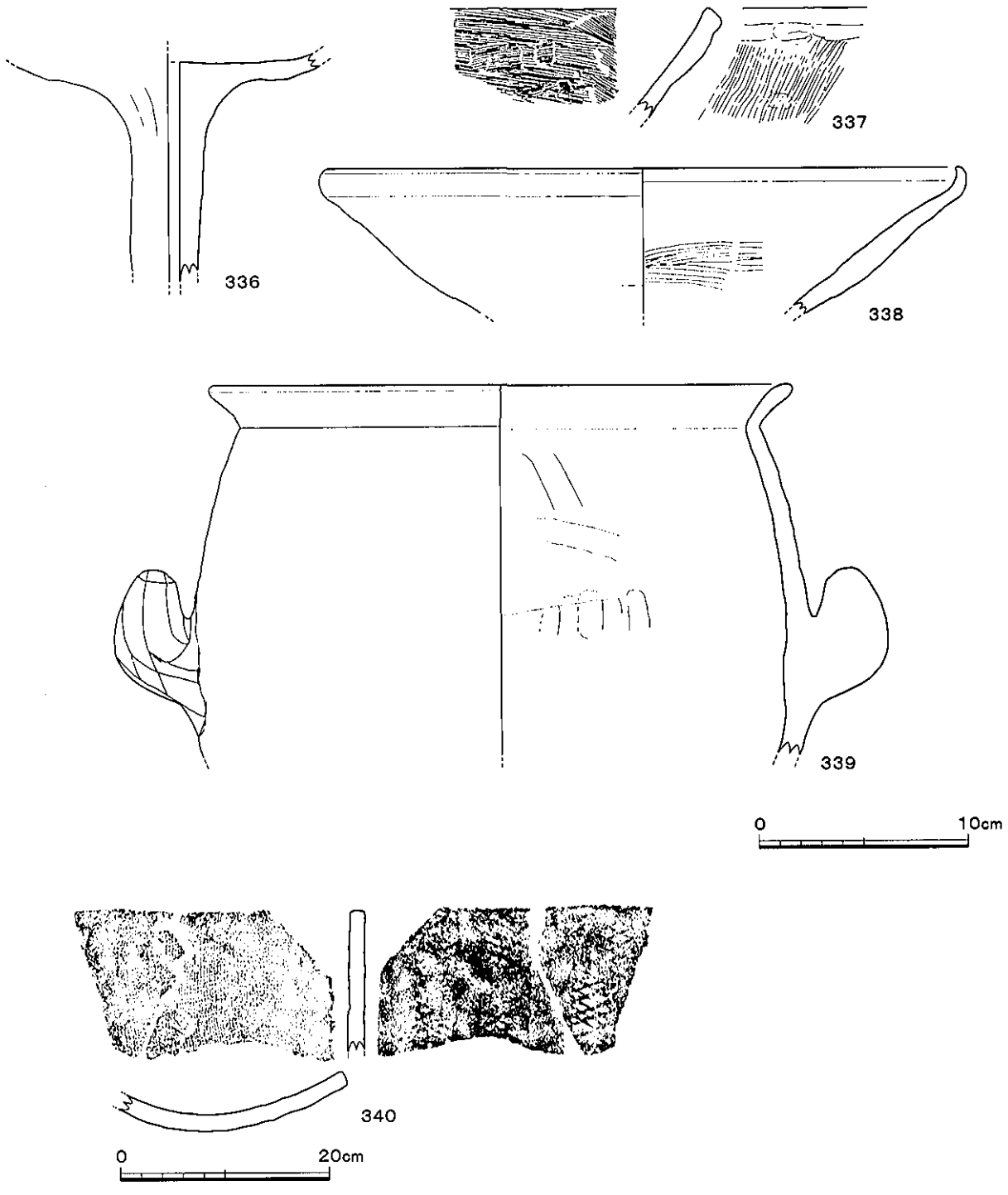


第37図　8次SX03出土遺物実測図①（1／3）

337は鉢である。体部～口縁部は直線的にのび、口縁端部は断面四角形を呈す。内外面ともにハケメを施す。

339は甑で、復元口径28.0cmを測る。口縁部は屈曲し、頸部外面は明瞭にくびれ、内面には稜が付く。体部は丸みを持ち、中位外面に把手が付く。

黒色土器（327～333） いずれも黒色土器A類である。口径及び復元口径は13.9cm～16.0cmを測る。いずれも体部は丸みを帯び、口縁部は外反するが、333のみ口縁部は直線的にのびる。327・330・331・333ではミガキが見られ、329では内面にコテ当て痕が付く。

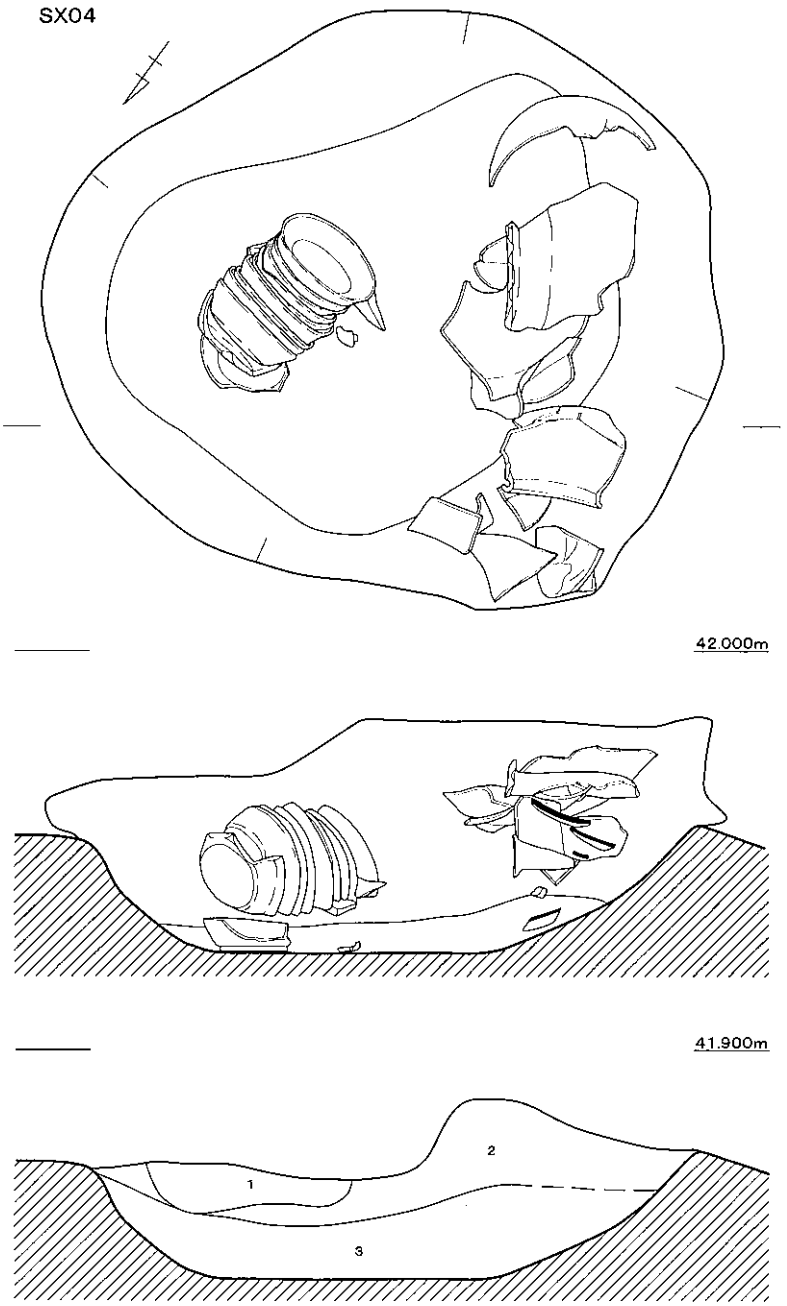


第38図 8次SX03出土遺物実測図②（360は1／6、他は1／3）

瓦（340） 平瓦である。凹面では布目痕が見られ、凸面には格子タタキ痕が残る。

ＳＸ０４（第 39 図、図版 22）

調査区南西のＳＫ０２の南側に位置する土坑である。ＳＤ０２の埋土を掘削して構築されており、ＳＤ０２より後出する。平面形は長軸 1.78 m、短軸 1.51 mのやや不整な楕円形を呈し、深さ約 0.40 mである。床面はほぼ平坦で、遺構内から須恵器・土師器が出土した。特に、９世紀初頭の焼成のあまり良くない須恵器の杯身が重ねられた状態で出土している。一番下の杯身は底面に正

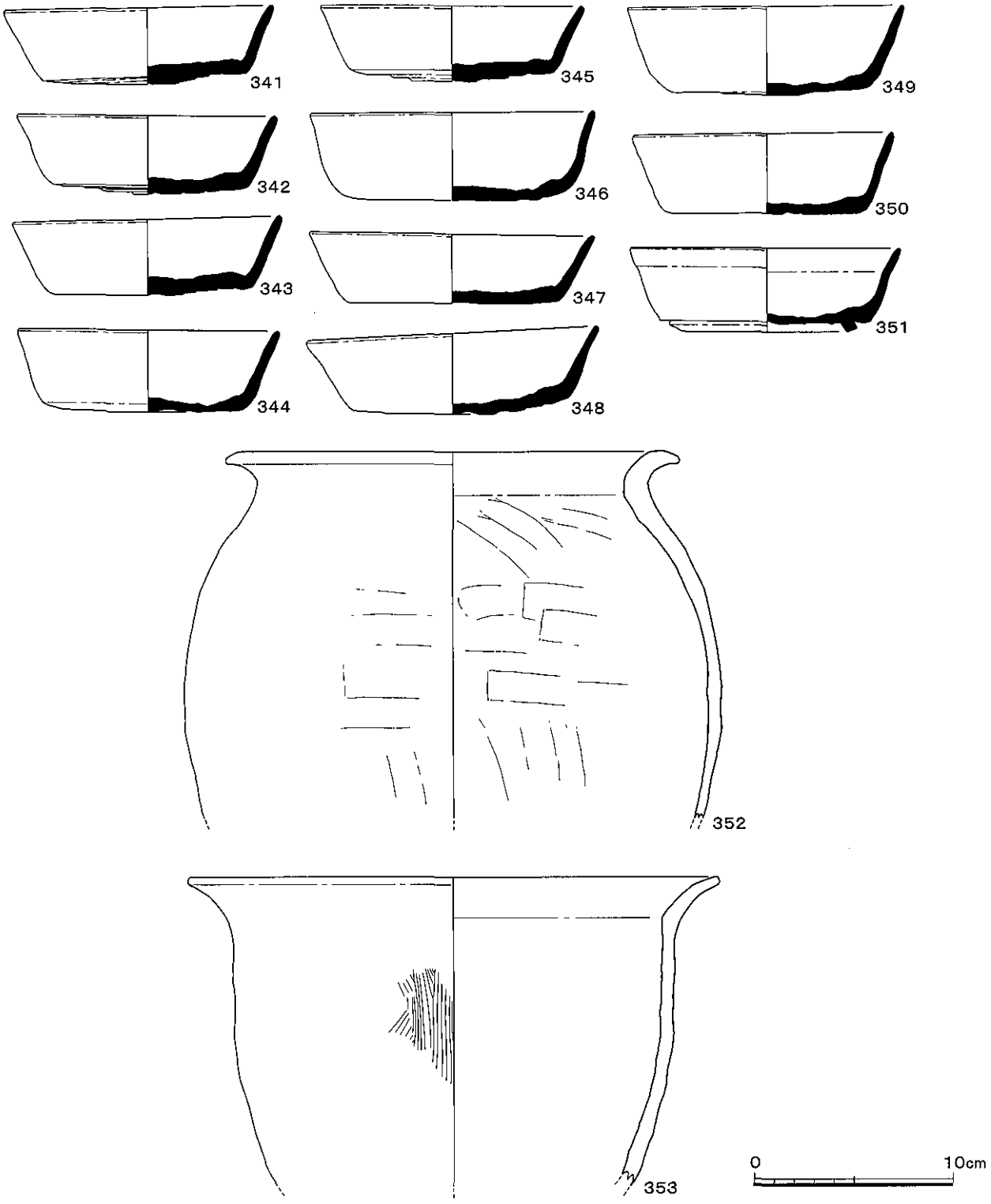


第39図 8次SX04実測図（1／20）

置された状態で出土しており、重ねた杯身を底面に正置したものが倒れた状況が復元できる。

出土遺物（第 40 図、図版 60 ～ 62・76）

須恵器（341 ～ 351） 341 ～ 350 は杯Ａ身である。口径は 13.0cm ～ 14.8cm を測る。いずれも体部～口縁部は直線的にのびる。底部は平底を呈し、外面では回転ヘラ切り痕が残る。341 の底部外面では板状圧痕が見られる。



第40図　8次SX04出土遺物実測図（1／3）

351は杯Ｂ身で、口径13.5cmを測る。直線的にのびる体部から口縁部でやや外傾する。底部には断面四角形の低い高台が付く。

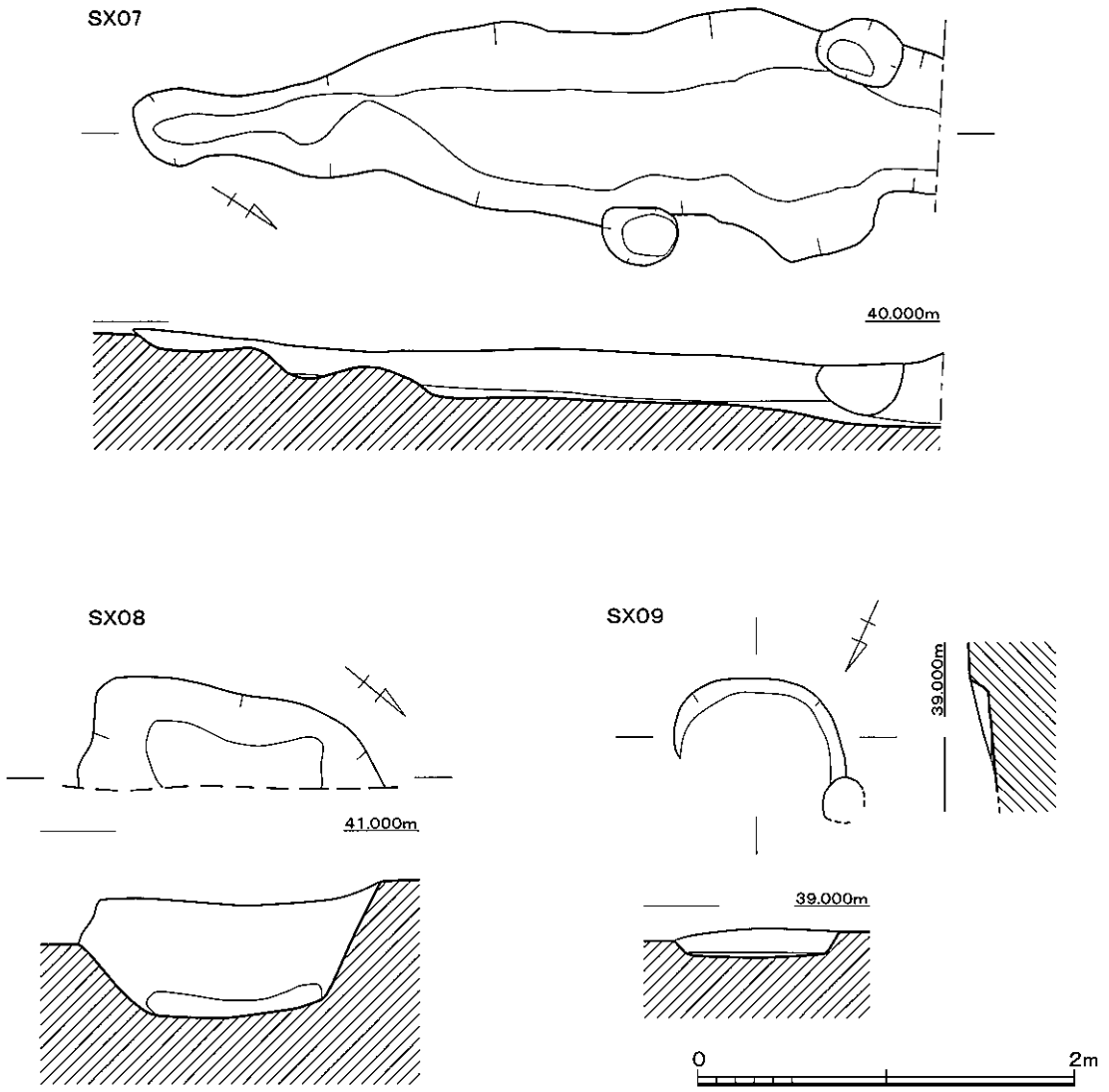
土師器（352・353） 352・353は甕である。352は復元口径22.8cmを測り、口縁部は大きく外反する。体部は膨らみ、中位が最大径になる。353は復元口径26.8cmを測り、口縁部は長く大きく開き、頸部内面に稜が付く。体部は頸部よりも膨らまない器形を呈す。

ＳＸ０７（第41図、図版23）

１号窯跡の東側の緩斜面に位置し、標高約40.0ｍのコンタに沿うような形で検出された溝状の土坑である。すぐ南側にはＳＸ０８が、また、北側にはＳＸ１４が見られる。長さ4.26ｍ、幅1.00ｍ、深さ0.27ｍを測る。埋土中より土師器小皿、黒色土器Ａ類が出土した。

ＳＸ０８（第41図）

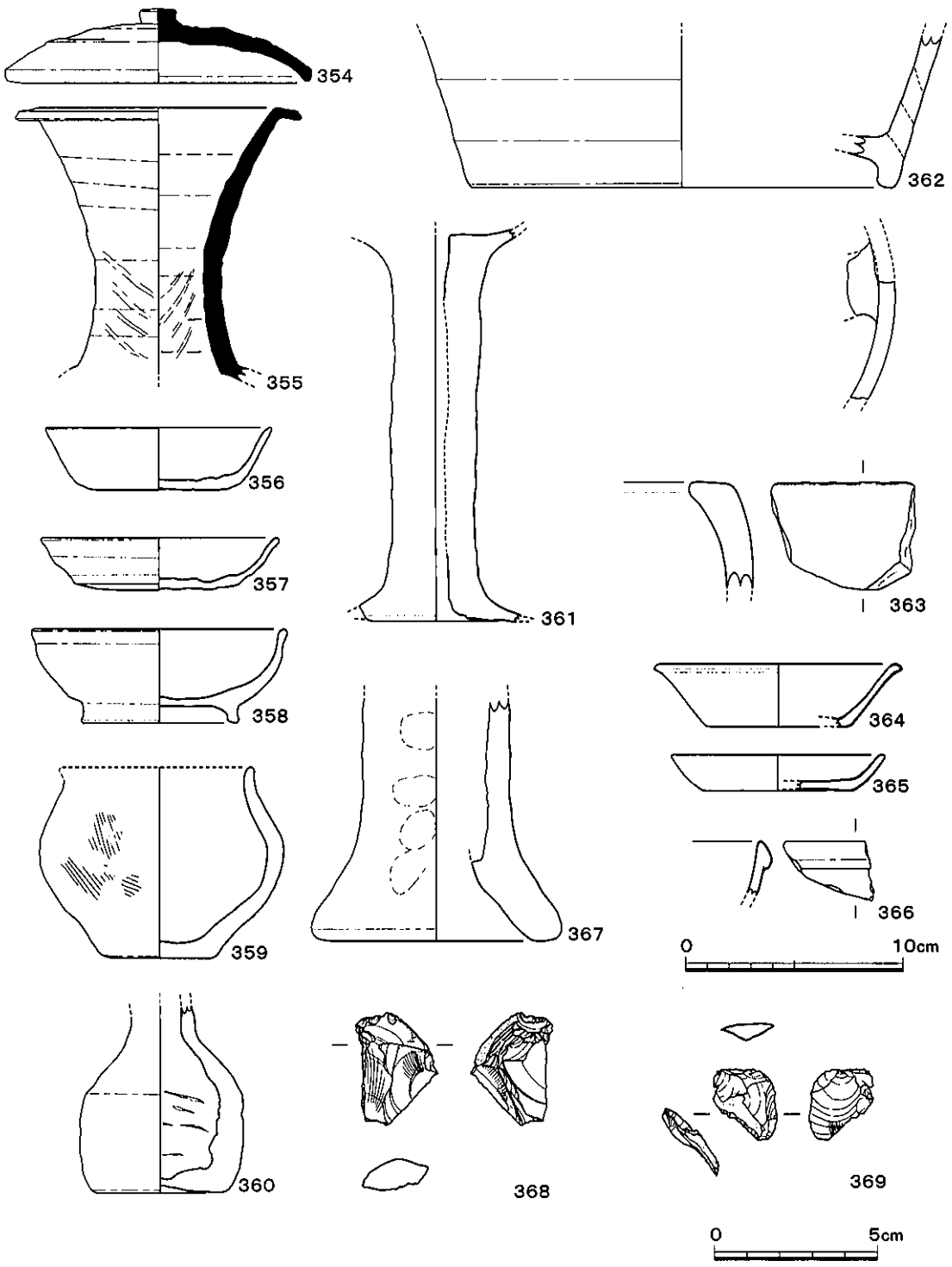
ＳＸ０７のすぐ南側に位置する土坑である。削平により遺構の南東側部分のみ確認できた。長さ0.48ｍ、最大幅1.63ｍ、深さ0.61ｍを測る。



第41図 8次SX07・08・09実測図（1／40）

ＳＸ０９（第41図、図版22）

調査区北側に広がる標高約38.75ｍ付近の平坦面に位置し、ＳＤ０１の南側に隣接する浅い土坑である。長さ0.88ｍ、幅0.52ｍ、深さ0.16ｍを測る。遺構の北側は削平を受けていた。床面はやや起伏があるものの平坦であり、埋土中より土師器の椀が出土した。



第42図　8次北側斜面包含層出土遺物実測図（368・369は1／2、他は1／3）

（４）ピット

ＳＰ１１

調査区北西のＳＫ０９の北側に位置する。平面形は径 0.20 ｍの円形を呈し、深さ約 0.37 ｍである。

出土遺物（第 35 図、図版 58）

土師器（312） 丸底杯で、復元口径 14.8cm を測る。口縁部は直線的に上方へのび、体部から底部にかけて丸みを持つ。

（５）その他

北側斜面包含層

調査区北側の窯跡が位置する斜面およびその北東に広がる平坦面には、斜面上方から流出した土砂が堆積していた。この土砂は、須恵器・土師器・陶磁器・弥生土器等が出土する包含層である。この包含層を除去すると、ＳＫ０９・１３・１４といった土坑や多数のピットが検出された。

出土遺物（第 42 図、図版 62）

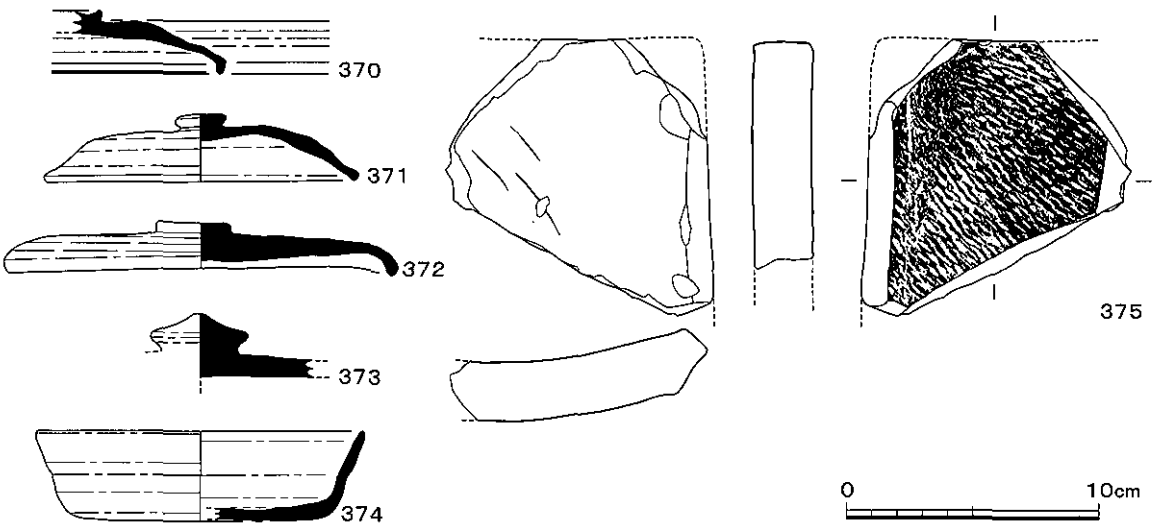
須恵器（354・355） 354 は杯Ｂ蓋で、復元口径 13.8cm を測る。口縁端部は断面四角形を呈し、天井部外面にはボタン状のつまみが付く。天井部には亀裂が入ったためか接合痕が見られる。

355 は長頸壺で、復元口径 13.2cm を測る。外反する頸部から口縁部は外側に屈曲する。

土師器（356 ～ 362） 356・357 は杯で、356 は復元口径 10.4cm、357 の口径 11.1cm を測る。356 は体部から口縁部は直線的になり、杯Ｇ身と類似する器形になる。357 は体部～口縁部にかけてなだらかに開く。

358 は椀で、復元口径 11.8cm を測る。体部は丸みを持ち、口縁部でやや外反する。底部には断面四角形の高台が付く。

359 は短頸壺で、復元口径 8.8cm を測る。直立する口縁部から体部はなだらかに膨らむ。底部は平底を呈す。



第43図 8次撹乱3出土遺物実測図（1／3）

360は壺で、徳利形を呈す。内面には粘土紐接合痕が残る。

361は器台で、残存高は18.1cmを測る。脚部は筒状になり、両端部に皿形の杯部・裾部が付くと思われる。

362は甑である。底部では底面より浮いた位置に桟が付く。

瓦質土器（363） 火鉢である。口縁部は内湾し、端部上面が平坦になる。

陶磁器（364～366） 364は青磁の皿で、復元口径11.4cmを測る。口縁部～体部まで施釉される。365は白磁の皿で、復元口径9.8cmを測る。口縁部～底部まで施釉する。366は白磁の椀である。玉縁口縁を呈す。

弥生土器（367） 器台である。体部は直立に近い傾きで、裾部からなだらかに開く。器壁は厚い。

石器（368・369） いずれも二次加工が施されている剥片である。

撹乱３出土遺物（第43図、図版63）

須恵器（370～374） 370～372は杯Ｂ蓋である。口縁端部は断面三角形を呈すもの（370）、四角形を呈すもの（371）、端部を軽く折り曲げるもの（372）がある。いずれも天井部外面は回転ヘラ削りを施し、擬宝珠状（370）、ボタン状（371・372）のつまみが付く。

373は杯蓋で菱形状のつまみが付く。

374は杯Ｇ身で、復元口径13.0cmを測る。体部～口縁部は直線的にのび、底部は平底を呈す。底部外面では板状圧痕が見られる。

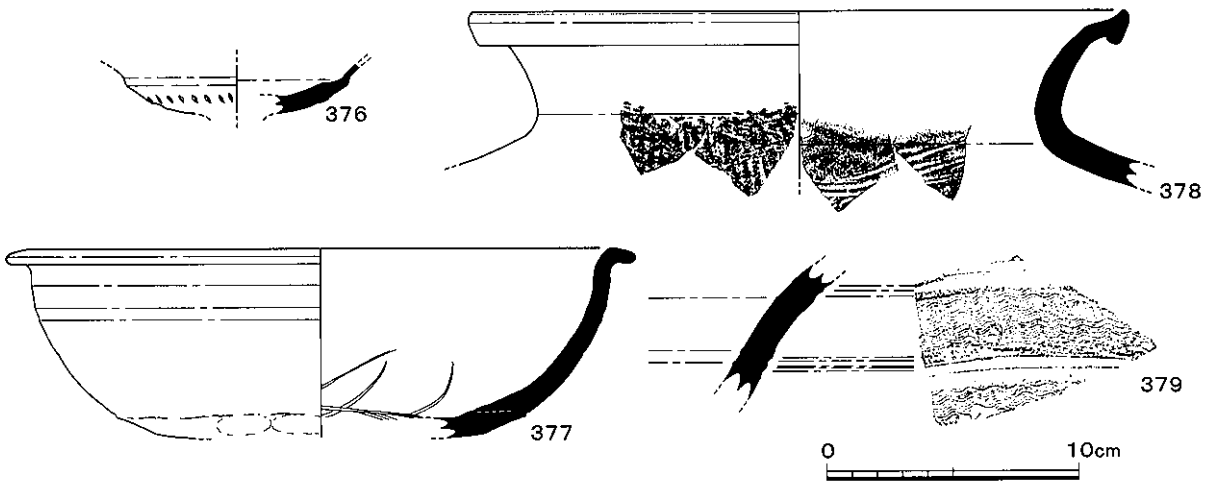
瓦（375） 平瓦である。凹面はナデ調整を施す。凸面は縄目タタキ痕が残る。

調査地表採遺物（第44図、図版63）

須恵器（376～379） 376は高杯の杯部で、体部外面に段を持つ。底部外面には刻目が入る。

377は鉢で、復元口径25.0cmを測る。口縁部は外側に屈曲し、体部は丸みを帯びる。内面には細かいヘラ状工具痕が付く。

378・379は甕である。378の復元口径26.0cmを測り、口縁端部は四角形の突帯状を呈す。379は頸部外面に２段の２条沈線を施し、沈線間に波状文を施文する。



第44図 8次調査地表採遺物実測図（1／3）

C．小結

８次調査は、北東側が２・６次調査地、東側が本堂14次調査地に隣接しており、これらの調査地と同様の遺構の変遷を見ることができる。同じ遺跡の広がりの一部に含まれるものと考えられる。以下では、時期ごとに遺構の変遷をまとめることとする。

弥生時代

概期の遺構としては、ＳＤ０２・０３がある。下層の自然堆積層に土器と若干の石器が含まれていた。ＳＤ０２では、早期の刻目突帯文土器のほか、中期後半の土器が出土している。ＳＤ０３では、中期後葉から中期末と後期末から古墳時代初頭の土器が出土している。このほか調査区北斜面の包含層で概期の遺物が認められる。調査区全体が大きく削平されており、竪穴住居や土坑などの居住遺構は確認できないが、周辺に存在していた可能性は高い。

古墳時代

ＳＤ０２・０３で古墳時代後期の須恵器がまとまって出土した。時期は小田編年ⅢＡ期にあたる（註１）。本堂14次調査地で出土した牛頸窯跡群最古段階の須恵器と同時期のものであることから、牛頸窯跡群の操業開始に関わる遺構が本調査区にも展開していた可能性がある。

奈良時代

遺構の数が増える時期である。８世紀中頃から後半になると、北側斜面に１号窯跡が築かれ須恵器生産が行われた。１号窯跡から北西にやや離れた灰原３でも８世紀前半の須恵器が確認されており、窯跡が複数基あった可能性が考えられる。ＳＤ０２・０３は８世紀前半から８世紀後半を中心に一部７世紀後半に遡る非常に大量の須恵器・土師器が廃棄されていた。須恵器の中には金属器模倣須恵器や肥後系壺などが含まれ、８世紀代の牛頸窯跡群の生産の様相を知る上で注目される資料である。またＳＤ０２・０３と切り合うあるいは近接するＳＫ０２・０６・０７・０８・１０は概期に所属するものと考えられる。ＳＸ０４はＳＤ０２に切り込む遺構で、９世紀初頭の須恵器杯が重ねられた状態で出土した。廃棄行為とは違う性格を推測させる遺構である。

平安時代以降

９世紀初頭以降９世紀代の遺構はまったく認められないが、10世紀後半以降再び遺構が確認できる。北側斜面で集中し、ＳＫ１４、ＳＸ０３・０７・０９、灰原３はいずれも大宰府分類Ⅸ・Ⅹ型式ごろの10世紀後半から11世紀前半であろう（註２）。土師器椀・杯・皿、黒色土器の完形品が多くみられ、何らかの祭祀行為に伴う遺構である可能性が考えられる。続く12世紀代と推定される遺構としてＳＤ０１、ＳＫ０３、灰原１がある。陶磁器・土師器が出土しているが破片であるため、詳細な年代は不明である。（早瀬）

註１ 真野和夫1970「須恵器の編年」『野添・大浦窯跡群』福岡県文化財調査報告書第43集（福岡県教育委員会）

註２ 山本信夫1990「統計上の土器」『九州上代文化論集―乙益重隆先生古希記念論文集―』



第45図　13次調査遺構全体図（1／200）

2．第 13 次調査

A．調査概要（第 45 図、図版 24）

第 13 次調査地は、下大利南ヶ丘線と県道 31 号線に面した標高 36.75 m～ 43.00 mの南東方向に延びる丘陵の南東から南側斜面に位置する。大野城市大字上大利 666-1・693-2 他にあたり、調査面積は約 1,500 ㎡である。調査地は、後世の大規模な造成により丘陵上部を削平されていた。

試掘調査は平成 17 年２月 22 日から平成 17 年４月 28 日の間に 61 次試掘調査としておこなった。重機により全体を表土剥ぎし、遺構・遺物の検出に努めた。調査地西側の南東側へ開口する谷部から北へ回り込む斜面が確認され、斜面には須恵器窯跡などが検出された。

発掘調査は平成 17 年５月９日から平成 17 年７月 31 日にかけておこなった。調査は須恵器窯跡とその下方にわずかにみえる灰原周辺から着手した。灰原の掘削を始めると、灰層の上に地山と考えていたにぶい褐色土が厚く堆積していることが確認されたため、土層観察用のベルトを残して褐色土を掘り下げ、灰原を再検出した。このため南側の２・３区についても土層観察用のベルトを残して重機と人力により掘り下げて、遺構面の再検出をおこなった。斜面には、灰黄色砂質土（１層）、にぶい黄橙色・明褐色土（２層）、灰黄褐色土混じりにぶい褐色土（３層）、斜面裾に暗灰褐色土（４層）が堆積しており、掘り下げ時に出土した遺物は各層ごとに取り上げた。しまりの固い褐色土上面を遺構面と認定して遺構の再検出をおこない、調査区全面で遺構を確認した。

調査の結果、窯跡１基・灰原・竪穴住居２基・竪穴住居状遺構 14 基・貯蔵穴 10 基・木棺墓２基土坑やピットが確認された。遺物は、須恵器が主であり、土師器、弥生土器、陶磁器、石器、瓦、土製品などが出土した。

B．遺構と遺物

（１）窯跡

１号窯跡（第 48 ～ 49 図、図版 25・27 ～ 33）

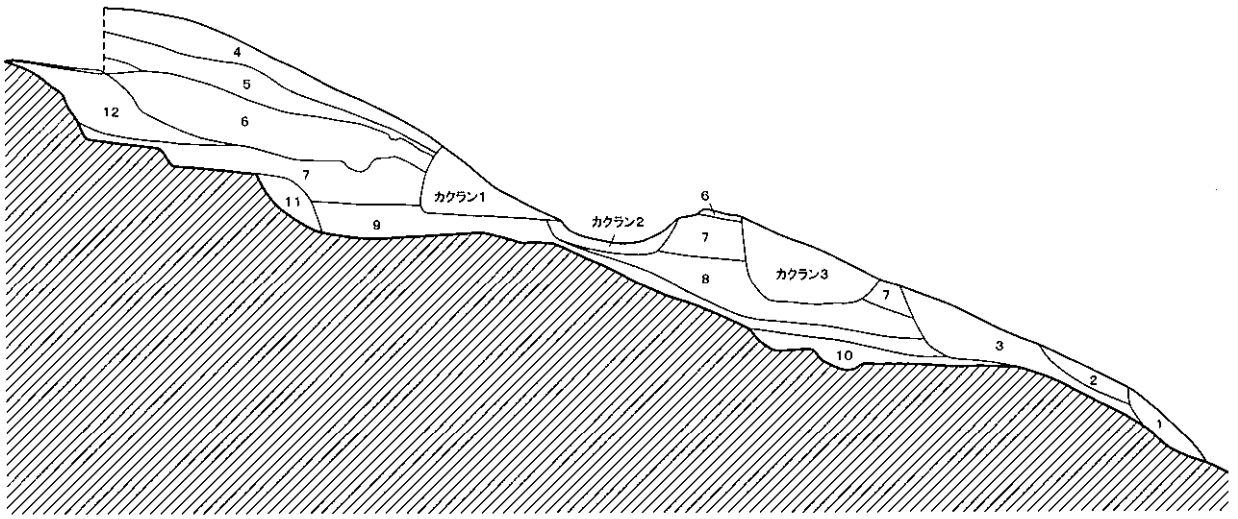
窯跡は調査区北側の斜面に位置する。主軸はＮ－22°－Ｗ、北西－南東方向にとり、焚口は南東方向にあたる。天井部・壁面の大半は削平を受けており、窯尻の一部と床面、および壁面がわずかに残るのみであった。排煙部も残存せず不明である。平面形は、焼成部中位がふくらむ胴張り形となる。焚口から窯尻までの全長 2.56 m、最大幅 1.09 mである。貼床は見られなかったが、焼成部右側壁に幅約 0.70 mに渡って貼壁が認められた。

焚口・燃焼部　焚口幅 0.74 mを測る。焚口では、３層中の床面上から大量のダンゴ状の焼台と須恵器杯がまとまって出土した。窯の片付けを行っていた状態で埋まったものと考えられる。焚口から窯尻に向って 0.70 m入った地点に傾斜変換線が見られ、焼成部との境になると考えられる。燃焼部は、幅 0.99 m、床面傾斜角度は約９°を測る。

焼成部　焼成部は中位ほどで最大幅となり、窯尻にかけて幅がすぼまる。焼成部長 1.87 m、窯尻での幅は残存箇所にて 0.95 mを測る。床面傾斜角度は約 28°である。焼成部中ほどの床面上から焼台が２つ出土し、また焼台の痕跡も３箇所認められた。埋土中には窯壁片が多く含まれている。

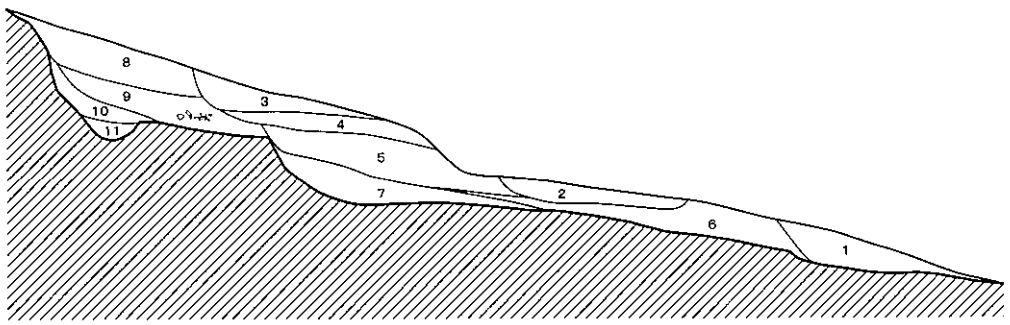
前庭部　窯体の両側にわずかに広がる。やや起伏が見られるものの平坦である。前庭部に伴う遺

a ——— 1－1・2区間ベルト土層断面 40.700m a'



1. 灰色粘質土(5Y4/1)径2～5mmの砂粒を多く含む。遺物多含。
2. にぶい黄橙色粘質土(10YR7/2)径1～3mmの砂粒を少し含む。
3. 灰黄褐色砂質土(10YR6/2)しまり弱い。
4. にぶい褐色土(7.5YR5/4)径1～3mmの砂粒を含む。炭化物をわずかに含む。
5. にぶい黄褐色土(10YR5/3)径1～3mmの砂粒少し含む。炭化物を含む。
6. 炭化物層(10YR3/1～2/1)灰層。しまり弱い。
7. にぶい褐色土(7.5YR5/4)ブロック状に灰層を多く含む。
   径1～3mmの砂粒をわずかに含む。しまりあり。
8. にぶい黄褐色土(10YR5/3)径1～3mmの砂粒・ブロック状の灰層を少し含む。
   しまりあり。
9. にぶい黄橙色砂質土(10YR6/3～6/2)小ブロック状の灰層・焼土・炭化物を多く含む。
   しまり弱い。
10. 灰黄褐色土(10YR5/2)しまり強い。炭化物を多く含む。径2.5mmの砂粒を多く含む。
    SX05の埋土。
11. にぶい黄橙色土(10YR7/2～7/3)にぶい橙色土(7.5YR6/4)互層状に含む。
    灰層ブロック状に少し含む。
12. にぶい黄褐色土・にぶい褐色土(10YR5/4・7.5YR5/4)混土。しまりあり。
    粘性あり。炭化物を多く含む。SX19の埋土。

c ——— 2-3・4区間ベルト土層断面 40.000m c'

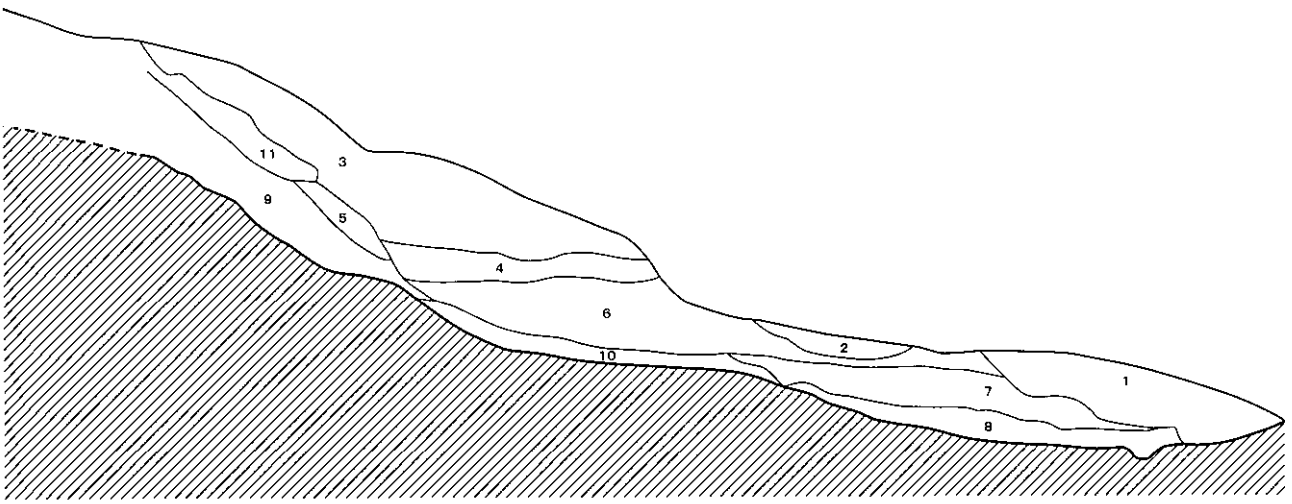


1. 灰白色～にぶい黄橙色粘質土・砂質土互層(10YR7/1～7/2)しまりあり。
2. 灰白色～にぶい黄橙色粘質土・砂質土互層(10YR7/1～7/2)しまりあり。
   マンガン斑目立つ。
3. にぶい褐色砂質土(7.5YR5/4)径1～3mmの砂粒少し含む。
   径5cm大の角礫をわずかに含む。しまり弱い。
4. にぶい黄橙色砂質土(10YR6/3)径1～3mmの砂粒を少し含む。
   炭化物をわずかに含む。しまり弱い。
5. 明赤褐色砂質土・にぶい黄橙色砂質土混土(5YR5/6～10YR6/3)
   径1～3mmの砂粒(地山風化礫)多く含む。しまりあり。
6. 灰黄褐色粘質土(10YR6/2)径1～3mmの砂粒・炭化物を含む。
   上位にマンガン粒目立つ。下位に酸化鉄少し入る。しまり強い。
7. にぶい黄褐色粘質土(10YR5/3)径1～3mmの砂粒・炭化物を少し含む。
   径3～5cmの角礫をわずかに含む。しまりあり。
8. 灰黄褐色土(10YR5/2)径1mm前後の砂粒を少し含む。
   炭化物を多く含む。しまりあり。
9. にぶい黄褐色砂質土(10YR5/3)径1～3mmの砂粒を少し含む。
   炭化物を含む。遺物多く含む。しまりあり。
10. にぶい黄褐色土(10YR5/4)径1mm前後の砂粒をわずかに含む。しまりあり。
11. にぶい黄橙色土(10YR6/3)径1mm前後の砂粒をわずかに含む。しまり強い。

0 2m

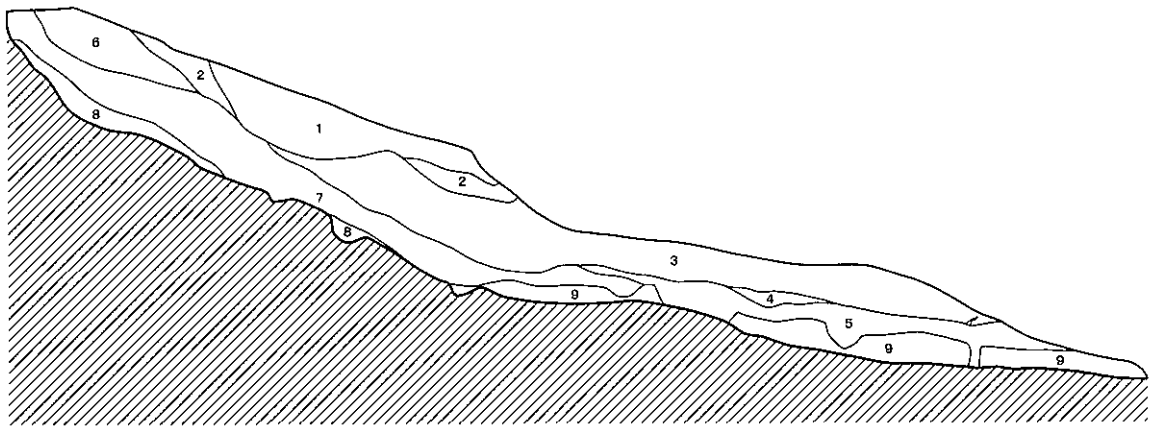
第46図　13次調査区内土層実測図①（1／60）

d ——— 2-4・5区間土層図 41.000m d'



1. 灰黄色粘土(2.5Y7/2)灰黄色砂質土(2.5Y6/2)互層造成に伴うもの。
2. 灰黄色粘土(2.5Y7/2)灰黄色砂質土(2.5Y6/2)互層(下位にマンガン斑沈着)
3. 明褐色～黄褐色土(7.5YR5/6～10YR5/6)径1～3mmの
   砂粒・炭化物を多く含む。中央上位ににぶい黄橙色砂(10YR7/3)が入る。
4. にぶい褐色粘質土(7.5YR5/4)径3～5mmの砂粒を多く含む。
   炭化物少し含む。しまり強い。
5. 灰黄褐色粘質土(10YR5/2)径1mm前後の砂粒・炭化物を少し含む。
   しまりあり。10層と同層か?
6. にぶい褐色土(7.5YR5/4)にぶい黄橙色土(10YR7/2)3割混じる。
   しまり弱い。径1～3mmの砂粒を少し含む。
7. 褐灰色砂質土(10YR5/1)径1～5mmの砂粒を多く含む。炭化物を多く含む。
   しまり強い。遺物多く含む。酸化鉄入る。
8. 暗灰黄色砂質土(2.5Y5/2)径1～3mmの砂粒・炭化物を多く含む。
9. にぶい黄褐色土(10YR5/3)径1mm前後の砂粒少し含む。
   炭化物多く含む。しまり弱い。
10. 灰黄褐色粘質土(10YR5/2)径1mm前後の砂粒・炭化物少し含む。しまりあり。
11.

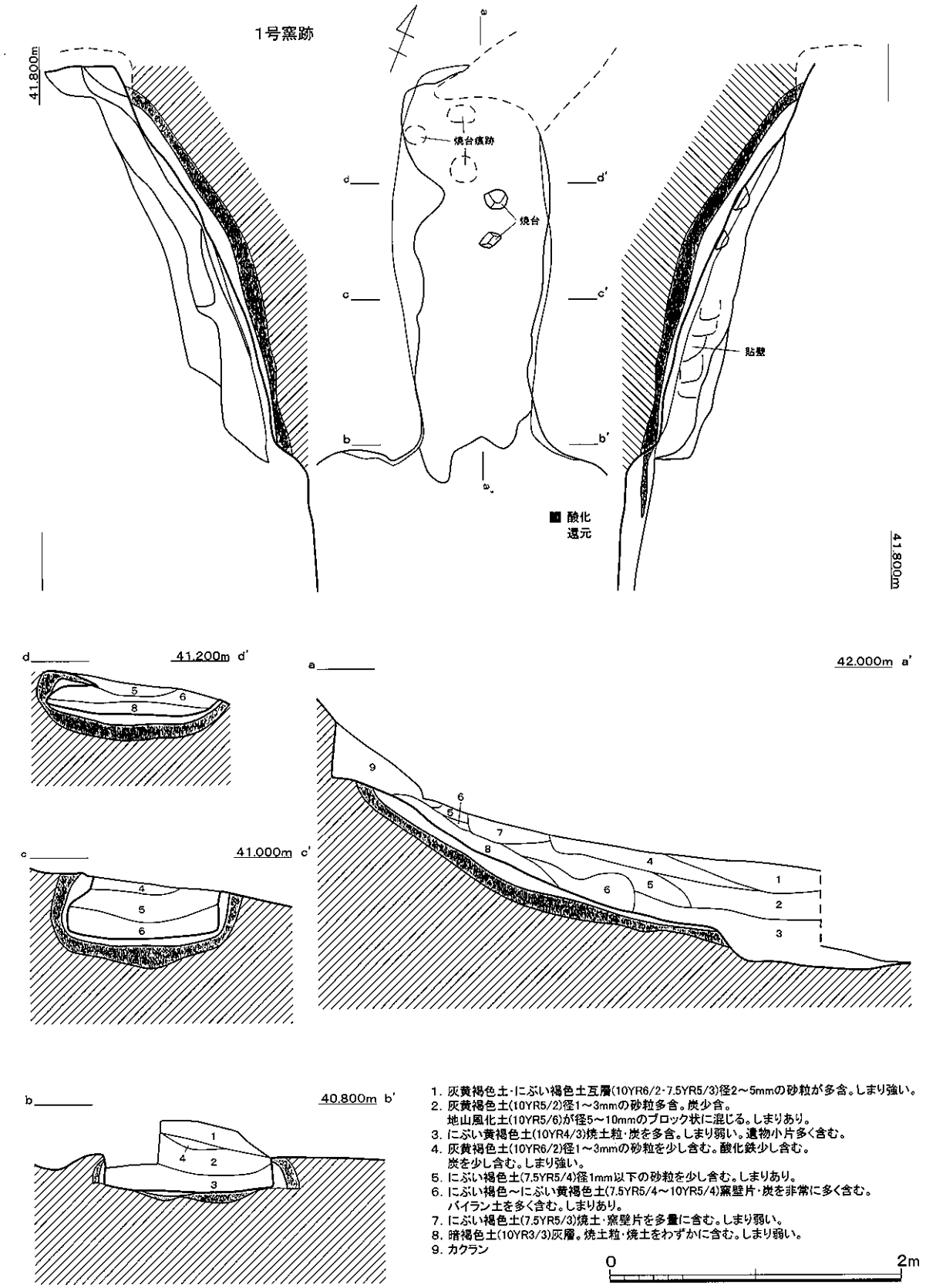
e ——— 2-5. 3-1区間ベルト 40.500m e'



1. にぶい黄橙色土(10YR6/3)しまりあり。にぶい黄橙色砂(10YR7/2)が中位に入る。
2. にぶい黄橙色土(10YR6/4)しまりあり。径1～3mmの砂粒を少し含む。
   にぶい褐色土(7.5YR5/4)を径2～5cmのブロックで含む。
3. にぶい褐色土(7.5YR5/4)しまりあり。径1～3mmの砂粒を多く含む。
   灰黄褐色土(10YR6/2)を径2～5cmのブロックで含む。
4. にぶい黄橙色土(10YR6/3)しまり弱い。明赤褐色砂質土(5YR5/6)ブロックを多く含む。
   にぶい黄橙色粘質土(10YR7/2)が入る。マンガン粒目立つ。
5. 灰黄褐色砂質土(10YR4/2)しまりあり。径1～3mmの砂粒・炭を多く含む。
6. にぶい黄褐色砂質土(10YR5/4)しまり弱い。径1～3mmの砂粒・炭を多く含む。
7. にぶい黄褐色土(10YR5/3)しまり弱い。径1～3mmの砂粒・炭を多く含む。
   径2～5cm大の小礫を少し含む。
8. 灰黄褐色粘質土(10YR5/2)しまりあり。径1mm前後の砂粒・炭を少し含む。
9. 暗灰黄色砂質土(2.5Y5/2)しまりあり。径1～3mmの砂粒・炭を多く含む。

0 2m

第47図 13次調査区内土層実測図②（1／60）



第48図　13次1号窯跡実測図①（1／40）

構等は認められなかった。

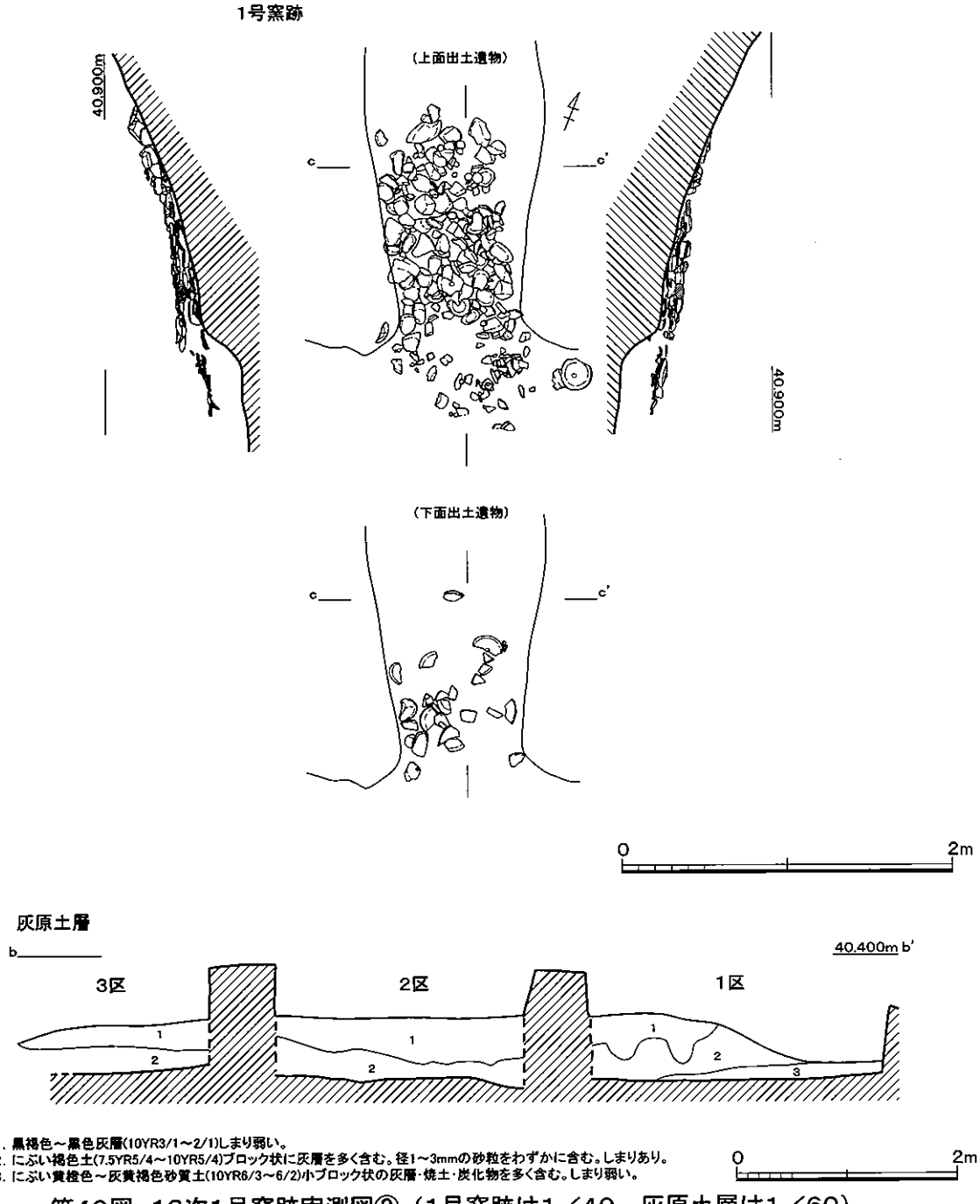
灰原　灰原は１号窯跡の斜面下方および南側に楕円形状に広がる。最大長 7.62 m、最大幅 3.79 m、最大厚 0.36 mである。ＳＸ０４の北側まで広がるが、部分的に削平されている。

堆積状況は灰原（２層）の上に遺物を含むにぶい褐色土（１層）がほぼ全面を覆っており、さらに灰原の下層には窯跡掘削土と考えられるにぶい褐色土（３・４層）が堆積していた。

遺物の取り上げは、灰原を１～３区および１～４層に分けて行った。

窯跡窯体内出土遺物（第 50・51 図）

須恵器（380 ～ 391）　380 ～ 386 は杯Ｂ蓋で、口径及び復元口径は 14.0cm ～ 18.5cm を測る。口縁端部は断面三角形を呈すものがほとんどで、386 は丸く仕上がる。つまみはボタン状を呈す。



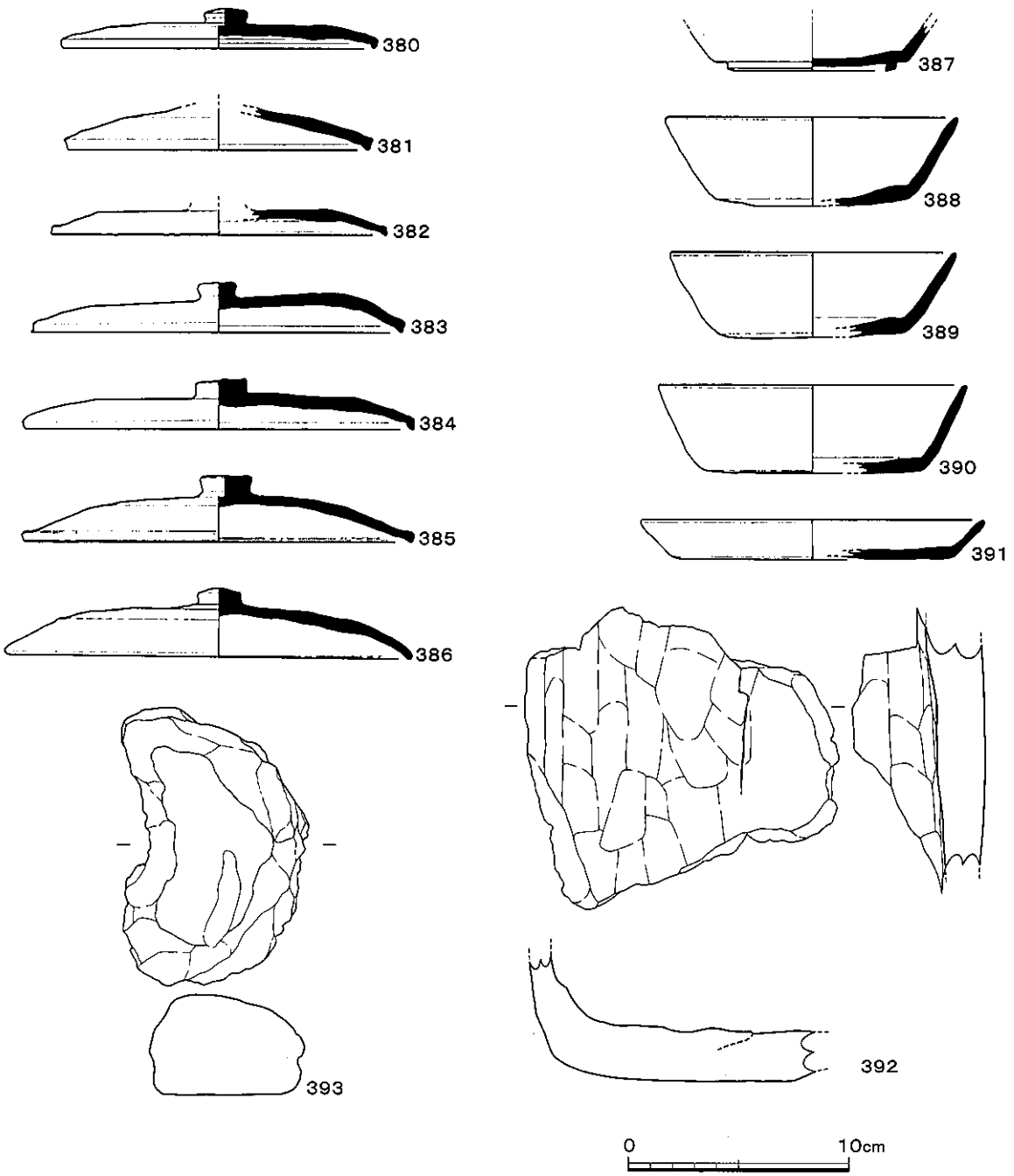
第49図　13次1号窯跡実測図②（1号窯跡は1／40、灰原土層は1／60）

387は杯B身である。底端部の内側には低い高台が付く。

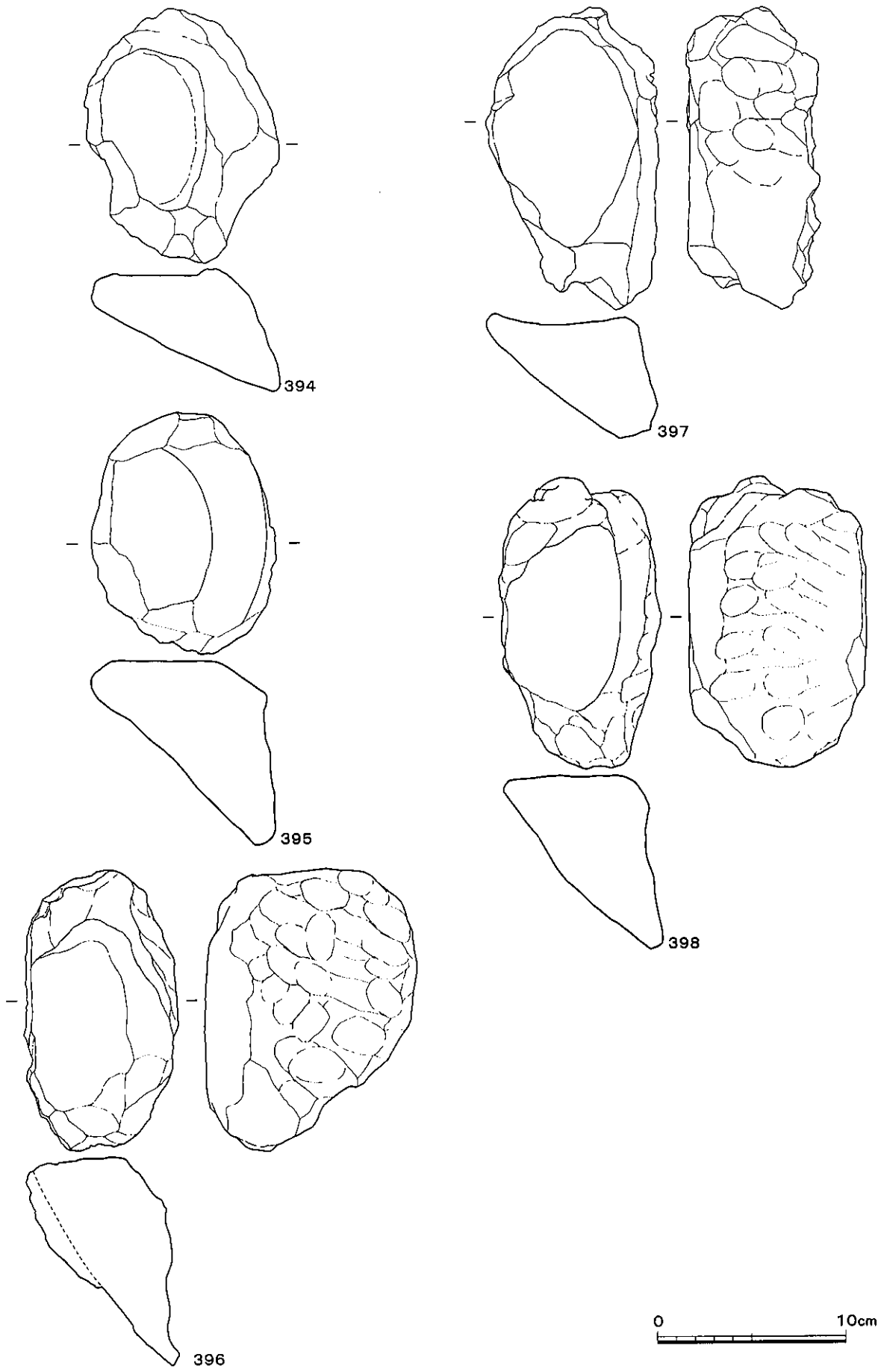
388～390は杯Aで、復元口径は13.0cm～14.0cmを測る。いずれも体部～口縁部は直線的にのび、傾きは388・389がやや開く。

391は皿で、復元口径15.7cmを測る。口縁部は直線的にのび、やや開く。底部外面に板状圧痕が見られる。

土製品（392～398） 392は用途不明品である。屈曲する板状製品で、ナデにより成形される。移動式カマドか。393～398はいずれも焼台である。393以外は窯体内の傾斜に対応した底面を持ち、上面は平坦を呈すものと思われ、さらには製品の底部が接地していた痕跡が残る。側面にナデ調整



第50図　13次窯跡窯体内出土遺物実測図①（1／3）

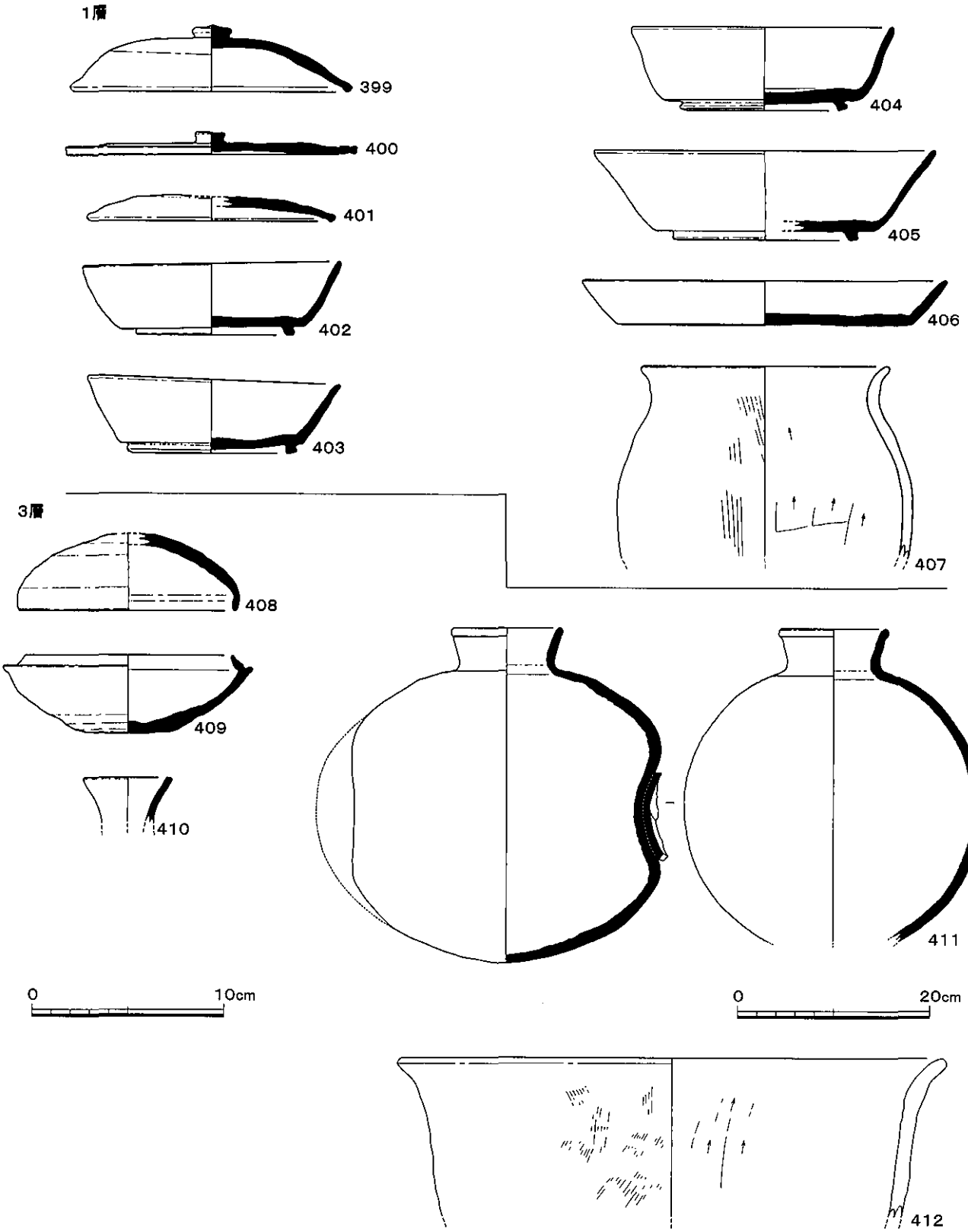


第51図　13次窯跡窯体内出土遺物実測図②（1／3）

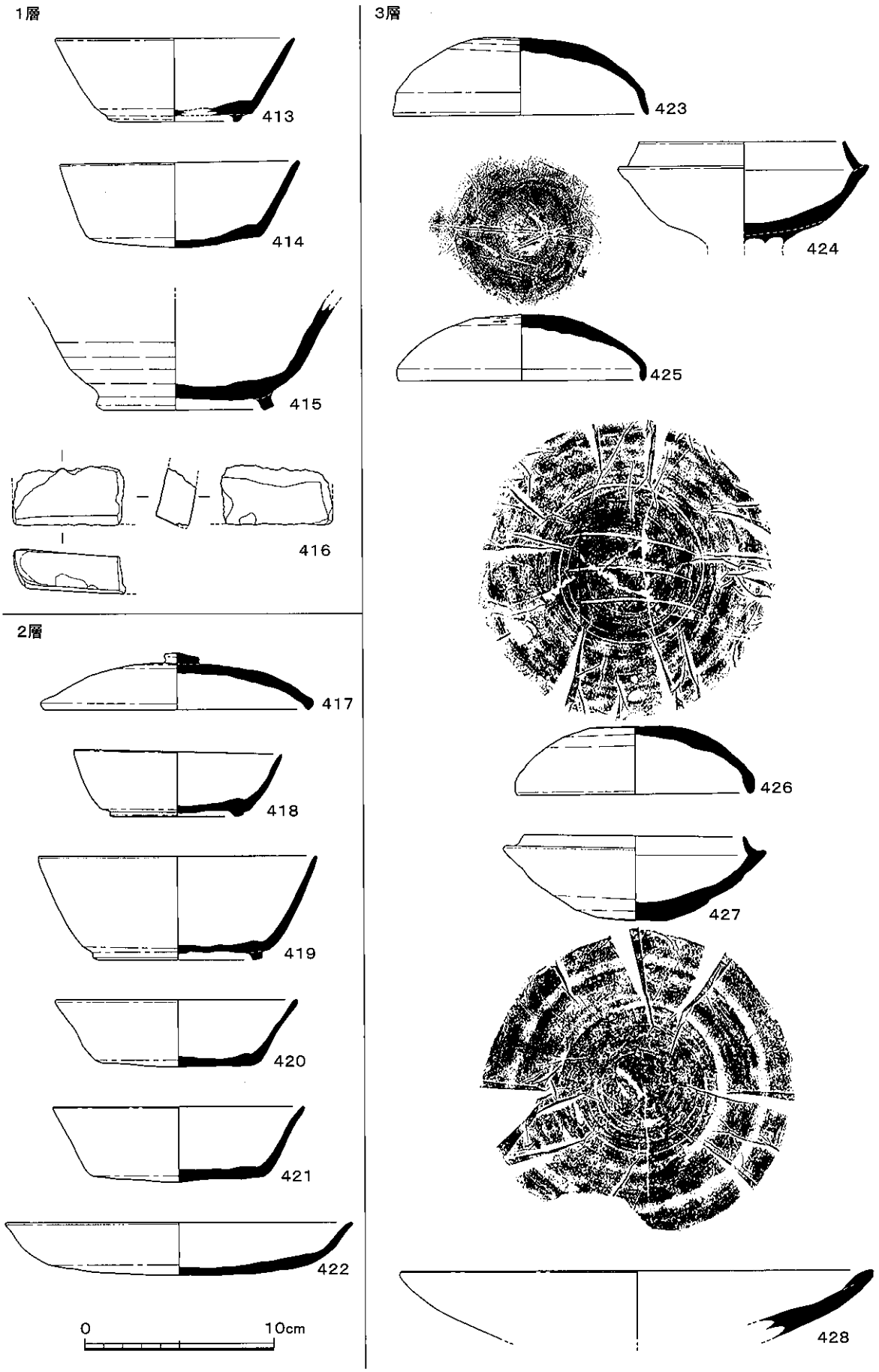
の痕跡が残る。

灰原１区１層出土遺物（第 52 図）

須恵器（399 ～ 406） 399 ～ 401 は杯Ｂ蓋で、口径は 13.0cm ～ 15.2cm を測る。399 以外の器高が低い。いずれも口縁端部は断面三角形を呈すが、三角形部分が小さくなる。つまみは擬宝珠状



第52図　13次灰原1区出土遺物実測図（411 は1／6、他は1／3）



第53図　13次灰原2区出土遺物実測図（1／3）

(399)、ボタン状（400）が付く。

402 ～ 405 は杯Ｂ身である。口径及び復元口径は 13.2cm ～ 17.8cm を測る。いずれも体部～口縁部は直線的にのび、405 では大きく開く。底端部のやや内側には、低い高台が付く。

406 は皿で、復元口径 19.0cm を測る。口縁部も底部も直線状になる。

土師器（407） 甕で、復元口径 13.0cm を測る。口縁部は外反し、体部は丸みを帯びる。

灰原１区３層出土遺物（第 52 図、図版 63）

須恵器（408 ～ 411） 408 は杯Ｈ蓋で、口径 11.6cm を測る。口縁部は直立に近い傾きになり、天井部は外面約１／２範囲で回転ヘラ削りを施す。

409 は杯Ｈ身で、口径 10.9cm を測る。立ち上がりは内傾し、底部は外面約１／３範囲で回転ヘラ削りを施す。

410 は小壺で、復元口径 4.6cm を測る。口縁部は緩やかに開き、端部は断面四角形を呈す。

411 は横瓶で、復元口径 11.4cm を測る。口縁端部は丸く仕上がり、体部は俵状を呈す。体部外面の歪んだ部分には別個体の破片が釉着する。

土師器（412） 甕で、復元口径 28.6cm を測る。体部は直線的にのび、口縁部で外反する。

灰原２区１層出土遺物（第 53 図、図版 63）

須恵器（413 ～ 415） 413 は杯Ｂ身で、復元口径 12.65cm を測る。体部～口縁部は直線的にのび、口縁端部が断面尖頭状を呈す。底部には低い高台が付く。

414 は杯Ａで、口径 12.7cm を測る。体部～口縁部は直線的にのびる。底部外面に板状圧痕が見られる。

415 は短頸壺である。体部はやや外反しながら上方へのび、底部に低い高台が付く。

瓦質土器（416） 瓦塔の一部である。ナデ調整により成形され、側面ではヘラ切りを施す。

灰原２区２層出土遺物（第 53 図、図版 63・64）

須恵器（417 ～ 422） 417 は杯Ｂ蓋で、口径 14.4cm を測る。口縁端部は断面三角形を呈し、天井部にはボタン状のつまみが付く。

418・419 は杯Ｂ身である。418 の口径は 11.0cm、419 の復元口径は 14.7cm を測る。いずれも体部～口縁部は直線的にのびる。底部には低い高台が付く。

420・421 は杯Ａである。420 の復元口径は 12.8cm、421 の口径は 13.3cm を測り、体部～口縁部はほぼ直線的にのびる。420 の底部外面では板状圧痕が見られる。

422 は皿で、復元口径 18.4cm を測る。体部はやや丸みを持ち口縁部でわずかに外反する。

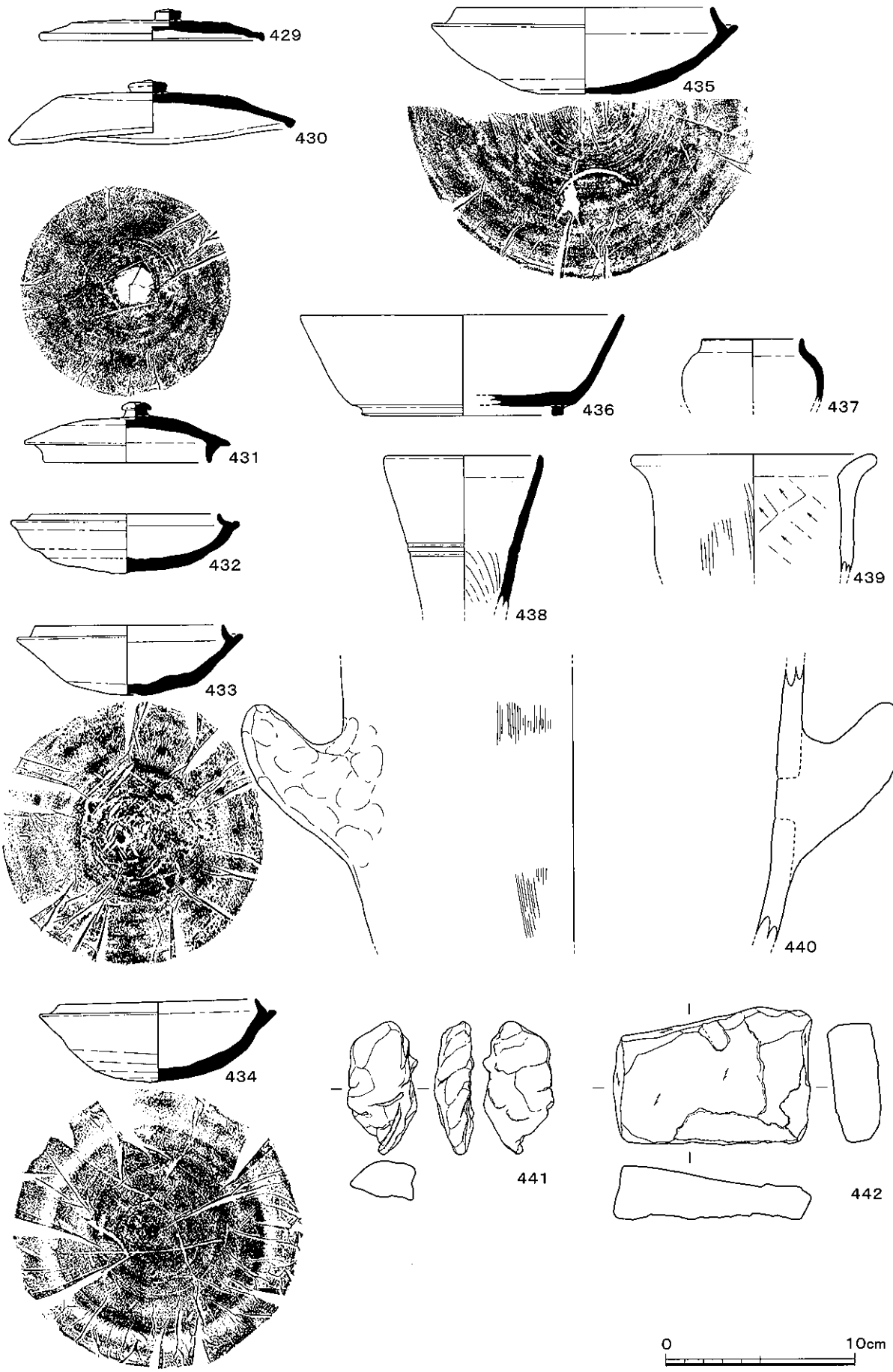
灰原２区３層出土遺物（第 53 図、図版 64）

須恵器（423 ～ 428） 423・425・426 は杯Ｈ蓋で、復元口径は 12.6cm ～ 13.5cm を測る。いずれも口縁部は直立に近い傾きになり、天井部は外面約１／３範囲で回転ヘラ削りを施す。

424 は有蓋高杯で、口径 10.9cm を測る。杯部は深く、立ち上がりは内傾する。受け部は比較的短い。

427 は杯Ｈ身で、口径 11.7cm を測る。立ち上がりは内傾しつつ端部で直立に近い傾きになる。底部は外面約１／２範囲で回転ヘラ削りを施す。

428 は器台の杯部か。復元口径は 25.0cm を測り、皿状を呈すと思われる。



第54図　13次灰原3区1層出土遺物実測図（1／3）

灰原３区１層出土遺物（第 54 図、図版 64 ～ 65）

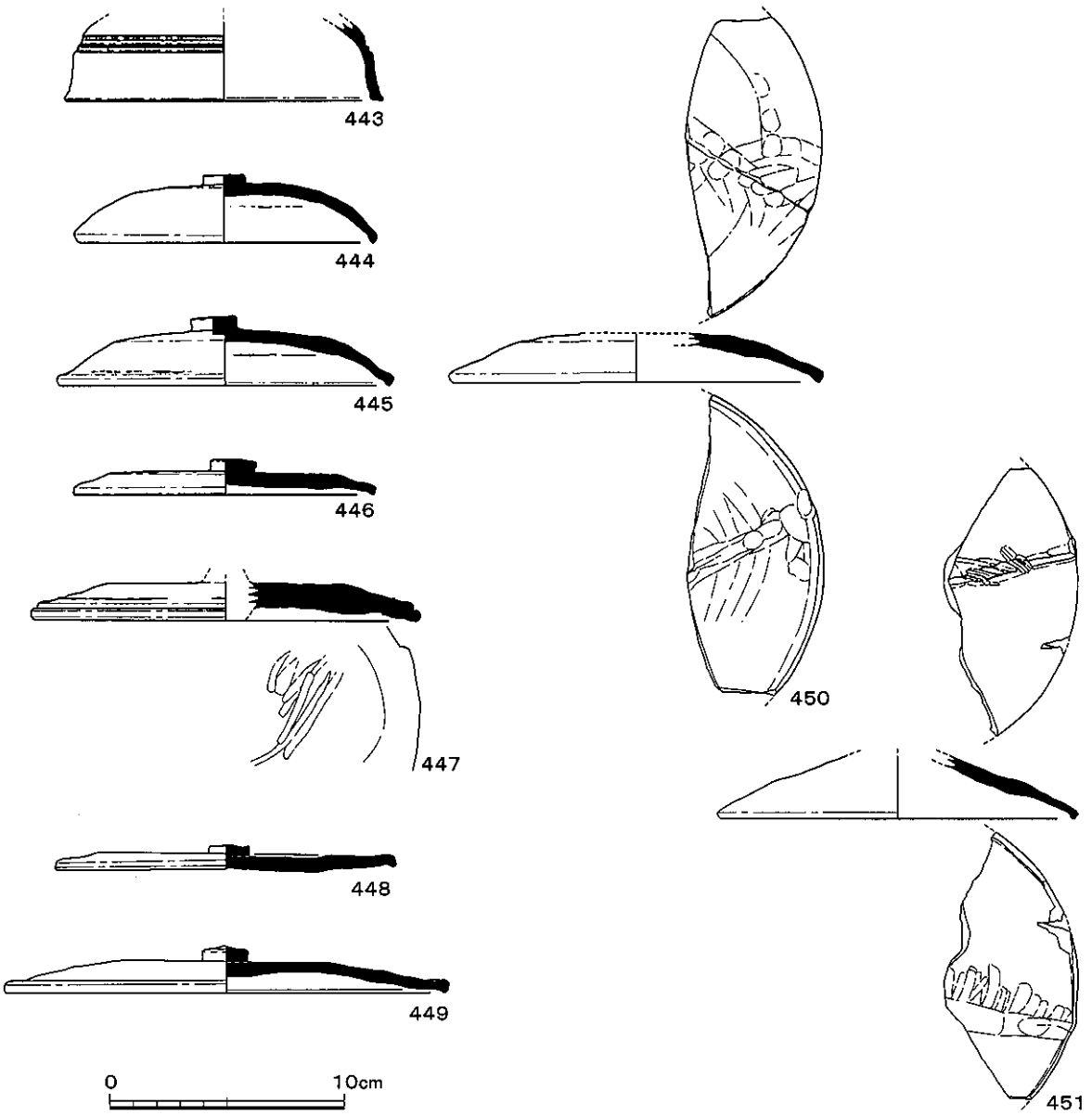
須恵器（429 ～ 438） 429・430 は杯Ｂ蓋である。口径はそれぞれ 12.0cm・15.3cm を測り、口縁端部は断面三角形を呈すが、三角部分が小さい。いずれも天井部外面はナデ調整を施し、ボタン状（429）、擬宝珠状（430）のつまみが付く。

431 は壺蓋で、口径 8.9cm を測る。かえりは折り返して成形され口縁部下に大きく突出し、天井部は外面約１／２範囲に回転ヘラ削りを施す。つまみは中央部がくぼみ、茸状を呈す。

432 ～ 435 は杯Ｈ身である。口径は 10.0cm ～ 13.7cm を測る。432・433 は立ち上がりが内傾しつつ端部が直立に近い傾きになり、底部外面はナデ調整を施す。434・435 は立ち上がりが内傾し、底部外面は回転ヘラ削りを施す。

436 は杯Ｂ身で、復元口径 17.2cm を測る。体部～口縁部は直線的にのび、底部には低い高台が付く。

437 は短頸壺で、復元口径 5.4cm を測る。口縁部は直立し、体部は球形を呈す。



第55図　13次灰原3区2層出土遺物実測図①（1／3）

438は長頸壺で、復元口径8.4cmを測る。頸部はやや外反し、口縁部で直線的にのびる。頸部外面は沈線が施される。

土師器（439・440） 439は甕で、復元口径13.0cmを測る。体部は直線的にのび、口縁部で大きく外傾する。頸部内面には稜が付く。

440は甑である。体部は直線的になり、差込式の把手が付く。

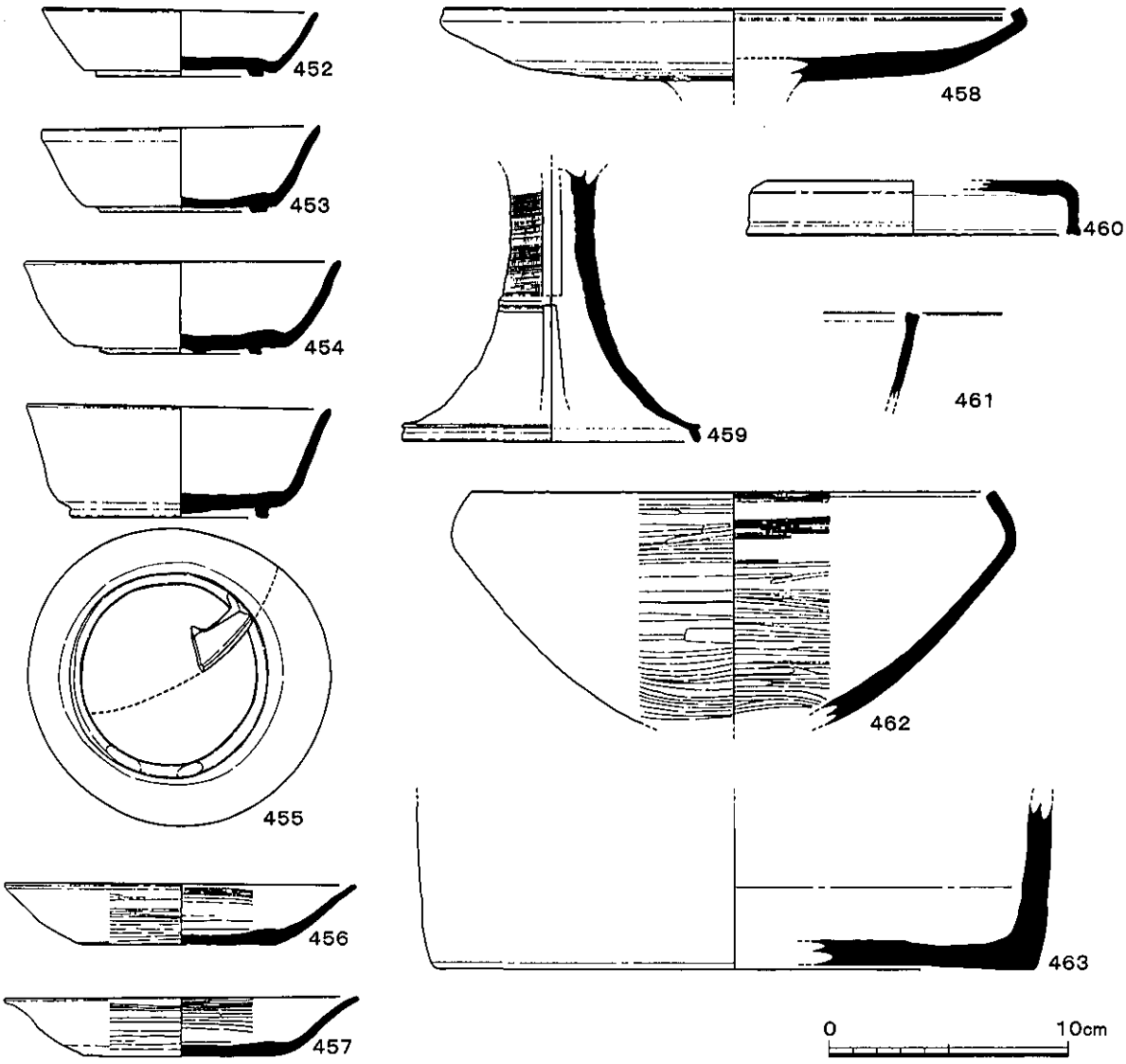
土製品（441） 用途不明品である。不整形な粘土塊の表面に指でちぎったような痕跡が見られる。

石器（442） 砥石である。裏面以外の5面に使用痕が見られる。花崗岩製か。

灰原3区2層出土遺物（第55・56図、図版65～67）

須恵器（443～463） 443は壺蓋である。丸みを持つ裾部から端部に向けて直立に近い傾きになる。外面には沈線が施され、端部は面をもち断面四角形を呈す。

444～451は杯B蓋で、口径12.9cm～19.0cmを測る。いずれも口縁端部は断面三角形を呈すが、三角部分が小さい。器高は比較的低い。天井部外面はいずれもナデ調整を施し、ボタン状のつまみを付けるものがある。447は2つの蓋が重なって釉着しており、天井部外面にヘラ状工具によるナ



第56図　13次灰原3区2層出土遺物実測図②（1／3）

デ調整を施す。448は天井部外面に板状圧痕が見られる。450・451は割れ部に指ナデとヘラナデにより補修した痕跡が見られる。

452～455は杯B身で、口径及び復元口径は11.6cm～13.3cmを測る。いずれも体部～口縁部はほぼ直線的にのびる。底部には低い高台が付き、455では蓋の破片が釉着する。

456・457は杯で、口径はそれぞれ14.7cm・14.9cmを測る。456は体部～口縁部が直線的にのび、大きく開く。457は体部～口縁部が外反し、大きく開く。いずれも口縁部～体部内外面には回転ヘラミガキを施す。

458・459は高杯である。458の口径は24.3cmを測り、杯部は皿状である。口縁部は屈曲し、端部は断面四角形を呈す。底部外面には回転ヘラ削りを施す。459は脚部で裾部から大きく開き、端部は折り曲げ、端部外面には沈線状のくぼみを巡らす。脚部には2段透かしを入れ、上位外面にカキメ、中位に沈線を施す。

460は壺蓋で、復元口径14.0cmを測る。口縁部は直立し、端部は断面台形を呈す。天井部外面は回転ヘラ削りを施す。

461・462は鉢である。461は口縁部が直線的にのび、端部は断面台形を呈す。462は復元口径22.0cmを測る。ほぼ直線的にのびる体部から口縁部は内側に屈曲する。内外面に回転ヘラミガキを施す。金属器模倣須恵器の仏鉢である。

463は壺である。器形は箱状を呈し、体部外面は回転ヘラ削り、底部内面約1／2範囲はカキメを施す。

灰原3区3層出土遺物（第57図、図版67）

須恵器（464～471） 464は杯H蓋で、復元口径14.0cmを測る。口縁部は直立に近い傾きになり、天井部は外面約2／3範囲で回転ヘラ削りを施し、丸く仕上げる。

465は杯B蓋で、復元口径14.4cmを測る。口縁端部は断面三角形を呈し、天井部外面はナデ調整を施す。また、径が小さいボタン状のつまみが付く。

466は杯B身で、復元口径11.8cmを測る。体部～口縁部は直線的にのび、底部には低い高台が付く。

467～469は杯で、復元口径13.4cm～15.4cmを測る。467・468は直線的な体部から口縁部はやや外傾する。469は体部～口縁部が直線的にのびる。いずれも口縁部～体部内外面には回転ヘラミガキを施す。

470は短頸壺である。体部外面は回転ヘラ削りにより丸みを持つ。底部には低い高台が付く。

471は甕で、復元口径35.3cmを測る。やや丸みを持つ体部から口縁部は外反し、土師器の甕と器形が類似する。体部外面には擬格子タタキ痕、内面には同心円の当て具痕が見られる。

石器（472） 石鏃である。二等辺三角形を呈し、基部には深い抉りが入ると思われる。

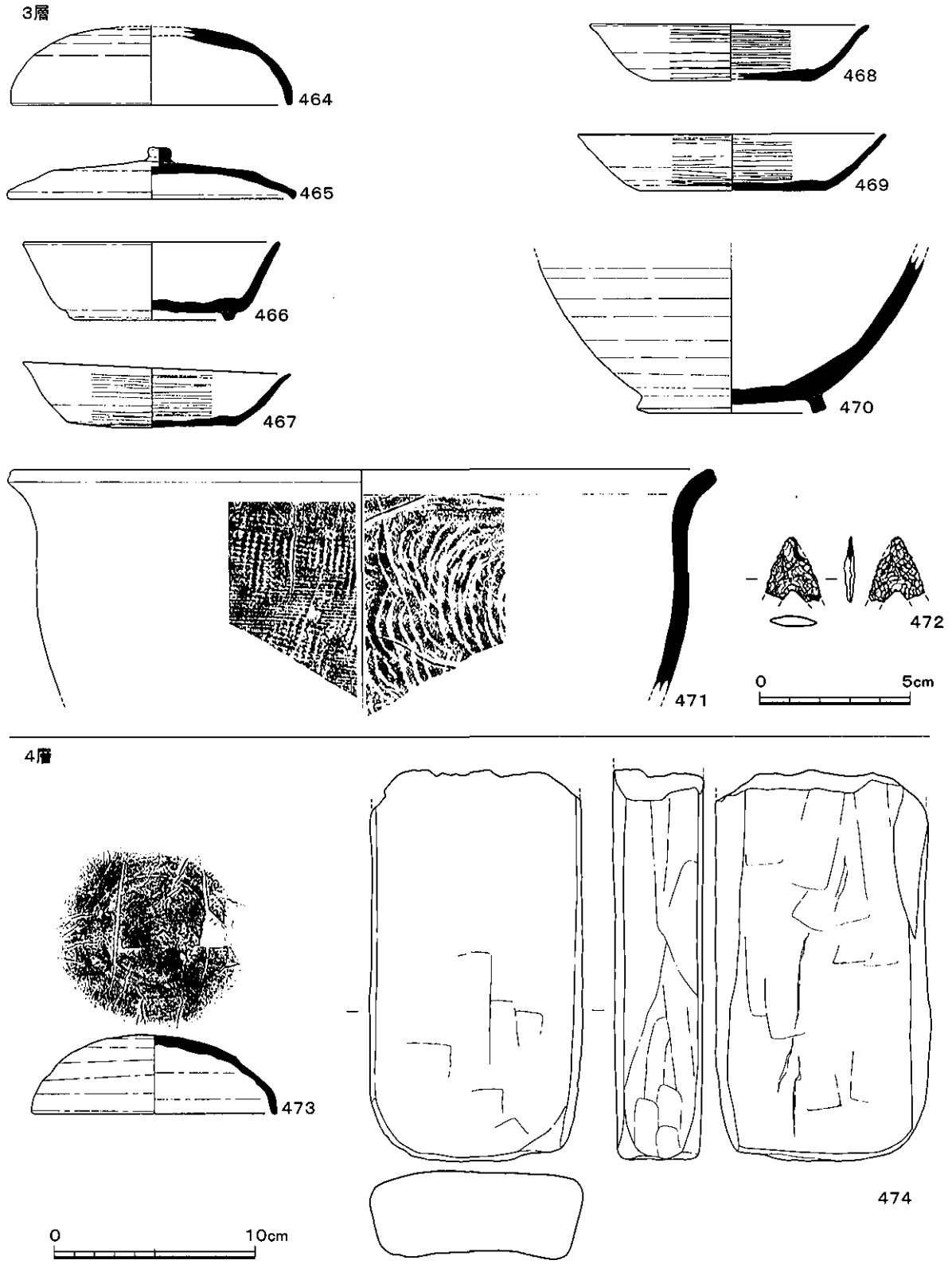
灰原3区4層出土遺物（第57図、図版67）

須恵器（473） 杯H蓋で、復元口径12.2cmを測る。口縁部は直立に近い傾きになり、天井部は外面約1／2範囲で回転ヘラ削りを施し、丸く仕上げる。

瓦（474） 厚さ約4cmの板状製品である。土師質で、板状工具によりナデ調整を施す。用途不明品である。

灰原ベルト２層出土遺物（第 58 図、図版 67・68）

須恵器（475 ～ 480） 475 ～ 477 は杯Ｂ蓋で、復元口径 13.3cm ～ 14.2cm を測る。比較的器高は低く、口縁端部は断面三角形を呈す。いずれも天井部外面はナデ調整を施し、ボタン状（475）と径の小さいボタン状（476・477）のつまみが付く。



第57図　13次灰原3区3・4層出土遺物実測図（472 は1／2、他は1／3）

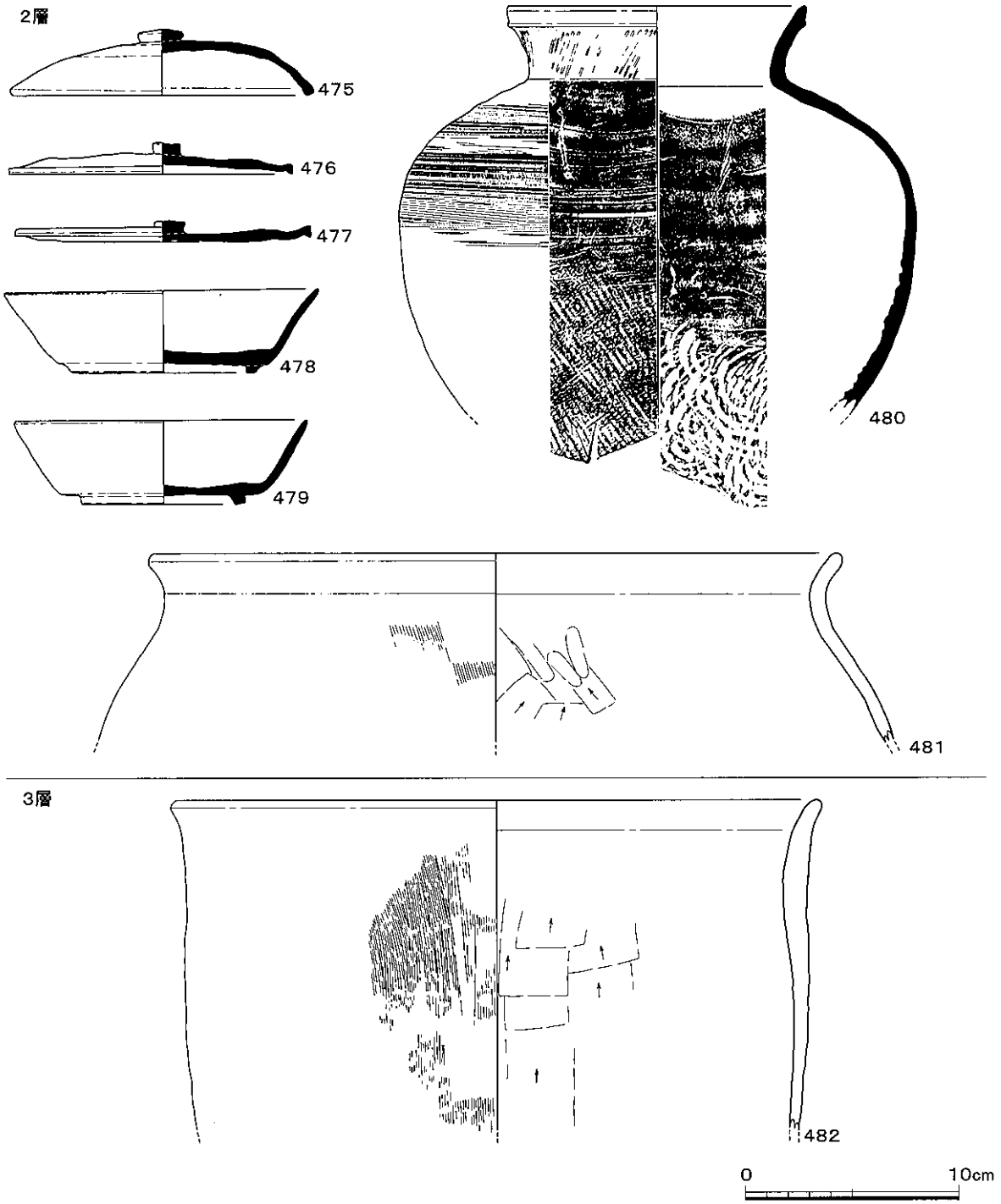
478・479は杯Ｂ身である。口径はそれぞれ14.7cm・13.2cmを測る。478は体部～口縁部がやや外反し、大きく開く。479は体部～口縁部が直線的にのびる。いずれも底部に低い高台が付く。

480は甕で、復元口径14.0cmを測る。口縁端部は断面三角形を呈し、端部外面に段が付く。頸部外面にはハケ状の痕跡が見られる。

土師器（481） 甕で、復元口径32.5cmを測る。頸部は緩やかに外反し、口縁部は外傾する。

灰原ベルト３層出土遺物（第58図）

土師器（482） 甑で、復元口径30.4cmを測る。体部はほぼ直線的にのび、口縁部はやや外反する。



第58図　13次灰原ベルト出土遺物実測図（1／3）

（２）土坑

ＳＫ０１（第 59 図、図版 34）

灰原の西側の標高約 40.50 m付近の斜面に位置する。削平のため大半を欠失しているものと思われる。平面形は長方形を呈し、長さ 1.90 m、幅 0.87 m、最もよく残っている部分で深さ 0.58 mを測る。床面は平坦であるが、斜面裾方向へやや傾斜している。埋土中より須恵器が出土した。

出土遺物（第 60 図）

須恵器（483） 杯H身で、復元口径は 10.2cm を測る。立ち上がりは内傾しつつ端部は直立に近い傾きになる。底部外面に回転ヘラ削りを施す。

ＳＫ０２（第 59 図、図版 34）

ＳＫ０２の南西側の斜面に位置する。平面形は不整形を呈する。長さ 2.88 m、幅 3.10 mで、深さ 2.75 mを測る。床面は平坦であり、長軸 1.75 m、短軸 1.47 mの楕円形である。埋土はにぶい褐色土を主体としている。北側と西側の壁面中位にテラス状の堀り込みがあり、北側テラスより甕棺の破片が出土した。その他の埋土中より須恵器・弥生土器・石鏃が出土した。堆積状況では明確ではないが再掘削され切り合いがある可能性がある。甕棺墓を土坑が切るか。

出土遺物（第 60 図、図版 68）

須恵器（484） 杯H身で、復元口径は 11.4cm を測る。立ち上がりは内傾しつつ端部は直立に近い傾きになる。

弥生土器（485 ～ 487） 485・487 は甕である。485 は復元口径 19.8cm を測る。口縁部は「く」の字に屈曲し、頸部内面には稜が付く。傾きは水平よりやや立ち上がる。487 は体部と底部の境がやや残り、平底を呈す。

486 は壺である。口縁部は屈曲し、上面には帯状の突帯が付く。また、口縁・突帯端部の角に刻目を施す。頸部外面には段、内面には稜が付く。

石器（488） 石鏃である。三角形を呈し、脚部を作り出す。黒曜石製である。

ＳＫ０５（第 61 図、図版 35）

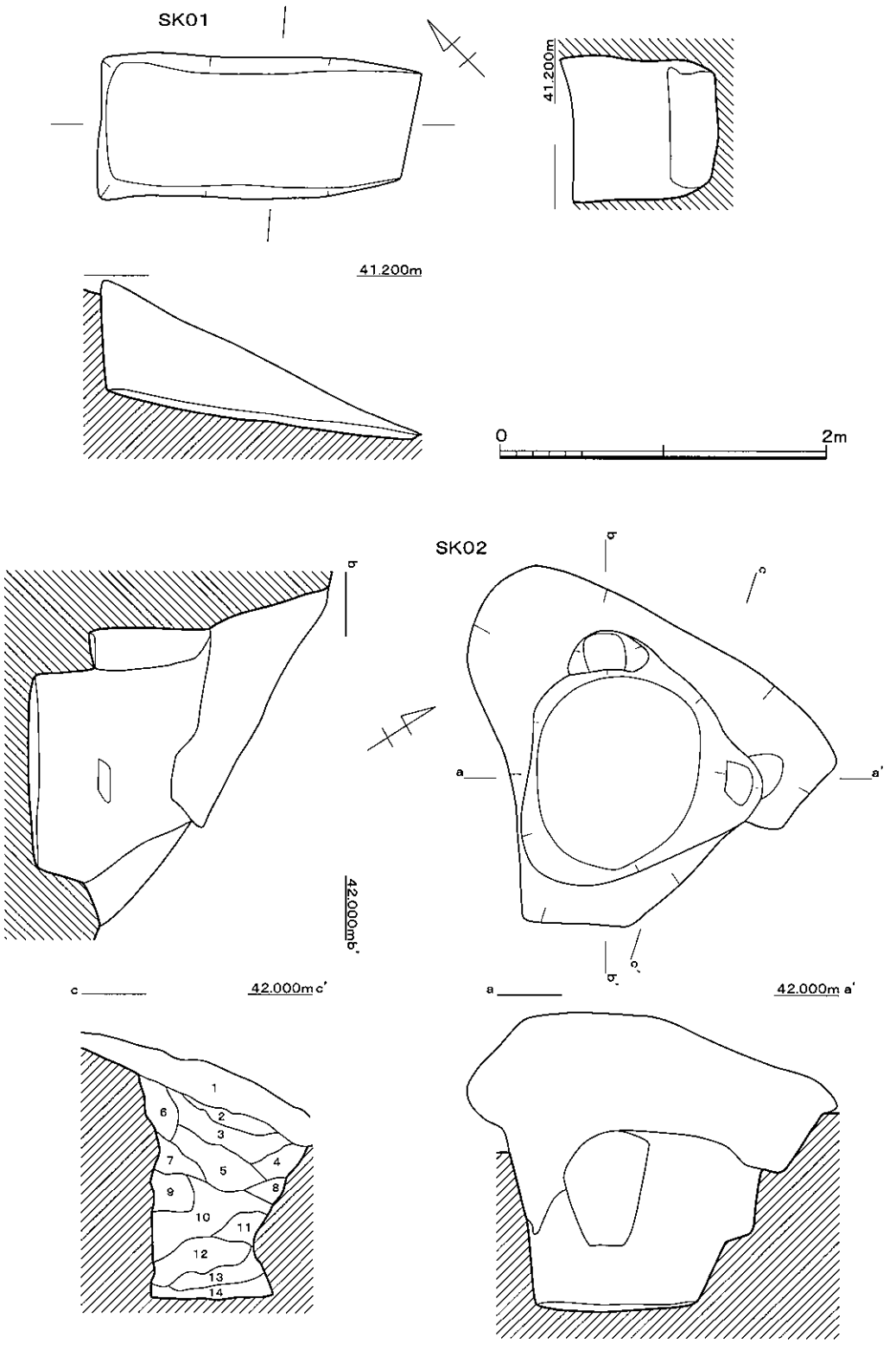
調査区南側のＳＸ０９の斜面下、ＳＸ２０の斜面上に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸 2.16 m、短軸 1.66 m、深さ 1.31 mを測る。床面のほぼ中央およびその南側にピットが検出された。中央に検出されたピットの深さは 0.14 mを測る。また下層埋土中より石鏃が出土した。

出土遺物（第 60 図、図版 68）

石器（489 ～ 491） 489・490 は石鏃である。489 は三角形を呈し、抉りは付いていない。安山岩製である。490 は二等辺三角形を呈し、浅い抉りを入れる。黒曜石製である。491 は用途不明品である。面取りのような加工を行っている。

ＳＫ０６（第 61 図）

調査区の南東側斜面裾部の標高 38.0 m付近に広がる平坦部端に位置する。ＳＸ０７のすぐ東側



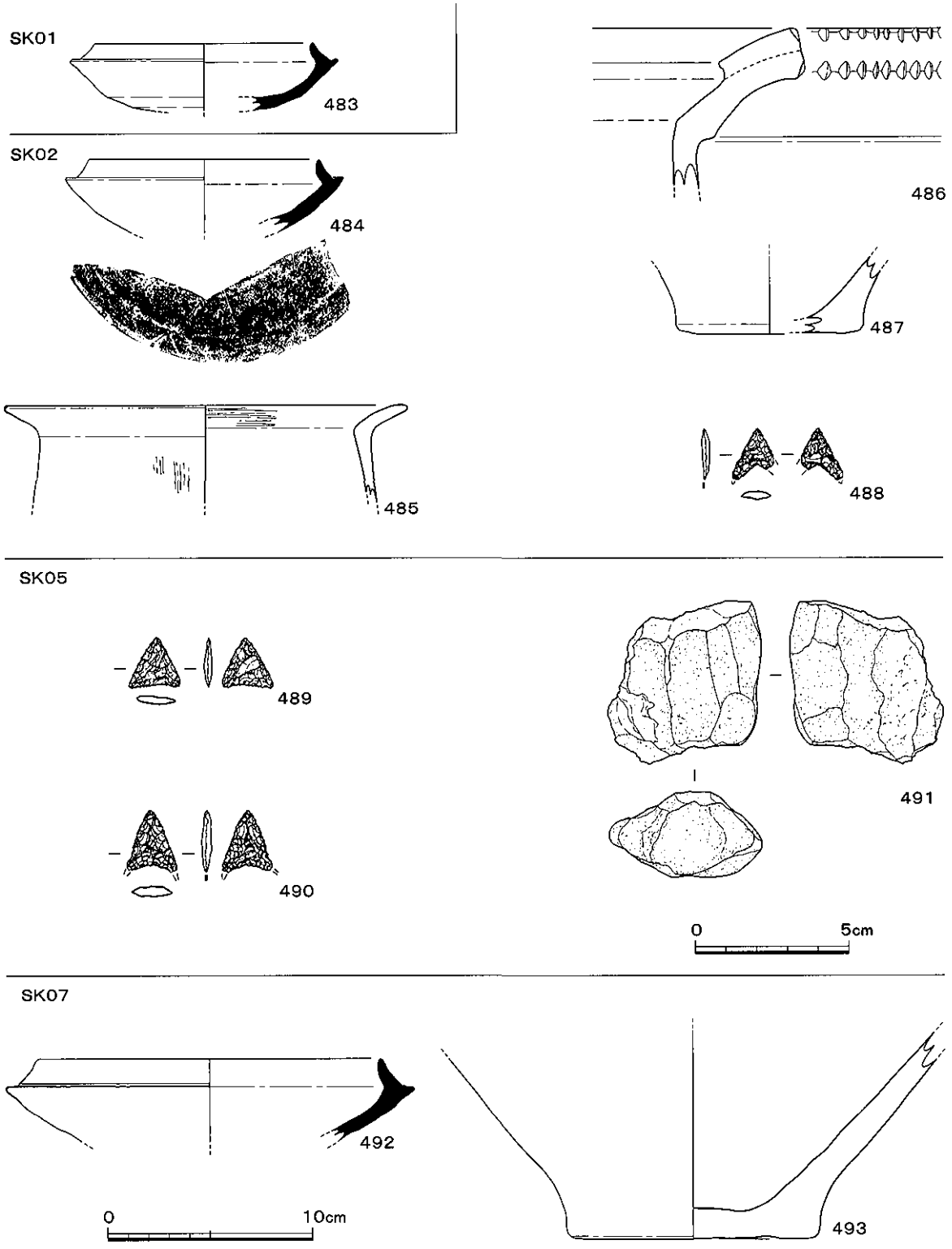
1. にぶい褐色～にぶい黄橙色土(7.5YR5/4～10YR6/4)径1～3mmの砂粒、径1mm前後の礫(地山礫)を多く含む。しまり強い。
2. にぶい黄褐色土(10YR5/4)径1～3mmの砂粒、径1cm大の礫(地山礫)を多く含む。やや粘質。しまりあり。
3. にぶい黄橙色土(10YR6/4)径1～3mmの砂粒を少し、炭をわずかに含む。しまりややあり。均一。(自然堆積)
4. にぶい褐色土ブロック混にぶい黄橙色土(7.5YR5/4・10YR6/4)径1～5mmの砂粒多く含む。(地山崩落土)
5. にぶい黄橙色土(10YR6/4)径1～5mmの砂粒少し含む。炭化物含む。3層より粒径細かい。しまりややあり。
6. 4層と同じ。
7. にぶい褐色粘質土(7.5YR5/4)しまり強い。地山崩落土。
8. にぶい褐色粘質土(7.5YR5/4)しまり強い。地山風化礫混じる。
9. にぶい褐色土(7.5YR5/3)灰白色礫(7.5YR8/2)ブロックで混じる。地山礫の崩落土。
10. にぶい黄褐色粘質土・にぶい黄橙色土(10YR5/4・10YR7/2)互層。縞状。炭化物を多く含む。しまり弱い。
11. にぶい黄橙色粘質土(10YR7/2)しまり弱い。
12. 地山風化土ブロック混にぶい黄褐色土(10YR5/3)しまり弱い。(地山土70%)
13. 地山風化土小ブロック混褐色粘質土(10YR4/4)しまりあり。(地山土30%ラミナ状)
14. 地山風化土ブロック混灰黄褐色粘質土(10YR6/2)しまりあり。(地山土80%)

第59図　13次SK01・02実測図（SK01は1／40、SK02は1／60）

にある。平面形は「L」字状を呈し、長さ1.98 m、幅1.38 m、深さ0.32 mを測る。埋土中から須恵器・土師器が出土した。

ＳＫ０７（第62図、図版35）

調査区南側斜面にあり、ＳＫ１３のすぐ西側に隣接する。直径約2.20 mの円形を呈し、深さ2.08 mを測る。床面は平坦で、中心より北側にややずれた位置にピットが見られた。ピットの深



第60図　13次SK01・02・05・07出土遺物実測図（488～491は1／2、他は1／3）

さ0.23ｍを測る。埋土はにぶい黄褐色土を主体とする。弥生土器・須恵器が出土した。

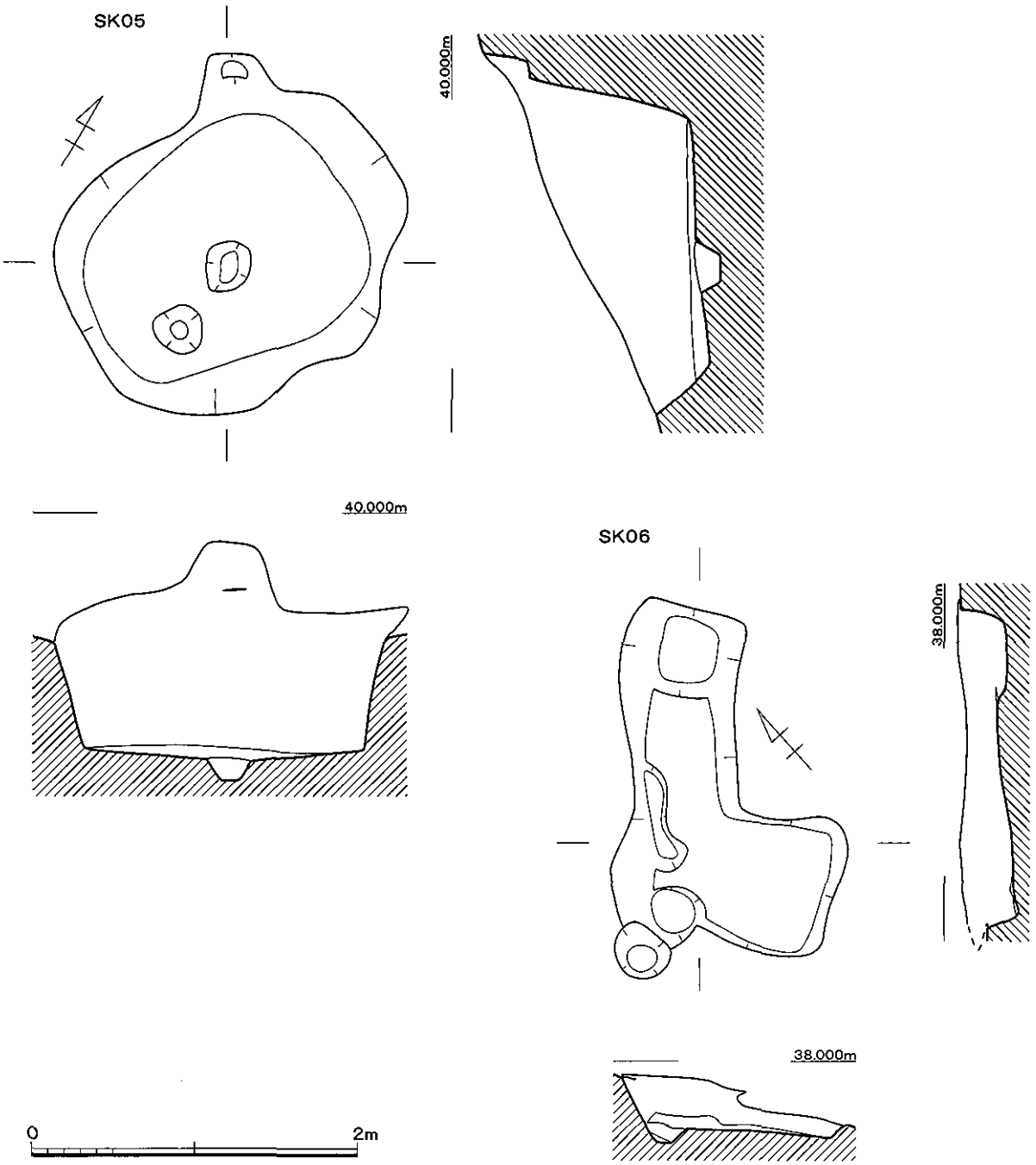
出土遺物（第60図、図版68）

須恵器（492） 杯H身で、復元口径16.8cmを測る。受け部内面の立ち上がりは内傾しつつ端部は直立する。

弥生土器（493） 壺である。底部は直立ぎみに立ち上がり体部は直線的に開く。底部は平底である。

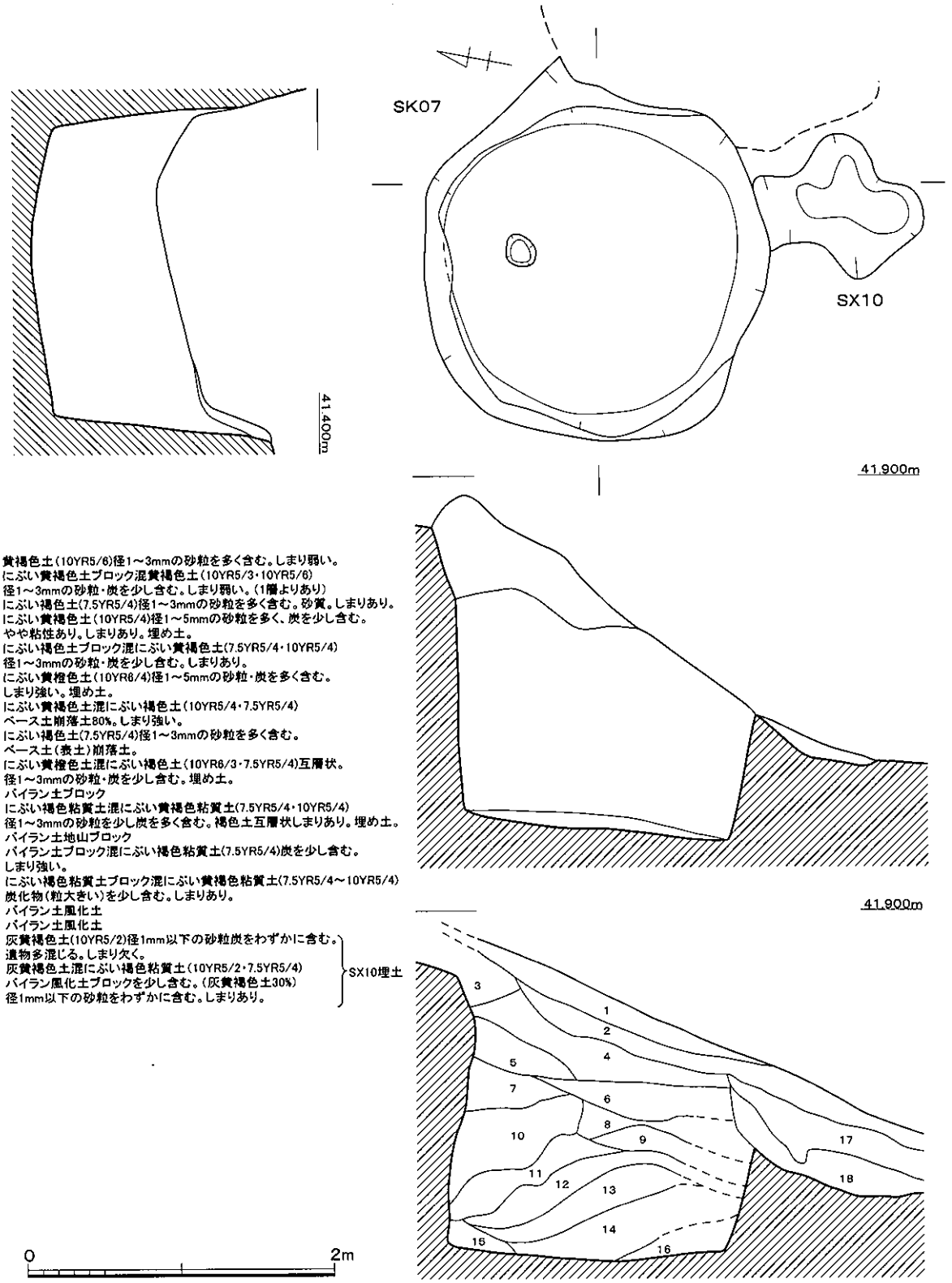
ＳＫ０８（第63図、図版36）

ＳＫ０７の南側斜面に位置する。隅丸長方形を呈し、等高線に沿う方向に主軸をおく。長さ2.56ｍ、幅2.51ｍ、深さ1.71ｍである。床面の長さ1.76ｍ、幅1.62ｍを測る。遺構内を掘り

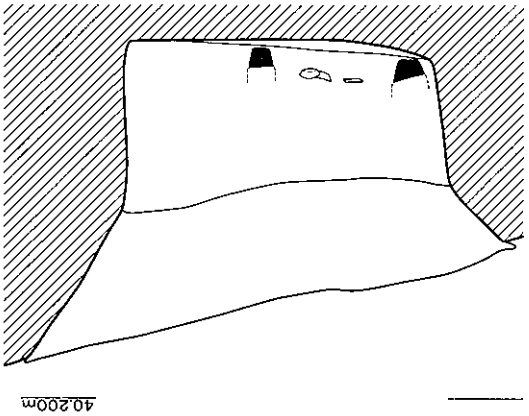


第61図 13次SK05・06実測図（1／40）

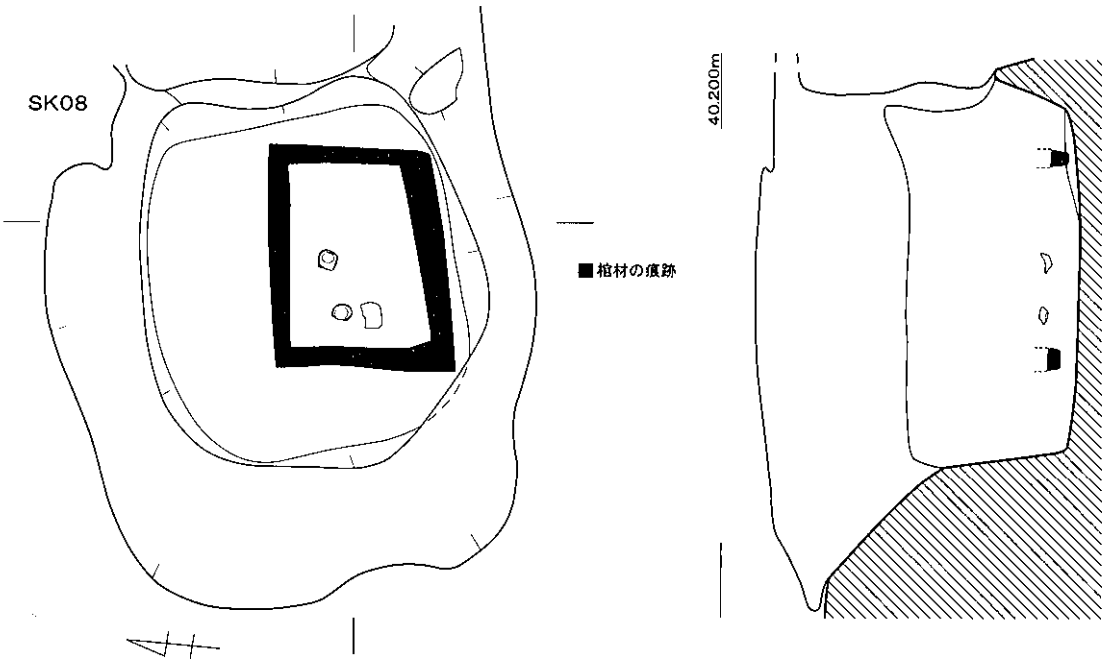
下げていくと、南側に片寄った位置から、木棺の痕跡と思われるにぶい黄褐色を呈した有機質の腐植土が認められた。長さ1.17 m、幅0.94 mで、厚みは0.10 m前後を測る。20層上面からは、弥生土器が出土した。

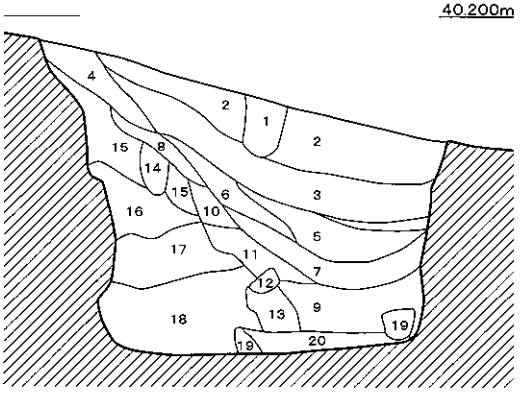


第62図　13次SK07・SX10実測図（1／40）

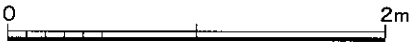


1. にぶい黄褐色土(10YR5/4)径1mm前後の砂粒をわずかに含む。
しまりあり。
2. にぶい黄橙色土(10YR6/4)にぶい橙色土(7.5YR6/4)
灰黄褐色土(10YR4/2)が少し混じる。径1～3mmの砂粒を少し含む。
しまり弱い。やや砂質(流入土)
3. にぶい橙色～にぶい褐色土(7.5YR6/4～5/4)
褐灰色土(10YR5/1)わずかに含む。径1～3mmの砂粒を多く含む。
しまり弱い。やや砂質(流入土)
4. にぶい黄橙色土(10YR6/3)径1mm前後の砂粒・炭をわずかに含む。
しまりあり。(流入土)
5. にぶい黄褐色土混にぶい褐色粘質土(10YR5/4・7.5YR5/4)
互層状(水平)黄褐色土20%。径1mm前後の砂粒わずかに含む。
しまりあり。崩落土。
6. にぶい黄橙色粘質土(10YR6/3)径1mm前後の砂粒をわずかに含む。
しまり強い。
7. にぶい褐色粘質土ブロック混にぶい黄橙色砂質土(7.5YR5/4・10YR7/2)
径1～3mmの砂粒を少し、炭をわずかに含む。しまり強い。人為的な土。
8. にぶい黄褐色土(10YR5/4)径2～5mmの砂粒・炭を多く含む。
上面に炭化物集中して分布。しまり強い。人為的崩落土。
9. にぶい褐色粘質土ブロック混にぶい黄褐色粘土
(7.5YR5/4・10YR5/4)しまり強い。人為的崩落土。





10. バイラン土混にぶい褐色～にぶい黄褐色土(7.5YR5/4～10YR5/4)
径2～5mmの砂粒多く含む。しまり固い。
11. にぶい黄褐色粘質土混にぶい褐色土(10YR5/4・7.5YR5/4)
バイラン土少し混じる。径1mm前後の砂粒わずかに含む。
しまり強い。
12. にぶい黄褐色土(10YR4/3)炭を多く含む。有機質、しまりあり。
13. にぶい黄褐色土(10YR5/3)バイラン土少し混じる。
にぶい褐色粘質土が小ブロック状に混じる。
しまりあり。18層の動いた土。
14. にぶい黄橙色土(10YR6/4)径1～3mmの砂粒を少し含む。
にぶい褐色土ブロック(7.5YR5/4)を壁ぎわに少し含む。
しまりあり。
15. にぶい褐色砂質土(7.5YR5/4)バイラン土ブロックを
少し含む。径2～3mmの砂粒を少し含む。しまり強い。
16. にぶい黄褐色粘質土(10YR5/3)径1～3mmの
砂粒・炭を少し含む。しまり強い。
17. バイラン土ブロック混にぶい褐色粘質土(7.5YR5/4)
バイラン土左下がりの互層状に入る。
18. バイラン土ブロックにぶい褐色粘質土・
にぶい黄褐色土混土(7.5YR5/4・10YR5/4)しまり強い。
19. にぶい黄褐色土(10YR5/4)有機質。しまり弱い。
棺材の痕跡。
20. にぶい黄橙色粘土(10YR7/2)にぶい褐色粘質土をうすく挟む。しまりあり。



第63図　13次SK08実測図（1／40）

出土遺物（第64図、図版68）

弥生土器（494・495） いずれも甕である。494は平底で、495はやや底部が上がる。

ＳＫ０９（第65図、図版36）

ＳＫ０８のすぐ東側に隣接している。平面形は長方形を呈し、斜面の傾斜する方向に主軸をおく。長さ2.18ｍ、幅1.43ｍ、深さ1.22ｍを測る。弥生土器片が出土している。

ＳＫ１０（第65図、図版37）

調査区南西の斜面に位置する。遺構上端は直径約2.15ｍのやや不整な円形を呈するが、床面は長さ1.44ｍ、幅1.31ｍの方形を呈する。深さ1.97ｍである。埋土中より弥生土器片と石鏃が出土している。

出土遺物（第64図、図版68）

石器（496） 石鏃である。二等辺三角形を呈し、基部に抉りを入れる。

ＳＫ１１（第66図、図版37）

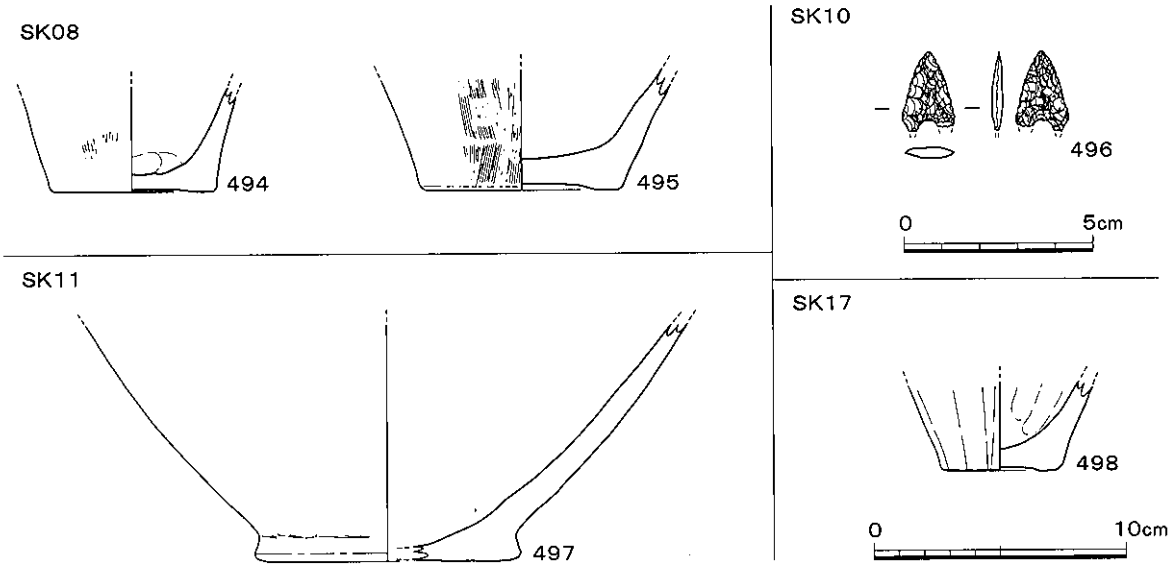
調査区南側の斜面にあり、ＳＫ１２の南東に位置する。平面形は円形を呈し、遺構上端は直径約2.16ｍ、深さ1.83ｍを測る。床面は長軸1.86ｍ、短軸1.47ｍの楕円形を呈し、等高線に沿う方向に主軸をおく。埋土中より弥生土器片・石器が出土している。

出土遺物（第64図、図版68）

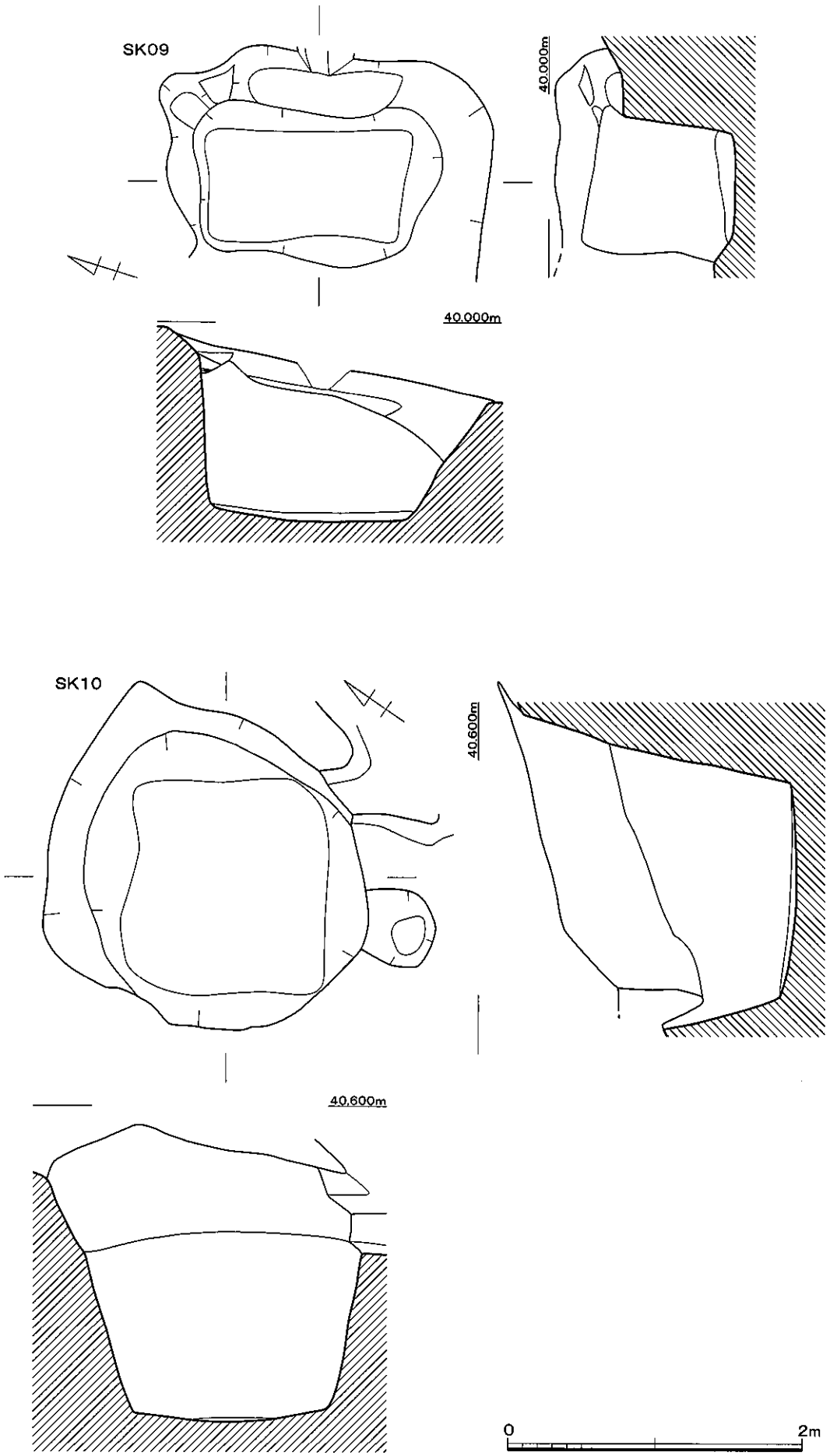
弥生土器（497） 甕である。底部は平底で横に突出する。体部は底部からくびれずに立ち上がる。

ＳＫ１２（第67図、図版38）

ＳＸ０９の南西にあり、斜面裾の小規模な平坦面上に位置する。平面形は長方形を呈し、長さ2.46ｍ、幅1.63ｍ、深さ1.97ｍを測る。等高線に沿う方向に主軸をおく。床面は平坦で四隅か



第64図 13次SK08・10・11・17出土遺物実測図（496は1／2、他は1／3）



第65図　13次SK09・10実測図（1／40）

らピットが検出され、また、北西側の長辺の中央にもピットが１つ検出された。最も深いピットは、深さ 0.26 mを測る。

ＳＫ１３（第 68 図、図版 38）

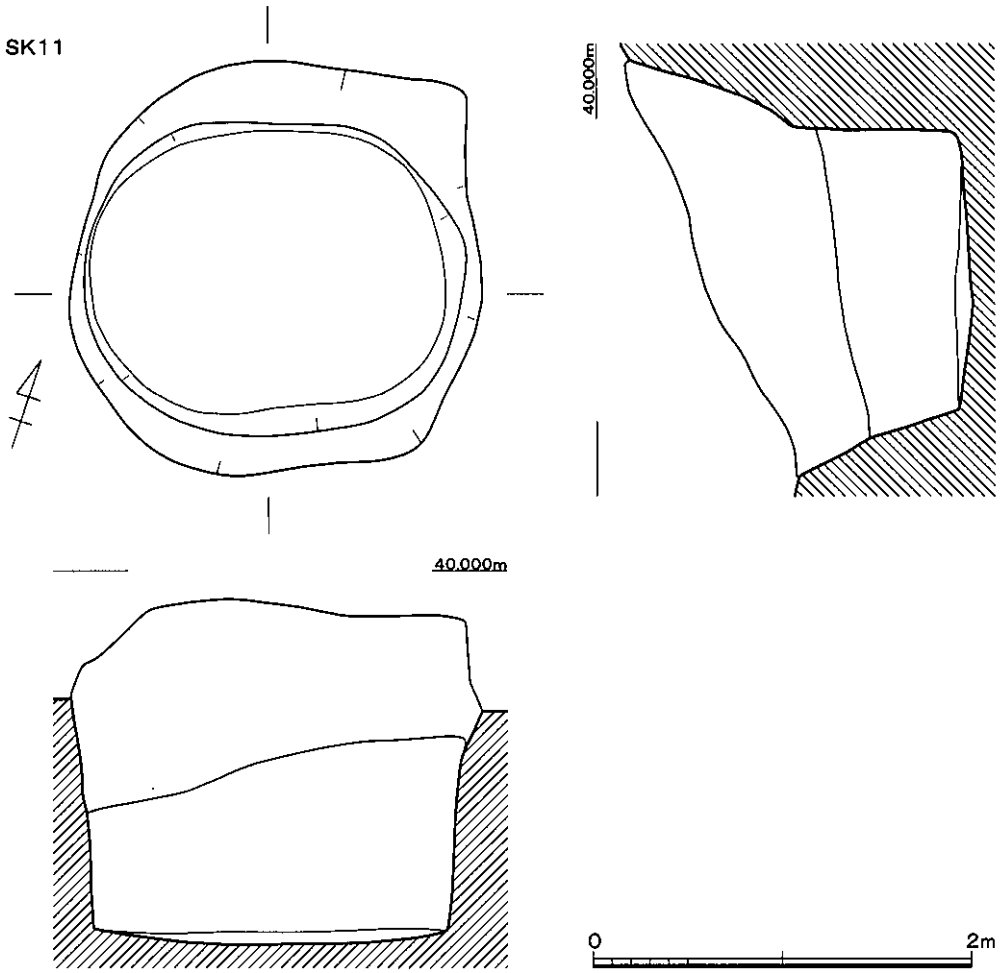
調査区南側のＳＸ０７の東側に隣接する。遺構上端は不整形を呈するが、床面は楕円形状を呈し、ほぼ平坦である。長さ 2.39 m、幅 2.18 mで、遺構の上端から床面までの高さ 1.71 mを測る。埋土はにぶい黄橙色土～にぶい褐色土を主体とし、上位には古墳後期の遺物を含む層が堆積していた。

ＳＫ１６（第 69 図、図版 39）

１号窯跡の南西側の斜面上に位置する。平面形は直径約 1.62 mの円形を呈し、深さは 2.33 mを測る。床面は平坦面をなす。

ＳＫ１７（第 69 図、図版 38）

調査区南側、ＳＫ１３の南側斜面に隣接する。平面形はやや不整な長方形を呈し、長さ 1.94 m、幅 1.23 m、深さ 1.25 mを測る。埋土中から弥生土器片が出土した。



第66図　13次SK11実測図（1／40）

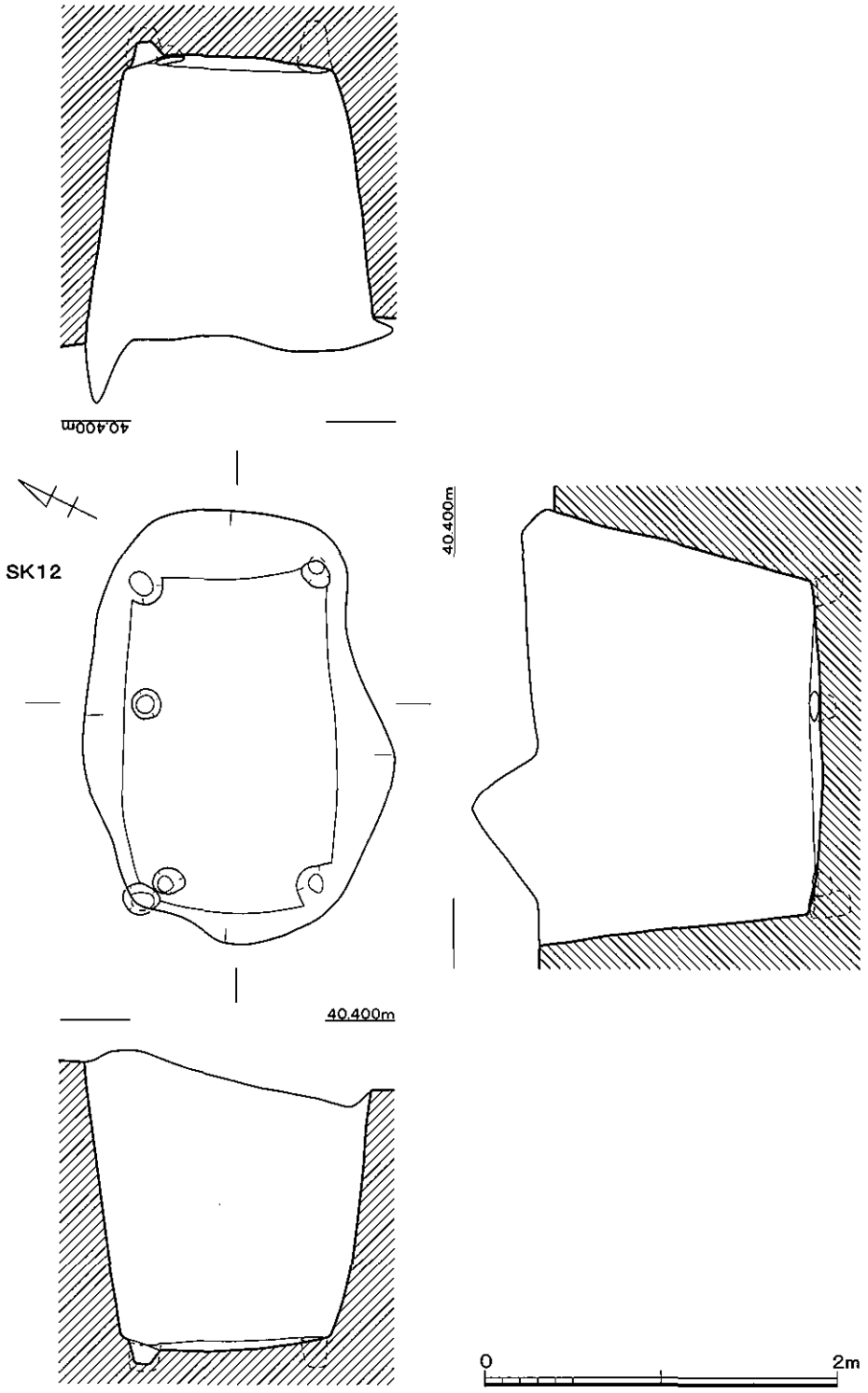
出土遺物（第 64 図、図版 69）

弥生土器（498） 甕である。体部外面で縦方向のナデが見られる。

（３）その他の遺構

ＳＸ０１（第 70 図）

1 号窯跡が位置する斜面の裾部にある、浅い竪穴状の遺構である。灰原の灰層・窯造成土の下で

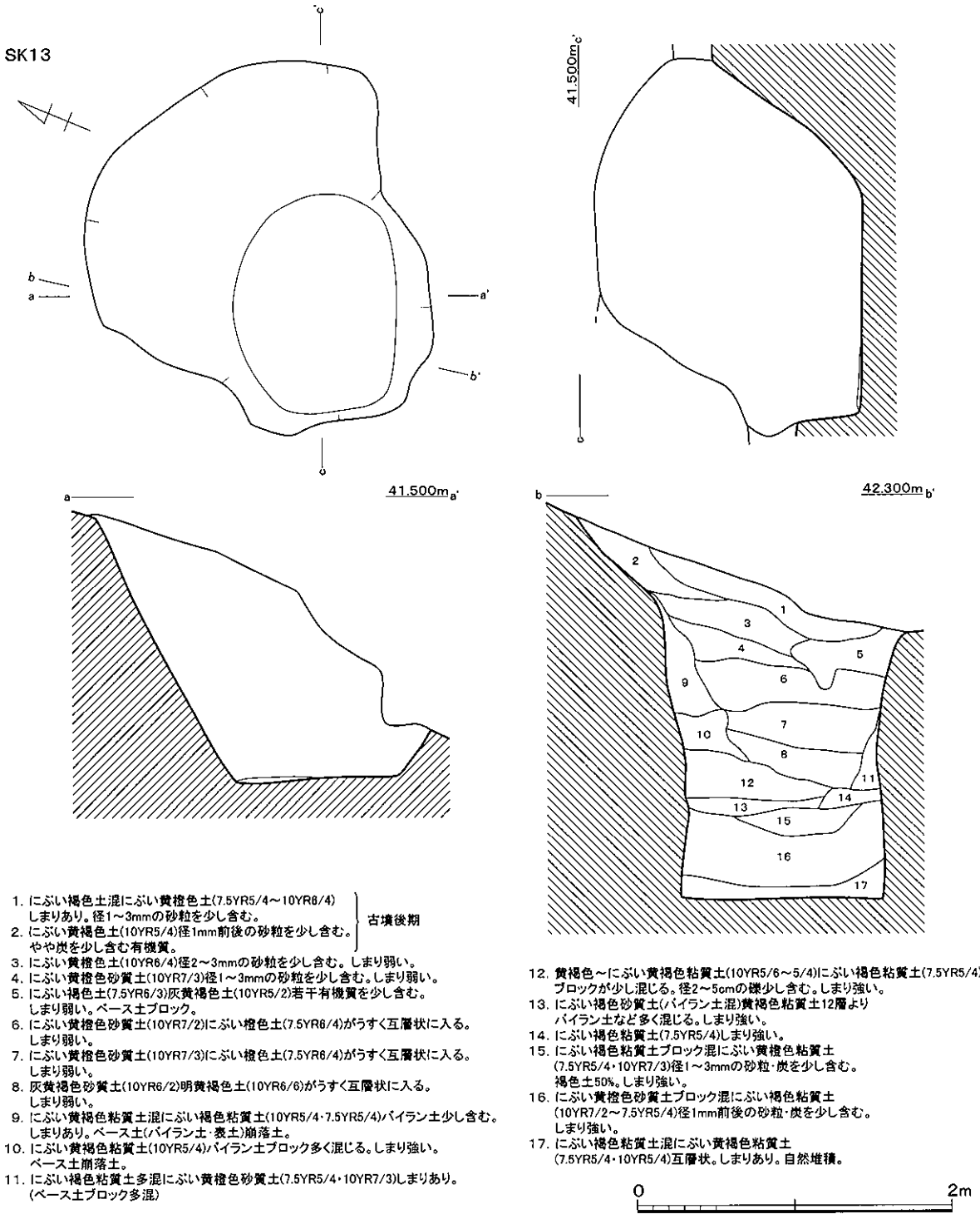


第67図　13次SK12実測図（1／40）

確認された。等高線に沿う方向に主軸をおく。長さ5.46ｍ、幅2.19ｍ、深さ0.52ｍを測る。南東側の床面は削平を受けていた。床面はほぼ平坦となり、斜面を断面「L」字形に掘り込んでテラス状の平坦部を造りだしている。床面にはピットが認められ、最も深いもので深さ0.33ｍを測る。

ＳＸ０２（第71図）

窯跡の焚口のすぐ南側に広がる竪穴状の遺構である。灰原の灰層・窯造成土の下で確認された。長さ8.48ｍ、幅2.07ｍを測り、等高線に沿う方向に主軸をおく。深さ0.74～0.81ｍを測る。Ｓ



1. にぶい褐色土混にぶい黄橙色土(7.5YR5/4～10YR6/4)しまりあり。径1～3mmの砂粒を少し含む。
2. にぶい黄褐色土(10YR5/4)径1mm前後の砂粒を少し含む。やや炭を少し含む有機質。

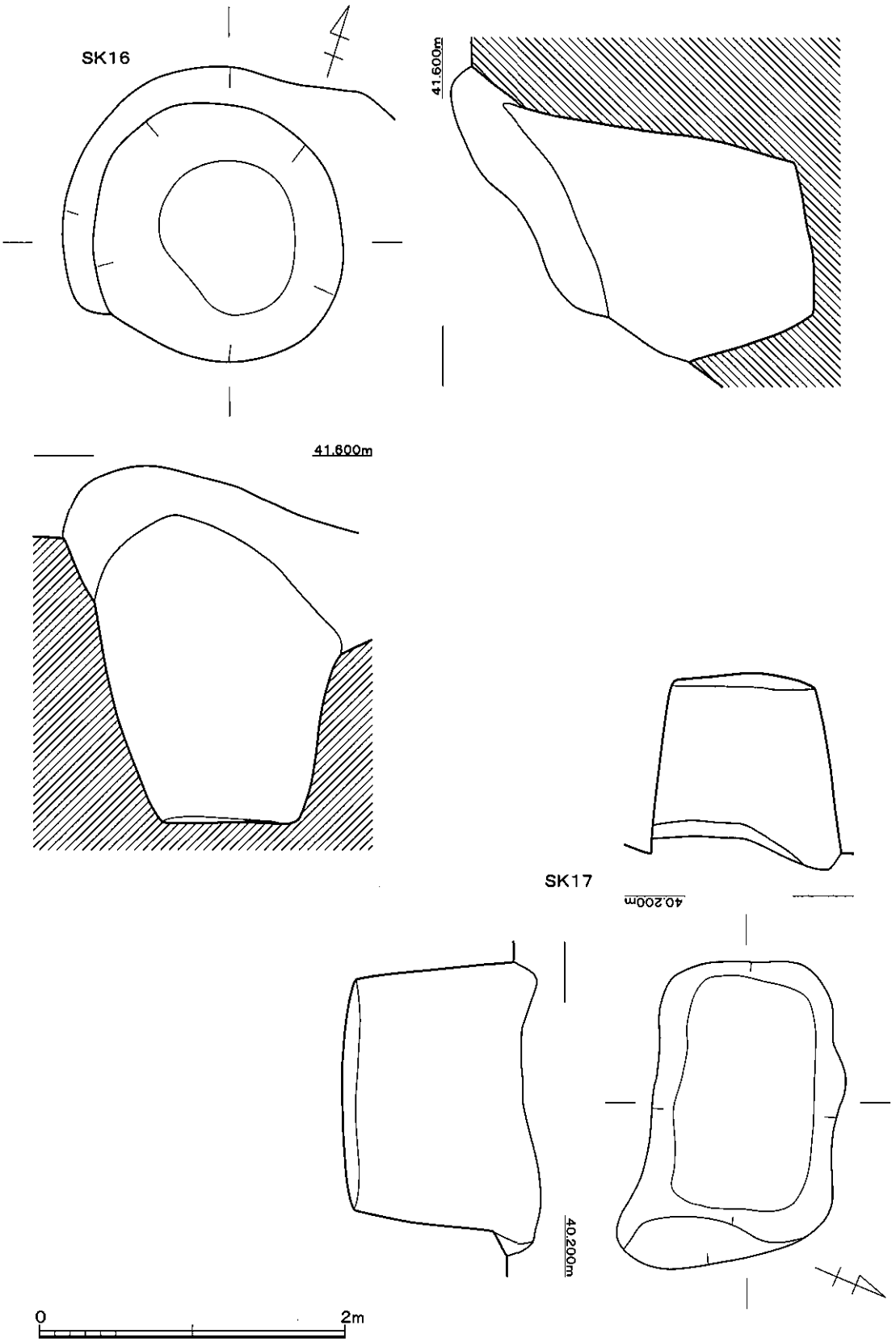
古墳後期

3. にぶい黄橙色土(10YR6/4)径2～3mmの砂粒を少し含む。しまり弱い。
4. にぶい黄橙色砂質土(10YR7/3)径1～3mmの砂粒を少し含む。しまり弱い。
5. にぶい褐色土(7.5YR6/3)灰黄褐色土(10YR5/2)若干有機質を少し含む。しまり弱い。ベース土ブロック。
6. にぶい黄橙色砂質土(10YR7/2)にぶい橙色土(7.5YR6/4)がうすく互層状に入る。しまり弱い。
7. にぶい黄橙色砂質土(10YR7/3)にぶい橙色土(7.5YR6/4)がうすく互層状に入る。しまり弱い。
8. 灰黄褐色砂質土(10YR6/2)明黄褐色土(10YR6/6)がうすく互層状に入る。しまり弱い。
9. にぶい黄褐色粘質土混にぶい褐色粘質土(10YR5/4・7.5YR5/4)バイラン土少し含む。しまりあり。ベース土(バイラン土・表土)崩落土。
10. にぶい黄褐色粘質土(10YR5/4)バイラン土ブロック多く混じる。しまり強い。ベース土崩落土。
11. にぶい褐色粘質土多混にぶい黄橙色砂質土(7.5YR5/4・10YR7/3)しまりあり。(ベース土ブロック多混)
12. 黄褐色～にぶい黄褐色粘質土(10YR5/6～5/4)にぶい褐色粘質土(7.5YR5/4)ブロックが少し混じる。径2～5cmの礫少し含む。しまり強い。
13. にぶい褐色砂質土(バイラン土混)黄褐色粘質土12層よりバイラン土など多く混じる。しまり強い。
14. にぶい褐色粘質土(7.5YR5/4)しまり強い。
15. にぶい褐色粘質土ブロック混にぶい黄橙色粘質土(7.5YR5/4・10YR7/3)径1～3mmの砂粒・炭を少し含む。褐色土50%。しまり強い。
16. にぶい黄橙色砂質土ブロック混にぶい褐色粘質土(10YR7/2～7.5YR5/4)径1mm前後の砂粒・炭を少し含む。しまり強い。
17. にぶい褐色粘質土混にぶい黄褐色粘質土(7.5YR5/4・10YR5/4)互層状。しまりあり。自然堆積。

0　2m

第68図　13次SK13実測図（1／40）

Ｘ０１と同様、斜面を断面「Ｌ」字形に掘り込んで平坦なテラス部分を造りだしている。床面はやや起伏が見られるものの比較的平坦面をなし、斜面下方方向にやや傾斜する。また、床面からはピットが複数認められ、最も深いもので深さ0.40ｍを測る。ＳＸ０２の掘削途中で遺構の中央にて



第69図　13次SK16・17実測図（1／40）

ＳＸ１９を検出した。

出土遺物（第72図、図版69）

須恵器（499・500） いずれも杯H身である。復元口径はそれぞれ12.4cm・11.4cmを測る。受け身部内面の立ち上がりは内傾しつつ端部が直立に近い傾きになる。

土製品（501） 土錘である。重さ45.6gを測り、ナデ調整により成形する。

ＳＸ０３（第73図、図版39・40）

ＳＫ０１の南東にあたり、斜面の裾部に位置する竪穴状の遺構である。斜面裾部に沿う方向に主軸をおく。平面形は不整形で、長さ5.70ｍ、幅1.61ｍ、深さ0.15～0.67ｍを測る。床面も不整形ではあるが平坦である。遺構がやや埋まった段階で大量の須恵器が廃棄されており、直径40cm程の大型の杯身も出土している。

出土遺物（第72・74・75図、図版69～71）

須恵器（502～517） 502は杯H蓋で、復元口径11.4cmを測る。口縁部は直立に近い傾きになり、天井部は外面約２／３範囲で回転ヘラ削りを施す。強い回転ナデのためか痕跡が明瞭に残る。

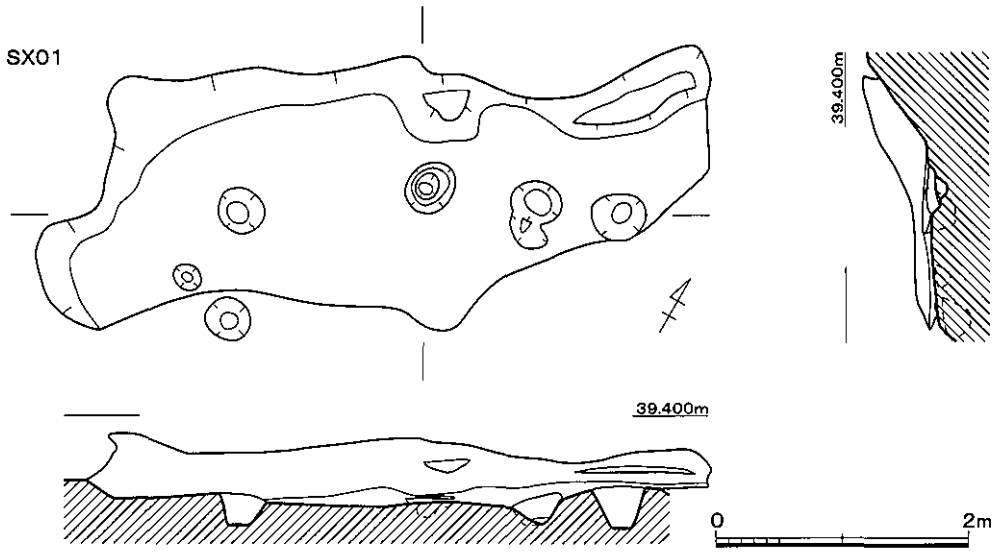
503～511は杯H身で、口径及び復元口径は9.1cm～11.3cmを測る。受け部内面の立ち上がりは内傾しつつ端部が直立に近い傾きになるもの（503～507・509）、内傾するもの（508・510・511）がある。底部外面の調整は回転ヘラ削り（503・506・510・511）とナデ調整（504・507～509）に分かれる。

512は杯Ｂ身で、口径13.2cmを測る。体部～口縁部は直線的にのび、底部に低い高台が付く。

513は鉢である。口縁端部外側に屈曲し断面三角形を呈す。体部は上位～中位まで直線的にのび、下位外面は回転ヘラ削りを施し、丸みを持たせる。また、体部外面には沈線が巡る。

514は高台付壺である。体部は球形を呈し、中位外面に沈線を施す。また、沈線間には連続斜線文を施文する。体部下位外面は回転ヘラ削りを施す。

515は大型の杯身で、口径28.1cmを測る。立ち上がりは内傾しつつ端部は直立に近い傾きになる。底部外面は回転ヘラ削りを施し、内面では同心円の当て具痕が見られる。



第70図　13次SX01実測図（1／60）

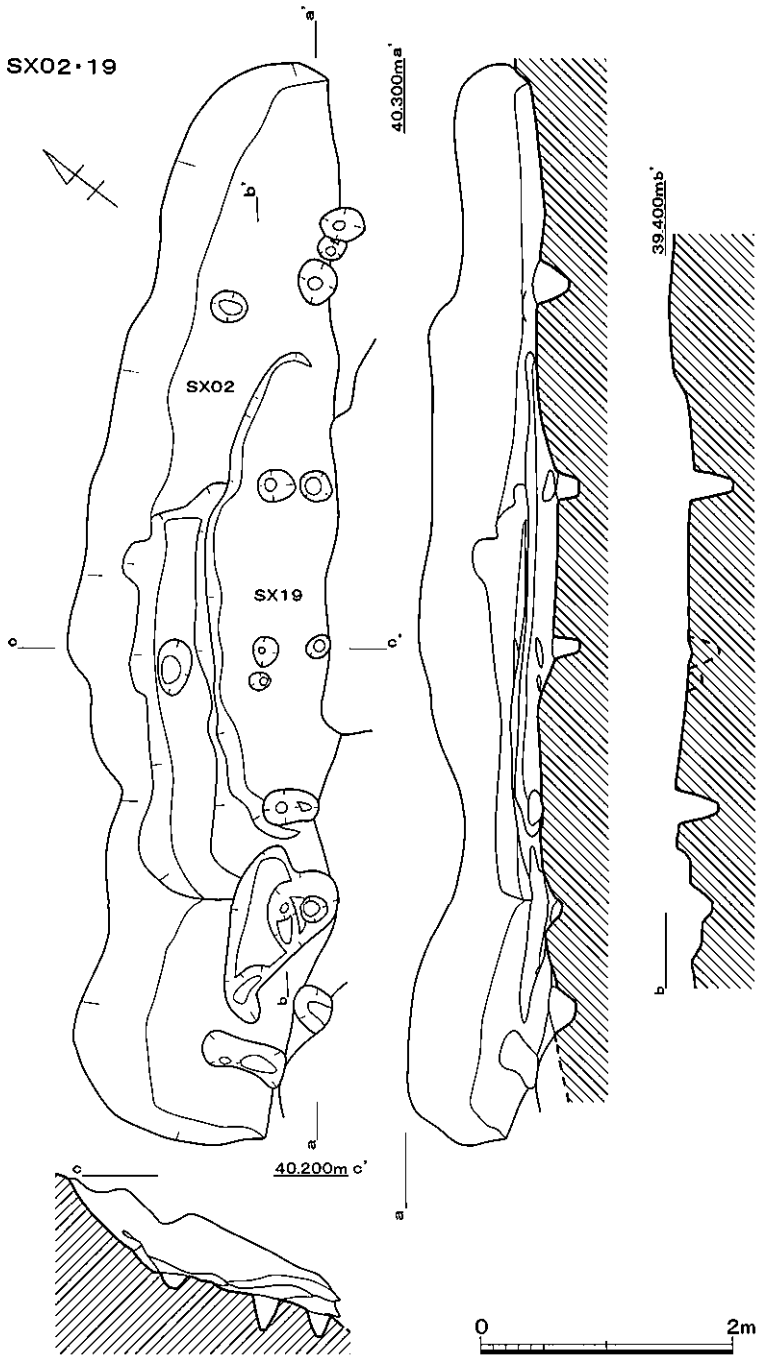
516は壺である。口径は11.6cmを測り、口縁端部は丸く仕上げる。

517は甕で、口径は21.1cmを測る。口縁端部は断面鳥頭形を呈し、頸部外面にはヘラ記号が見られる。

土師器（518～522） 518は高杯の脚部で、長脚である。

519・521は甕である。復元口径はそれぞれ14.0cm・13.2cmを測る。519の口縁部はなだらかに外反し、521は頸部に明瞭なくびれが付く。521の底部は平底を呈す。

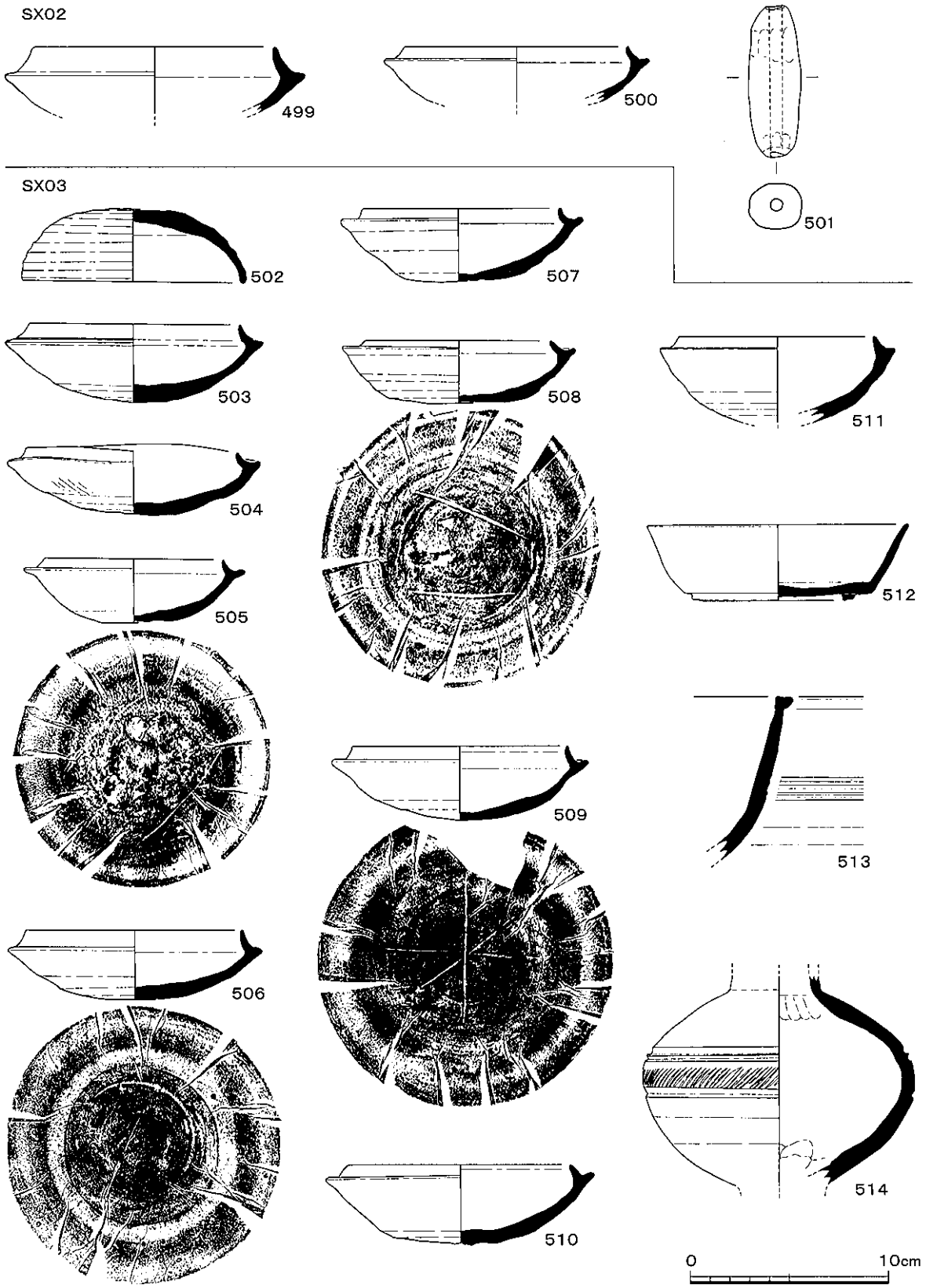
520・522は甑である。520の復元口径は22.6cmを測り、口縁部は屈曲する。体部はわずかに膨らみ、中位に把手が付く。522は体部が直線的にのび、差込式の把手が付く。



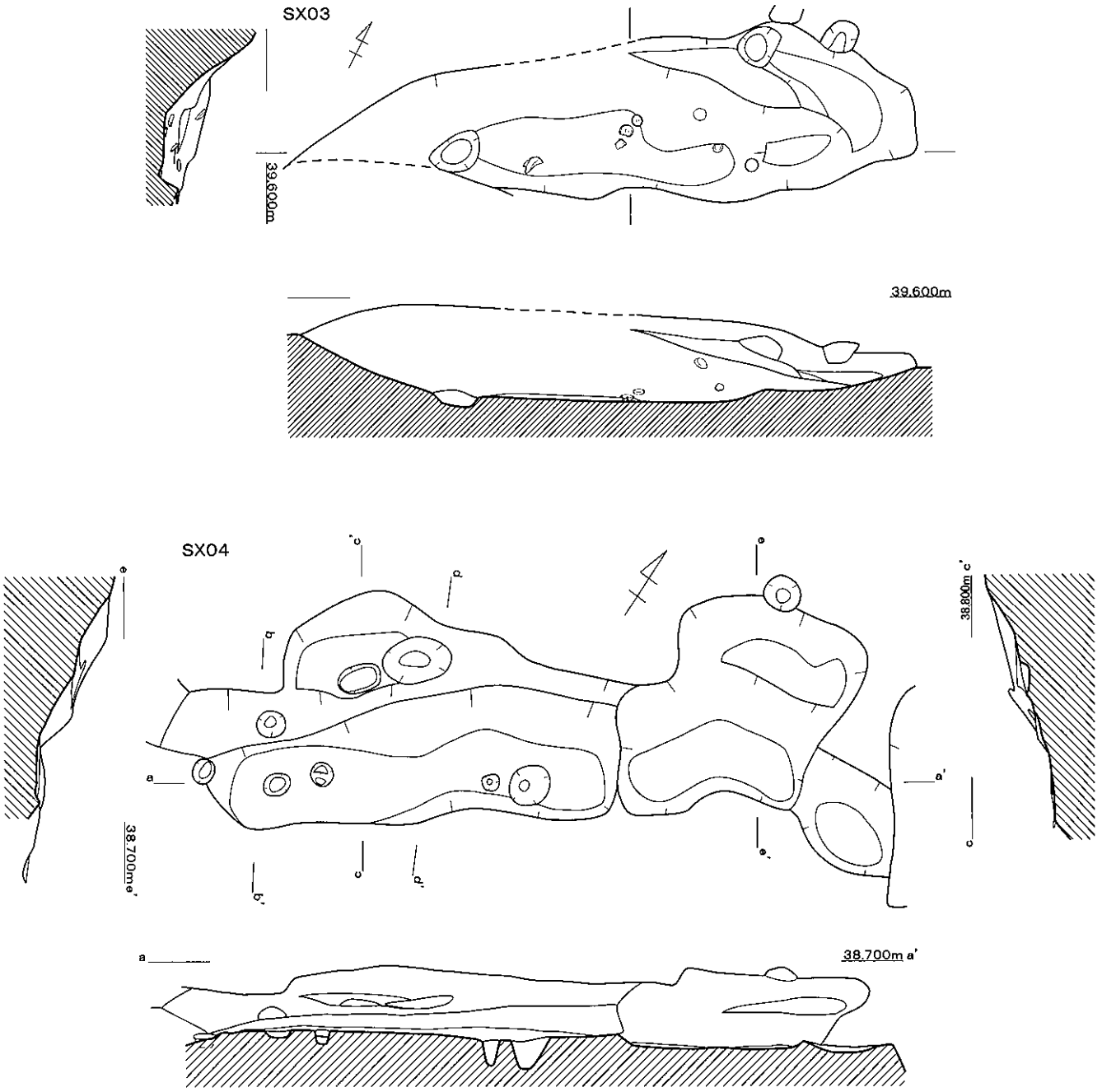
第71図 13次SX02・19実測図（1／60）

ＳＸ０４（第 73 図、図版 40）

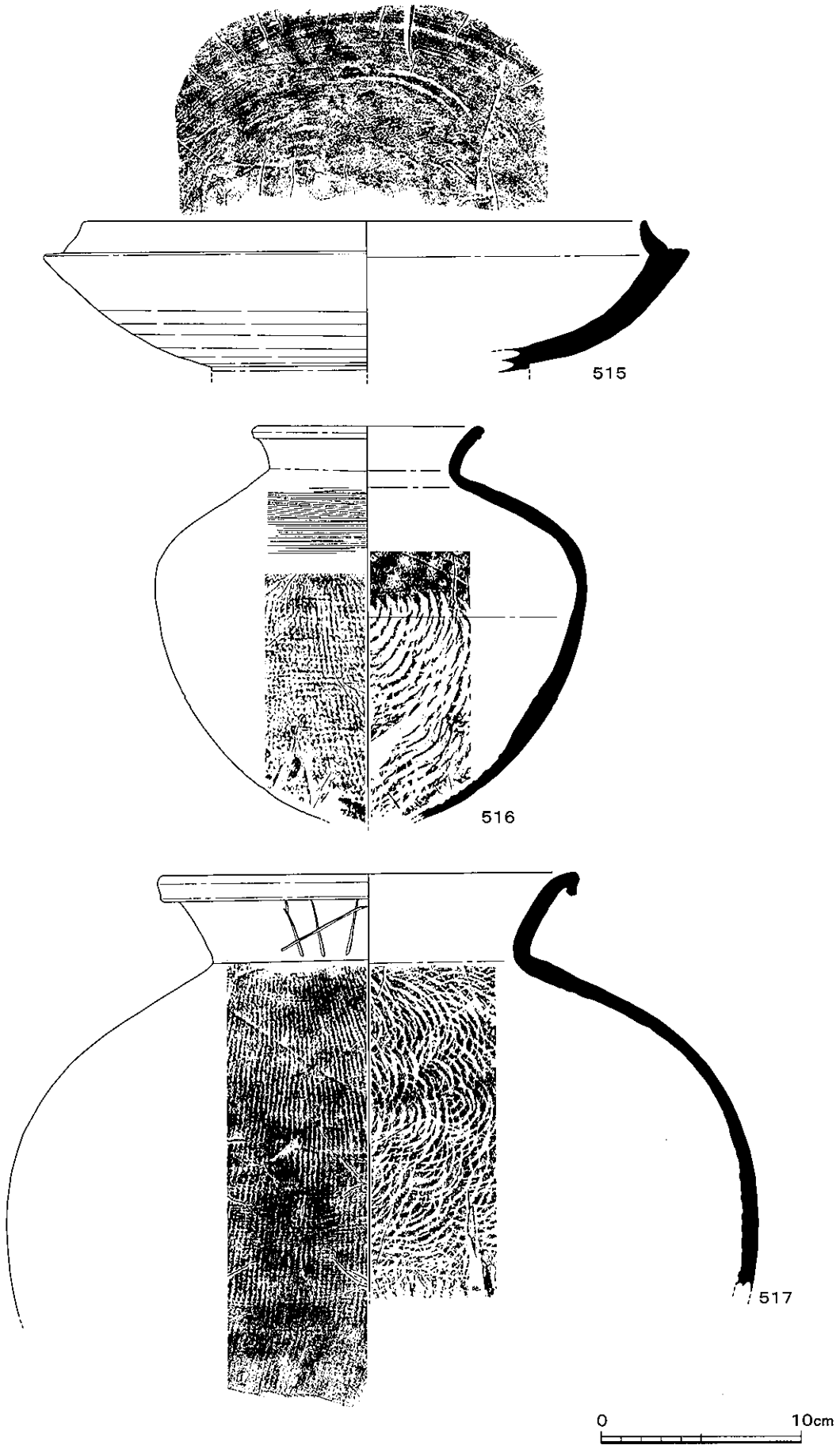
灰原の南側の斜面を、等高線に沿うようにして竪穴状に掘削されている遺構である。最大長 7.04 m、最大幅 2.25 m、深さ 0.36 m～ 0.64 mを測る。斜面上方方向に階段状の段差が見られる。



第72図　13次SX02・03出土遺物実測図①（1／3）



第73図　13次SX03・04実測図（1／60）



第74図　13次SX03出土遺物実測図②（1／3）

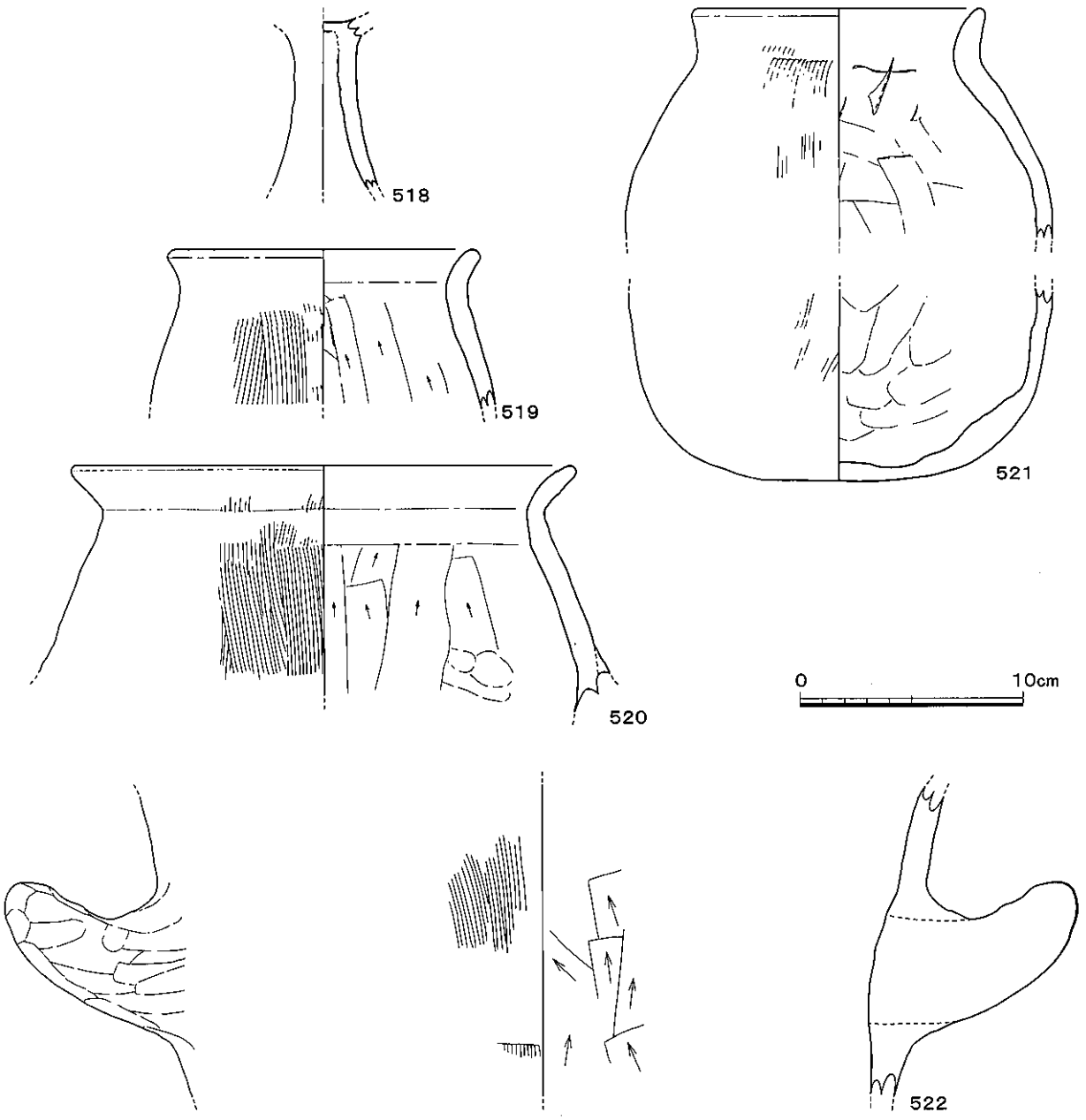
床面は小段差が見られるもののほぼ平坦で、ピットが掘られており、最も深いもので深さ 0.30 m である。埋土中より須恵器が出土している。

出土遺物（第 76 図、図版 71）

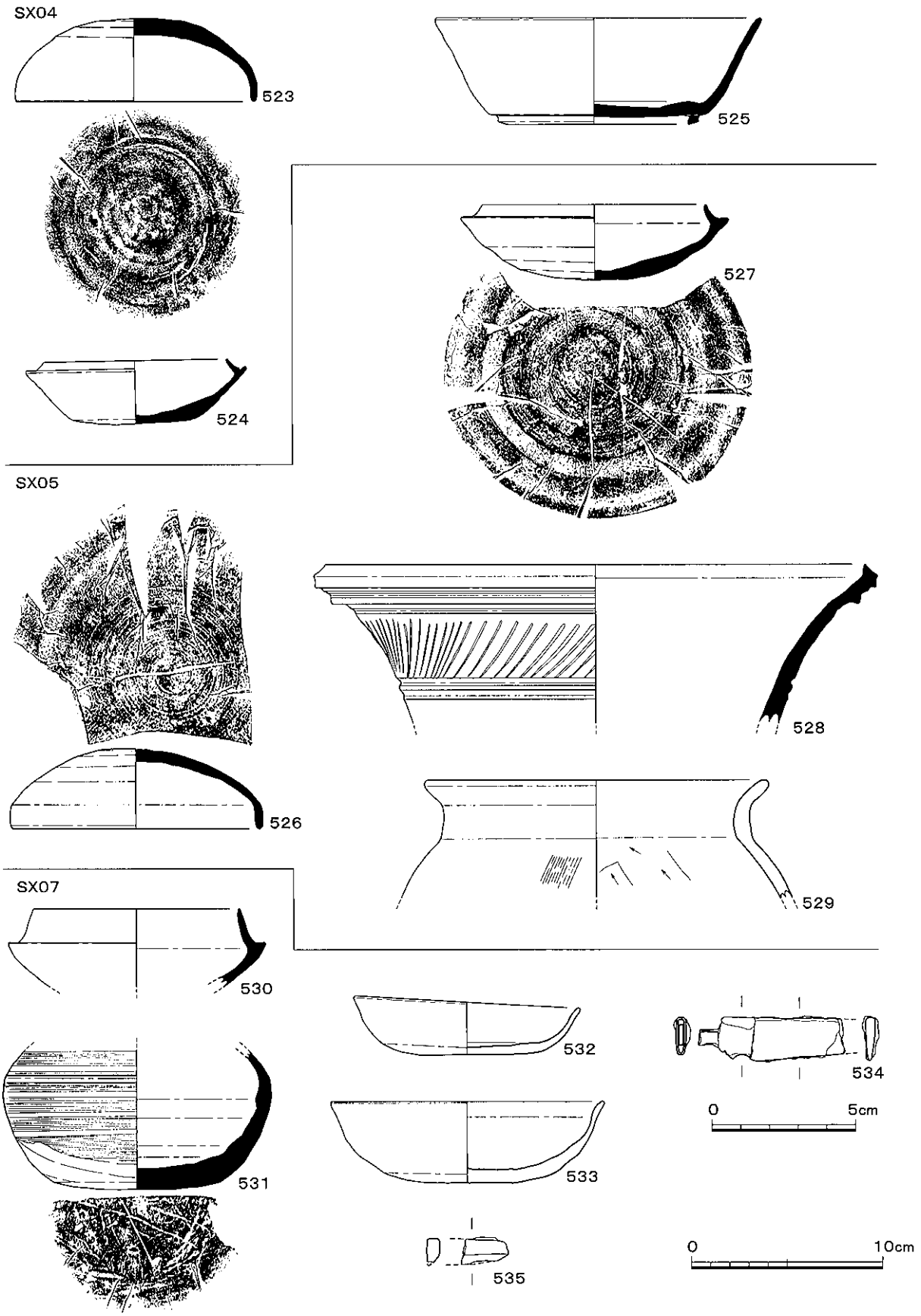
須恵器（523 ～ 525） 523 は杯H蓋で、復元口径 12.6cm を測る。口縁部は直立に近い傾きになり、天井部は外面約１／２範囲で回転ヘラ削りを施す。内面に同心円の当て具痕・シッタ痕が見られる。

524 は杯H身で、復元口径 9.7cm を測る。受け身部内面の立ち上がりは内傾し、底部外面はナデ調整を施す。

525 は杯Ｂ身で、復元口径 17.0cm を測る。体部～口縁部は直線的になり、底部には低い高台が付く。



第75図　13次SX03出土遺物実測図③（1／3）



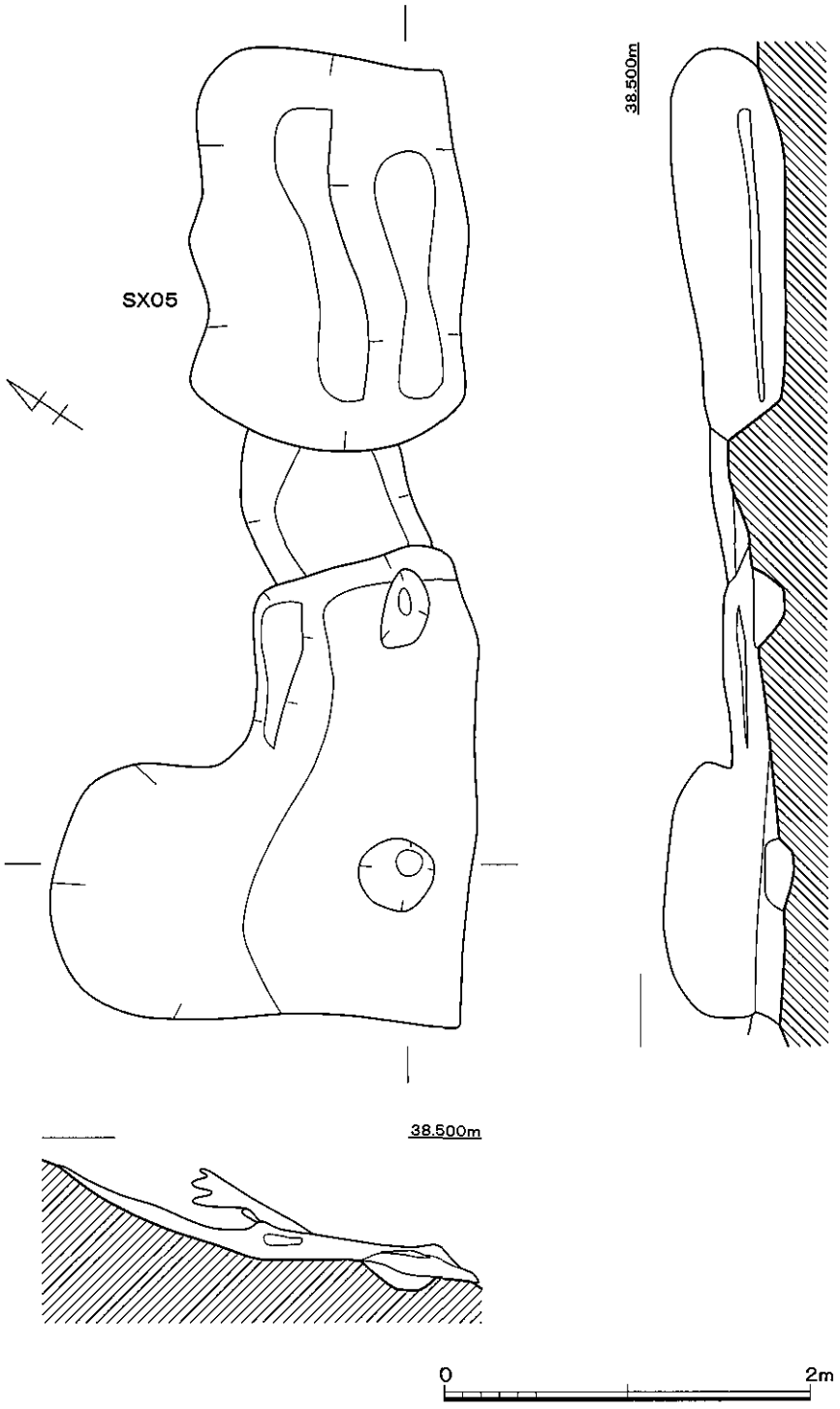
第77図　13次SX04・05・07出土遺物実測図（534・535は1／2、他は1／3）

ＳＸ０５（第 77 図、図版 40）

灰原の南東に位置し、ＳＸ０４のすぐ北側に隣接する竪穴状の遺構である。最大長 5.30 m、最大幅 2.29 m、深さ 0.10 m～0.62 mを測る。ＳＸ０４と同様、斜面上方方向に段差が見られる。また、長軸方向にも 0.30 m程の段差が見られる。床面にはピットが２箇所見られ、最も深いもので深さ 0.17 mである。埋土中より須恵器・土師器が出土している。

出土遺物（第 76 図、図版 71・72）

須恵器（526 ～ 528） 526 は杯Ｈ蓋で、復元口径 13.0cm を測る。口縁部は直立に近い傾きになり、



第77図　13次SX05実測図（1／40）

天井部は外面約２／３範囲で回転ヘラ削りを施す。

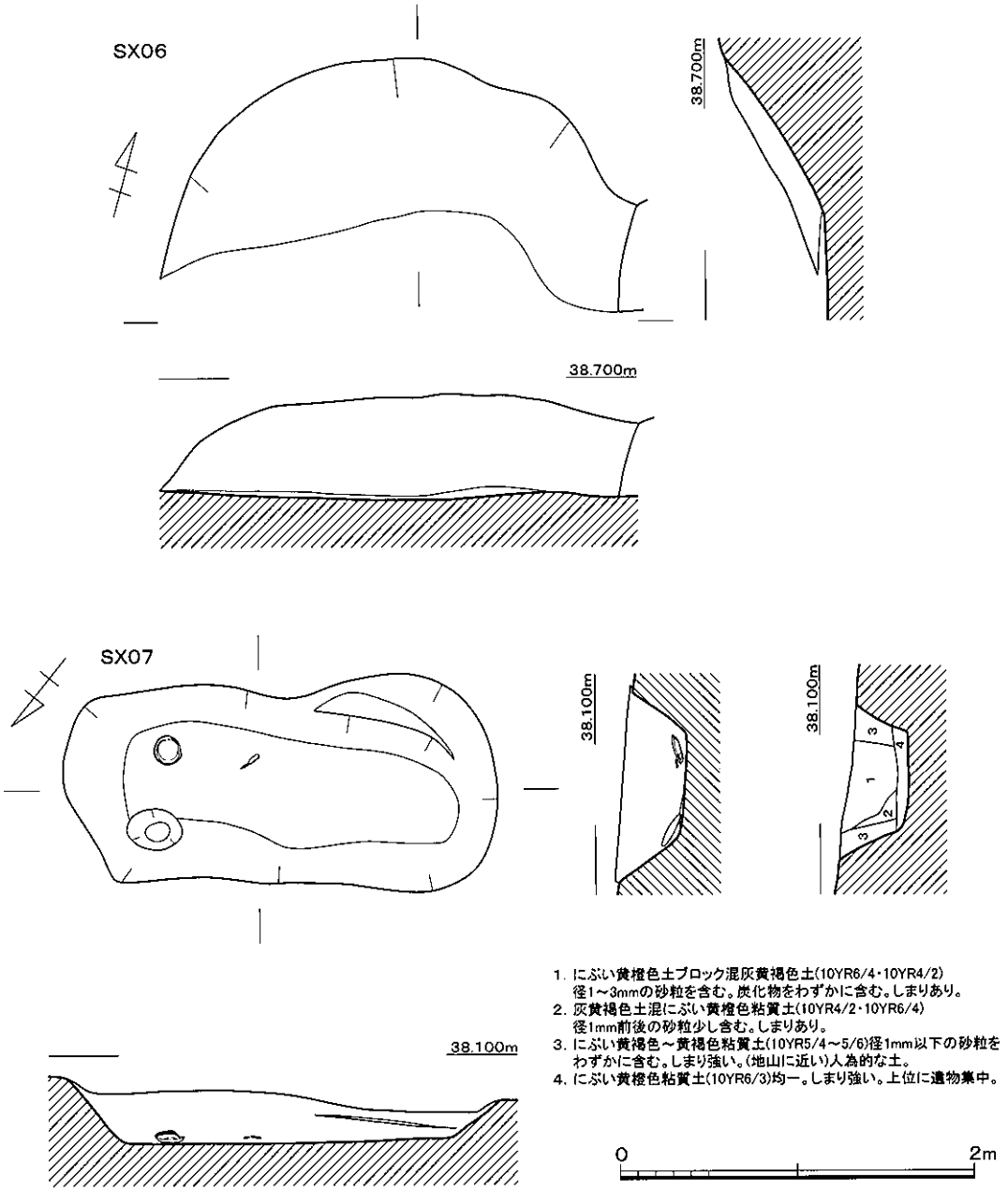
527は杯H身で、口径11.7cmを測る。立ち上がりは内傾しつつ端部が直立に近い傾きになり、底部は外面約１／２範囲で回転ヘラ削りを施す。

528は甕で、復元口径28.1cmを測る。口縁部は上面・外面に断面三角形の突帯を作り出す。頸部外面では２段に沈線を施し、沈線間に連続斜線文を施文する。

土師器（529） 甕で、復元口径18.0cmを測る。直立する頸部から口縁部は外傾する。

ＳＸ０６（第78図）

ＳＸ０４の南西側に隣接し、斜面の裾部に位置する。長さ2.59ｍ、幅0.91ｍ、深さ0.60ｍを測る。斜面裾部を斜めに削ったような遺構である。ピット等は認められなかった。



第78図　13次SX06・07実測図（1／40）

ＳＸ０７（第 78 図、図版 41）

ＳＸ０６に隣接し、斜面裾部に広がる平坦面に位置する。平面形は長方形を呈し、長さ 2.44 m、幅 1.09 m、深さ 0.37 mを測る。土層の堆積状況から木棺墓であったと思われるが、棺材等は出土していない。４層上位の北東隅から土師器椀が、また、その南側から鉄製の刀子が出土した。いずれも副葬品と思われる。

出土遺物（第 76 図、図版 72）

須恵器（530・531） 530 は杯Ｈ身で、復元口径 10.8cm を測る。受け部内面の立ち上がりは比較的長く、直立に近い傾きになる。

531 は壺である。体部中位よりやや上位が最大径になり、中位以下は丸みを抑えて平底の底部に至る。体部外面はカキメを施す。

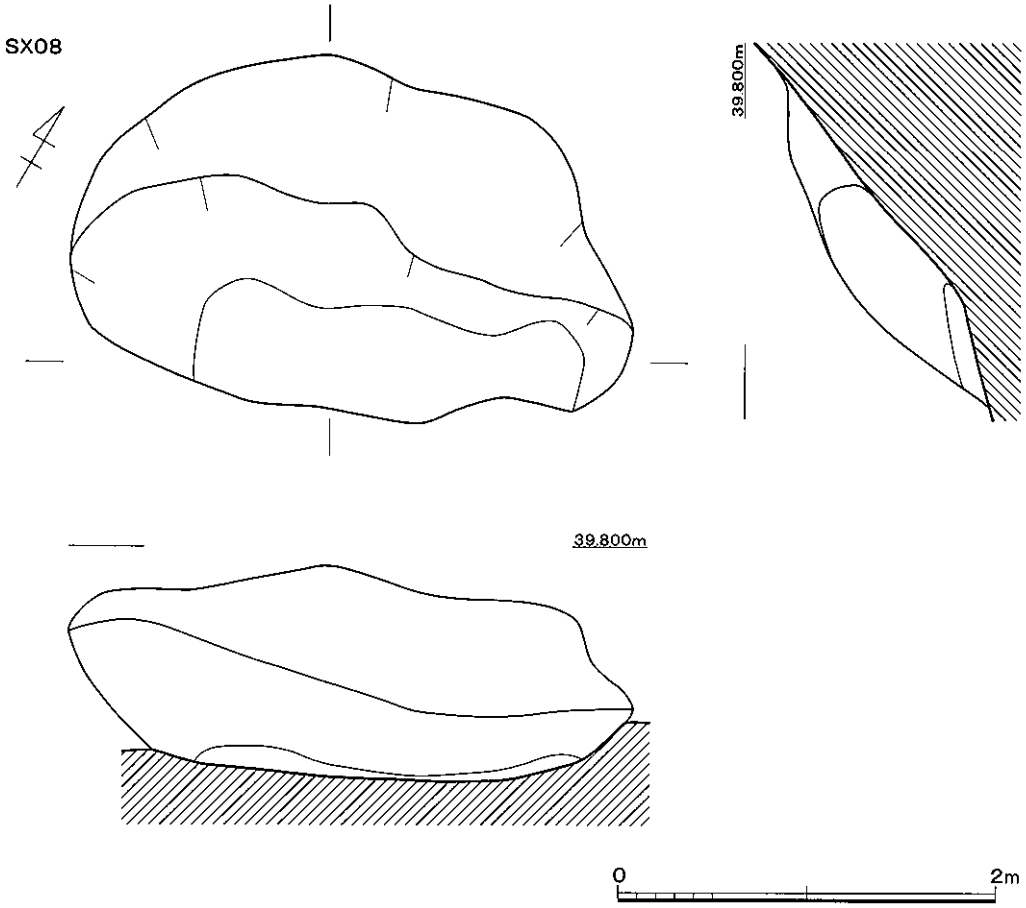
土師器（532・533） 532 は杯で、口径 15.8cm を測る。丸みを帯びた体部から口縁部はやや外反する。底部外面には回転ヘラ切り痕・板状圧痕が残る。

533 は丸底杯で、口径 14.3cm を測る。丸みを帯びた体部から口縁部はやや外反する。

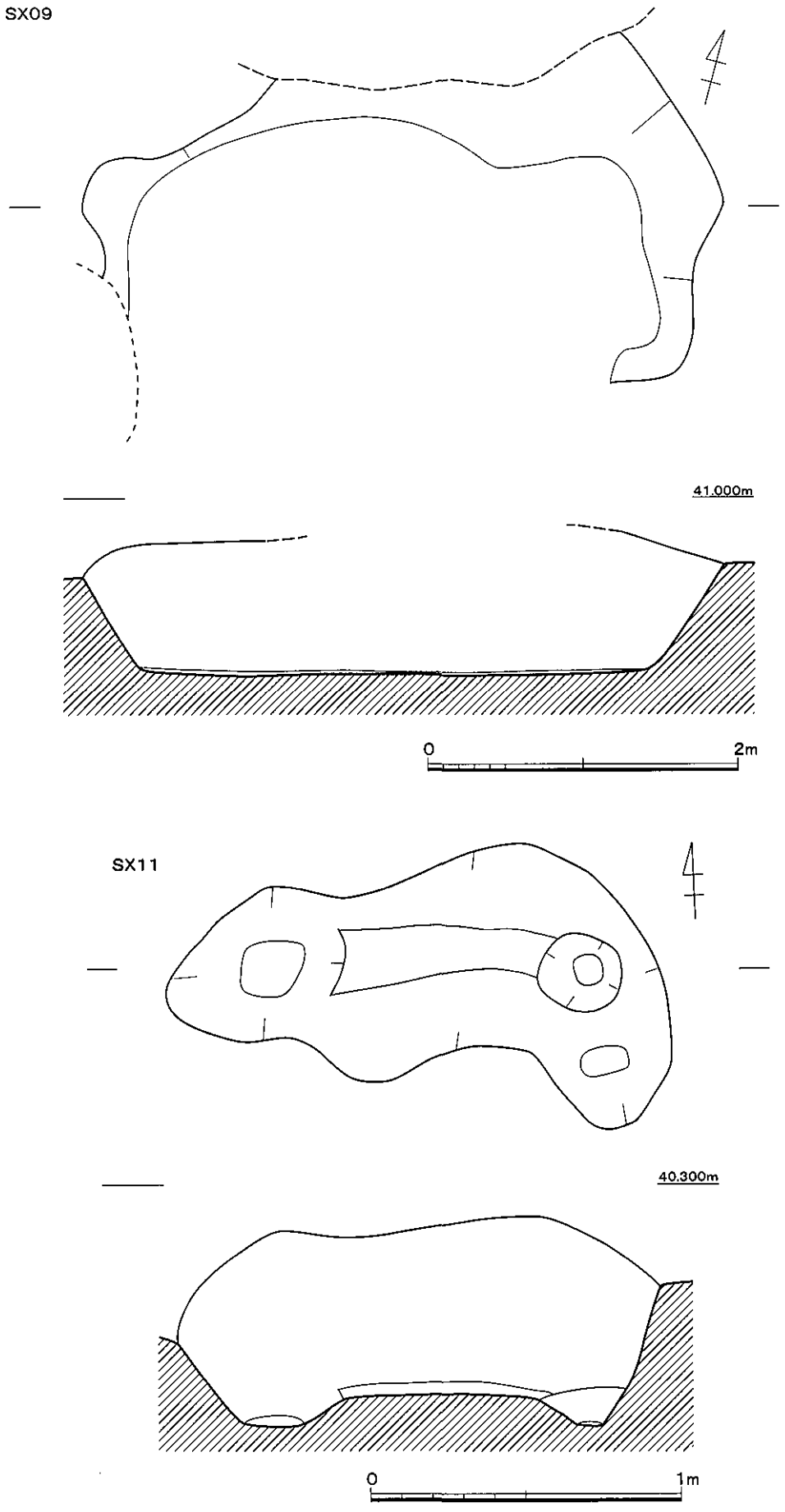
鉄製品（534・535） いずれも刀子である。534 では茎部から刀身までが残存し、厚さ 0.3cm を測る。535 は刃部の先端部と思われる。

ＳＸ０８（第 79 図）

ＳＫ０２の南東側の斜面上に位置する。平面形は不整な楕円形を呈し、長さ 2.98 m、幅 1.81 m、



第79図　13次SX08実測図（1／40）



第80図　13次SX09・11実測図（SX09は1／40、SX11は1／20）

深さ1.07ｍを測る。遺構の南東側は削平を受けている。埋土中より蓋杯Hが出土している。

ＳＸ０９（第80図）

調査区の南側、ＳＫ１２の北東側に隣接する。平面形は不整な長方形を呈し、長さ3.89ｍ、幅2.26ｍ、深さ0.63ｍを測る。埋土中より須恵器・土師器が出土している。

出土遺物（第81図、図版72）

須恵器（536～538） 536は杯H蓋で、復元口径13.2cmを測る。口縁部は直立に近い傾きになり、天井部は外面約１／３に回転ヘラ削りを施す。

537は杯H身で、口径11.0cmを測る。受け部内面は内傾しつつ端部が直立する。底部は外面約１／２範囲で回転ヘラ削りを行う。

538は甕で、復元口径31.8cmを測る。口縁部は上面・外面に断面三角形の突帯を作り出す。頸部外面では２段に分けて沈線を施し、沈線間に連続斜線文を施文する。

土師器（539） 杯のミニチュア土器である。手づくねにより断面凹形に成形する。

ＳＸ１１（第80図、図版38）

ＳＫ０８の北側の斜面に位置する溝状の遺構である。長さ1.55ｍ、幅0.63ｍ、深さ0.58ｍを測る。平面形は不整形を呈し、等高線に沿う方向に長い。床面両端が浅く窪んでいる。埋土中から須恵器が出土した。

ＳＸ１３（第82図、図版42）

ＳＫ１０の東側に隣接した斜面上に位置する。平面形は不整形を呈し、階段状の段差やピットが認められる。長さ3.39ｍ、幅2.41ｍ、深さ0.49ｍ～1.19ｍを測る。埋土中より土師器・石器が出土した。

ＳＸ１４（第82図、図版42）

ＳＫ１０の北側斜面に位置する。平面形はやや不整な楕円形を呈し、等高線に沿った方向に主軸をおく。長さ3.38ｍ、幅1.46ｍ、深さ0.44ｍ～0.78ｍを測る。埋土中より須恵器が出土した。

出土遺物（第81図、図版73）

須恵器（540～545） 540・541は杯H蓋である。口径はそれぞれ11.4cm・12.5cmを測る。540は口縁部がなだらかに開き、口縁部外面には２条沈線が巡る。天井部は外面約１／２範囲で回転ヘラ削りを施す。541は口縁部が直立に近い傾きになり、天井部は外面約１／２範囲で回転ヘラ削りを施す。

542・543は小型の蓋である。口径はそれぞれ8.4cm・6.6cmを測る。いずれも口縁部が直立に近い傾きになり、542は天井部外面を手持ちヘラ削りで成形する。543の天井部は外面約３／４範囲で回転ヘラ削りを施す。

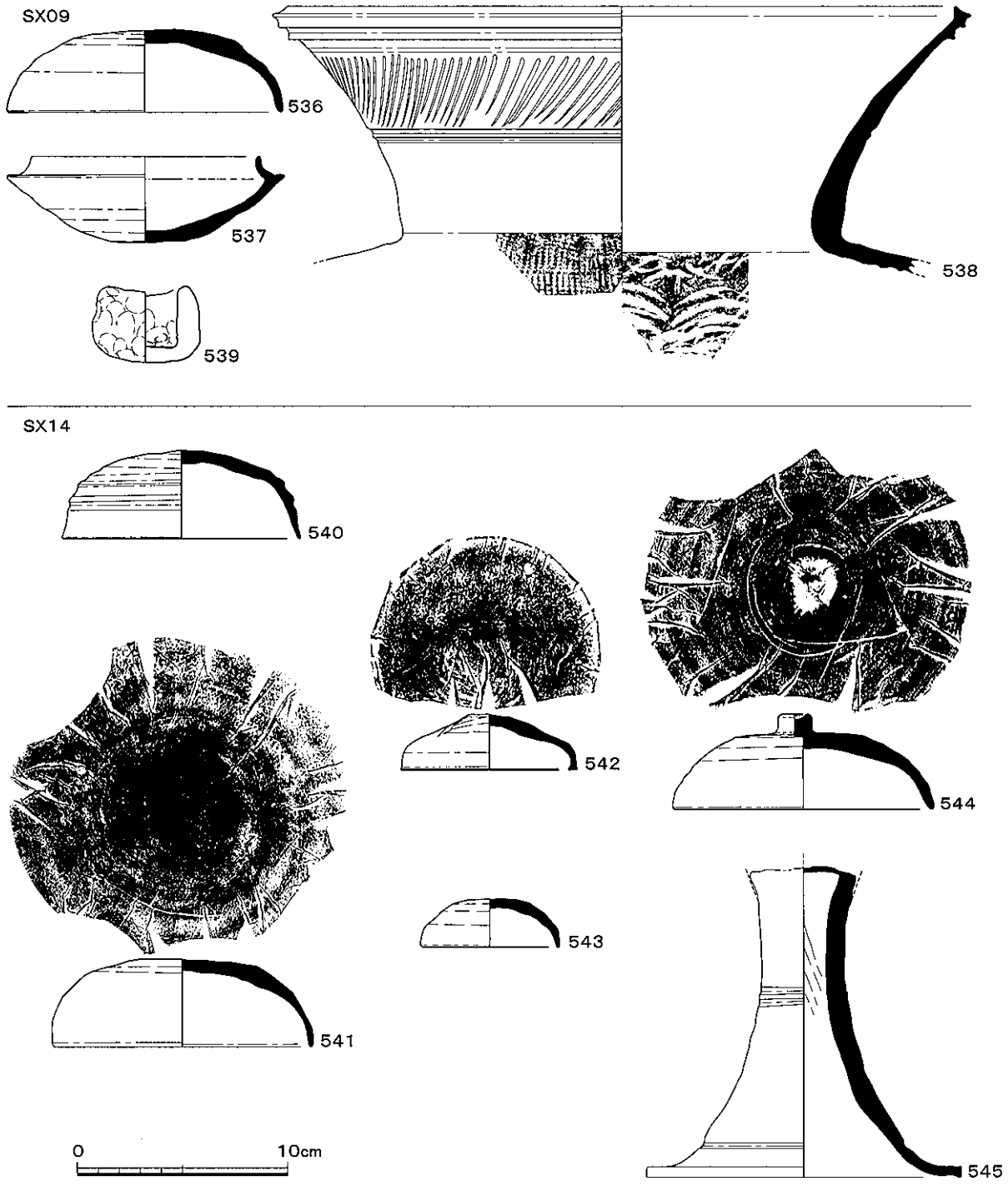
544は高杯蓋で、口径12.4cmを施す。口縁部はなだらかに開き、天井部は外面約１／２範囲に

回転ヘラ削りを施す。中央部が窪む小径のボタン状つまみが付く。

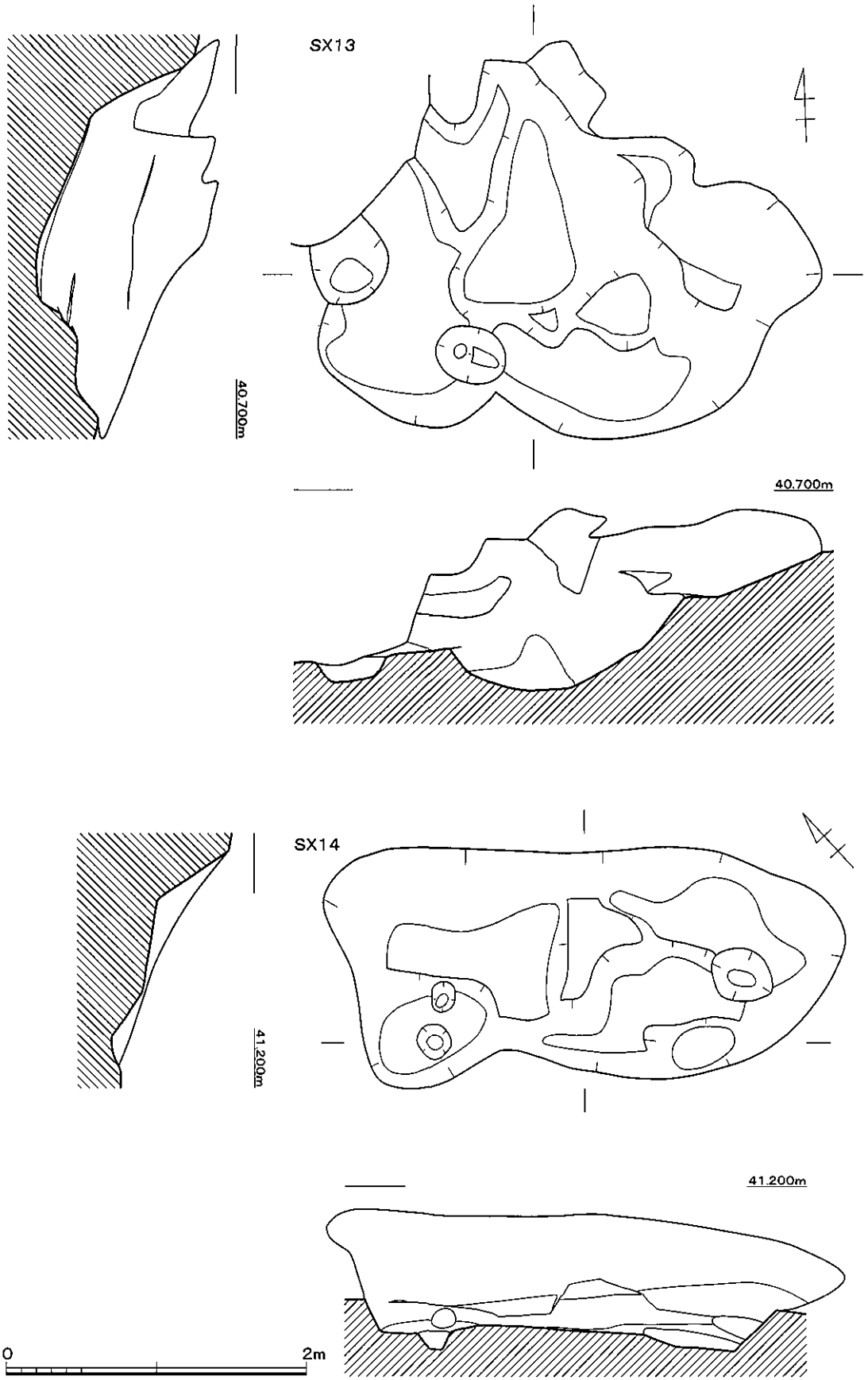
545は高杯の脚部で、長脚である。なだらかに外反する脚部は裾部で大きく開き、端部付近では水平になる。中位・裾部外面に沈線を巡らす。

ＳＸ１５（第83図、図版42）

調査区の最も西端で検出された遺構である。標高約40.25ｍ付近の斜面上に位置し、平面形はやや不整な長方形で、等高線に沿う方向に主軸をおいている。長さ2.87ｍ、幅1.71ｍ、深さ0.31ｍ～0.72ｍを測る。斜面上方方向に階段状の段差が見られ、上段からは焼土が検出された。焼土



第81図　13次SX09・14出土遺物実測図（1／3）

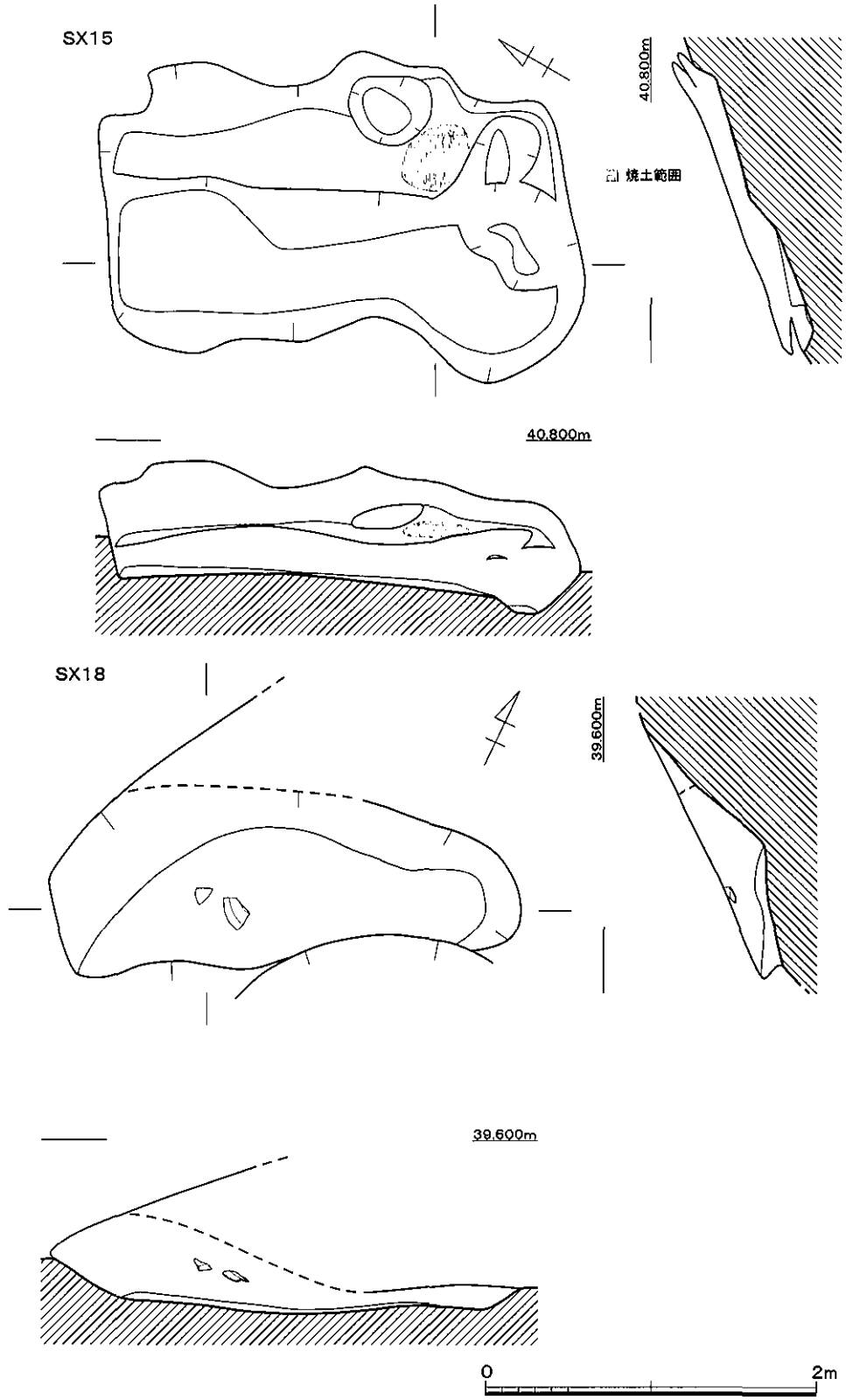


第82図　13次SX13・14実測図（1／40）

直上および埋土中から土師器の甕が出土した。

ＳＸ１８（第 83 図）

ＳＸ０３の南側の斜面に位置する。長さ 2.82 m、幅 1.09 m、深さ 0.53 mを測る。等高線に沿う方向に長軸をとる。床面には起伏が見られる。埋土中から須恵器が出土している。



第83図　13次SX15・18実測図（1／40）

ＳＸ１９（第71図、図版43）

ＳＸ０２の掘削中に検出された竪穴状の遺構で、ほぼ中央に位置する。長さ3.85ｍ、幅0.94ｍ、深さ0.23ｍを測る。床面は斜面下方方向に傾斜するものの、ほぼ平坦で、主柱穴と思われるピットが４箇所方形状に認められる。その北西側には、高さ約0.06ｍ程の壁面がやや湾曲するようにめぐる。ピットの深さは最も深いもので0.35ｍを測る。埋土中から須恵器の杯H身が出土している。

ＳＸ２０（第84図）

調査区南側、斜面裾部のやや平坦面に位置する。削平を受けており、最も良く残存している箇所でも深さ0.15ｍであるが、中央に焼土をもった竪穴状の遺構になると考えられる。壁面は東側の一部が残存していた。また、北側には壁溝と考えられる深さ0.29ｍの溝が検出された。ＳＸ２０の床面清掃後斜面下方でＳＸ２２を検出した。遺構の所属時期も合わせるとＳＸ２２→ＳＸ２０の順になる。

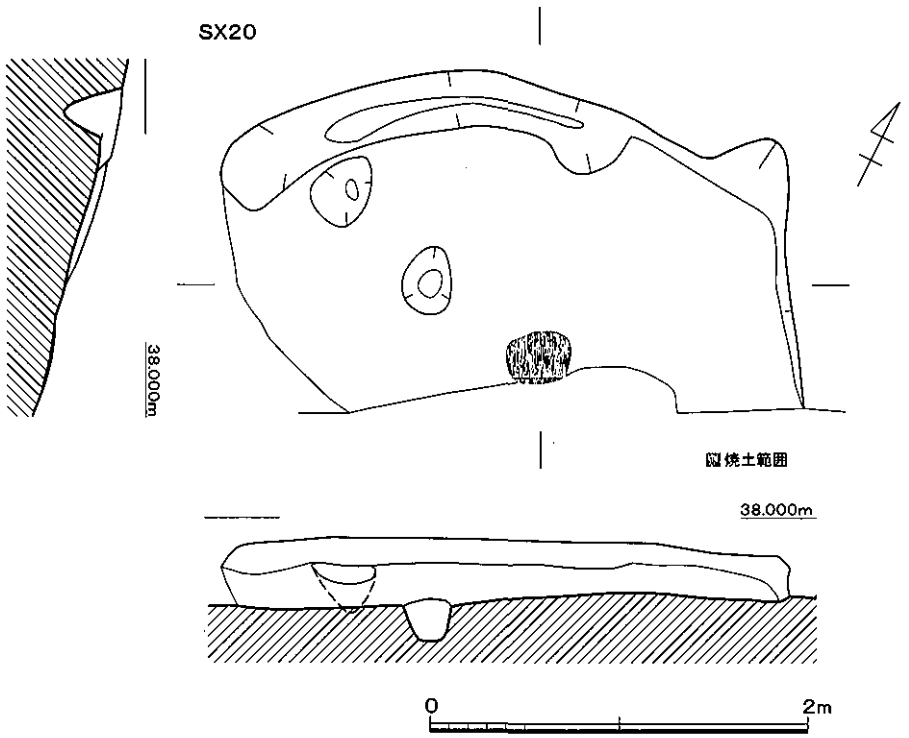
出土遺物（第85図、図版73）

土師器（546） 546は甕で、復元口径14.0cmを測る。口縁部は屈曲し大きく開く。体部は球形を呈す。

黒色土器（547） 黒色土器Ｂ類で、口径は15.6cmを測る。底部～体部は丸みを持ち、口縁部は外反する。底部外面には回転ヘラ切り痕が残り、高い高台が付く。

ＳＸ２２（第87図、図版43）

調査区南側のやや平坦な箇所に位置する竪穴状の遺構である。削平により大半が失われているものの、壁面、床面の一部が残存していた。壁面の残存長は3.00ｍで、最も残りの良い壁面の高さ



第84図　13次SX20実測図（1／40）

は0.34ｍを測る。壁面は等高線に平行しており、壁際からカマドおよび焼土が検出された。カマドは褐灰色を呈する粘土により構築されているが、部分的に崩れていた。また、両袖の中央付近にあたる箇所から石製の支脚が出土した。床面にはピットが見られ、深さ0.16ｍを測る。カマド構築土内から須恵器杯H身・土師器甕が出土した。

埋土中には炭化物や焼土のブロックが見られ、須恵器・土師器が出土した。また、土層図中の７・８層は斜面上方から供給された自然堆積層であり、これらの層の堆積後の平坦面上に竪穴が掘られていた。

出土遺物（第85図、図版74）

須恵器（548） 杯H身で、口径10.9cmを測る。立ち上がりは内傾しつつ端部は直立する。底部は外面約１／２範囲で回転ヘラ削りを施す。

土師器（549） 甕で、復元口径15.8cmを施す。口縁部は頸部からゆるやかに外傾する。

（４）焼土

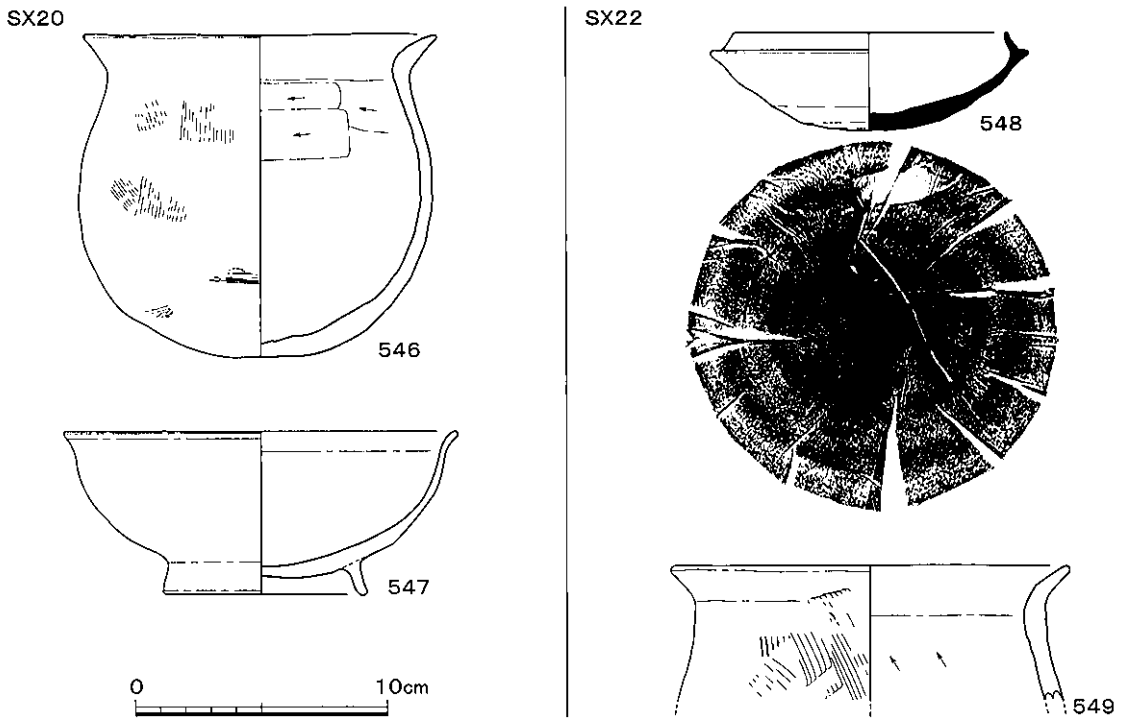
焼土２（第86図）

ＳＸ０９の南側斜面に位置する。標高約40.20ｍ付近にて検出された。平面形は直径約0.80ｍの円形を呈する。斜面を深さ0.20ｍ程、断面「Ｌ」字形に掘り込んでおり、壁面および床面が酸化されて赤色化していた。また、床面の東端では一部還元されたような箇所も見られた。

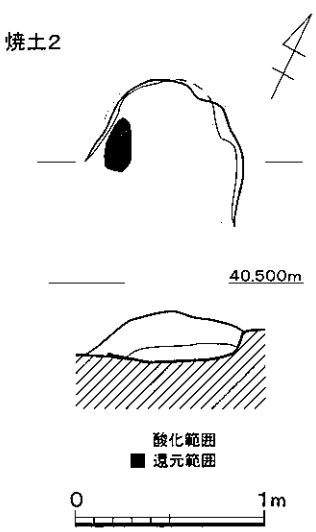
（５）その他の遺物

２区２層出土遺物（第88図、図版74）

須恵器（550・551） 550は短頸壺で、復元口径9.3cmを測る。口縁部はやや外傾し、ほぼ直角に



第85図　13次SX20・22出土遺物実測図（1／3）



第86図　13次焼土2実測図（1／40）

曲がり肩部に至る。肩部外面にはカキメを施す。また、肩部に別個体の破片が釉着する。

551は鉢である。口縁端部は丸く仕上げ、外面に浅い沈線状の窪みを巡らす。

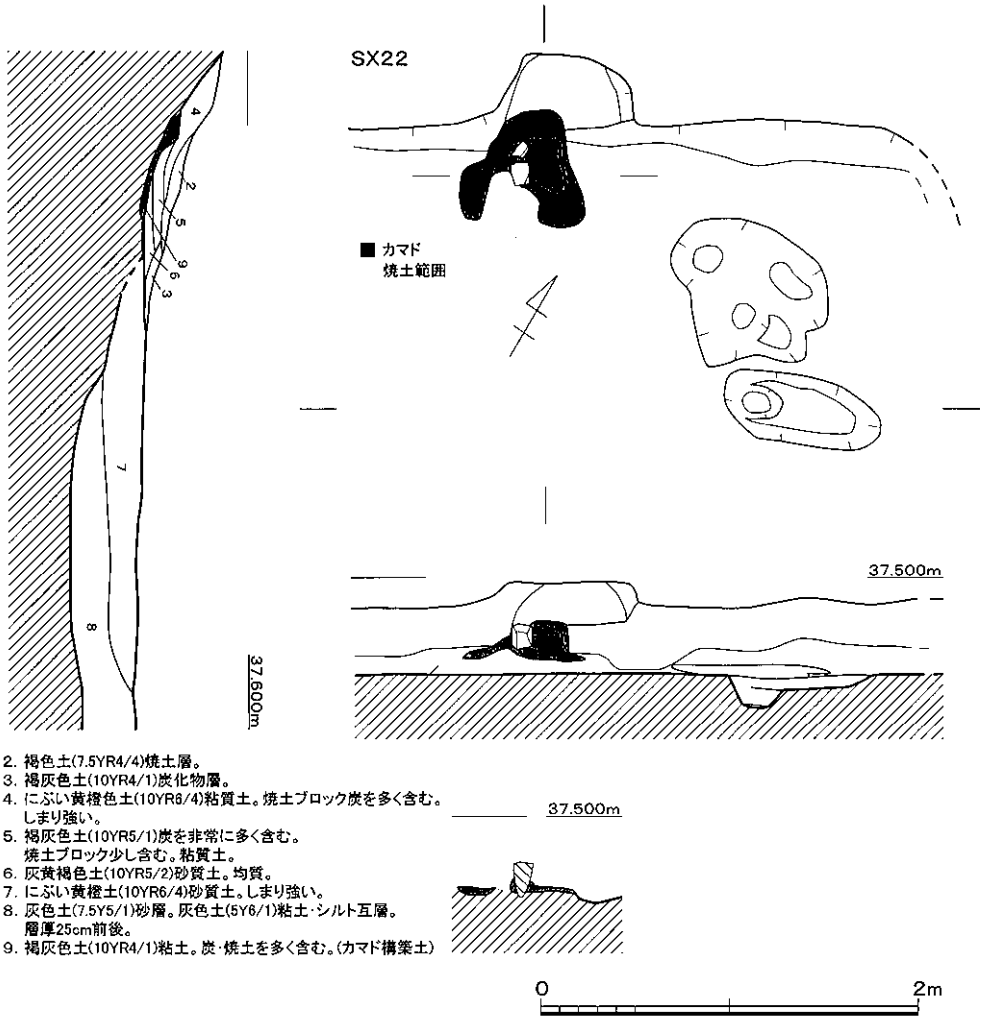
陶器（553） 朝鮮雑釉陶器である。高台は底部外面を浅く削り高台を作り出す。内面見込み・高台畳付けに目跡が残る。残存部全面に施釉する。

石器（552） 石鏃である。二等辺三角形を呈し、基部には抉りが入る。黒曜石である。

２区３層出土遺物（第88図）

須恵器（554～557） 554は杯H身で、復元口径11.9cmを測る。立ち上がりは内傾し、底部外面約１／２範囲で回転ヘラ削りを施す。

555は鉢で、復元口径11.2cmを測る。口縁部は外反し、体部から底部にかけて丸みを帯びる。底部外面約１／３範囲で回転ヘラ削りを施す。



第87図　13次SX22実測図（1／40）

556は短頸壺である。口縁部は直立すると思われ、体部は扁平な球形を呈し、底部は平底である。体部外面に沈線が巡る。

557は稜椀である。口縁部は外反し、外面にタタキ痕・カキメを施す。

弥生土器（558） 甕である。口縁部は外反し、端部に刻目を施す。

２区４層出土遺物（第89図、図版74・75）

須恵器（559～561） 559は杯H蓋で、口径12.8cmを測る。口縁部は直立に近い傾きになり、天井部は外面約１／２範囲に回転ヘラ削りを施す。

560は杯H身である。底部は外面約２／３範囲に回転ヘラ削りを施す。

561は壺で、口径18.2cmを測る。口縁端部は丸く仕上げ、頸部外面には不揃いの斜線文を施文する。体部上位には焼成後に打ち欠いて作り出した穿孔部分が見られる。

土師器（562～565） 562は甕である。口縁部は緩やかに外反し、体部は膨らみを持たず、ほぼ直線的になる。

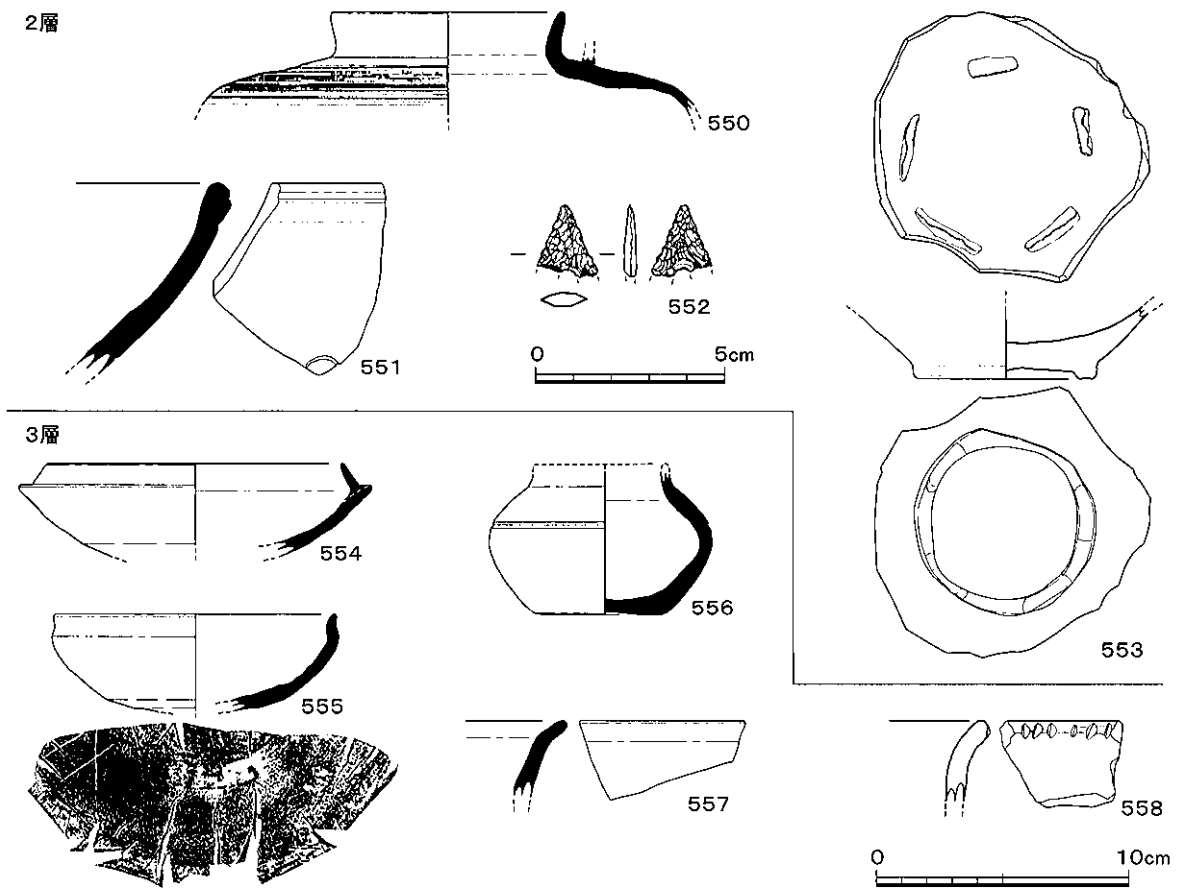
563は甑の把手である。ナデ調整により成形される。

564は杯のミニチュア土器である。手づくねにより成形する。

565は把手状のミニチュア土器である。

３区３層出土遺物（第90図、図版75）

須恵器（566～571） 566は杯H身で、口径11.4cmを測る。立ち上がりはほぼ直立する。底部は



第88図　13次2区出土遺物実測図①（552は1／2、他は1／3）

外面約１／３範囲で回転ヘラ削りを施す。

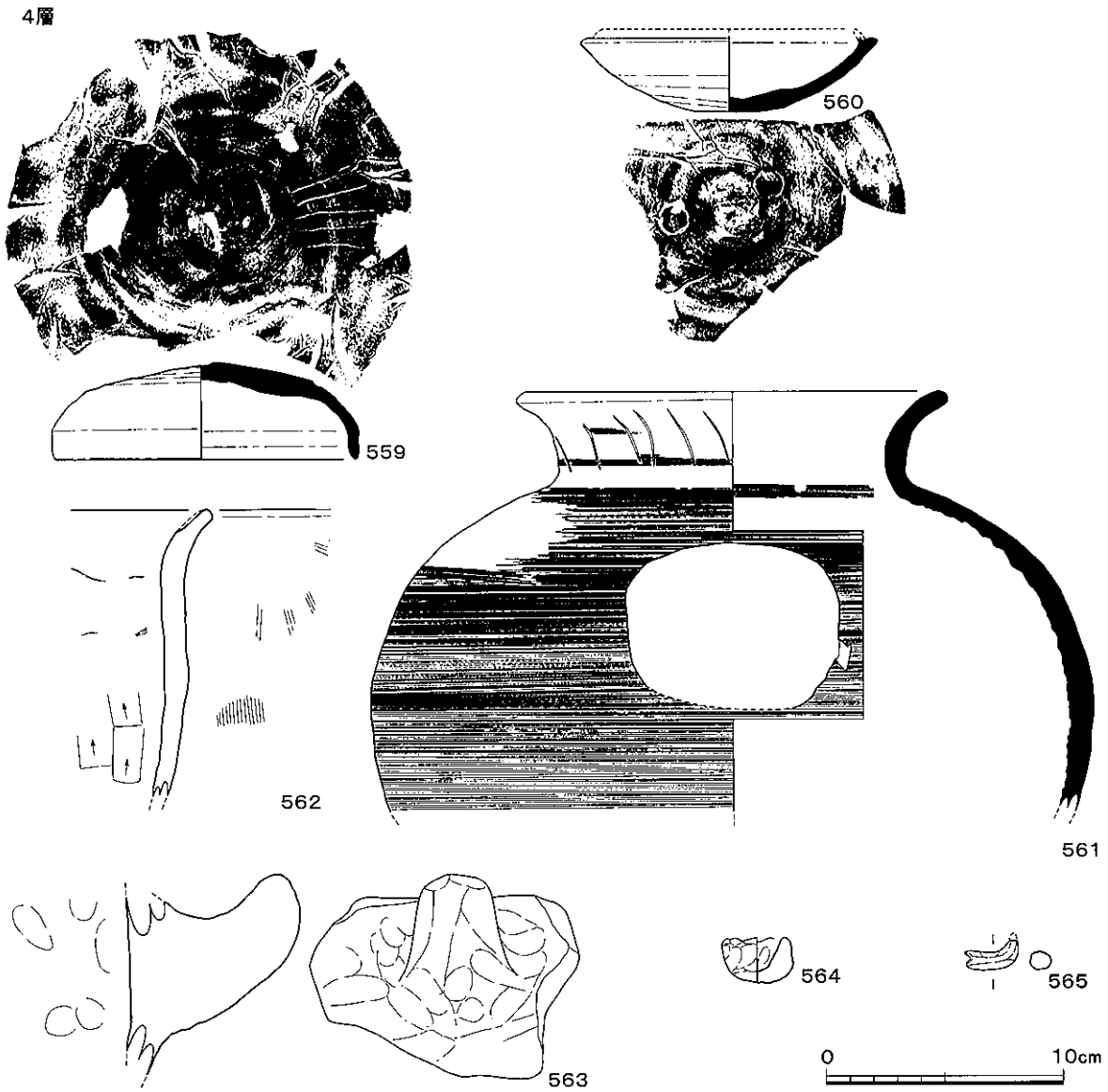
567 は杯Ｇ蓋で、復元口径 7.9cm を測る。かえりは口縁部下に突出する。天井部には中央部が窪むボタン状つまみが付く。

568 は壺蓋で、復元口径 6.2cm を測る。口縁部はほぼ水平になり、かえりは比較的長くほぼ垂直の傾きになる。天井部は外面約２／３範囲で回転ヘラ削りを施す。

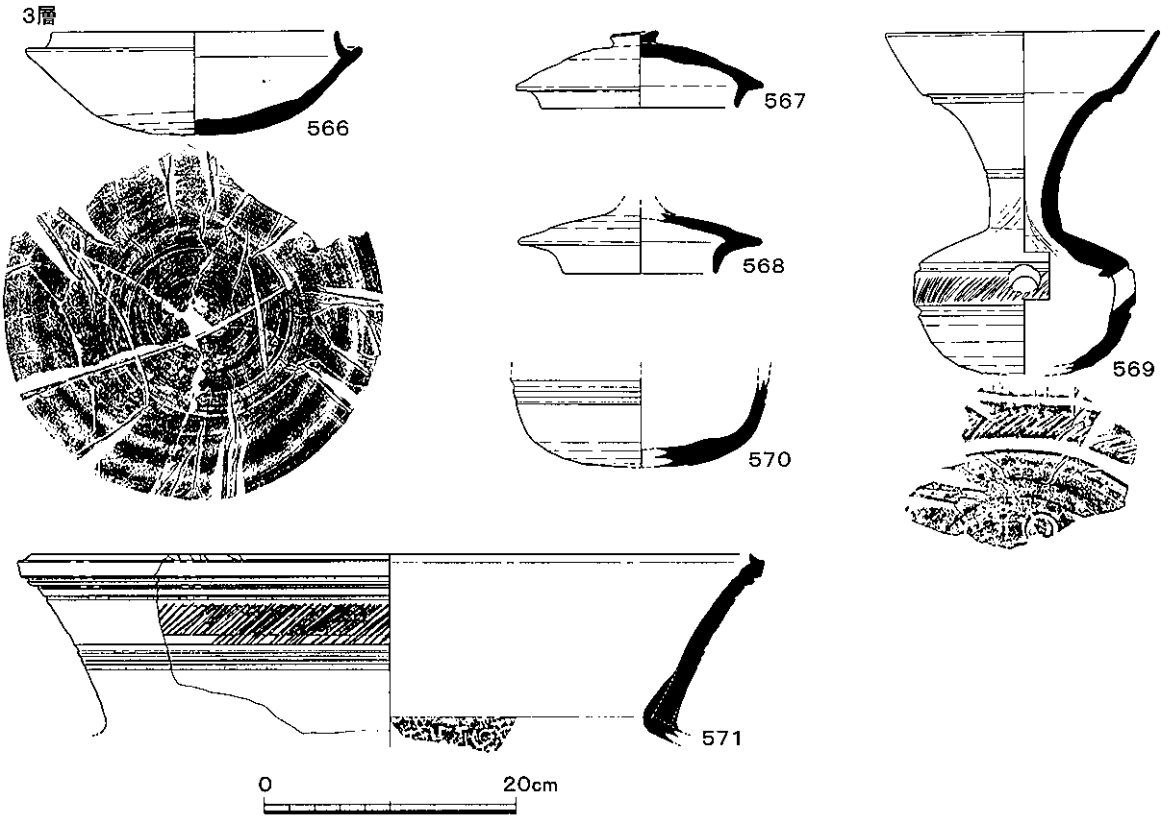
569 は甕で、口径 10.9cm を測る。頸部は外面に沈線が巡り、外反しながらのびる。また、口縁部との境には沈線を施し、口縁部は直線状を保ちつつ大きく開く。肩部と体部の境と体部中位に沈線を巡らし、沈線間に連続刺突文・穿孔を施す。底部外面には竹管文が見られる。

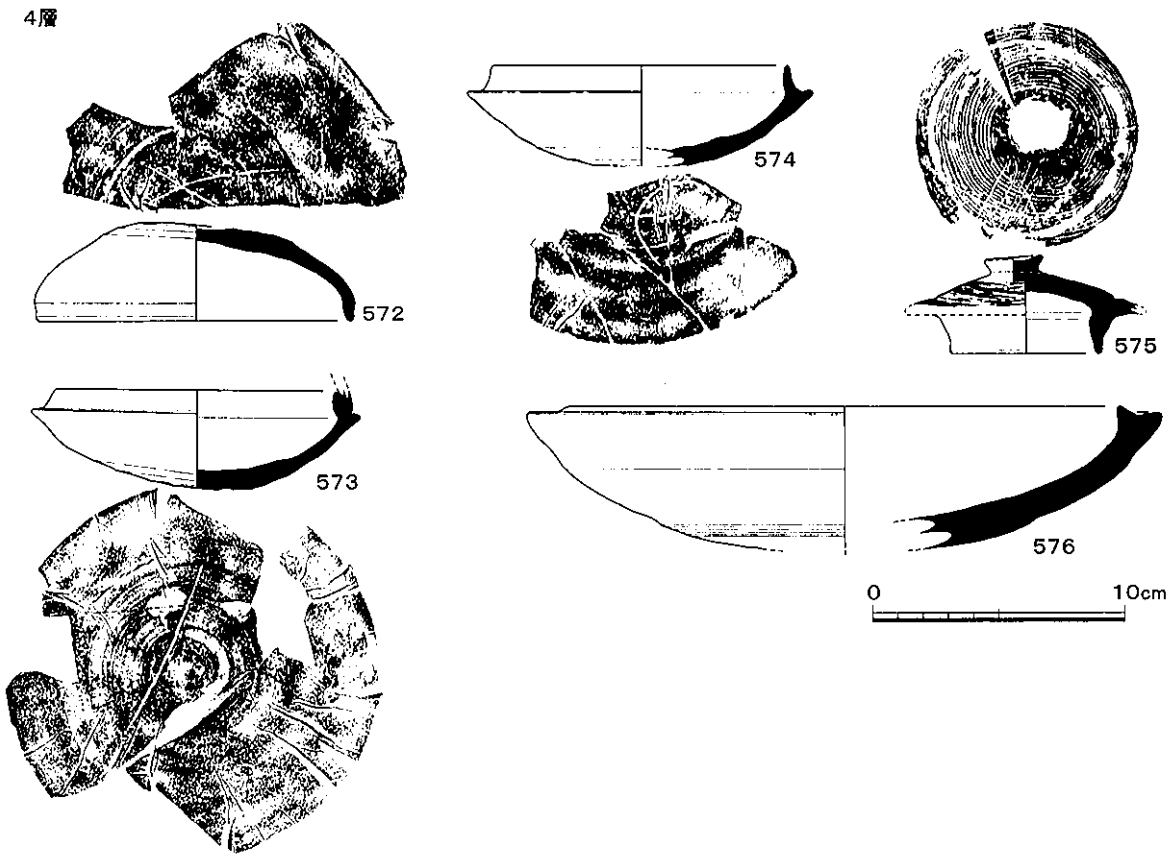
570 は鉢である。体部に沈線を巡らし、底部外面は回転ヘラ削りを施し、丸みを持たせる。

571 は大甕で、復元口径 58.8cm を測る。口縁端部は上面に断面三角形の突帯を作り出し、外面には沈線を巡らす。また、口縁端部の一部に刻みを入れる。頸部外面では２段に沈線を施し、沈線間に連続斜線文を施文する。



第89図　13次2区出土遺物実測図②（1／3）





第90図　13次3区出土遺物実測図（571は1／6、他は1／3）

３区４層出土遺物（第 90 図、図版 75）

須恵器（572 ～ 576） 572 は杯Ｈ蓋で、復元口径 12.6cm を測る。口縁部は直立に近い傾きになり、天井部は外面約１／３範囲に回転ヘラ削りを施す。

573・574 は杯Ｈ身である。口径はそれぞれ 11.1cm・11.8cm を測る。立ち上がりは内傾しつつ端部が直立に近い傾きになるもの（573）と直立するもの（574）がある。底部は外面約１／２範囲で回転ヘラ削りを施す。574 の底部内面にはシッタ痕が見られる。

575 は壺蓋で、復元口径 6.0cm を測る。かえりは比較的長く、ほぼ垂直にのびる。天井部外面にはカキメを施し、中央部が窪むボタン状つまみを付ける。

576 は大型の杯身で、復元口径 25.1cm を測る。立ち上がりは短く、内傾する。底部外面の一部にはカキメを施す。

検出時出土、試掘時表採遺物（第 91 図、図版 76）

須恵器（577 ～ 590・592） 577・578 は杯Ｈ蓋で、口径はそれぞれ 12.0cm・12.3cm を測る。いずれも口縁部は直立に近い傾きになり、天井部外面は回転ヘラ削りを施す。

579 は杯Ｂ蓋で、復元口径 14.9cm を測る。口縁端部は断面三角形を呈し、天井部にはボタン状つまみが付く。

580・581 は杯Ｈ身で、580 の復元口径は 11.1cm、581 の口径は 11.3cm を測る。いずれも立ち上がりは内傾しつつ端部は直立に近い傾きになり、底部は回転ヘラ削りを施す。

582・583 は杯Ｂ身で、582 の復元口径は 13.6cm、583 の口径は 13.6cm を測る。体部～口縁部はほぼ直線的にのびるが、582 では、体部にわずかな丸みを持ち、口縁部はわずかに外傾する。それぞれの底部には低い高台が付く。

584 は杯で、復元口径 14.4cm を測る。体部～口縁部は直線的にのび、大きく開く。体部下位～底部外面は回転ヘラ削りを施し、内面では回転ヘラミガキが見られる。

585 は皿で、口径 16.6cm を測る。口縁部は直線的にのび、底部との境はわずかにくびれる。

586 は椀で、復元口径 13.2cm を測る。体部～口縁部は直線的にのび、外面に沈線を巡らせる。体部下位～底部外面は回転ヘラ削りを施し、体部・底部の境に丸みを持たせる。

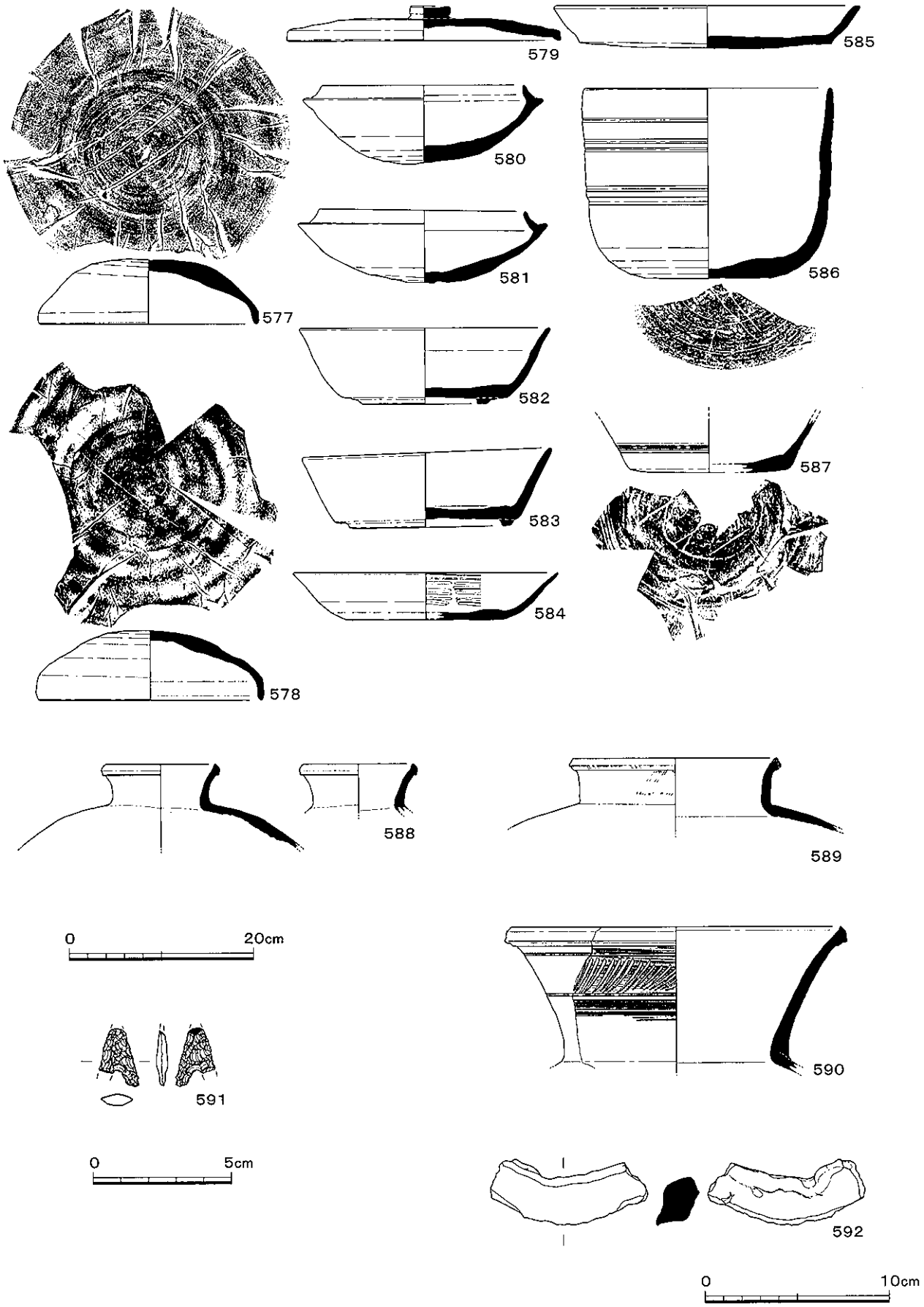
587 は壺である。体部下位外面に沈線を施し、底部は平底である。

588 は横瓶で、復元口径 12.8cm を測る。口縁端部は断面四角形に仕上げ、外面に小さい三角状の突帯を作り出す。

589・590 は甕である。589 は口径 23.0cm を測り、口縁端部は断面四角形に仕上げる。頸部は直立に近い傾きになり、外面ではハケ状の痕跡が見られる。590 は口径 37.2cm を測り、口縁端部は上面に三角状の突帯外面に四角状の突帯を作り出す。頸部外面にはカキメを施し、２段に分けて沈線を巡らせる。また、沈線間には連続斜線文を施文する。

592 は切削物で、厚さ 1.9cm を測る。器壁が厚いため甕を製造する段階で切り落とされた余分な部分と思われる。

石器（591） 石鏃である。二等辺三角形を呈し、基部には深い抉りを入れる。



第91図　13次検出時出土、試掘時表採遺物実測図(591は1／2、588～590は1／6、他は1／3)

Ｃ．小結

13 次調査では弥生時代から平安時代にかけての遺構・遺物が確認された。特に本堂遺跡群における弥生時代の遺構は少なく概期の状況が不明確であるが、本調査地では弥生時代の遺構密度が高く注目される。以下では、時期ごとに遺構の変遷を見ていくこととする。

弥生時代

弥生時代の遺構として最も古いと考えられるものにＳＫ０２がある。前期末から中期初頭の甕棺が出土しており、甕棺墓である可能性がある。

中期前半から中期後半にかけて遺構が増加し、ほとんどの遺構は概期に所属するものと考えられる。中期前半の確実なものとしてＳＫ０２・１１がある。いずれも貯蔵穴と考えられ、平面円形・楕円形を呈す。中期中葉以降のものとしてＳＫ０７・１７などの貯蔵穴と、ＳＫ０８のように木棺墓と推定される遺構がある。貯蔵穴は平面隅丸方形・長方形である。その他ＳＫ０５・０９・１０・１２・１３・１６についても明確に時期を決定する遺物の出土はなかったが、中期の貯蔵穴としておきたい。

古墳時代

古墳時代後期のⅣＡ期にあたる遺構が多数認められる。土坑としてＳＫ０１がある。床面にピットや焼土が確認され明確に竪穴住居と考えられるものに、ＳＸ０１・０２・０３・１５・１９がある。このほか竪穴住居状の遺構として、ＳＸ０４・０５・０６・０８・０９・１１・１３・１４・１８がある。本調査地に隣接し、同一の丘陵を調査した５次調査においても、同じ時期の竪穴住居が確認され、粘土や焼き歪んだ土器の出土から、須恵器工人の集落の可能性が高いとしている。本調査では、粘土や焼き歪んだ須恵器は出土していないが、遺構の時期や構造が共通することと同一丘陵上に位置することから、須恵器工人の集落である可能性を考えておきたい。

奈良時代

８世紀後半の１号窯跡と灰原が確認され、窯の操業がおこなわれていたことが分かる。また丘陵裾部においてカマドを付設した竪穴住居ＳＸ２２が確認された。

平安時代以降

丘陵裾部において竪穴住居ＳＸ２０と刀子を副葬した木棺墓と考えられるＳＸ０７が確認された。時期は 10 世紀後半ごろか。またＳＸ２０の斜面上方に堆積していた土層の中から 11 世紀後半から 12 世紀前半ごろと思われる朝鮮雑釉陶器が出土している。（早瀬）

表1　本堂遺跡第8次調査出土遺物観察表①

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高 ③底径④高台径 ⑤最大径 ()は復元	形態・技法の特徴	A：胎土B：焼成C：色調	備考
1	須恵器	杯蓋	1号窯 6区7層 最下層No.①	①14.94②2.2 つまみ径2.95	回転ナデ成形後、外面2/3回転ヘラ削り、内面2/3不定方向ナデ。つまみ部回転ナデにより貼付。	A:密。1～5㎜程の白色砂粒を多少含む。B:良好。C:外灰（N6/～4/）・オリーブ灰（2.5GY6/1）内灰（N6/～5/）。	
2	須恵器	杯蓋	1号窯 床面直上No.2	②1.9＋α つまみ径2.8	外面1/2回転ヘラ削り。つまみ部回転ナデにより貼付。他は磨滅の為、調整不明。	A:やや密。B:不良。C:外灰白（5Y7/1）内明褐（7.5YR5/6）・灰白（5Y7/1）。	
3	須恵器	蓋	1号窯 4区最終操業面 1号窯 3区10層(最終操業面上)	①(17.3) ②2.3+α	回転ナデ成形後、外面1/2回転ヘラ削り。	A:やや密。1㎜程の白色砂粒をわずかに含む。B:不良。C:内外共淡黄（2.5Y8/3）～浅黄（2.5Y7/3）・灰白（2.5Y8/1）。	
4	須恵器	蓋	1号窯 床面直上No.1	①(18.15) ②2.05＋α	回転ナデ成形後、外面1/3回転ヘラ削り、内面1/3不定方向ナデ。	A:やや密。1～2㎜程の白色砂粒をわずかに含む。B:やや不良。C:外浅黄（2.5Y7/3）・橙（7.5YR6/8）内灰白（5Y8/1）。	
5	須恵器	蓋	1号窯 床面直上No.3	①(17.7)②2.0	回転ナデ成形後、外面1/2回転ヘラ削り、内面1/2不定方向ナデ。	A:やや粗。1～2㎜程の白色砂粒を少量含む。B:やや不良。C:外灰黄（2.5Y7/2）～浅黄（2.5Y7/3）内灰白（5Y8/1～8/2）。	
6	須恵器	杯身	1号窯 検出中 1号窯 3区2・7層	①(14.55)②5.9 ④(11.3)	口縁部～体部回転ナデ。底部内面不定方向ナデ、外面ヘラ切り後ナデ高台回転ナデにより貼付。	A:密。1～2㎜程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外灰（N4/）内青灰（5PB6/1）。	多少焼け歪む。
7	須恵器	杯身	1号窯 床面直上No.⑦	①(17.1)②7.1 ④(10.5)	口縁部～体部回転ナデ。底部内面不定方向ナデ、外面ヘラ切り後ナデ。高台回転ナデにより貼付。	A:密。1㎜以下の白色砂粒をわずかに含む。B:やや不良。C:外にぶい黄橙（10YR7/2～7/3～6/3）内浅黄橙（7.5YR8/6）・にぶい黄橙（10YR7/3）。	
8	須恵器	杯身？	1号窯 煙道部(7・8区)床面3層	①(17.15) ②4.9＋α	口縁部～体部回転ナデ。	A:精良。1㎜以下の白色砂粒をわずかに含む。B:やや不良。C:外橙（5YR7/6）・灰褐（7.5YR4/2）・明黄褐（10YR7/6）内橙（5YR7/6～6/6）。	
9	須恵器	杯身	1号窯 煙道部(7・8区)床面3層	②2.5＋α④11.2	体部回転ナデ。底部内面不定方向ナデ、外面ヘラ切り後ナデ。高台回転ナデにより貼付。	A:やや密。1㎜程の白色砂粒をわずかに含む。B:不良。C:内外共にぶい橙（5YR6/4）～橙（5YR6/6）。	歪みあり。
10	須恵器	甕	灰原1・2 5区3層(灰色土)	②3.2＋α	口縁部ヨコナデ。頸部外面に波状文。口縁端部外面に沈線。	A:密。1～4㎜の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:内外共灰（N4/）。	
11	須恵器	甕	灰原1・2 横ベルト	②6.9＋α	口縁部～頸部回転ナデ。頸部外面2段波状文施文後3ヵ所に沈線。	A:密。1～3㎜程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外灰（N4/）内灰（7.5Y6/1）。	
12	土師器	椀	灰原1・2 2区2層(黄灰色土)	①10.5②4.2 ④6.9	底部外面ヘラ切り。高台回転ナデにより貼付。他は磨滅の為、調整不明。	A:密。1～2㎜程の白色砂粒を少量含む。B:やや良好。C:内外共にぶい黄橙（10YR7/4）～明黄褐（10YR7/6）。	
13	黒色土器A類	椀	灰原1・2 2区2層(黄灰色土)	①(16.4)②6.6 ④10.1	内面ミガキ。底部外面ナデ。高台回転ナデにより貼付。他は磨滅の為、調整不明。	A:やや粗。1～2㎜程の白色砂粒を少量含む。B:やや良好。C:外灰白（2.5Y8/2）～淡黄（2.5Y8/3）内黒（2.5Y2/1）～黒褐（2.5Y3/1）。	
14	瓦質土器？	擂鉢	灰原1・2 5区3層(灰色土)	①(30.7)②11.35 ③(13.4)	口縁上端部ヨコナデ口縁部～体部タテナデ。内面・底部外面ナデ。内面に1単位6条のすり目。	A:やや粗。1～4㎜程の白色砂粒・角閃石を多く含む。B:不良。C:内外共灰白（2.5Y8/2）～淡黄（2.5Y8/3）。	片口擂鉢。
15	瓦	平瓦？	灰原1・2 横ベルト	幅8.0＋α厚2.0	凹面布目痕。凸面タタキか？、側面～凸面ナデ。	A:粗。2～4㎜程の白色砂粒を多量に含む。B:不良。C:内外共灰白（2.5Y8/1～8/2）。	
16	青磁	椀	灰原1・2 5区3層(灰色土)	②2.3＋α ④(5.3)	高台外面・内面見込みに施釉。削り出し高台。高台端部の釉をなでにより拭き取る。	A:精良。B:良好。C：釉灰オリーブ（7.5Y4/2）無釉灰白（5Y7/2）。	
17	白磁	椀	1号灰原検出中	②6.5＋α ④(8.1)	体部～高台外面・高台内面～底部外面施釉。内面回転ナデ。	A:密。黒色粒を含む。B:良好。C:外灰白（5GY8/1）内灰白（N8/）。	
18	土製品	筒状土製品	灰原1・2 5区灰層1層	長9.4＋α幅3.2 厚3.15孔径1.2 重80.5	磨滅の為、調整不明。	A:密。1㎜程の白色砂粒をわずかに含む。B:やや良好。C:灰白（2.5Y8/2）。	土錘か。
19	石器	石鍋	灰原1・2 2区2層(黄灰色土)	②10.4＋α ③(31.6)重430	削りによる成形。		滑石製。
20	須恵器	杯身	灰原3下 平坦部包含層 一括	①13.15②5.3 ④9.55	口縁部～体部回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ、外面磨滅の為、調整不明。	A:密。2㎜以下の石英・長石等をわずかに含む。B:不良。C:外灰白（5Y7/1～7/2）内灰白（2.5Y8/2）～淡黄（2.5Y7/4）。	
21	須恵器	壺	灰原3下 平坦部包含層 一括 灰原3下 平坦部包含層 2区2層	①(8.1) ②4.1＋α ⑤(13.1)	口縁部～体部上位回転ナデ。	A:密。2㎜以下の石英・長石等をわずかに含む。B:良好。C:内外共灰（10Y5/1）。	
22	土師器	皿	灰原3・3区（灰層・灰色土層）	①(11.5)②1.8 ③(8.2)	口縁部～体部・底部内面回転ナデ。底部外面ヘラ切り。	A:密。細砂を含む。B:不良。C:内外共灰白（2.5Y8/1～8/2～7/1）。	
23	土師器	皿	灰原3下 平坦部包含層 一括	①(11.9)②2.5 ③(9.4)	口縁部～体部回転ナデ。底部内面回転ナデ後中央部にナデ、外面回転糸切り。	A:密。1㎜以下の石英・長石・雲母等をわずかに含む。B:良好。C:内外共にぶい黄橙(10YR6/3)。	
24	土師器	皿	北側斜面(1区西側ベルト)包含層(上層)	①(11.6)②2.6 ③(9.0)	口縁部～体部回転ナデ。底部内面ナデ、外面回転糸切り。	A:良。B:良好。C:内外共暗灰黄（2.5Y5/2）。	
25	黒色土器A類	椀	灰原3・3区（灰層・灰色土層）	②3.6＋α ④(10.0)	体部外面回転ナデ。底部外面ヘラ切り。内面ナデか？高台回転ナデにより貼付。	A:密。細砂を含む。B:やや不良。C:外淡黄（2.5Y8/3・8/4）内黒（5Y2/1）。	

表2 本堂遺跡第8次調査出土遺物観察表②

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高 ③底径④高台径 ⑤最大径 ()は復元	形態・技法の特徴	A：胎土B：焼成C：色調	備考
26	土師器	椀？	北側平坦部清掃中 北側平坦部(SX03周辺)包含層下層	②6.9＋α④14.7	口縁部～体部・底部内面回転ナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ・指頭圧。高台回転ナデにより貼付。	A:やや粗。3～5㎜の白色砂粒を含む。B:良好。C:外浅黄（2.5Y7/3）内浅黄橙（10YR8/4）～にぶい黄橙（10YR7/3）高台内黄灰（2.5Y4/1）。	
27	土師器	甕	北側平坦部清掃中(SX03周辺)	②17.15＋α	体部外面タタキ、内面ナデ・指頭圧。	A:やや粗。1～3㎜程の白色砂粒をやや多量に含む。B:良好。C:外にぶい黄橙（10YR7/3～6/4）～灰黄褐（10YR5/2）内にぶい黄橙（10YR7/4）。	外面に煤付着。
28	土師器	甕	灰原3・3区（灰層・灰色土層）	①(24.6) ②18.6＋α	口縁部～体部上位ナデ。体部外面タタキ痕、上位内面ハケメ、下位ナデ・指頭圧。	A:やや粗。3㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B:良好。C:外橙（7.5Y6/6）～明黄褐（10YR7/6）内浅黄橙（10YR8/3）。	
29	瓦	平瓦	灰原3・4区（灰層・灰色土層）	長8.5＋α 厚2.2	凹面～側面ナデ。凸面タタキ後ナデか？	A:粗。1～3㎜程の白色砂粒を多量に含む。B:良好。C:内外共灰白（2.5Y8/2）～灰黄（2.5Y7/2）。	
30	瓦	平瓦	灰原3下 平坦部包含層 一括 灰原3下 平坦部3区包含層	長17.85＋α 幅16.65＋α 厚1.9	凹面布目痕。凸面所々に格子タタキが残る。	A:粗。3㎜以下の石英・長石・雲母等を多量に含む。B:不良。C:凸淡黄（2.5Y8/3～8/4）凹淡黄（2.5Y8/4）。	
31	須恵器	杯蓋	SD02 2・3区間ベルト1層(1・2層)	②1.7＋α	口縁部回転ナデ。	A:1㎜程の白色砂粒を多少含む。B:良好。C:外灰（N4/）内青灰（5PB5/1）。	
32	須恵器	杯蓋	SD02 3区1層	②1.9＋α	口縁部回転ナデ。	A:密。1㎜程の白色砂粒をわずかに含む。B:良好。C:外灰（N4/）内暗青灰（5PB4/1）。	
33	須恵器	杯蓋	SD02 5区1層	①(17.8)②3.05 つまみ径2.95	回転ナデ成形後、外面1/3回転ヘラ削り、内面1/2不定方向ナデ。つまみ部回転ナデにより貼付。	A:密。1㎜程の白色砂粒を少量含む。B:やや不良。C:外灰白（2.5Y8/1～7/1）内灰白（2.5Y8/1～8/2～7/1）。	
34	須恵器	杯蓋	SD02 4区1層	①(11.3)②1.9	天井部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。体部と天井部境で指頭圧痕が1周する。	A:粗。1㎜以下の石英・長石等を多量に含む。B:やや不良。C:外灰（N4/）～黄灰（2.5Y6/1）内黄灰（2.5Y6/1）～灰（N5/）。	
35	須恵器	杯蓋	SD02 1層	①10.45②2.1	天井部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。	A:密。1㎜以下の石英・長石等を少量含む。B:やや不良。C:外灰白（5Y8/2～7/2）内灰白（5Y7/2）。	
36	須恵器	杯蓋	SD02 2区1層	①（14.8） ②3.6＋α	回転ナデ成形後、天井部外面の一部回転ヘラ削り、つまみ貼付のナデ、内面不定方向ナデ。	A:良。B:良好。C:内外共暗灰（N3/）。	
37	須恵器	杯蓋	SD02 4区1層	①(16.8)②2.1 つまみ径2.85	回転ナデ成形後、外面1/3回転ヘラ削り。内面1/2回転ナデ後不定方向ナデ。つまみ部回転ナデによる貼付。	A:やや粗。3㎜以下の石英・長石等をやや多量に含む。B:良好。C:外灰（N6/～4/）内灰（N5/）。	
38	須恵器	杯蓋	SD02 4区1層	①(16.0)②3.2 つまみ径(2.8)	回転ナデ成形後、外面1/2回転ヘラ削り。つまみ部回転ナデにより貼付。	A:密。1㎜以下の石英・長石等をわずかに含む。B:不良。C:外橙（5YR7/8）～にぶい黄橙（10YR7/4）内橙（5YR7/8）。	
39	須恵器	杯蓋	SD02 4区1層	①15.9②2.15 つまみ径3.2	回転ナデ成形後、外面1/3回転ヘラ削り。内面2/3回転ナデ後不定方向ナデ。つまみ部回転ナデによる貼付。	A:密。2㎜の白色砂粒を少量含む。B:やや不良。C:内外共灰白（5Y7/1）。	大きく歪む。
40	須恵器	杯蓋	SD02 3区1層	①(18.0)②2.4 つまみ径3.4	回転ナデ成形後、外面約1/3回転ヘラ削り。つまみ部回転ナデによる貼付。内面1/4不定方向ナデ。	A:密。1～3㎜程の白色砂粒をわずかに含む。B:良好。C:内外共灰白（N8/～7/）～灰白（2.5GY8/1）。	
41	須恵器	杯蓋	SD02 4区1層	①(16.0)②3.3 つまみ径2.3	回転ナデ成形後、外面1/3回転ヘラ削り。内面2/3回転ナデ後不定方向ナデ。つまみ部回転ナデによる貼付。	A:密。細砂を含む。B:不良。C:内外共灰白（2.5Y8/1・5Y8/1）。	
42	須恵器	杯蓋	SD02 1層	①(15.6)②2.0	天井部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。	A:密。1㎜以下の石英・長石等を少量含む。B:やや不良。C:内外共灰白（5Y7/2）。	
43	須恵器	杯蓋	SD02 2区1層	①16.3②2.5＋α	磨滅の為、調整不明。	A:密。B:不良。C:外にぶい黄橙（10YR7/4）～橙（5YR6/8）～黒褐（5YR2/1）内にぶい黄橙（10YR7/4）～橙（7.5YR7/6）～褐灰（7.5YR5/1）。	
44	須恵器	杯蓋	SD02 2区1層	①(18.0)②1.75	口縁部～天井部回転ナデ。	A:密。B:やや不良。C:外褐灰（7.5YR5/1）～にぶい褐（7.5YR5/4）内橙（5YR6/8）。	
45	須恵器	杯蓋	SD02 3区1層	①(14.5)②2.95 つまみ径2.87	回転ナデ成形後、外面約1/3回転ヘラ削り。つまみ部回転ナデによる貼付。内面2/3不定方向ナデ。	A:密。1～2㎜程の白色砂粒を若干含む。B:良好。C:外明青灰（5PB7/1）～青灰（5PB5/1）内明青灰（5PB7/1）～青灰（5PB6/1）。	
46	須恵器	杯蓋	SD02 4区1層	①15.2②3.65 つまみ径2.3	回転ナデ成形後、外面1/3回転ヘラ削り。内面2/3回転ナデ後不定方向ナデ。つまみ部回転ナデによる貼付。	A:密。2㎜の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外灰白（N7/）内灰（N6/）。	歪みあり。
47	須恵器	杯蓋	SD02 2区1層 SD02 2・3区間ベルト1層(1・2層) SD02 1区1層	①19.2②3.2	回転ナデ成形後、外面1/2回転ヘラ削り。内面1/2不定方向ナデ。つまみ部回転ナデによる貼付。	A:精良。0.5～1㎜程の白色砂粒を含む。B:良好。C:外灰（N5/）～紫灰（5P6/1）～オリーブ灰（2.5GY6/1）内灰（N5/）～灰白（7.5Y7/1～8/2）。	
48	須恵器	杯蓋	SD02 1層	①(18.3)②1.3 つまみ径2.95	回転ナデ成形後、外面1/3回転ヘラ削り。内面1/3回転ナデ後ナデ。つまみ回転ナデによる貼付。	A:粗。4㎜以下の石英・長石等を多量に含む。B:良好。C:外灰（N6/）～灰白（7.5Y7/1）内灰（N5/）。	

表3　本堂遺跡第8次調査出土遺物観察表③

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高 ③底径④高台径 ⑤最大径 ()は復元	形態・技法の特徴	A：胎土B：焼成C：色調	備考
49	須恵器	杯蓋	SD02 1層	①(19.6) ②1.4＋α	回転ナデ成形後、外面1/2回転ヘラ削り。内面1/3回転ナデ後ナデ。	A:密。3mm以下の石英・長石等を少量含む。B:良好。C:外灰（N6/）内灰（N5/）～灰白（7.5Y7/1）。	大きく歪む。
50	須恵器	杯蓋	SD02 3区1層	①(19.65)②4.1 つまみ径2.95	回転ナデ成形後、外面約1/2回転ヘラ削り。つまみ部回転ナデによる貼付。	A:やや粗。1～2mm程の白色砂粒を若干含む。B:やや良好。C:外灰白（7.5Y8/1）内灰白（7.5Y8/1～7/1）。	
51	須恵器	杯蓋	SD02 1層	①18.25②3.1 つまみ径3.1	回転ナデ成形後、外面2/3回転ヘラ削り、内面1/2回転ナデ後ナデ？つまみ回転ナデにより貼付。	A:1mm以下の石英・長石等を少量含む。B:不良。C:外橙（5YR6/6）～にぶい黄橙（10YR7/4）内橙（5YR6/6）～淡黄（2.5Y8/3）。	天井部外面にヘラ記号。
52	須恵器	杯身	SD02 4区1層	①(9.8)②3.9 ④6.4	口縁部～体部回転ナデ。底部内面回転ナデ後不定方向ナデ、外面回転ヘラ切り。高台回転ナデによる貼付。	A:密。2mm程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外灰（7.5Y6/1）～灰（N5/）内灰（N4/）。	
53	須恵器	杯身	SD02 3区1層	①(11.5)②3.0 ④(6.8)	口縁部～体部回転ナデ。底部内面不定方向ナデ、外面ヘラ切り後回転ナデ。高台回転ナデによる貼付。	A:密。1mm以下の白色砂粒を多少含む。B:良好。C:外暗青灰（5PB4/1）内灰白（N7/）。	
54	須恵器	杯身	SD02 5区北側ベルト1層	①(11.9)②2.5 ④(8.7)	口縁部～体部回転ナデ。底部内面不定方向ナデ、外面ヘラ切り。高台回転ナデにより貼付。	A:密。1mm以下の白色砂粒を若干含む。B:良好。C:外灰（N6/）～灰白（N7/）・暗灰（N3/）内灰（N6/）。	
55	須恵器	杯身	SD02 1層	①12.35②3.5 ④(8.5)	口縁部～体部回転ナデ。底部内面不定方向ナデ、外面ヘラ切り後ナデ。高台回転ナデによる貼付。	A:密。1mm程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外灰（N4/）内灰白（N7/）。	
56	須恵器	杯身	SD02 3区1層 SD02 1層	①12.1②4.05 ④7.9	口縁部～体部回転ナデ。底部内面不定方向ナデ、外面ヘラ切り。高台回転ナデによる貼付後体部・底部の境に回転ヘラ削り。	A:密。1mm程の白色砂粒を若干含む。B:良好。C:内外共灰白（N7/）。	
57	須恵器	杯身	SD02 4区1層	①(12.95)②3.75 ④（9.6）	口縁部～体部回転ナデ。底部内面回転ナデ後不定方向ナデ、外面回転ヘラ切り。高台回転ナデによる貼付。	A:密。1～2mmの白色砂粒を少量含む。B:良好。C:内外共灰白（7.5Y7/1）～灰（N5/）。	
58	須恵器	杯身	SD02 5区1層	①(13.5)②3.75 ④9.2	口縁部～体部回転ナデ。底部内外面不定方向ナデ。高台回転ナデによる貼付。	A:密。1～2mm程の白色砂粒を多少含む。B:良好。C:外灰白（N7/）・灰（N5/）内灰白（N7/）。	
59	須恵器	杯身	SD02 4区1層	①13.1②3.6 ④(9.4)	口縁部～体部回転ナデ。底部内面回転ナデ後不定方向ナデ、外面回転ヘラ切り後不定方向ナデ。高台回転ナデによる貼付。	A:密。細砂を含む。B:良好。C:外灰（N4/～6/）内灰（N6/）。	
60	須恵器	杯身	SD02 1層	①13.2②4.5 ④8.3	口縁部～体部回転ナデ。底部内面不定方向ナデ、外面ヘラ切り後ナデ。高台回転ナデによる貼付。	A:密。1mm程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外灰白（N7/）内灰（N5/）。	大きく歪む。
61	須恵器	杯身	SD02 3区1層	①14.4②4.45 ④9.8	口縁部～体部回転ナデ。底部内面不定方向ナデ、外面回転ヘラ切り後ナデ。高台回転ナデによる貼付。	A:密。1mm程の白色砂粒をごくわずかに含む。B:良好。C:外灰白（N8/～7/）～灰（N5/～4/）内灰白（N8/～7/）。	
62	須恵器	杯身	SD02 1層	①(14.0)②4.75 ④(9.15)	口縁部～体部回転ナデ。底部内面不定方向ナデ、外面ヘラ切り。高台回転ナデによる貼付。	A:密。1mm以下の砂粒をごくわずかに含む。B:良好。C:外灰白（N7/～6/）暗灰（N3/）内暗青灰（5PB4/1）灰（N5/）。	体部外面に他器種の破片釉着。
63	須恵器	杯身	SD02 1層	①(14.55)②4.2 ④(9.7)	口縁部～体部回転ナデ。底部内面不定方向ナデ、外面ヘラ切り後ナデ。高台回転ナデによる貼付。	A:密。1～3mm程の白色砂粒を多少含む。B:良好。C:外灰白（N7/）～灰（N5/）内黒（N2/）にぶい赤褐（2.5YR4/4）。	
64	須恵器	杯身	SD02 2区1層	①(13.4)②5.0 ④9.9	口縁部～体部回転ナデ。底部内外面不定方向ナデ。高台回転ナデによる貼付。	A:良。B:良好。C:外青灰（5B6/1）～暗青灰（5B4/1）内暗青灰（5B4/1）。	外面に降灰。口縁部が歪む。
65	須恵器	杯身	SD02 1層	①(12.8)②5.2 ④(10.1)	口縁部～体部回転ナデ。底部内面不定方向ナデ、外面ヘラ切り後ナデ。高台回転ナデによる貼付。	A:密。1～2mm程の白色砂粒を多少含む。B:良好。C:外灰（N4/）内青灰（5PB5/1）。	
66	須恵器	杯身	SD02 4区1層	①(13.9)②6.0 ④10.0	口縁部～体部回転ナデ。底部内面回転ナデ後不定方向ナデ、外面回転ヘラ切り。高台回転ナデによる貼付。	A:密。1～2mm程の白色砂粒を含む。B:やや不良。C:外灰白（7.5Y7/1）～灰（10Y5/1）内灰白（7.5Y7/1）。	
67	須恵器	杯身	SD02 4区1層 SD02 4区3層	①14.6②6.1 ④10.4	口縁部～体部回転ナデ。底部内面回転ナデ後不定方向ナデ、外面回転ヘラ切り。高台回転ナデによる貼付。	A:密。1mm程の白色砂粒を少量含む。B:不良。C:内外共灰白（2.5Y8/2）。	
68	須恵器	杯身	SD02 4区1層	①(13.9)②5.6 ④(10.2)	口縁部～体部回転ナデ。底部内面回転ナデ後不定方向ナデ、外面回転ヘラ切り。高台回転ナデによる貼付。	A:密。1mm程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外灰（N6/）～灰白（N8/）内灰白（N8/）。	
69	須恵器	杯身	SD02 2区1層 SD02 2・3区間ベルト1層(1・2層)	①(14.6)②5.25 ④10.1	口縁部～体部回転ナデ。底部内面回転ナデ後不定方向ナデ、外面ヘラ切り後ナデ。高台回転ナデによる貼付。	A:密。1mm以下の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外灰（N4/）内灰（N5/）。	
70	須恵器	杯身	SD02 2区1層 SD02 1・2区間ベルト1層(1・2層)	①(15.65)②4.8 ④11.3	口縁部～体部・底部内面回転ナデ底部外面ヘラ切り後ナデ。高台回転ナデによる貼付。	A:密。3～5mm程の白色砂粒を少量含む。B:やや不良。C:内外共橙（7.5YR7/6～6/6）。	

表4　本堂遺跡第8次調査出土遺物観察表④

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高 ③底径④高台径 ⑤最大径 ()は復元	形態・技法の特徴	A：胎土B：焼成C：色調	備考
71	須恵器	杯身	SD02 2区1層	①(16.0)②5.5 ④(10.6)	口縁部～体部回転ナデ。底部内外面不定方向ナデ。高台ナデによる貼付。	A:密。B:良好。C:内外共明赤褐(5YR5/6)。	
72	須恵器	杯身	SD02 2区1層	②3.2＋α ④(9.0)	体部回転ナデ。底部内面回転ナデ後不定方向ナデ、外面ヘラ切り後ナデ。高台回転ナデによる貼付。	A:密。1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外灰白(5Y7/1)～灰(N5/)内灰(N6/)。	
73	須恵器	杯身	SD02 2区1層 SD02 1・2区間ベルト1層(1・2層)	①(15.6)②5.0 ④11.2	口縁部～体部回転ナデ。底部内外面不定方向ナデ。高台ナデによる貼付。	A:良。B:良好。C:外明黄褐(10YR6/6)～橙(7.5YR6/6)内橙(7.5YR7/6)。	
74	須恵器	杯身	SD02 2区1層	①14.7②5.0 ④10.0	口縁部～体部回転ナデ。高台回転ナデによる貼付。	A:良。B:良好。C:外にぶい黄橙(10YR7/3)～橙(7.5YR7/6)～緑灰(7.5GY6/1)内橙(7.5YR7/6)。	
75	須恵器	杯身	SD02 2区1層	①15.4②5.4 ④10.2	口縁部～体部・底部内面回転ナデ。底部外面不定方向ナデ。高台回転ナデによる貼付。	A:粗。B:良好。C:内外共橙(7.5YR6/6)。	
76	須恵器	杯身	SD02 1層 SD02 2区1層	①(14.0)②6.8 ④9.7	口縁部～体部・底部内面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ、外面回転ヘラ削り後ナデ。高台回転ナデによる貼付。	A:粗。4㎜以下の石英・長石等を多量に含む。B:良好。C:外灰(N4/～5/)内(N4/～6/)。	大きく歪む。
77	須恵器	杯身	SD02 4区1層	①15.9②6.0＋α ④9.6	口縁部～体部回転ナデ。底部内面回転ナデ後不定方向ナデ、外面回転ヘラ削り。高台回転ナデによる貼付。	A:密。2㎜程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外灰白(10Y7/1)～暗灰(N3/)内灰(N4/)～暗灰(N3/)。	大きく歪む。
78	須恵器	杯身	SD02 1層	①(16.65)②6.6 ④8.8	口縁部～体部回転ナデ。底部内面不定方向ナデ、外面ヘラ切り後ナデ。高台回転ナデによる貼付。	A:密。1～2㎜程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外灰白(N7/)内暗灰(N3/)。	大きく歪む。
79	須恵器	杯身	SD02 1層	①(15.2)②6.2 ④8.8	口縁部～体部回転ナデ。底部内面不定方向ナデ、外面ヘラ切り後ナデ。高台回転ナデによる貼付。	A:密。1～3㎜程の白色砂粒を多少含む。B:良好。C:外灰白(N7/)～灰(N4/)内灰赤(2.5YR5/2)。	大きく歪む。
80	須恵器	杯身	SD02 4区1層	①(17.7)②5.9 ④12.0	口縁部～体部回転ナデ。底部内面回転ナデ後不定方向ナデ、外面回転ヘラ切り。高台回転ナデによる貼付。	A:密。細砂を含む。B:良好。C:外灰(N5/)内灰(10Y6/1)。	
81	須恵器	杯身	SD02 4区1層	①(19.6)②5.5 ④(12.6)	口縁部～体部回転ナデ。底部内面回転ナデ後一定方向ナデ、外面回転ヘラ削り後回転ナデ。高台回転ナデによる貼付。	A:密。2㎜以下の石英・長石等を少量含む。B:良好。C:外灰白(2.5Y8/2)内灰白(2.5Y8/1)。	
82	須恵器	杯身	SD02 5区1層	①(12.2)②3.9	口縁部～体部回転ナデ。底部内面不定方向ナデ、外面ヘラ切り後ナデ。	A:密。1～4㎜程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:内外共青灰(5PB5/1)。	大きく歪む。
83	須恵器	杯身	SD02 4区1層	①(12.7)②3.7 ③(9.6)	口縁部～体部・底部内面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り。	A:密。細砂を含む。B:良好。C:内外共灰(N6/)。	底部外面に板状圧痕。
84	須恵器	杯身	SD02 4区1層	①(13.0)②3.7 ③(10.0)	口縁部～体部・底部内面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り。	A:密。1㎜程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外暗灰(N3/)～黒(N2/)内灰白(5Y7/1)～暗灰(N3/)。	内面に降灰。
85	須恵器	杯	SD02 3区1層	①(14.8)②4.85	口縁部～体部回転ナデ。底部内面不定方向ナデ、外面回転ヘラ削り。体部に1条沈線。	A:密。1～2㎜程の白色砂粒を多量に含む。B:やや良好。C:外灰褐(5YR5/2)内橙(5YR6/6)。	
86	須恵器	Ⅲ？ 杯？	SD02 4区1層	②2.5＋α③10.1	体部回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ、外面ヘラ切り後ナデ。	A:密。1㎜以下の石英・長石等をわずかに含む。B:良好。C:内外共灰白(10Y7/1～N7/)。	
87	須恵器	Ⅲor 盤	SD02 4区1層	②3.2＋α	口縁部～体部回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り後回転ナデ。	A:密。1㎜以下の石英・長石・黒色粒等をわずかに含む。B:良好。C:内外共灰白(N7/)。	
88	須恵器	Ⅲ	SD02 5区1層	①(12.3)②1.65 ③(8.7)	口縁部～体部回転ナデ。底部内面不定方向ナデ、外面ヘラ切り後ナデ。	A:密。1～2㎜程の白色砂粒を若干含む。B:やや良好。C:内外共明オリーブ灰(2.5GY7/1)。	
89	須恵器	Ⅲ	SD02 4区1層	①(14.7)②2.3 ③(10.8)	口縁部～体部回転ナデ。底部内面回転ナデ後一定方向ナデ、外面回転ヘラ切り後ナデ。	A:密。2㎜以下の石英・長石等を少量含む。B:良好。C:内外共灰白(7.5Y7/1)。	
90	須恵器	Ⅲ	SD02 2・3区間ベルト1層(1・2層)	①17.0②2.85 ③11.6	口縁部～体部回転ナデ。底部内面不定方向ナデ、外面ヘラ切り後ナデ。	A:密。1～3㎜程の白色砂粒を多少含む。B:良好。C:外灰白(5Y7/1)内灰白(N7/)。	
91	須恵器	Ⅲ	SD02 1・2区間ベルト1層(1・2層)	①19.3②2.55 ③15.0	口縁部～体部回転ナデ。底部内面回転ナデ後不定方向ナデ、外面ヘラ切り後回転ヘラ削り。	A:やや粗。1～3㎜程の白色砂粒を多小含む。B:良好。C:外暗灰(N3/)～灰(N5/)内灰(N4/)～灰白(N7/)。	大きく歪む。
92	須恵器	Ⅲ	SD02 4区1層	①(20.4)②2.1 ③(17.9)	底部外面ヘラ切り後ナデ。他は磨滅の為、調整不明。	A:密。3㎜以下の石英・長石等を少量含む。B:不良。C:内外共灰白(2.5Y8/2)。	
93	須恵器	Ⅲ	SD02 4区1層	①(21.0)②2.7 ③(14.9)	口縁部～体部回転ナデ。底部内面回転ナデ後中央部ナデ、外面ヘラ切り後一部手持ちヘラ削りか？	A:密。2㎜以下の石英・長石等を少量含む。B:良好。C:内外共灰(N5/)。	

表5 本堂遺跡第8次調査出土遺物観察表⑤

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高 ③底径④高台径 ⑤最大径 ()は復元	形態・技法の特徴	A：胎土B：焼成C：色調	備考
94	須恵器	盤	カクラン3 3区 SD02 5区1層 SD02 5区北側ベルト2層(2・3層) SD02 5区北側ベルト3層(4・6層) SD02 5区北側ベルト1層(1層)	①27.1②4.55 ④19.8	口縁部～体部回転ナデ。体部下位外面回転ヘラ削り後回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ、外面回転ヘラ削り後回転ナデ。高台回転ナデにより貼付。	A:密。2mm以下の石英・長石等をわずかに含む。B:良好。C:外灰白（7.5Y7/1）～灰（N5/）内灰白（N7/）～灰白（7.5Y7/1）。	
95	須恵器	高杯	SD02 2区1層	②1.7＋α	磨滅の為、調整不明。	A:良。B:良好。C:内外共橙（5YR6/8）。	
96	須恵器	高杯	SD02 4区1層	②1.4＋α	口縁部～底部の1/3回転ナデ。底部内面回転ナデ後不定方向ナデ、外面回転ヘラ削り後ナデ。	A:密。2mm程の白色砂粒を微量含む。B:良好。C:外暗青灰（5PB4/1）内灰（N4/）。	
97	須恵器	高杯？	SD02 2区1層 SD02 2・3区間ベルト1層(1・2層)	①(13.0) ②3.8＋α	口縁部～体部・底部外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後不定方向ナデ。	A:密。2mm以下の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外灰白（N7/）～黒（N2/）内灰（N3/）。	外面に降灰。
98	須恵器	高杯	SD02 1層	①(14.5) ②5.1＋α	口縁部～体部回転ナデ。底部内面回転ナデ後不定方向ナデ、外面回転ヘラ削り後回転ナデ・ナデ。脚部回転ナデによる貼付。	A:密。1mm以下の石英・長石等を少量含む。B:良好。C:杯外灰（N4/～7/）杯内灰（N4/）脚内灰（N4/）。	
99	須恵器	高杯	SD02 3区1層	②4.3＋α 頸部径3.5	杯底部内面不定方向ナデ、外面ナデ。脚部回転ナデ、内面に指頭圧痕が残る。	A:密。1～2mm程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外灰（N6/～5/）内褐灰（5YR6/1）暗灰（N3/）。	
100	須恵器	高杯	SD02 1層	②4.8＋α	杯部内面回転ナデ後ナデ、外面ナデ。脚部回転ナデ。	A:密。1mm以下の石英・長石・黒色粒等を少量含む。B:良好。C:杯内灰黄（2.5Y7/2）脚内灰（N6/）脚外黄灰（2.5Y5/1：降灰部）～灰（N7/）。	外面に薄く降灰。 杯部内面他の遺物釉着。
101	須恵器	鉢	SD02 4区1層 表土ハギ後表採 SD02 3区3層	①(22.0)②8.85 ③(12.5)	口縁部～体部回転ナデ。底部内面磨滅の為、調整不明。底部外面ヘラ切り後回転ナデ。	A:密。1mm以下の石英・長石等をわずかに含む。B:やや不良。C:内外共灰黄（2.5Y7/2）～灰白（7.5Y8/1）。	
102	須恵器	鉢	SD02 4区1層	①(14.2)②7.3 ③(9.2)	口縁部～体部回転ナデ。体部下位外面ヘラ削り後回転ナデ。底部内面回転ナデ後不定方向ナデ、外面ヘラ切り後ナデ。体部外面に2条沈線。	A:ほぼ密。3mm以下の石英・長石等を少量含む。B:やや不良。C:内外共灰白（5Y7/1）。	
103	須恵器	鉢	SD02 1層 SD02 1区1層	①(17.0) ②5.55＋α	口縁部～体部回転ナデ。	A:やや粗。2mm以下の石英・長石等をやや多量に含む。B:良好。C:外灰（N7/～4/）内灰（N6/）。	
104	須恵器	鉢	SD02 3区1層 SD02 1層	①11.7②6.6	口縁部～体部・底部外面回転ナデ。底部内面不定方向ナデ。	A:粗。1mm程の白色砂粒・赤色粒を若干含む。B:不良。C:外灰白（7.5YR8/2）内浅黄橙（7.5YR8/4～8/6）。	
105	須恵器	壺	SD02 1層	②7.0＋α ③(14.0)	体部下位外面回転ヘラ削り。底部外面ヘラ切り後回転ヘラ削り。内面回転ナデ。	A:密。1～2mm程の白色砂粒を若干含む。B:良好。C:外灰（N4/）内灰（N6/）。	
106	須恵器	こね鉢	SD02 1層	②6.6＋α③10.3	体部回転ナデ。底部内面不定方向ナデ、側面回転ナデ、底面ナデ。	A:やや粗。1～3mm程の白色砂粒を多少含む。B:良好。C:外灰（N6/～4/）内灰白（N7/）。	
107	須恵器	こね鉢	SD02 2区1層	②4.4＋α③8.8	体部回転ナデ。底部内面ナデ、側面回転ナデ、底面ナデ。	A:密。2mm以下の白色砂粒を少量含む。B:やや不良。C:外橙（5YR6/8）～明赤褐（5YR5/6）内明赤褐（5YR5/8）。	底面に多数の刺突痕あり。
108	須恵器	皿	SD02 2区1層	②3.7＋α ③(17.6)	体部回転ナデ。底部内面不定方向ナデ、外面ヘラ切り後不定方向ナデ。	A:精良。B:良好。C:内外共にぶい橙（7.5YR6/4）。	
109	須恵器	鉢	SD02 2・3区間ベルト1層(1・2層) SD02 2区3層 SD02 3区3層 SD02 2区1層	①(22.05) ②8.6+4.7＋α ③(15.5)	口縁部～体部上位は磨滅の為、調整不明。体部回転ナデ。底部内面不定方向ナデ、外面ヘラ切り。	A:やや密。1mm程の白色砂粒・黒色砂粒を多少含む。B:不良。C:外灰白（5Y8/1）・橙（5YR7/8）内灰白（5Y8/1）。	
110	須恵器	壺	SD02 1区東灰色粘質土(3層)	②4.25＋α ③(9.3)	頸部～体部・底部内面回転ナデ。底部外面回転ヘラ切り。	A:密。細砂を含む。B:やや不良。C:内外共橙（7.5YR6/6）。	
111	須恵器	短頸壺 蓋	カクラン3 3区 SD02 4区1層	①(14.8)②2.5	回転ナデ成形後、天井部外面回転ヘラ削り後回転ナデ、内面回転ナデ後ナデ。	A:密。1mm以下の石英・長石等をわずかに含む。B:良好。C:内外共灰（N6/～5/）。	
112	須恵器	短頸壺	SD02 4区1層	①(10.0)②15.5 ④10.5	口縁部～体部回転ナデ。体部下位外面回転ヘラ削り。底部内面回転ナデ後不定方向ナデ、外面回転ナデ。高台回転ナデにより貼付。	A:密。2mm以下の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外灰（N6/）～暗灰（N3/）～暗オリーブ灰（2.5GY3/1）内灰（N6/）。	外面上位降灰。
113	須恵器	短頸壺	SD02 1層	①(13.1) ②8.4＋α	口縁部～体部上位回転ナデ。	A:密。2mm以下の白色砂粒を含む。B:やや不良。C:外にぶい橙（7.5YR7/3～7/4）内褐灰（10YR4/1～6/1）。	
114	土師器	甑 (把手)	SD02 3区1層	②5.6＋α	把手部ナデによる成形。体部内面ナデ。	A:密。1mm以下の白色砂粒をごくわずかに含む。B:良好。C:外橙（5YR6/6）灰白（10YR8/2）内橙（5YR6/8）。	把手部残存。
115	須恵器	短頸壺	SD02 2区1層	②8.8+α	体部上位ナデ、中位内面指頭圧。把手部ナデ。	A:良。B:良好。C:内外共橙（5YR7/8）。	
116	須恵器	長頸壺	SD02 4区1層	①(10.6) ②11.7＋α	口縁部～頸部回転ナデ。	A:密。1mm以下の石英・長石等をわずかに含む。B:良好。C:外灰白（7.5Y7/1）～灰（N5/）内灰白（7.5Y7/1）。	
117	須恵器	長頸壺	SD02 4区1層	①(13.6) ②6.3＋α	口縁部～頸部回転ナデ。	A:密。1mm以下の石英・長石等をわずかに含む。B:良好。C:外灰（N4/～7.5Y6/1）内灰（N7/～N6/）。	
118	須恵器	長頸壺	SD02 1層	④11.1⑤(18.8)	体部・底部内面回転ナデ。体部下位外面回転ヘラ削り。底部外面ヘラ切り後ナデ。高台回転ナデによる貼付。	A:1～4mm程の白色砂粒をやや多量に含む。B:良好。C:外灰（N4/）内明青灰（5PB7/1）～青灰（5PB6/1）。	

表6 本堂遺跡第8次調査出土遺物観察表⑥

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高 ③底径④高台径 ⑤最大径 ()は復元	形態・技法の特徴	A：胎土B：焼成C：色調	備考
119	須恵器	長頸壺	SD02 3区1層	②32.2＋α ④14.2⑤28.3 頸部径10.6	口縁部～体部回転ナデ。体部下位外面回転ヘラ削り。底部内面回転ナデ後不定方向ナデ、外面ヘラ切り後ナデ。高台回転ナデによる貼付。頸部外面に2条沈線。	A:精良。1～2㎜程の白色砂粒をわずかに含む。B:良好。C:内外共にぶい赤橙（10R6/4）～赤褐（10R5/4）・橙（5YR7/6）。	肥後系壺。
120	須恵器	壺	SD02 4区1層	②5.4＋α ④(10.7)	体部外面回転ヘラ削り。内面・底部外面回転ナデ。高台回転ナデにより貼付。	A:密。1㎜の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外灰（10Y5/1・N6/～4/）内灰（N6/）。	
121	須恵器	杯（高台付？）	SD02 2区1層	②2.9＋α ③(11.2)	体部回転ナデ。底部内面回転ナデ後不定方向ナデ、外面回転ヘラ削り。高台貼付の回転ナデが残る。	A:密。1～2㎜程の白色砂粒を含む。B:良好。C:外灰（N6/）内灰白（N7/）。	
122	須恵器	鉢	SD02 4区1層	②5.2＋α ③(5.5)	体部外面回転ヘラ削り後回転ナデ、内面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ、外面回転ナデ。	A:密。1㎜以下の石英・長石等をわずかに含む。B:良好。C:内外共灰白（N7/）。	
123	須恵器	壺	SD02 1層	②7.1＋α③8.4	体部・底部内面回転ナデ。底部外面ヘラ切り後不定方向ナデ。	A:密。1㎜程の白色砂粒をわずかに含む。B:良好。C:外灰白（N7/）内灰（N6/～5/）。	
124	須恵器	甕	SD02 4区1層	②3.0＋α ⑤(10.0)	体部回転ナデ後、外面に3条沈線・穿孔の順に施す。	A:密。2㎜以下の石英・長石をわずかに含む。B:良好。C:内外共灰（N5/）。	
125	須恵器	甕	SD02 1層	①(21.8) ②7.7＋α	口縁部～頸部回転ナデ。頸部内面の一部に縦方向ナデ。体部内面同心円の当て具痕、外面擬格子タタキ。	A:密。2㎜以下の白色砂粒を少量含む。B:やや不良。C:内外共灰白（7.5Y7/1）～灰（7.5Y6/1）。	
126	須恵器	甕	SD02 3区1層	①20.55 ②10.4＋α 頸部径16.75	体部内面同心円の当て具痕。他は磨滅の為、調整不明。	A:やや粗。2㎜程の白色砂粒をごくわずかに含む。B:不良。C:内外共黄橙（10YR8/6～7.5YR7/8）。	
127	土師器	壺	SD02 2区1層	①(9.2) ②5.8＋α	口縁部～頸部ヨコナデ。体部内面ナデ。	A:精良。B:良好。C:内外共浅黄（7.5YR8/4）～にぶい橙（7.5YR7/4）。	
128	土師器	甕	SD02 1層	①(20.7) ②7.5＋α	口縁部ヨコナデ。頸部～体部外面・頸部内面ハケメ。	A:密。2㎜以下の石英・長石・雲母等を少量含む。B:良好。C:外にぶい橙（7.5YR6/4）内橙（7.5YR6/6）～灰黄褐（10YR6/2）。	頸部～体部外面に煤付着。
129	土師器	甕	SD02 3区1層	②7.4＋α	体部外面タタキか？他は磨滅の為、調整不明。	A:やや粗。1～2㎜程の白色砂粒を若干含む。B:良好。C:外橙（5YR6/6）内橙（5YR6/6～7/6）。	
130	土師器	鉢or椀	SD02 2区1層	②4.85＋α	口縁部～体部ナデ調整。所々に指頭圧痕が残る。	A:密。金雲母を含む。B:良好。C:外にぶい黄橙（10YR6/4）～黄灰（2.5Y4/1）内黄灰（2.5Y5/1）。	
131	土師器	椀	SD02 2・3区間ベルト1層(1・2層)	①(14.1) ②4.75＋α	口縁部ヨコナデ。他は磨滅の為、調整不明。	A:やや粗。1～2㎜程の白色砂粒を多量に含む。B:良好。C:外にぶい黄褐（10YR5/4）・淡赤橙（2.5YR7/4）内にぶい黄橙（10YR7/4）。	
132	土師器	椀	SD02 1層	①(16.6)②7.4 ③10.6	磨滅の為、調整不明。	A:やや粗。3㎜程の白色砂粒をやや多量に含む。B:良好。C:内外共にぶい黄橙（10YR7/3・6/3・7/4）。	
133	土師器	鉢	SD02 1層	①10.2②5.05 ③6.45	ナデによる成形。指頭圧痕が顕著に残る。	A:粗。4.5㎜以下の石英・長石・雲母等を多量に含む。B:良好。C:外橙（5YR6/6）内橙（5YR6/6）～にぶい褐（7.5YR6/3）。	
134	土師器	皿	SD01 2・3区間ベルト1層	①8.6②1.6③7.2	口縁部～体部摩滅の為、調整不明。底部内面回転ナデ、外面回転糸切り痕。	A:良。B:良好。C:内外共明黄褐（10YR7/6）。	
135	土師器	皿	SD01 2区1層 SD01 2・3区間ベルト2層	①(12.0)②2.6 ③10.2	底部内面回転ナデ、外面回転糸切り。他は磨滅の為調整不明。	A:良。B:良好。C:内外共にぶい黄橙（10YR7/4）。	
136	土師器	鍔付甕？	SD02 4区1層	①(24.0) ②4.5＋α 鍔部径(27.0)	口縁部～体部ヨコナデか？鍔部指頭圧後ヨコナデ。	A:粗。5㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母等を多量に含む。B:良好。C:内外共淡黄（2.5Y8/3）。	
137	土師器	把手	SD02 2区1層	②7.0＋α	ナデによる成形。	A:密。1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:内外共橙（7.5Y7/6）。	
138	土師器	移動式カマド	SD02 1区1層	②8.5＋α	ナデによる成形。	A:密。2㎜以下の白色砂粒を含む。B:良好。C:外橙（7.5YR7/6）内橙（7.5YR7/6・5YR6/6））。	移動式カマドの把手か？
139	白磁	椀	SD01 1区2層	①16.7②6.8 ④6.5	玉縁口縁。体部外面回転ヘラ削り。底部削り出し高台。内面見込みに沈線。	A:精良。B:良好。C:	
140	陶磁器	椀	SD02 3区1層	②1.5＋α	口縁部ナデ。	A:やや粗。1㎜以下の白色砂粒・赤色粒を多少含む。B:不良。C:内外共灰白（2.5Y8/1～8/2）。	
141	陶磁器	椀	SD02 5区1層	②1.9＋α④5.2	磨滅の為、調整不明。	A:やや粗。1～3㎜程の白色砂粒を多少含む。B:不良。C:外灰白（7.5Y8/1）内灰白（5Y8/1）。	
142	土師器	移動式カマド	SD02 2区1層	②12.4＋α	底部外面削り。内面ナデ、指頭圧痕が残る。	A:密。1～2㎜程の白色砂粒、金雲母を多量に含む。B:良好。C:橙（5YR7/6）ス ス付着部にぶい赤褐（5YR5/4）。	煤付着。
143	土師器	把手	SD02 2区1層	②3.1＋α	ナデによる成形か？	A:良。B:良好。C:浅黄（2.5Y7/3）～黒（2.5Y2/1）。	黒斑あり。 把手部残存。
144	土製品	不明品	SD02 2区1層	長3.3＋α 幅2.65＋α	調整不明。器体に穿孔。	A:良。B:良好。C:	傘状土製品か？

表7　本堂遺跡第8次調査出土遺物観察表⑦

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高 ③底径④高台径 ⑤最大径 ()は復元	形態・技法の特徴	A：胎土B：焼成C：色調	備考
145	瓦	平瓦？	SD02 1層	長8.3＋α 厚2.5＋α	凹面ナデか？凸面網目タタキ痕。	A:密。2㎜程の白色砂粒を少量含む。B:やや不良。C:凹凸共灰白（5Y7/1）。	
146	須恵器	杯蓋	SD02 4区2層	①(12.4)②2.6 つまみ径2.25	回転ナデ成形後、外面1/3回転ヘラ削り・1/3ヘラ切り。内面2/3回転ナデ後不定方向ナデ。つまみ部回転ナデにより貼付。	A:密。1㎜程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外灰（N5/）内灰（N6/）。	
147	須恵器	杯蓋	SD02 4区2層	②1.9＋α つまみ径2.3	回転ナデ成形後、外面1/2回転ヘラ削り、内面回転ナデ後ナデ。つまみ部回転ナデにより貼付。	A:密。1㎜程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外暗灰（N3/）内灰（N4/）。	
148	須恵器	杯蓋	SD02 5区2層	①(16.0)②2.8 つまみ径2.65	磨滅の為、調整不明。	A:やや粗。1㎜程の白色砂粒をわずかに含む。B:不良。C:内外共灰白（N8/）。	
149	須恵器	杯蓋	SD02 5区北側ベルト2層(1層)	①(15.8)②2.22 つまみ径2.14	回転ナデ成形後外面の一部に不定方向ナデ。つまみ部回転ナデにより貼付。	A:密。1～2㎜程の白色砂粒をわずかに含む。B:良好。C:外灰白（N7/）・灰（N4/）内明青灰（5PB7/1）・青灰（5PB5/1）。	口縁部内外面に煤付着。
150	須恵器	杯蓋	SD02 4区2層	①16.2②1.3 つまみ径2.4	回転ナデ成形後、外面1/2回転ヘラ削り。つまみ部回転ナデにより貼付。	A:密。1㎜程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外灰（N5/）内灰（N6/）。	口縁部外面重ね焼きの痕跡。
151	須恵器	杯身	SD02 5区2層	②2.65＋α	立ち上がり・受け部回転ナデ。	A:1～2㎜程の白色砂粒を多少含む。B:良好。C:外灰（N6/～5/）内灰白（N7/）～灰（N6/）。	
152	須恵器	杯身	SD02 5区2層	①(13.7)②3.5 ④8.6	口縁部～体部回転ナデ。底部内面不定方向ナデ、外面ヘラ切り後ナデ。高台回転ナデにより貼付。	A:密。1～3㎜程の白色砂粒をわずかに含む。B:良好。C:外灰（N6/～5/）～灰白（N7/）内灰（N6/）。	
153	須恵器	杯身	SD02 5区2層	①(13.4)②4.8 ④(9.3)	口縁部～体部回転ナデ。底部不定方向ナデ、外面ヘラ切り後ナデ。高台回転ナデにより貼付。	A:密。2～5㎜程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外青灰（5PB5/1）内青灰（5PB6/1）。	
154	須恵器	杯身	SD02 5区2層 SD02 5区1層 SD02 5区4層	①(13.6)②4.95 ④9.5	口縁部～体部回転ナデ。底部内面不定方向ナデ、外面ヘラ切り。高台回転ナデにより貼付。	A:密1～2㎜程の白色砂粒をわずかに含む。B:良好。C:外灰（N4/～6/）内青灰（5PB6/1～5/1）。	
155	須恵器	杯身	SD02 3区2層	①(13.5)②5.15 ④（9.1）	口縁部～体部回転ナデ。底部内面不定方向ナデ、外面回転ヘラ切り後ナデ。高台回転ナデによる貼付。	A:密。1～2㎜程の白色砂粒をわずかに含む。B:良好。C:外灰白（N7/）～暗灰（N3/）内灰（N4/～5/）。	金属器模倣 杯の可能性あり。
156	須恵器	杯身	SD02 5区2層 SD02 5区1層	②4.4＋α ④(9.7)	体部回転ナデ。底部内面不定方向ナデ、外面ヘラ切り後ナデ。高台回転ナデにより貼付。	A:密。1～2㎜程の白色砂粒を多量に含む。B:良好。C:外暗灰（N3/）内暗青灰（5PB4/1）。	
157	須恵器	杯身	SD02 5区北側ベルト2層(1層)	①(12.4)②2.9 ③(10.4)	口縁部～体部回転ナデ。底部内面不定方向ナデ、外面粗いナデ。	A:密。1～3㎜程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外灰（N5/～4/）内灰（N6/～4/）。	
158	須恵器	高杯	SD02 5区2層	②7.0＋α ③(11.2)	杯底部外面ナデ。脚部回転ナデ。	A:密。1㎜程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外灰白（N7/）～灰（N6/）内明オリーブ灰（2.5GY7/1）。	
159	須恵器	短頸壺	SD02 4区2層	①(11.9)②11.95 ④(11.9)⑤17.2	内面～口縁部～体部上位・底部外面回転ナデ。体部中位～下位外面回転ヘラ削り。高台回転ナデにより貼付。	A:密。3㎜程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外灰（N6/～4/）内灰白（N7/）。	
160	須恵器	短頸壺	SD02 4区2層 SD02 4区1層	②16.0＋α ④(11.9)	体部回転ナデ。体部下位外面回転ヘラ削り、内面不定方向ナデ。底部外面ヘラ切り。高台回転ナデにより貼付。	A:密。2㎜程の白色砂粒を少量含む。B:やや不良。C:外灰白（2.5Y7/1～8/2）内にぶい黄橙（10YR7/2）。	
161	須恵器	四耳壺？	SD02 4区2層 SD02 4区1層	②16.3＋α ③12.3	体部外面回転ヘラ削り。内面・底部外面回転ナデ。耳部指頭圧・ナデにより貼付。	A:密。1～2㎜程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:内外共灰白（N8/）。	
162	須恵器	壺	SD02 5区北側ベルト2層(2・3層)	②5.8＋α	体部外面回転ヘラ削り、内面回転ナデ。	A:密。1㎜以下の白色砂粒・黒色粒をわずかに含む。B:良好。C:外オリーブ黄（7.5Y6/3）・灰（N4/）・にぶい赤褐（2.5YR5/4）内灰（N5/～4/）。	
163	須恵器	壺	SD02 5区3層 SD02 5区2層 SD02 5区北側ベルト2層(2・3層) SD02 5区北側ベルト3層(2・3層) SD02 5区北側ベルト1層(1層) SD02 5区北側ベルト2層(3・4層) SD02 5区北側ベルト3層(4～6層) カクラン3 3区	②10.7＋α ④(14.1)	体部回転ナデ。底部内面不定方向ナデ。高台回転ナデにより貼付。底部外面釉着固体は底部内面不定方向ナデ。	A:良。B:良好。C:外灰白（N7/）～灰（N4/～6/）内青灰（5PB6/1）。	歪みあり。 体部・底部外面に別器種が釉着。
164	須恵器	短頸壺	SD02 5区北側ベルト2層(2・3層)	②6.3＋α④15.2	体部回転ナデ。高台回転ナデにより貼付。	A:密。1～3㎜程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外褐灰（7.5YR5/1）内にぶい赤褐（5YR5/3）。	
165	土師器	椀	SD02 5区2層	②1.7＋α ④7.0	磨滅の為、調整不明。	A:やや粗。1～2㎜程の白色砂粒を少量含む。B:やや不良。C:内外共浅黄橙（10YR8/3）。	
166	弥生土器	甕	SD02 3区2層	②2.7＋α	口縁部～頸部ハケメ。頸部内面ナデ。	A:やや密。1～2㎜程の白色砂粒を多少含む。B:やや良好。C:外にぶい橙（7.5YR7/4）内黄橙（10YR8/6）～明黄褐（10YR7/6）。	煤付着か？
167	瓦	平瓦	SD02 5区北側ベルト2層(2・3層)	長10.6＋α 幅11.2＋α 厚2.1＋α	凹面丁寧なナデ。凸面平行網目タタキ痕。	A:密。1～2㎜程の白色砂粒を若干含む。B:良好。C:凹灰白（N7/）凸灰白（N8/）。	

表8 本堂遺跡第8次調査出土遺物観察表⑧

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高 ③底径④高台径 ⑤最大径 ()は復元	形態・技法の特徴	A：胎土B：焼成C：色調	備考
168	土製品	不明土製品	SD02 A区2層	幅6.6＋α高8.2 外孔1.2内孔1.0	磨滅の為、調整不明。穿孔あり。	A:精良。B:やや良好。C:灰白（N8/）。	権状製品か？外面に黒斑あり。
169	須恵器	杯蓋	SD02 3区3層	①13.6②4.4	回転ナデ成形後、外面1/2回転ヘラ削り。	A:密。細砂を含む。B:やや良好。C:外灰白（N8/～7/）内灰白（N8/）。	
170	須恵器	杯蓋	SD02 5区北側ベルト3層(2・3層)	①(13.4)②4.7	回転ナデ成形後、外面1/4回転ヘラ削り、中央部不定方向ナデ。内面1/2不定方向ナデ。口縁部外面に沈線。口縁端部内面に傾斜面。	A:良。B:良好。C:内外共灰（N5/）。	歪みあり。
171	須恵器	杯蓋	SD02 5区北側ベルト3層(2・3層) SD02 5区2層	①13.8 ②4.2～4.4	回転ナデ成形後、外面1/3不定方向ナデ、内面1/3同心円の当て具痕。口縁部外面に段が付き、口縁端部屈曲する。	A:精良。B:良好。C:外灰白（N7/）内灰白（7.5Y7/1）。	
172	須恵器	杯蓋	SD02 3区3層	①(16.6)②3.0 つまみ径3.0	回転ナデ成形後、外面1/2回転ヘラ削り。内面2/3不定方向ナデ方向ナデ。つまみ部回転ナデによる貼付。	A:密。1～2mm程の白色砂粒を多少含む。B:良好。C:外灰（N6/～5/）・灰白（N8/）内灰白（5Y8/1）・青灰（5PB6/1）。	
173	須恵器	杯蓋	SD02 2区3層 SD02 2区1層 SD02 2区2層	①(14.0) ②1.3＋α 受部径(16.0)	回転ナデ成形後、外面1/2回転ヘラ削り。	A:やや粗。2mm以下の白色砂粒をやや含む。B:良好。C:外灰（N4/～5/）内灰（N4/）。	
174	須恵器	杯蓋	SD02 5区北側ベルト3層(4・6層)	①13.7②3.8 つまみ径2.65	回転ナデ成形後、内面1/2に不定方向ナデ。つまみ部回転ナデにより貼付。	A:密。1～2mm程の白色砂粒を多少含む。B:良好。C:内外共灰（N5/～4/）。	大きく歪む。口縁部外面に重ね焼きの痕跡。
175	須恵器	杯蓋	SD02 5区3層	①(11.7)②2.85 つまみ径1.68	回転ナデ成形後、内面1/2に一定方向ナデ。つまみ部回転ナデにより貼付。	A:密。1mm程の白色砂粒をわずかに含む。B:良好だが焼けぶれあり。C:外灰（N6/～5/）内灰（N5/～4/）。	
176	須恵器	杯蓋	SD02 5区3層	①(12.7)②2.37 つまみ径2.35	回転ナデ成形後、内面1/4に一定方向ナデ。つまみ部回転ナデにより貼付。	A:密。1mm程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:内外共灰白（10Y8/1）。	
177	須恵器	杯蓋	SD02 4区3層	①(15.0)②2.55 つまみ径3.2	回転ナデ成形後、外面1/3回転ヘラ削り。つまみ部回転ナデにより貼付。	A:密。1mm程の白色砂粒を少量含む。B:不良。C:内外共灰白（5Y8/1）。	
178	須恵器	杯蓋	カクラン3 3区 SD02 4区3層	①15.3②1.6 つまみ径(2.5)	回転ナデ成形後、外面2/3回転ヘラ削り、内面1/3ナデ。つまみ部回転ナデにより貼付。	A:密。5mm以下の石英・長石等をわずかに含む。B:やや不良。C:外灰赤（2.5YR5/2）～灰白（7.5YR8/1）内灰褐（5YR5/2）。	
179	須恵器	杯蓋	SD02 5区3層	①(16.5) ②2.3＋α つまみ径3.0	回転ナデ成形後、外面2/3回転ヘラ削り後回転ナデ、内面1/2に不定方向ナデ。つまみ部回転ナデにより貼付。	A:密。1～2mm程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:内外共灰白（N7/）。	
180	須恵器	杯蓋	SD02 5区北側ベルト3層(2・3層)	①(17.0)②2.3 つまみ径3.4	回転ナデ成形後、外面1/3回転ヘラ削り、内面2/3ナデ。つまみ部回転ナデにより貼付。	A:良。B:良好。C:外灰白（N7/）～灰（N6/）内灰（N6/～4/）。	
181	須恵器	杯蓋	SD02 5区北側ベルト3層(2・3層) SD02 5区4層	①(20.8) ②1.7＋α	回転ナデ成形後、外面1/4回転ヘラ削り、内面1/2不定方向ナデ。	A:良。B:良好。C:内外共灰白（N7/）。	
182	須恵器	杯身	SD02 3区3層 SD02 1層 SD02 3区1層	①12.6②4.45 受部径15.2	回転ナデ成形後、外面1/3回転ナデヘラ削り、内面1/4不定方向ナデ。	A:密。1～3mm程の白色砂粒を多少含む。B:良好。C:外灰（N6/）内灰白（N7/）～灰(N6/)。	
183	須恵器	杯身	SD02 5区北側ベルト3層(2・3層)	①(11.2)②3.6 ④(7.8)	口縁部～体部・底部外面回転ナデ。底部内面不定方向ナデ。高台回転ナデより貼付。	A:精良。B:良好。C:外青灰（5PB5/1）～暗青灰（5PB4/1）内青灰（5PB5/1）。	
184	須恵器	杯身	SD02 5区北側ベルト3層(4・6層)	①(11.2)②3.65 ④(8.4)	口縁部～体部回転ナデ。底部内面不定方向ナデ、外面ヘラ切り。高台回転ナデにより貼付。	A:密。1～2mm程の白色砂粒をわずかに含む。B:良好。C:外灰白（N7/）～灰（N4/）内灰白（N7/）。	
185	須恵器	杯身	SD02 2区3層	①(11.8)②4.35 ④8.3	口縁部～体部回転ナデ。底部内面回転ナデ後不定方向ナデ、外面回転ヘラ切り後ナデ。高台回転ナデによる貼付。	A:密。2mm程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外灰（N4/～5/）内暗灰（N3/）。	
186	須恵器	杯身	SD02 5区北側ベルト3層(2・3層)	②3.5＋α ④(9.3)	体部回転ナデ。底部内面不定方向ナデ、外面ヘラ切り後ナデ。高台回転ナデにより貼付。	A:密。1～2mm程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外灰白（N7/）・暗灰（N3/）内灰（N6/）～灰白（N7/）。	
187	須恵器	杯身	SD02 5区北側ベルト3層(4・6層)	②2.95＋α ④(7.4)	体部回転ナデ。底部内面不定方向ナデ、外面ヘラ切り。高台回転ナデにより貼付。	A:密。1～2mm程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外灰白（N7/）～灰（N6/）内灰白（N7/）。	
188	須恵器	杯身	SD02 5区3層	①(14.3)②3.8 ④(10.2)	口縁部～体部回転ナデ。底部内外面不定方向ナデ。高台回転ナデにより貼付。	A:密。B:良好。C:外灰白（N7/）・灰（N4/）内灰白（N7/）。	
189	須恵器	杯身	SD02 3区3層 SD02 3区1層	①13.95②4.5 ④9.05	口縁部～体部回転ナデ。体部下位外面回転ヘラ削り。底部内面不定方向ナデ、外面回転ヘラ削り・中央部ナデ。高台回転ナデによる貼付。	A:密。1～3mm程の白色砂粒を若干含む。B:良好。C:内外共灰白（N7/）～灰（N6/）。	内面にヘラ記号あり。
190	須恵器	杯身	SD02 4区3層 SD02 4区1層 カクラン3 3区	①14.3②5.5 ④9.6	口縁部～体部回転ナデ。底部内面回転ナデ後不定方向ナデ、外面ヘラ切り。高台回転ナデにより貼付。	A:密。2mm程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外灰（N4/）～暗灰（N3/）内灰（N5/～6/）。	
191	須恵器	杯身	SD02 3区3層 SD02 3区1層	①(14.15)②6.2 ④9.55	口縁部～体部回転ナデ。底部内面不定方向ナデ、外面回転ヘラ切り。高台回転ナデによる貼付。	A:密。1mm以下の白色砂粒を含む。B:良好。C:外暗青灰（5PB4/1）内青灰（5PB6/1～5/1）。	底部が歪む。

表9 本堂遺跡第8次調査出土遺物観察表⑨

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高 ③底径④高台径 ⑤最大径 ()は復元	形態・技法の特徴	A：胎土B：焼成C：色調	備考
192	須恵器	杯身	SD02 5区北側ベルト3層(2・3層)	①(13.6)②6.0 ④9.0	口縁部～体部回転ナデ。底部内外面不定方向ナデ。高台回転ナデより貼付。	A:良。B:良好。C:外浅黄橙（10YR8/4）～橙（7.5YR7/6）内にぶい黄橙（10YR6/3）～褐灰（10YR5/1）。	
193	須恵器	杯身	SD02 4区3層(明黄褐色土) SD02 4区1層 SD02 4区3層 SD02 4区4層 カクラン3 3区	①(15.2)②5.7 ④(11.0)	口縁部～体部回転ナデ。底部内面回転ナデ後不定方向ナデ、外面ヘラ切り後ナデ。高台回転ナデにより貼付。	A:密。1～2mm程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外灰（10Y6/1～N4/）内灰（N6/）。	
194	須恵器	杯身	SD02 4区3層	①(16.0)②6.1 ④(10.9)	口縁部～体部回転ナデ。底部外面ヘラ切り。高台回転ナデにより貼付。	A:密。1～2mm程の白色砂粒を含む。B:不良。C:内外共灰白（5Y8/1）。	
195	須恵器	杯身	SD02 4区3層 表土ハギ後表採	②4.05＋α ④(12.5)	内面・体部外面回転ナデ。底部外面ヘラ切り。高台回転ナデにより貼付。	A:密。1～2mm程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外灰（N4/）～オリーブ灰（7.5GY6/1）～灰赤（2.5YR4/2）内灰黄褐（10YR4/2）～灰（N4/）。	
196	須恵器	杯身	SD02 3区3層	①15.35②3.65 ③10.3	口縁部～体部回転ナデ。底部内面不定方向ナデ、外面回転ヘラ削り。底部外面に高台貼付に伴う沈線状の窪みあり。	A:密。1～2mm程の白色砂粒・雲母を多少含む。B:良好。C:外灰白（N8/～7/）・灰（N4/）内灰白（N7/）。	底部が大きく歪む。
197	須恵器	皿	SD02 5区3層	①(13.7)②1.55 ③(10.9)	口縁部～体部回転ナデ。底部内外面不定方向ナデ。	A:密。1～3mm程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外青灰（5B6/1）内灰（N5/）。	
198	須恵器	皿	SD02 4区3層	①(30.0)②2.0	内面～口縁部～体部外面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り。	A:密。1～2mm程の白色砂粒を少量含む。B:不良。C:内外共橙（5YR6/6～6/8）。	
199	須恵器	高杯	SD02 4区3層 素堀り溝内4層	①(10.1) ②6.85＋α	杯部・脚部回転ナデ。杯体部外面2段の沈線。沈線間に連続刺突文。脚部透かしが入る。	A:密。2mm程の白色砂粒を微量含む。B:良好。C:外灰（N5/）内灰（N6/）。	
200	須恵器	高杯	SD02 3区3層 SD02 3区1層 SD02 1層	①14.7②6.3 脚部径(9.4)	口縁部～体部回転ナデ。体部下位～底部外面回転ヘラ削り、底部中央部ヘラ切り。底部内面不定方向ナデ。脚部回転ナデ。	A:密。1～3mm程の白色砂粒を多少含む。B:良好。C:外灰（N6/～4/）・暗灰（N3/）内灰（N6/～5/）。	脚部が大きく歪む。
201	須恵器	短頸壺	SD02 5区北側ベルト3層(4・6層)	①(6.1) ②2.3＋α ⑤(7.3)	口縁部～体部回転ナデ。底部内面不定方向ナデ、外面ヘラ切り。	A:やや密。1mm以下の白色砂粒を多少含む。B:良好。C:外灰白（N7/）～灰（N4/）内黒（N2/）・青灰（5PB5/1）。	
202	須恵器	短頸壺	SD02 5区北側ベルト3層(4・6層)	①(11.3)②3.27 ③(8.6)⑤(13.0)	口縁部～体部丁寧な回転ナデ。底部内面不定方向ナデ、外面ヘラ切り後回転ナデ。	A:密。1mm程の白色砂粒を若干含む。B:良好。C:外灰白（N7/）・灰（N4/）内灰白（N7/）。	
203	須恵器	短頸壺	SD02 4区3層	①(8.0)②10.6 ③8.2⑤13.9	内面～口縁部～体部外面回転ナデ。体部下位外面回転ヘラ削り。底部外面回転ヘラ切り後ナデ。	A:密。2～3mm程の白色砂粒をやや多量に含む。B:良好。C:外暗灰(N3/)～灰（N6/）内暗灰（N3/）。	
204	須恵器	壺	SD02 4区3層	②10.6＋α ③(8.0) ⑤(16.0)	体部～底部回転ナデ。体部外面1条沈線。	A:密。1～2mm程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外青灰（5B5/1）内灰（N6/）。	
205	須恵器	短頸壺	SD02 4区3層 SD02 4区1層	①(15.1) ②14.1＋α	口縁部～体部回転ナデ。	A:密。2mm程の白色砂粒を少量含む。B:不良。C:外にぶい黄橙（10YR7/4）内浅黄橙（10YR8/3）。	
206	須恵器	瓶類	SD02 2区3層 SD02 2区1層	①13.8②5.2＋α	口縁部～頸部回転ナデ。	A:密。2mm以下の白色砂粒を少量含む。B:やや不良。C:外橙（7.5YR7/6）内浅黄橙（7.5YR8/3）。	
207	須恵器	長頸壺	SD02 5区北側ベルト3層(2・3層) SD02 3区1層 SD02 3区3層 SD02 4区3層 SD02 1層 調査区南端(SD02周辺)検出中	②7.9＋α ④(10.6) ⑤(18.6)	体部回転ナデ。底部内面回転ナデ・中央部不定方向ナデ、外面不定方向ナデ。高台回転ナデにより貼付。	A:密。1～3mm程の白色砂粒を多少含む。B:良好。C:外灰（N4/）～暗灰（N3/）内灰（N5/）。	
208	須恵器	壺	SD02 5区北側ベルト3層(4・6層)	②2.1＋α ③(19.6)	体部回転ナデ。底部内面不定方向ナデ、外面ヘラ切り後不定方向ナデ。	A:密。3mm程の白色砂粒をわずかに含む。B:良好。C:外灰（N6/）内灰（N5/）。	
209	須恵器	長頸壺	SD02 5区3層 SD02 4区2層 SD02 5区1層 SD02 5区北側ベルト1層(1層) SD02 5区北側ベルト3層(2・3層) SD02 5区北側ベルト3層(4・6層) SD02 5区4層 カクラン3区 SD02 1層 SK04 (SD02 5区)埋土中	②10.85＋α ④9.60⑤(19.4)	体部回転ナデ。体部下位外面回転ヘラ削り。底部内面不定方向ナデ、外面回転ヘラ削り。高台回転ナデにより貼付。	A:密。1～3mm程の白色砂粒を多少含む。B:良好。C:外明青灰（5PB7/1）・暗青灰（5PB4/1）内明青灰（5PB7/1）。	
210	須恵器	甕	SD02 5区北側ベルト3層(2・3層)	①(16.0) ②10.8＋α	口縁部～体部上位回転ナデ。体部外面格子タタキ、内面同心円の当て具痕。	A:精良。B:良好。C:内外共青灰（5B5/1）～暗紫灰（5RP4/1）。	
211	須恵器	甕	SD02 5区北側ベルト3層(2・3層)	①(22.2) ②7.5＋α	口縁部～頸部回転ナデ。体部外面格子タタキ、内面同心円の当て具痕。	A:やや粗。B:良好。C:外灰褐（5YR5/2）内橙（5YR7/8）～褐灰（5YR5/1）。	
212	須恵器	甕	SD02 2区3層	①(18.0) ②8.7＋α	口縁部～体部上位回転ナデ。	A:密。2～3mm程の白色砂粒をやや多量に含む。B:良好。C:外灰（N5/）内灰（N6/）。	
213	須恵器	皿	SD02 5区北側ベルト3層(2・3層)	①(19.0)②2.4 ③(15.4)	口縁部～体部回転ナデ。底部内面不定方向ナデ、外面ヘラ切り後ナデ。	A:精良。B:良好。C:内外共灰白（N7/～7.5Y8/1）。	

表10 本堂遺跡第8次調査出土遺物観察表⑩

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高 ③底径④高台径 ⑤最大径 ()は復元	形態・技法の特徴	A：胎土B：焼成C：色調	備考
214	土師器	甑	SD02 5区北側ベルト3層(4・6層) SD02 5区2層 カクラン 3 3区	①(25.9)②17.6 ③(14.6)	外面磨滅の為、調整不明。内面ナデ。把手部ナデによる成形。	A:良。B:良好。C:外橙 (5YR7/8) ～灰黄 (2.5Y7/2) 内橙 (5YR7/8) ～褐灰 (7.5YR4/1) 。	
215	須恵器	杯蓋	SD02 4区4層 SD02 4区5層(弥生溝)	①(13.0)②4.2	回転ナデ成形後、外面1/2回転ヘラ削り。口縁部外面に1条沈線、口縁端部内面が窪む。	A:密。1～2mm程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外暗灰 (N3/) 内灰 (N4/) 。	
216	須恵器	杯蓋	SD02 5区4層	①13.1②2.2 つまみ径2.3	回転ナデ成形後、外面1/2回転ヘラ削り後回転ナデ。内面2/3不定方向ナデ。つまみ部回転ナデにより貼付。	A:良。B:良好。C:外灰白 (N8/) ～灰 (N5/) 内灰 (N5/～4/) 。	歪みあり。
217	須恵器	杯蓋	SD02 5区4層 SD02 5区1層 SD02 5区3層 SD02 5区北側ベルト3層(4・6層)	①15.9②3.3 つまみ径2.8	回転ナデ成形後、内面2/3不定方向ナデ。つまみ部回転ナデにより貼付。	A:精良。B:良好。C:外にぶい橙 (7.5YR7/4) ～灰褐 (7.5YR5/2) ～褐灰 (7.5YR4/1) 内にぶい橙 (7.5YR6/4) 。	
218	須恵器	杯蓋	SD02 2区7層 SD02 3区3層	①(17.6)②1.8	口縁部～天井部回転ナデ。	A:密。細砂を含む。B:やや不良。C:外黒褐 (10YR3/1) ～にぶい黄褐 (10YR6/3) 内にぶい褐 (7.5YR5/3) 。	
219	須恵器	杯蓋	SD02 2区(1区ベルト側5層)(土坑埋土) SD02 2区3層	①(18.0)②2.2	回転ナデ成形後、外面1／3回転ヘラ削り。	A:密。2mm程の白色砂粒を少量含む。B:やや不良。C:外橙 (7.5YR7/6) ～にぶい橙 (7.5YR7/3) 内にぶい橙 (7.5YR7/4) 。	
220	須恵器	杯身	SD02 5区4層	①(9.0)②4.1 ④(5.8)	口縁部～体部回転ナデ。底部内外面不定方向ナデ。高台回転ナデによる貼付。	A:精良。0.5～1mm程の白色砂粒を含む。B:良好。C:外灰白 (N7/) ～灰 (N6/) 内灰 (N5/) 。	
221	須恵器	杯身	SD02 5区4層	①(12.8)②5.4 ④(9.2)	口縁部～体部回転ナデ。底部内面不定方向ナデ。高台回転ナデによる貼付。	A:良。0.5～1.5mm程の黒色粒を多量に含む。B:良好。C:外灰白 (N7/) ～灰 (N4/) 内灰 (N5/) 。	歪みあり。
222	須恵器	杯身	SD02 5区4層	①(15.4) ②5.85＋α ④(9.0)	口縁部～体部回転ナデ。底部内面不定方向ナデ。高台回転ナデによる貼付。	A:密。B:良好。C:外灰 (N4/) 内灰 (N5/) 。	歪みあり。
223	須恵器	杯身	SD02 5区4層	①(12.6)②3.1 ③(9.0)	口縁部～体部回転ナデ。底部内外面不定方向ナデ。	A:密。B:良好。C:外灰 (N6/) ～灰白 (N7/) ～灰 (N4/) 内灰 (N6/) 。	
224	須恵器	皿	SD02 2区(1区ベルト側5層)(土坑埋土) SD02 2区3層	②1.55＋α ③17.7	体部回転ナデ。底部外面ヘラ切り。	A:密。3mm以下の白色砂粒を少量含む。B:やや不良。C:外にぶい褐 (7.5YR6/3) 黒斑部黒 (N1.5/) 内にぶい褐 (7.5YR6/3) ～褐灰 (7.5YR5/1) 。	
225	須恵器	皿	SD02 5区北側ベルト3層(4・6層)	②2.2＋α	口縁部～体部・底部内面回転ナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ。	A:密。B:良好。C:内外共灰 (N6/) 。	
226	須恵器	椀	SD02 2区5層	②3.3＋α	体部回転ナデ。底部内面回転ナデ後不定方向ナデ、外面ヘラ切り。	A:密。1～2mm程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外灰 (N4/) 内灰 (N6/) 。	
227	須恵器	鉢？	SD02 5区4層	①(32.6) ②9.1＋α	口縁部から体部回転ナデ。	A:精良。B:良好。C:外暗灰 (N3/) ～灰白 (N7/) 内灰 (N4/) ～灰白 (N7/) 。	
228	須恵器	壺	SD02 5区4層 SD02 5区2層 SD02 5区北側ベルト3層(2・3層)	②10.9＋α ③(13.2)	体部回転ナデ。底部内外面不定方向ナデ。体部下位外面指頭圧が残る。	A:良。0.5mm程の黒色粒を多量に含む。B:良好。C:量に内外共灰 (N6/) 。	
229	須恵器	壺	SD02 4区4層	①8.8②11.2	内面～口縁部～体部回転ナデ。底部外面ヘラ切り後回転ヘラ削り。	A:密。2mm程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:内外共暗灰 (N3/) ～灰 (N5/) 。	全面に降灰。
230	土師器	甕	SD02 4区1層	①(12.0) ②6.4＋α	口縁部～体部外面ナデ後一部にハケメ。体部内面削り・ナデ。	A:密。1mm以下の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外橙 (5YR6/6) ～灰黄褐 (10YR6/2) ～黒褐 (10YR3/1) 内褐灰 (10YR3/1) ～灰黄褐 (10YR5/2) 。	
231	土師器	甑	SD02 5区4層 SD02 5区2層 SD02 5区北側ベルト3層(2・3層) SD02 5区北側ベルト3層(4・6層)	①(17.3)②27.2 ③16.4⑤(21.0)	外面磨滅の為、調整不明。口縁部～体部内面削り、底部内面ナデ。	A:粗。1～3mm程の白色砂粒を多量に含む。B:不良。C:外灰白 (2.5Y8/1～8/2) ～淡黄 (2.5Y8/3) 内淡黄 (2.5Y8/3) ～浅黄 (2.5Y7/3) 。	体部に把手が付く。
232	土師器	甕	SD02 5区5層 SD02 5区7層 SD02 5区北側ベルト3層(4・6層)	①(28.6) ②16.0＋α	口縁部ナデ。体部外面ハケメ、内面削り。	A:粗。1～3mm程の白色砂粒を多量に含む。B:不良。C:外にぶい黄橙 (10YR7/4～6/4) 内灰白 (2.5Y7/1) ・灰黄 (2.5Y7/2) 。	外面に煤付着。
233	弥生土器	壺	SD02 3区4層	①(12.0) ②8.7＋α	口縁部内面～端部ナデ。内外面にミガキ。内面にシボリ痕あり。	A:精良。B:良好。C:外明赤褐 (5YR5/6) 内灰白 (2.5Y8/2) ・明赤褐 (5YR5/6) 。	内外面に丹塗りを施す。
234	土師器	甕	SD02 2・3区間ベルト表採	②5.15＋α	磨滅の為、調整不明。	A:1～2mm程の白色砂粒を多少含む。B:良好。C:内外共橙 (5YR6/8) 。	
235	弥生土器	壺	SD02 1区1層	②3.1＋α	頸部内外面ナデ。突帯貼付のナデ。	A:やや粗。3mm程の白色砂粒を含む。B:良好。C:外にぶい橙 (5YR6/4) ～橙 (5YR6/6) 内にぶい赤褐 (5YR4/3) 。	
236	弥生土器	壺	SD02 2区1層	②2.5＋α ③(7.9)	体部～底部ナデ。	A:粗。2mm程の白色砂粒を多量、金雲母を少量含む。B:良好。C:外浅黄 (2.5Y7/3) 内灰黄 (2.5Y7/2) 。	
237	弥生土器	甕	SD02 2区4層	②2.0＋α	口縁部ナデ。刻目突帯が付く。	A:やや粗。2～4mm程の白色砂粒をやや多量に含む。B:やや不良。C:外黄灰 (2.5Y6/1) ～黒褐 (2.5Y3/1) 内黒褐 (2.5Y3/1) 。	
238	縄文土器	深鉢？	SD02 1区2層	②3.7＋α	内外面貝殻条痕後ナデ	A:密。2mm以下の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外褐灰 (10YR4/1) ～にぶい黄橙 (10YR7/3) 内にぶい黄橙 (10YR7/3) ～浅黄 (10YR8/3) ～褐灰 (10YR4/1) 。	

表11　本堂遺跡第8次調査出土遺物観察表⑪

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高 ③底径④高台径 ⑤最大径 ()は復元	形態・技法の特徴	A：胎土B：焼成C：色調	備考
239	弥生土器	甕	SD02 2区1層 SD02 2区3層(褐色土)	②5.5＋α	磨滅の為、調整不明。刻目突帯が付く。	A:粗。2～3mm程の白色砂粒を多量に含む。B:良好。C:外にぶい橙(7.5YR7/4)～浅黄橙(10YR8/4)内明黄褐(10YR7/6)。	
240	弥生土器	甕	SD02 5区7層	②4.0＋α ③(6.4)	底部側面部板ナデ。他は磨滅の為、調整不明。	A:粗。B:良好。C:外灰黄(2.5Y7/2)内にぶい黄(2.5Y6/3)～黒褐(2.5Y3/1)。	内面に煤付着。
241	弥生土器	甕	SD02 2・3区間ベルト4層(7～9層)	②2.3＋α ③(9.2)	体部ハケメ。底部内外面ナデ、	A:やや粗。1～2mm程の白色砂粒を多量に含む。B:良好。C:外橙(5YR7/6)内橙(5YR7/6～7/8)。	
242	弥生土器	甕	SD02 1区(弥生溝)1層	②3.0＋α ③(8.0)	体部～底部ナデ調整。	A:やや粗。1～2mm程の白色砂粒をやや多量に含む。B:良好。C:外にぶい黄橙(10YR7/3)～灰黄褐(10YR6/2)内黒(10YR1.7/1)。	
243	弥生土器	甕	SD02 2区3層	②4.2＋α	体部・底部内面ナデ。底部内面指頭圧痕が残る。底部外面工具によるナデか？	A:密。3mm以下の白色砂粒をやや多量に含む。B:良好。C:外灰黄(2.5Y7/2)内灰白(2.5Y8/2)。	
244	弥生土器	甕	SD02 2区2層	②5.9＋α	体部～底部外面ハケ後ナデか？内面ナデ、底部内面に指頭圧痕が残る。	A:粗。2～5mm程の白色砂粒を多量に含む。B:良好。C:外にぶい橙(7.5YR7/4)～浅黄橙(7.5YR8/6)内黄灰(2.5Y6/1)。	
245	弥生土器	甕	SD02 2区4層	②4.1＋α	体部～底部ナデ。内面に指頭圧痕が残る。	A:やや粗。3～4mm程の白色砂粒を含む。B:良好。C:外橙(5YR7/6)内浅黄橙(10YR8/3)。	
246	石器	太型蛤刃石斧	SD02 4区6層	長13.3＋α 幅8.38＋α 厚4.9＋α重850	敲打による成形後側面一部・基部に研磨痕あり。全面に擦痕が確認できる。		
247	石器	石鏃	SD02 5区2層	長2.5＋α幅1.7 厚0.4重0.9	細かい調整剥離。		安山岩製。
248	須恵器	杯蓋	SD02 素掘り溝3層	②2.3＋α	外面2/3回転ヘラ削り、1/3回転ナデ。内面同心円の当て具痕。	A:密。2mm以下の白色砂粒を少量含む。B:不良。C:外灰(5Y6/1)内灰白(2.5Y8/1)。	
249	須恵器	杯身	SD02内 素掘り溝内1層	①14.7②6.2 ④10.1	口縁部～体部回転ナデ。底部内面回転ナデ後不定方向ナデ、外面ヘラ切り痕。高台回転ナデによる貼付。	A:密。2mm以下の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:内外共灰(N5/～6/)。	
250	須恵器	皿	SD02内 素掘り溝内1層 SD02内 調査区南端検出中	①(22.0) ②2.7+α	口縁部～底部1/10回転ナデ。底部内面回転ナデ後不定方向ナデ、外面回転ヘラ削り。	A:密。3mm程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外灰(N4/)内暗灰(N3/)。	底部外面に降灰。 大きく歪む。
251	須恵器	瓶類？	SD02 素掘り溝内4層	①8.75②5.7＋α	口縁部～頸部回転ナデ。	A:密。1mm以下の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外灰白(N7/)・暗オリーブ灰(2.5GY4/1)内灰(N6/)。	全面に降灰。
252	須恵器	杯蓋	SD03 4区1層 SD03 5区1層 SD03 4区(3区側)1・4層	①(12.0)②3.85	回転ナデ成形後、外面1/2回転ヘラ削り。口縁部外面に沈線、口縁端部に浅い段あり。	A:密。1～2mm程の白色砂粒を含む。B:良好。C:外灰(N6/)～明黄褐(10YR6/6)～灰褐(5YR6/2)内灰(N6/)～明褐(7.5Y5/6)。	
253	須恵器	杯蓋	SD03 4区1層 SD03 4区2層 SD03 4区(3区側)4層	①13.3②4.25	回転ナデ成形後、外面1/3回転ヘラ削り、内面1/2同心円の当て具痕。口縁部外面に段、口縁端部に浅い段あり。	A:やや粗。3～4mm程の白色砂粒をやや多量に含む。B:良好。C:内外共灰(N6/)。	
254	須恵器	杯蓋	SD03 3・4間ベルト(1層) SD03 3・4間ベルト(3層) SD03 4区(3区側)1・4層	①(13.2)②3.6	回転ナデ成形後、外面1/2回転ヘラ削り。内面1/4同心円の当て具痕。口縁部外面に沈線、口縁端部に浅い段あり。	A:密。1mm以下の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外灰(N6/～4/)内灰(N5/)。	天井部外面にヘラ記号。
255	須恵器	杯蓋	SD03 4区2層 SD03 4区3層	②3.1＋α	口縁部回転ナデ。外面に浅い段、端部に段あり。	A:密。細砂を含む。B:良好。C:外灰(N4/)内青灰(5PB6/1)。	
256	須恵器	杯蓋	SD03 5・6区(4層) SD03 4・5・6区間ベルト(2層)	①15.8②4.3	回転ナデ成形後、外面1/2回転ヘラ削り後ナデ。	A:密。1mm以下の石英・長石等をわずかに含む。B:不良。C:外灰白(7.5Y7/1)内灰白(7.5Y8/1)。	
257	須恵器	杯蓋	SD03 5・6区(1層)	②3.2＋α	回転ナデ成形後、外面1/3回転ヘラ削り。口縁部外面に浅い沈線。	A:密。2mm以下の石英・長石等をわずかに含む。B:良好。C:内外共灰白(N7/)。	天井部外面にヘラ記号。 焼け歪む。
258	須恵器	杯蓋	SD03 4区4層(黒灰色砂質土) SD03 4区1層 SD03 4区4層 SD03 4区5層	①(13.1) ②4.0＋α	回転ナデ成形後、2/3回転ヘラ削り、内面1/2不定方向ナデ。	A:密。1～2mm程の白色砂粒を多少含む。B:良好。C:外灰(N6/～4/)内灰白(N7/)。	
259	須恵器	杯蓋	SD03 4区2層 SD03 7区1層	②2.9＋α	回転ナデ成形後、外面2/3回転ヘラ削り、内面1/3同心円の当て具痕。口縁部外面に沈線。	A:密。1～2mm程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外灰(N4/)内灰(N5/)。	
260	須恵器	杯蓋	SD03 8区2層 SD03 7・8区(3・4層)	①(15.6)②1.45 つまみ径2.75	回転ナデ成形後、外面1/4回転ヘラ削り、内面1/3回転ナデ後ナデ。つまみ部回転ナデにより貼付。	A:密。4mm以下の石英・長石等をわずかに含む。B:良好。C:内外共灰(N6/)。	
261	須恵器	杯身	SD03 5・6区(1層) SD03 6区2層 SD03 7・8区(3・4層)	①(12.0)②5.0 受部径(14.6)	回転ナデ成形後、外面2/3回転ヘラ削り。口縁端部内面に浅い段が付く。	A:粗。3mm以下の石英・長石等を多量に含む。B:良好。C:外灰白(7.5Y7/1)～灰(7.5Y6/1)内灰(N6/)。	
262	須恵器	杯身	SD03 4区4層 SD03 4・5・6区間ベルト(3層) SD03 4区(3区側)4層 SD03 4区1層	①12.0②3.95 受部径13.6	回転ナデ成形後、外面2/3回転ヘラ削り、内面1/5不定方向ナデ。	A:密。1～4mm程の白色砂粒を多量に含む。B:やや良好。C:外灰白(N8/)内明青灰(5PB7/1)。	歪みあり。内面に須恵器小片2つ釉着。
263	須恵器	杯身	SD03 4区1層 SD03 4区2層 SD03 4区4層 SD03 4区(3区側)1・4層	①(11.1)②3.4 受部径12.8	回転ナデ成形後、外面2/3回転ヘラ削り、内面1/4同心円の当て具痕。	A:密。細砂を含む。B:良好。C:外灰(7.5Y6/1)～暗灰(N3/)内青灰(5PB5/1)。	外面全体に降灰。

表12 本堂遺跡第8次調査出土遺物観察表⑫

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高 ③底径④高台径 ⑤最大径 ()は復元	形態・技法の特徴	A：胎土B：焼成C：色調	備考
264	須恵器	杯身	SD03 4・5・6区間ベルト(3層)	①(10.4)②3.6 ③(6.4) 受部径(12.6)	回転ナデ成形後、外面1/4回転ヘラ削り、1/4ヘラ切り。内面1/3同心円の当て具痕。	A:密。1～3㎜程の白色砂粒をわずかに含む。B:良好。C:外灰白（N8/～2.5GY8/1）内灰白（N8/～7/）。	
265	須恵器	杯身	SD03 3区1層	①(12.8)②4.1 受部径(15.0)	回転ナデ成形後、底部回転ヘラ削り。	A:密。1～2㎜程の白色砂粒を少量含む。B:やや不良。C:外灰褐（7.5Y6/2）～灰（N6/）内灰白（N7/）～灰褐（7.5Y6/2）。	
266	須恵器	杯身	SD03 4区2層	②4.0＋α	回転ナデ成形後、外面1/2回転ヘラ削り。内面一部に同心円の当て具痕。	A:密。1～2㎜程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外灰白（7.5Y8/1）内灰白（N7/）。	受け部に蓋口縁端部片が釉着。
267	須恵器	杯身	SD03 4・5区1層	②3.0＋α	立ち上がり・受け部回転ナデ。	A:密。1～3㎜程の白色砂粒を多少含む。B:良好。C:外灰（N6/）内青灰（5PB6/1）。	
268	須恵器	杯身	SD03 4・5・6区間ベルト(3層)	①(10.0)②4.1 ④(6.35)	口縁部～体部回転ナデ。底部内面不定方向ナデ、外面ヘラ切り。高台回転ナデにより貼付。	A:密。1～2㎜程の白色砂粒を多少含む。B:良好。C:外灰（N6/）・暗灰（N3/）内灰（N6/～4/）。	
269	須恵器	杯身	SD03 5・6区3層 SD03 5・6区1層 SD03 7・8区2層 SD03 7・8区間ベルト(2層)	①(13.0)②4.75 ④9.15	口縁部～体部回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ、外面回転ヘラ削り後回転ナデ。高台回転ナデにより貼付。	A:ほぼ密。2㎜以下の石英・長石等を少量含む。B:良好。C:外灰（N5/）内灰（N4/）。	
270	須恵器	杯身	SD03 4区2層	②4.8＋α ④(9.3)	体部・底部外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後不定方向ナデ。高台回転ナデにより貼付。	A:密。1㎜程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外灰（N6/）内灰白（N7/）。	
271	須恵器	杯身	SD03 4区3層	①(17.2)②5.75 ④(11.7)	口縁部～体部回転ナデ。底部内面不定方向ナデ、外面回転ヘラ削り後不定方向ナデ。高台回転ナデにより貼付。	A:密。1㎜程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外灰（5Y6/1）内灰白（5Y7/1）。	外面に煤付着。
272	須恵器	杯身	SD03 7区1層 SD03 7区中央ベルト包含層	②1.2＋α④8.85	底部内面回転ナデ後ナデ、外面回転ナデ後ハケメ。高台回転ナデにより貼付。	A:やや粗。2㎜以下の石英・長石等をやや多量に含む。B:良好。C:外灰白（N7/）～暗灰（N3/）内灰（N6/）。	外面に降灰。
273	須恵器	杯身	SD03 4・5・6区間ベルト(2層)	①(13.8)②3.75	口縁部～体部回転ナデ。底部内面不定方向ナデ、外面ヘラ切り。	A:密。1～2㎜程の白色砂粒を多少含む。B:良好。C:内外共灰白（N7/）。	
274	須恵器	杯	SD03 5・6区4層 SD03 6区3層 SD03 7・8区4層 SD03 8区2層 SD03 5・6区1層	①(16.9)②7.4 ③(10.1)	口縁部～体部回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ、外面回転ヘラ切り後ナデ・指頭圧。	A:粗。1～4㎜以下の石英・長石等を多量に含む。B:良好。C:外灰（10Y6/1）内灰（10Y5/1）。	
275	須恵器	甕	SD03 7・8区(3層)	②5.6＋α	口縁部～体部上位回転ナデ。体部外面格子タタキ、内面同心円の当て具痕。	A:密。2㎜以下の石英・長石等をわずかに含む。B:良好。C:外灰（N5/）内灰（N6/）。	
276	須恵器	長頸壺	SD03 4区4層 SD03 5・6区3層	②5.5＋α	口縁部～頸部回転ナデ。口縁端部内面に段あり。	A:密。1㎜程の白色砂粒をごくわずかに含む。B:良好。C:内外共青灰（5PB6/1～5/1）。	
277	須恵器	短頸壺	SD03 5・6-7・8区間ベルト(3層)	①(6.1) ②3.3＋α	口縁部～体部回転ナデ。	A:密。1㎜以下の石英・長石等をわずかに含む。B:良好。C:内外共灰白（N7/）。	
278	須恵器	甑	SD03 4区2層	②5.3＋α⑤9.0	内面・体部上位外面回転ナデ。体部中位～底部外面回転ヘラ削り。体部上位外面カキメ、連続刺突文を施文。体部中位に穿孔。	A:密。2㎜程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外暗灰（N3/）～灰白（7.5Y8/1）内オリーブ黒（10Y3/1）。	
279	須恵器	壺	SD03 7・8区間ベルト(2層) SD03 4・5区1層 SD03 7区1層 SD03 5・6-7・8区間ベルト(2層) SD03 5・6-7・8区間ベルト(3層) SD03 5・6-7・8区間ベルト(4層)	②7.5＋α ④(11.6)	体部回転ナデ。高台回転ナデにより貼付。	A:密。1㎜以下の石英・長石等をわずかに含む。B:やや不良。C:外にぶい橙（2.5Y6/4）～灰（5Y6/1）内にぶい橙（5YR6/4）。	
280	須恵器	甑（把手）	SD03 4区2層 SD03 4区(3区側)1・4層 SD03 4区(3区側)4層	②12.5＋α	体部回転ナデ。把手部ナデ成形。	A:密。2～3㎜程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外灰（N6/）内灰白（N7/）。	
281	土師器	高杯	SD03 4区(3区側)4層 SD03 4区(3区側)5層	②4.9＋α	体部～底部外面ミガキか？内面ナデ。	A:やや密。1～2㎜程の白色砂粒を多少含む。B:やや良好。C:外灰黄（2.5Y6/2）内灰黄（2.5Y7/2）。	
282	土師器	椀	SD03 6区2層	②2.7＋α ④(8.8)	磨滅の為、調整不明。	A:ほぼ密。3㎜以下の石英・長石・雲母等を少量含む。B:良好。C:外灰白（2.5Y8/2）内黄灰（2.5Y5/1）。	
283	土師器	甕or鉢	SD03 4区5層	②5.1＋α	口縁部回転ナデ。体部外面指頭圧、内面ハケメ。	A:密。1㎜以下の白色砂粒をわずかに含む。B:やや良好。C:外灰黄褐（10YR6/2）内にぶい黄橙（10YR7/3）。	
284	土師器	甕or鉢	SD03（4区・3区側)5層	②5.0＋α	内面～口縁部回転ナデ。体部外面ハケメ。	A:やや粗。1㎜程の白色砂粒を多少含む。B:良好。C:外にぶい黄橙（10YR6/3）内にぶい黄橙（10YR7/3）。	
285	青磁	椀？	SD03（4区・5・6区側)5層	②1.7＋α ④(6.2)	高台外面・内面見込みに施釉。削り出し高台。	A:精致。2㎜以下の砂粒をわずかに含む。B:良好。C:胎土灰（N6/）釉明オリーブ灰（5GY7/1）。	
286	白磁	椀	SD03 4・5区1層	②1.7＋α ④(8.0)	内面見込みに施釉。削り出し高台。	A:密。B:良好。C:内外共灰白（2.5Y8/2）釉灰白（7.5Y7/2）。	
287	青磁	不明	SD03 4区4層(黒灰色砂質土)	径(7.5)	ナデ・回転ナデによる成形。上面のみ施釉。	A:精良。B:良好。C:外(釉)明オリーブ灰（2.5GY7/1）内無釉橙（7.5YR7/6）。	

表13 本堂遺跡第8次調査出土遺物観察表⑬

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高 ③底径④高台径 ⑤最大径 ()は復元	形態・技法の特徴	A：胎土B：焼成C：色調	備考
288	弥生土器	袋状口縁壺	SD03 (4区・3区側)5層	②3.0＋α	口縁部外面ミガキか？外面に丹塗り。	A:やや密。1～3mm程の白色砂粒を多少含む。B:やや不良。C:外浅黄橙(7.5YR8/4) 内淡橙 (5YR8/4) ・灰白 (10YR8/2) 。	
289	弥生土器	壺	SD03 4区(3区側)5層	②8.3＋α	外面磨滅の為、調整不明。頸部内面シボリ痕。体部上位内面粘土貼り付けの指頭圧、中位ハケメか？	A:やや粗。1～3mm程の白色砂粒を多く含む。B:やや良好。C:外灰白 (10YR8/2) ・黄橙 (10YR7/8) 内黄灰 (2.5Y6/1) 。	
290	弥生土器	壺	SD03 (4・5・6区間ベルト)層 土器No1	②12.8＋α③8.4 ⑤20.7	磨滅の為、調整不明。	A:やや密。1～2mm程の白色砂粒を多少含む。B:良好。C:外灰白 (2.5Y8/2) 内灰白 (2.5Y8/1) 。	外面に黒斑あり。
291	弥生土器	無頸壺	SD03 5・6区4層	①(14.2) ②4.0＋α	口縁部ナデ。他は磨滅の為、調整不明。口縁部に穿孔。	A:やや粗。1mm以下の石英・長石・雲母・角閃石等をやや多量に含む。B:良好。C:内外共灰白 (2.5Y8/2) 。	
292	弥生土器	壺	SD03 7・8区3層・4層	②9.3＋α③10.7	体部下位外面ハケメ。他は磨滅の為、調整不明。	A:やや密。1～2mm程の白色砂粒を若干含む。B:やや良好。C:外にぶい黄橙(10YR7/3) 内にぶい黄橙(10YR7/2) 。	外面に黒斑あり。
293	弥生土器	蓋	SD03 3区1層	②1.7＋α	口縁部外面ハケメ。内面ナデ。口縁部に穿孔。	A:密。1～2mm程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外浅黄 (2.5Y7/3) 内灰白 (2.5Y8/2) 。	
294	弥生土器	甕	SD03 3区1層	②2.75＋α	口縁部ナデ。端部に刻目を施す。	A:密。1mm以下の白色砂粒を少量含む。B:やや不良。C:内外共灰黄(2.5Y7/2) 。	
295	弥生土器	甕	SD03 3区2層	①(24.0) ②10.0＋α	内面～口縁部ナデ。体部外面ハケメ、上位内面指頭圧痕が残る。	A:密。2mm以下の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外灰黄 (2.5Y7/2) 内灰白 (2.5Y8/2) 。	
296	弥生土器	甕	SD03 3区2層	②8.5＋α ③(9.5)	体部外面～底部側面ハケメ。内面・底面部ナデ。	A:やや粗。2～3mm程の白色砂粒をやや多量に含む。B:やや不良。C:外にぶい黄橙 (10YR7/3) ～橙 (2.5YR6/8) 内にぶい黄褐 (10YR5/3) ～にぶい黄橙 (10YR6/3) 。	
297	弥生土器	鉢	SD03 4区5層	①(16.25)②7.2 ③6.1	磨滅の為、調整不明。	A:やや粗。1～3mm程の白色砂粒を多量に含む。B:良好。C:内外共浅黄 (2.5Y7/2) ・黄橙 (7.5YR7/8) 。	
298	土師器？	手づくね土器	SD03 5・6区4層	②4.3＋α	外面ナデ・指頭圧。体部内面ナデ。底部内面工具によるナデ。	A:密。2mm以下の石英・長石・雲母等をわずかに含む。B:良好。C:外灰白 (2.5Y8/2) 内灰白 (2.5Y8/2～7/1) 。	
299	弥生土器	甕	SD03 (4区・3区側)5層 SD03 (4区・3区側)1・4層 SD03 8区1層	①(34.0) ②6.05＋α	口縁部～体部上位ナデ。体部に突帯が付く。	A:やや粗。1～2mm程の白色砂粒を多少含む。B:良好。C:外にぶい黄橙 (10YR6/3) ～灰黄褐 (10YR6/2) 内灰白 (2.5Y8/2) 丹暗赤褐 (10R3/3) ・赤褐 (10R4/4) 。	内外面に丹塗りを施す。
300	弥生土器	甕	SD03 (5・6区)4層	①(32.2)②29.85 ③(8.4)	口縁部ヨコナデ。体部外面から底部側面ハケメ。上位内面ヨコナデ、中位～底部タテナデ。底面ナデ。	A:やや密。1～2mm程の白色砂粒を多少含む。B:良好。C:外にぶい黄橙 (10YR7/3) 内にぶい黄橙 (10YR7/3～6/3) 。	
301	石器	偏平片刃石斧	SD03 (4区・3区側)4層	長6.2幅3.85 厚0.9重40.8	全面研磨。		頁岩製。
302	石器	砥石	SD03 5・6-7・8区間ベルト(4層)	長21.9＋α 幅6.45 厚3.3重700	4面に使用痕。		砂岩製。
303	石器	砥石	SD03 5・6-7・8区間ベルト(4層)	長16.2＋α幅3.9 厚2.35重253	全面に使用痕。		泥岩。
304	石器	敲石	SD03 4区5層	長10.05幅8.1 厚6.8重810	上面・側面敲打痕。側面に擦痕。		凝灰岩系。
305	石器	掻器？	SD03 7区1層	長2.85幅2.25 厚0.65重3.1	側縁部に細かい調整。自然面が一部残る。		黒曜石製。
306	白磁	椀	SK03 (SD03・4区内)2層(埋土上層)	②2.95＋α ④(7.2)	体部外面回転ヘラ削り。削り出し高台。内面施釉。見込みに沈線。	A:密。細砂を含む。1～2mm程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:灰白 (N8/) 釉灰 (7.5Y7/2) 。	
307	石器	石鏃	SK06埋土中	長2.1幅1.2 厚0.4重0.8	細かい調整剥離。全体的に風化が進む。		安山岩製。
308	須恵器	壺	北側平坦部 SK09埋土	②5.1＋α	体部回転ナデ。耳部ナデにより成形。	A:密。1～2mm程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:内外共灰白 (5Y7/1) 。	
309	土師器	小皿	北側平坦部 SK14埋土中(北半)	①10.3②2.0 ③6.8	口縁部～体部・底部内面回転ナデ。底部外面ヘラ切り。	A:やや粗。1～4mm程の砂粒・石粒をやや多量に含む。B:やや不良。C:外淡黄 (2.5Y8/4) 内淡黄 (2.5Y8/3) 。	
310	土師器	椀	SK14 (SK13間ベルト)埋土中	①(13.4)②3.8	口縁部～体部回転ナデ。高台回転ナデにより貼付。	A:密。細砂を含む。B:やや不良。C:内外共浅黄 (2.5Y7/3) ～灰黄 (2.5Y7/2) 。	
311	土師器	椀	北側平坦部 SK14埋土中(南半)	②3.7＋α ④(9.4)	体部・底部内面回転ナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ。高台回転ナデにより貼付。	A:やや粗。1～3mm程の白色砂粒をやや多量に含む。B:やや不良。C:外淡黄 (2.5Y8/3) ～浅黄 (2.5Y7/3) 内浅黄 (2.5Y7/4) 。	
312	土師器	丸底杯	SP11埋土中	①(14.8)②4.0	口縁部～体部・底部内面回転ナデ。底部外面不定方向ナデ。	A:密。2mm以下の白色砂粒を少量含む。B:やや不良。C:外浅黄 (2.5Y7/3) ～淡黄 (2.5Y8/5) 内浅黄橙 (10YR8/3) ～灰黄褐 (10YR6/2) 。	
313	土師器	皿	SX03 ⑦	①(10.7)②2.2 ③(8.1)	口縁部～体部・底部内面回転ナデ。底部外面ヘラ切り。	A:密。細砂を含む。B:不良。C:内外共淡黄 (2.5Y8/2～8/3) 。	
314	土師器	皿	SX03 ⑬	①(10.9)②2.0 ③7.1	口縁部～体部・底部内面回転ナデ。底部外面ヘラ切り。	A:密。細砂を含む。B:不良。C:内外共淡黄 (2.5Y8/3～8/4) 。	

表14　本堂遺跡第8次調査出土遺物観察表⑭

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高 ③底径④高台径 ⑤最大径 ()は復元	形態・技法の特徴	A：胎土B：焼成C：色調	備考
315	土師器	皿	SX03 50	①(11.5)②2.35 ③7.8	口縁部～体部・底部内面回転ナデ。底部外面ナデ。	A:密。1㎜程の白色砂粒・黒色粒を少量含む。B:やや不良。C:内外共灰白（2.5Y8/2）～淡黄（2.5Y8/3）。	底部外面に粘土紐痕。
316	土師器	皿	SX03 61	①(10.9)②2.0 ③(7.5)	口縁部～体部・底部内面回転ナデ。底部外面ナデ。	A:密。1～2㎜程の白色砂粒をやや含む。B:不良。C:外浅黄（2.5Y8/3）内灰白（2.5Y8/2）。	
317	土師器	皿	SX03（西側集中)埋土	①10.8②2.45 ③7.3	口縁部～体部・底部内面回転ナデ。底部外面ヘラ切り。	A:密。1㎜程の白色砂粒を少量含む。B:不良。C:外淡黄（2.5Y8/5）内灰白（2.5Y8/2）。	
318	土師器	皿	SX03 58	①11.95②1.2 ③7.5	口縁部～体部・底部内面回転ナデ。底部外面ナデ。	A:密。1～2㎜程の白色砂粒をやや多量に含む。B:不良。C:内外共浅黄橙（10YR8/3）～灰白（2.5Y8/2）。	
319	土師器	杯	SX03（西側集中)埋土	①(17.7)②3.3	口縁部～体部・底部内面回転ナデ。底部外面ヘラ切り。	A:密。細砂を含む。B:不良。C:外灰白（2.5Y8/1）～淡黄（2.5Y8/3）～浅黄橙（10YR8/3）内浅黄（2.5Y7/3）～淡黄（2.5Y8/3）。	
320	土師器	椀	SX03（西側集中)埋土	①12.9②4.45 ④7.3	口縁部～体部・底部内面回転ナデ。底部外面ヘラ切り後板状圧痕。高台回転ナデにより貼付。	A:密。2～4㎜程の白色砂粒・石粒を含む。B:やや不良。C:外淡黄（2.5Y8/3～8/4）内暗灰黄（2.5Y5/2）～淡黄（2.5Y8/3）。	内面に焼きムラ？
321	土師器	椀	SX03 21 SX03 33	①(11.9)②4.6 ④7.2	口縁部～体部・底部内面回転ナデ。底部外面ナデ・板状圧痕。高台回転ナデにより貼付。	A:密。1㎜程の白色砂粒を少量含む。B:不良。C:内外共浅黄（2.5Y8/3～8/4）。	
322	土師器	椀	SX03 54	①(12.6)②4.3 ④6.6	口縁部～体部・底部内面回転ナデ。底部外面ナデ。高台回転ナデにより貼付。	A:密。2～3㎜程の白色砂粒を含む。B:不良。C:内外共灰白（2.5Y8/2）～淡黄（2.5Y8/3）。	
323	土師器	椀	SX03 30	①(12.6)②4.65 ④7.1	磨滅の為、調整不明。高台回転ナデにより貼付。	A:密。2㎜以下の白色砂粒を含む。B:不良。C:内外共浅黄（2.5Y8/3～8/4）。	
324	土師器	椀	SX03 53	①(13.5)②5.4 ④7.9	底部外面ヘラ切り後ナデ。高台回転ナデにより貼付。他は磨滅の為、調整不明。	A:密。2㎜程の白色砂粒を少量含む。B:不良。C:外淡黄（2.5Y8/3）内灰白（2.5Y8/2）～にぶい橙（5YR7/4）。	底部内面に重ね焼きの痕跡。
325	土師器	椀	SX03 22 SX03 埋土(西側集中)	①(14.9)②5.1 ④(8.0)	口縁部～体部回転ナデ。底部内面回転ナデ後ミガキ、外面ナデ。高台回転ナデにより貼付。	A:密。細砂を含む。B:不良。C:外淡黄（2.5Y8/3）内にぶい橙（7.5YR7/4）～浅黄橙（10YR8/3）。	
326	土師器	椀	SX03 55	①9.5②4.4 ④5.5	口縁部～底部回転ナデ。高台回転ナデにより貼付。	A:密。1～3㎜程の白色砂粒を少量含む。B:不良。C:内外共灰白（2.5Y8/1～8/2）。	
327	黒色土器A類	椀	SX03 31	①(13.9)②5.8 ④(9.0)	口縁部回転ナデ。内面回転ナデ後ミガキ。体部外面磨滅の為、調整不明。底部外面ヘラ切り。高台回転ナデにより貼付。	A:密。1～2㎜程の白色砂粒をやや含む。B:不良。C:外浅黄（2.5Y8/3）～浅黄橙（7.5YR8/6）・灰白（2.5Y8/1）～黄灰（2.5Y4/1）内オリーブ黒（5Y3/1）。	
328	黒色土器A類	椀	SX03 42	①14.7②6.0 ④7.8	底部外面ナデ。高台回転ナデにより貼付。他は磨滅の為、調整不明。	A:密。2～3㎜程の白色砂粒を少量含む。B:不良。C:外浅黄（2.5Y8/3）内オリーブ黒（5Y3/1）。	
329	黒色土器A類	椀	SX03 埋土(西側集中)	①15.6②5.9＋α	口縁部～底部回転ナデ後体部内面にヘラミガキ。	A:密。2㎜以下の白色砂粒を少量含む。B:やや不良。C:外淡黄（2.5Y8/3～8/4）内オリーブ黒（5Y3/1）～黒（5Y2/1）。	
330	黒色土器A類	椀	SX03 ⑯	②3.1＋α④8.2	体部外面回転ナデ、内面回転ナデ後ミガキ。高台回転ナデによる貼付。	A:密。細砂を含む。B:不良。C:外浅黄（2.5Y8/3）内オリーブ黒(5Y3/1）。	
331	黒色土器A類	椀	SX03 ④ SX03 埋土(西側集中)	①(16.0)②4.6 ④(9.0)	口縁部～体部外面磨滅の為、調整不明。内面ナデ後ミガキ。高台回転ナデにより貼付。	A:密。細砂を含む。B:不良。C:外浅黄橙（10YR8/4）～にぶい黄橙（10YR7/4）内オリーブ黒（5Y3/1）。	
332	黒色土器A類	椀	SX03 29 SX03 43 SX03 埋土(西側集中)	①(15.5)②5.5 ④(8.6)	口縁部・底部外面回転ナデ。内面回転ナデ後ミガキか？体部外面磨滅の為、調整不明。高台回転ナデにより貼付。	A:密。2㎜以下の白色砂粒を少量含む。B:不良。C:外浅黄（2.5Y8/3）内オリーブ黒（5Y3/1）。	
333	黒色土器A類	椀	SX03 ⑪	①13.4②4.8＋α	口縁部～体部・底部内面回転ナデ後ミガキ。底部外面回転ナデ。	A:密。2㎜程の白色砂粒をごく少量含む。B:不良。C:外淡黄（2.5Y8/3～8/4）内淡黄（2.5Y8/3）～灰（5Y4/1）。	
334	土師器	皿	SX03 45	②1.4＋α③7.3	体部・底部内面回転ナデ。底部外面ヘラ切り。	A:密。1㎜程の白色砂粒を少量含む。B:不良。C:内外共灰白（2.5Y8/1～8/2）煤黒褐（2.5Y3/1）。	底部外面に煤付着。
335	土師器	皿	SX03 44	②0.9＋α③7.5	底部内面回転ナデ、外面ヘラ切り。	A:密。1㎜程の白色砂粒を少量含む。B:不良。C:外淡黄（2.5Y8/3）内灰白（2.5Y8/2）。	
336	土師器	器台？	SX03 72	②11.0＋α	杯部・脚部ナデ調整。	A:やや粗。2～3㎜程の白色砂粒をやや多量に含む。B:不良。C:外灰白（2.5Y8/2）～淡黄（2.5Y8/3）内灰黄褐（10YR6/2）～黒褐（10YR3/1）脚の内側黒（2.5Y2/1）。	
337	土師器	鉢	SX03 ⑥	②5.25＋α	口縁端部外面ナデ。口縁部上位外面指頭圧。内面・体部外面ハケメ。	A:密。1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外灰白（2.5Y8/1）～灰（N5/～4/）内灰（10Y5/1）。	
338	土師器	器台	SX03 49 SX03 埋土(西側集中)	①(31.1) ②7.0＋α	口縁部～体部上位回転ナデ。体部下位外面回転ヘラ削り後回転ナデ。内面ハケメ。	A:やや粗。2～3㎜程の白色砂粒をやや多量に含む。B:不良。C:外灰白（2.5Y8/1～8/2・7/1）～黄灰（2.5Y4/1）内灰白（2.5Y8/2）。	焼け歪む。

表15 本堂遺跡第8次調査出土遺物観察表⑮

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高 ③底径④高台径 ⑤最大径 ()は復元	形態・技法の特徴	A：胎土B：焼成C：色調	備考
339	土師器	甑	SX03 ⑧	①(28.0) ②17.8＋α	口縁部～体部回転ナデ。把手部ナデ成形。	A:粗。1～3mm程の白色砂粒を多量に含む。B:やや不良。C:外淡黄（2.5Y8/4）内にぶい橙（7.5YR7/4）～にぶい黄橙（10YR7/4）。	
340	瓦	平瓦	SX03 47 SD03 24	長13.6＋α 幅21.9＋α厚1.6	凹面布目痕。凸面格子タタキ、側面ナデ。	A:粗。2～4mm程の白色砂粒を多量に含む。B:不良。C:凹褐灰（10YR6/1）～浅黄橙（10YR8/3）～淡黄（2.5Y8/3）凸灰白（2.5Y8/1～8/2）～淡黄（2.5Y8/4）。	
341	須恵器	杯身	SX04 ①	①13.5 ②3.8～4.0 ③10.2	口縁部～体部回転ナデ。底部内面不定方向ナデ、外面ヘラ切り後板状圧痕。	A:精良。B:良好。C:外灰白（10YR8/1）～浅黄橙（10YR8/3）～黒（10YR2/1）内灰白（10YR8/2）～明黄褐（10YR6/6）～褐灰（10YR4/1）。	やや焼け歪む。
342	須恵器	杯身	SX04 ②	①12.6～13.0 ②3.9～4.0 ③9.8	口縁部～体部回転ナデ。底部内面不定方向ナデ、外面ヘラ切り。	A:精良。B:良好。C:内外共灰白（5Y8/1）～黒（5Y2/1）。	
343	須恵器	杯身	SX04 ③	①13.1～13.5 ②3.6～4.0 ③10.0	口縁部～体部回転ナデ。底部内面不定方向ナデ、外面ヘラ切り。	A:精良。B:良好。C:内外共灰白（7.5Y7/1）～灰（N5/）。	
344	須恵器	杯身	SX04 ④	①13.0 ②4.0～4.2 ③10.0	口縁部～体部回転ナデ。底部内面不定方向ナデ、外面ヘラ切り。	A:精良。B:良好。C:内外共灰白（2.5Y8/2）～暗灰（N3/）。	
345	須恵器	杯身	SX04 ⑤	①13.2②3.8 ③10.2	口縁部～体部回転ナデ。底部内面不定方向ナデ、外面ヘラ切り。	A:精良。B:良好。C:外灰白（7.5Y8/1）～黒（7.5Y2/1）内灰白（7.5Y8/1）。	
346	須恵器	杯身	SX04 ⑥	①14.4～14.8 ②3.7～4.7 ③10.7～11.0	口縁部～体部回転ナデ。底部内面不定方向ナデ、外面ヘラ切り後不定方向ナデ。	A:精良。B:良好。C:内外共灰白（2.5Y8/1）～黒（2.5Y2/1）。	
347	須恵器	杯身	SX04 ⑦	①14.2～14.5 ②3.4～3.6 ③10.5	口縁部～体部回転ナデ。底部内面不定方向ナデ、外面ヘラ切り後ナデ。	A:精良。B:良好。C:内外共灰白（7.5Y8/2～N7/）～灰（N4/）。	
348	須恵器	杯身	SX04 ⑧	①14.1～14.6 ②3.7～4.8 ③11.1～11.5	口縁部～体部回転ナデ。底部内面不定方向ナデ、外面ヘラ切り。	A:精良。B:良好。C:内外共灰白（2.5Y8/1）～灰（N5/）。	
349	須恵器	杯身	SX04 ⑨	①13.8～14.4 ②3.7～ 4.9③10.0	口縁部～体部回転ナデ。底部内面不定方向ナデ、外面ヘラ切り。	A:精良。B:良好。C:外灰白（5Y8/1）～灰オリーブ（5Y5/3）～暗灰（N3/）内灰白（5Y8/1）～淡黄（5Y8/3）～暗灰（N3/）。	
350	須恵器	杯身	SX04 ⑩	①13.0～13.6 ②3.9～ 4.3③10.0	口縁部～体部回転ナデ。底部内面不定方向ナデ、外面ヘラ切り。	A:密。B:良好。C:内外共明オリーブ灰（2.5GY7/1）～灰（N5/）。	
351	須恵器	杯身	SX04 ⑬ SX04 ⑬直上 SX04 底直上(⑬下)	①13.5 ②3.9～4.3 ④9.4	口縁部～体部回転ナデ。底部内面不定方向ナデ、外面ヘラ切り。高台回転ナデによる貼付。	A:精良。B:良好。C:外灰白（N7/）～灰（N5/）～暗灰（N3/）内灰（N6/～5/）。	
352	土師器	甕	SX04 24 SX04 20 SX04 34 SD02 1区1層 SX04 埋土下層(清掃中など)	①(22.8) ②18.5＋α	体部内外面不定方向ナデか？口縁部磨滅の為、調整不明。外面煤付着。	A:やや粗。B:不良。C:外橙（7.5YR6/8）～褐灰（7.5YR4/1）内にぶい黄橙（10YR7/3）～明黄褐（10YR7/6）。	外面に煤付着。
353	土師器	甕	SX04 25 SX04 31 SX04 33	①(26.8) ②14.6＋α	口縁部ナデ。体部外面ハケメ、内面削り。	A:粗。B:良好。C:外にぶい黄橙（10YR6/3）～褐灰（10YR4/1）内にぶい黄橙（10YR6/3）～明黄褐（10YR7/6）。	
354	須恵器	杯蓋	北側斜面段部検出中	①(13.8)②3.45 つまみ径1.65	回転ナデ成形後、内面1/2不定方向ナデ。つまみ部は回転ナデにより貼付。	A:精良。B:良好。C:内外共青灰（10BG6/1）～暗青灰（10BG4/1）。	割れた為か、天井部に接合痕が残る。
355	須恵器	長頸壺	北側斜面段部4区2層	①(13.2) ②12.6＋α	口縁部～頸部回転ナデ。頸部内外面にシボリ痕。	A:良。B:良好。C:内外共灰白（N7/）～灰（N5/）。	
356	土師器	杯	北側斜面段部2区1層(黄褐色土)	①(10.4)②2.9 ③6.6	底部内面不定方向ナデ。他は磨滅の為、調整不明。	A:良。B:良好。C:内外共浅黄（2.5Y7/4）～明黄褐（10YR6/6）。	
357	土師器	杯	北側斜面段部2区2層	①11.1 ②2.4～2.6 ③7.5	磨滅の為、調整不明。	A:粗。B:不良。C:内外共にぶい黄橙（10YR7/4）～黒褐（10YR3/1）。	焼きムラあり。
358	土師器	椀	北側斜面段部7区2層	①(11.8)②4.3 ③7.4	底部外面不定方向ナデ。他は磨滅の為、調整不明。	A:良。B:良好。C:内外共にぶい黄橙（10YR7/4）。	
359	土師器	短頸壺	北側斜面7区包含層	①(8.8)②8.8 ③5.2	内面～口縁部ナデ。体部外面ハケメ。底部外面ヘラ切り後ナデ。	A:良。B:良好。C:内外共明褐（7.5YR5/6）。	
360	土師器	壺	北側斜面段部7区2層	②8.7＋α③6.3	内面ナデ。底部外面不定方向ナデ。他は磨滅の為、調整不明。内面に粘土紐接合痕が残る。	A:良。B:良好。C:内外共にぶい黄橙（10YR7/4）～褐灰（10YR4/1）。	
361	土師器	器台	北側斜面段部2区1層(黄褐色土)	②18.1＋α	杯部内面ナデ。他は磨滅の為、調整不明。	A:粗。B:不良。C:内外共浅黄（10YR8/4）～にぶい黄褐（10YR5/4）。	
362	土師器	甑	北側斜面段部検出中	②7.0＋α ③(19.6)	体部外面ナデか？底部外面ナデ。内面は磨滅の為、調整不明。	A:粗。B:良好。C:内外共にぶい橙（7.5YR7/4）。	
363	瓦質土器	火鉢	北側斜面段部4区2層	②5.0＋α	磨滅の為、調整不明。	A:良。B:良好。C:内外共黄灰（2.5Y5/1）～黒褐（2.5Y3/1）。	
364	青磁	皿	北側斜面7区包含層	①(11.4)②2.9 ③(6.6)	口縁部～底部に施釉。	A:密。B:良好。C:内外共オリーブ灰（5GY6/1）。	
365	白磁	皿	北側斜面段部5区2層	①(9.8)②1.7 ③(7.0)	口縁部～底部に施釉。	A:密。B:良好。C:内外共明緑灰（7.5GY7/1）。	

表16 本堂遺跡第8次調査出土遺物観察表⑯

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高 ③底径④高台径 ⑤最大径 ()は復元	形態・技法の特徴	A：胎土B：焼成C：色調	備考
366	白磁	椀	北側斜面段部4区2層	②2.4＋α	玉縁口縁。口縁部施釉。	A:精良。B:良好。C:内外共灰白（10Y7/1）。	
367	弥生土器	器台	北側斜面段部2区2層	②11.2＋α ③(11.4)	磨滅の為、調整不明。	A:粗。B:不良。C:内外共にぶい黄橙（10YR6/4）～褐灰（10YR5/1）～明褐（7.5YR5/6）。	
368	石器	二次加工剥片	北側斜面段部4区2層	長3.45幅2.5 厚0.95重6.1	側縁部に細かい調整。自然面が一部残る。		黒曜石製。
369	石器	二次加工剥片	北側斜面4・5区間ベルト包含層	長2.2幅1.95 厚0.6重2.1	二次加工剥片。自然面が残る。		黒曜石製。
370	須恵器	杯蓋	カクラン3 3区	②2.5＋α	回転ナデ成形後、外面1/2回転ヘラ削り後回転ナデ、内面1/2ナデ。つまみ部回転ナデにより貼付。	A:密。1mm以下の石英・長石等をわずかに含む。B:良好。C:外灰（N4/～6/）内灰（N6/）。	
371	須恵器	杯蓋	カクラン3 3区	①(12.5)②2.75 つまみ径2.0	回転ナデ成形後、外面1/2回転ヘラ削り後回転ナデ、内面1/2ナデ。つまみ部回転ナデにより貼付。	A:密。2mm以下の石英・長石等をわずかに含む。B:良好。C:内外共灰（N5/）。	
372	須恵器	杯蓋	カクラン3 3区	①15.6②2.3 つまみ径3.0	回転ナデ成形後、外面2/3回転ヘラ削り、内面2/3不定方向ナデ。つまみ部回転ナデにより貼付。	A:粗。2mm以下の石英・長石等を多量に含む。B:良好。C:内外共灰（N6/）。	
373	須恵器	杯蓋	カクラン3 3区	②2.55＋α つまみ径3.9	天井部外面回転ヘラ削り、内面回転ナデ後ナデ。つまみ部回転ナデにより貼付。	A:密。1mm以下の石英・長石等をわずかに含む。B:やや不良。C:外灰白（7.5Y7/1）内灰白（5Y8/3）。	
374	須恵器	杯身	カクラン3 3区	①(13.0)②3.6	口縁部～体部回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ、外面ヘラ切り後ナデ・板状圧痕。	A:密。1mm以下の石英・長石等をわずかに含む。B:良好。C:外灰白（N7/）～灰（N5/）内灰白（N7/）。	
375	瓦	平瓦	カクラン3 3区	長11.0＋α 幅10.65＋α 厚2.4	凹面ナデ。凸面縄目タタキ。側面ヘラ切り後ナデ。	A:ほぼ密。2mm以下の石英・長石等を少量含む。B:良好。C:凸灰（N6/）～灰白（5Y7/）凹灰白（5Y8/1）～灰白（N7/）。	
376	須恵器	高杯	調査区北東端段下(側溝掘方内)	②1.9＋α	体部・底部内面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り。体部と底部外面の境に刻目が入る。	A:密。B:良好。C:内外共灰（N5/）。	
377	須恵器	鉢	表土剥ぎ後表採	①(25.0) ②7.6＋α	口縁部～体部回転ナデ。体部下位～底部内面不定方向ナデ、細かいヘラ状工具痕が付く。底部外面ナデ・指頭圧。	A:密。B:良好。C:内外共灰（7.5Y6/1～N5/）。	
378	須恵器	甕	6次調査地東側植林地表採	①(26.0) ②7.1＋α	口縁部～頸部回転ナデ。体部外面擬格子タタキ？内面同心円の当て具痕。	A:良。B:良好。C:内外共灰（N6/～4/）。	
379	須恵器	甕	6次調査地東側植林地表採	②5.3＋α	頸部回転ナデ。外面に2段の2条沈線、沈線間に波状文。	A:粗。B:良好。C:外灰（N4/）内灰（N5/）。	

表17　本堂遺跡第13次調査出土遺物観察表①

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高 ③底径④高台径 ⑤最大径 ()は復元	形態・技法の特徴	A：胎土B：焼成C：色調	備考
380	須恵器	杯蓋	窯跡焚口～焼成部 遺物集積B区 窯跡床面直上左側	①14.4②1.8 つまみ径2.0	回転ナデ成形。天井部外面ヘラ切り後ナデ。つまみ貼付。	A:微細な石英、長石、黒色粒を多量に含む。4mmの白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:外灰白N8/～暗灰N3/、内灰N6/～黒褐2.5Y3/1。	外面降灰。
381	須恵器	杯蓋	窯跡焚口部 床面直上 (下面)No.20	①(14.0) ②1.9+α	回転ナデ成形後、天井部内面不定方向ナデ。外面ヘラ切り後ナデ。	A:1mm以下の長石、白色砂粒、微細な黒色粒をやや多量に含む。B:やや不良。C:内外共白灰10Y7/1～灰N6/。	歪みあり。
382	須恵器	杯蓋	窯跡1区 床面直上遺物集積 窯跡床面直上左側 窯跡焚口～焼成部遺物集積A・B区	①15.2②1.1+α	回転ナデ成形。天井部外面ヘラ切り後ナデ。つまみ欠損。	A:2mm以下の白色砂粒をやや多量、微細な黒色粒を多量に含む。B:良好。C:内外共青灰10BG5/1～暗灰N2/、外一部暗赤褐2.5YR3/4～黒褐10YR3/2。	
383	須恵器	杯蓋	窯跡焚口～焼成部 遺物集積D区 窯跡床面直上左側	①16.9②2.3	回転ナデ成形後、天井部内面不定方向ナデ。天井部外面ヘラ切り後ナデ。つまみ貼付。	A:微細な石英、長石をやや多量に含む。B:やや不良。C:内外共褐灰7.5YR4/1～橙7.5YR7/6～にぶい黄橙10YR7/4。	
384	須恵器	杯蓋	窯跡 床面直上右側	①17.8②2.3 つまみ径2.3	回転ナデ成形。天井部外面は磨滅。つまみ貼付。	A:微細な長石、白色砂粒をやや多量、微細な雲母を微量含む。B:不良。C:内外共にぶい黄2.5Y6/3、口縁部黒2.5Y2/1。	重ね焼きの色ムラあり。
385	須恵器	杯蓋	窯跡焚口部 床面直上No.2 窯跡床面直上右側	①(17.8)②3.0	磨滅の為、調整不明。つまみ貼付。	A:微細な白色砂粒、雲母片を少量含む。B:不良。C:内外共浅黄2.5Y7/3、口縁部黒2.5Y2/1。	
386	須恵器	杯蓋	窯跡焚口部 床面直上No.1	①18.5②3.1	磨滅の為、調整不明。つまみ貼付。	A:微細な白色砂粒、雲母片を少量含む。B:不良。C:内外共灰白5Y7/2。	
387	須恵器	杯身	窯跡4区 床面直上 集中一括	②2.2+α④7.6	回転ナデ成形。底部外面はヘラ切り後ナデ。高台貼付。	A:1.5mm以下の白色砂粒を微量含む。B:良好。C:内外共灰7.5Y6/1。	
388	須恵器	杯身	窯跡焚口～焼成部 遺物集積A区	①13.0②4.1 ③8.8	回転ナデ成形。底部内外面は磨滅。	A:微細な長石、2mm以下の石英、白色砂粒をやや多量に含む。B:不良。C:外浅黄2.5Y7/3、内明黄橙10YR7/6～灰白10YR8/2、一部黒色。	
389	須恵器	杯身	窯跡焚口～焼成部 遺物集積C区 窯跡床面直上左側	①13.0②3.9 ③8.7	回転ナデ成形後、底部内面不定方向ナデ。底部外面ナデ。	A:微細な雲母、長石、石英をやや多量、微細な白色砂粒をやや少量含む。B:不良。C:内外共暗灰N3/～浅黄2.5Y7/4。	
390	須恵器	杯身	窯跡焚口部 床面直上No.15	①(14.0)②4.0 ③(10.0)	回転ナデ成形後、底部内面不定方向ナデ。底部外面は磨滅。	A:2mm以下の石英、白色砂粒、微細な長石をやや多量に含む。B:不良。C:内外共灰白5Y8/1～灰5Y5/1。	
391	須恵器	皿	窯跡 床面直上左側	①(15.7)②1.85 ③(12.9)	回転ナデ成形後、底部内面不定方向ナデ。外面ヘラ切り後ナデ。板状圧痕あり。	A:微細な白色砂粒、石英をやや多量、微細な長石を多量に含む。B:不良。C:内外共灰白2.5Y8/1～7/1。	
392	土師器	不明	窯跡焚口～焼成部 遺物集積A区 窯跡3区 床面直上遺物集中一括	長13.7+α 幅14.3+α 高6.0+α	内面ナデ、硬く焼きしまる。外面は脆く調整不明。	A:0.5～4mmの砂粒を多量に含む。B:内面は焼きしまっているが外面はもろい。C:橙5YR7/6～黒褐2.5Y3/1。	移動式カマドか？
393	土製品	焼台	窯跡焚口～焼成部 遺物集積B区	長12.6幅8.5 厚4.6	上面に緩やかなカーブあり。	A:1mmの白色砂粒をやや多量に含む。B:良好。C:にぶい橙7.5YR7/4～浅黄2.5Y7/3。	
394	土製品	焼台	窯跡焚口～焼成部 遺物集積C区	長13.5幅10.3 厚6.5	上面は平坦で一部に傾斜あり。側面はナデ。指の痕跡は明瞭でない。	A:1～2mmの白色砂粒をやや多量に含む。B:良好。C:橙5YR6/1～灰7.5Y6/1。	
395	土製品	焼台	窯跡焚口～焼成部 遺物集積C区	長12.9幅9.8 厚9.9	上面は平坦な面と傾斜のある面で構成される。側面はナデ。	A:0.5～2mmの白色砂粒をやや多量に含む。B:良好。C:橙7.5YR6/6～オリーブ黒5Y3/1。	皿がのる？
396	土製品	焼台	窯跡6区 床面直上 焼き台1	長15.0幅8.2 厚11.3	上面はやや平坦な面。側面はナデ。裏面に花崗岩？付着。	A:2.5mm以下の白色砂粒を多量に含む。B:良好。C:橙7.5YR6/6～オリーブ黒7.5Y3/1。	
397	土製品	焼台	窯跡焚口～焼成部 遺物集積C区	長16.1幅9.2 厚7.0	上面は緩やかに凹む。側面はナデ。	A:1～2.5mmの白色砂粒を多量に含む。B:良好。C:黄褐2.5Y5/4～橙5YR6/6。	
398	土製品	焼台	窯跡焚口～焼成部 遺物集積A区	長15.5幅8.6 厚9.4	上面は平坦。側面はナデ。	A:1.5mmの白色砂粒を多量に含む。B:良好。C:橙7.5YR6/6～オリーブ黒5Y3/1。	
399	須恵器	杯蓋	灰原1-1 1層	①14.7②3.5 つまみ径2.1	回転ナデ成形後、天井部内面不定方向ナデと同心円のヨコナデ。天井部外面は不定方向ナデ。つまみ貼付。	A:0.5～1mmの白色砂粒を少量含む。B:良好。C:内外共青灰5PB6/1～暗青灰5PB4/1。	歪みあり。 重ね焼きの色ムラあり。
400	須恵器	杯蓋	灰原1-1 1層	①15.2②1.2 つまみ径1.5	回転ナデ成形後、天井部内面不定方向ナデ。つまみ貼付。	A:微細な白色砂粒を微量含む。 B:良好。C:外暗青灰5B4/1～暗灰N3/～灰N6/、内暗青灰5B4/1。	重ね焼きの色ムラあり。
401	須恵器	杯蓋	灰原1-0 1層	①13.0②1.4+α	回転ナデ成形後、天井部内面不定方向ナデ。天井部外面はナデ。つまみ欠損。	A:微細な白色砂粒を微量含む。 B:良好。C:内外共青灰5PB6/1～灰N4/。	重ね焼きの色ムラあり。
402	須恵器	杯身	灰原1-1 1層	①13.5②3.7 ④8.8	回転ナデ成形後、底部内面不定方向ナデ。底部外面ナデ。高台貼付。	A:微細な白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:外灰N6/～灰白7.5Y7/1、内灰白N7/。	
403	須恵器	杯身	灰原1-1 1層	①13.2②3.9 ④8.8	回転ナデ成形後、底部内面一定方向ナデ。底部外面ナデ。高台貼付。	A:微細な白色砂粒を少量含む。B:やや不良。C:内外共灰白7.5Y7/1。	
404	須恵器	杯身	灰原1-1 1層	①(13.7)②4.4 ④8.7	回転ナデ成形後、底部内面不定方向ナデ。底部外面ナデ。高台貼付。	A:微細な白色砂粒を少量含む。B:やや不良。C:内外共灰白7.5Y7/1～灰7.5Y6/1。	
405	須恵器	杯身	灰原1-1 1層	①(17.8)②4.7 ④(9.7)	回転ナデ成形。高台貼付。底部内外面は磨滅。	A:微細な白色砂粒を少量含む。B:やや不良。C:内外共灰白7.5Y7/1。	
406	須恵器	皿	灰原1-1 1層	①(19.0)②2.35 ③(15.4)	回転ナデ成形。底部外面はヘラ切り後ナデ。底部内面は磨滅。	A:微細な白色砂粒を少量含む。B:やや不良。C:内外共灰白5Y7/1。	

表18 本堂遺跡第13次調査出土遺物観察表②

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高 ③底径④高台径 ⑤最大径 ()は復元	形態・技法の特徴	A：胎土B：焼成C：色調	備考
407	土師器	甕	灰原1-1 1層	①(13.0) ②10.0+α	体部外面タテハケ、内面縦方向ヘラ削り。口縁ヨコナデ。	A:0.5～2.5㎜の白色砂粒をやや多量、微細な雲母を少量含む。B:良好。C:外にぶい橙10YR7/4～にぶい橙10YR6/4～褐灰5YR4/1、内にぶい黄橙10YR7/4。	外面二次焼成による赤変あり。
408	須恵器	杯蓋	灰原1-1 3層	①11.6②4.0+α	回転ナデ成形後、天井部内面不定方向ナデ。外面1/2を回転ヘラ削り。	A:2㎜以下の白色砂粒を微量、微細な黒色粒を多量に含む。B:良好。C:内外共灰7.5Y6/1。	
409	須恵器	杯身	灰原1-1 3層	①10.9②4.1 受部径13.0	回転ナデ成形後、底部内面不定方向ナデ。底部外面1/3を回転ヘラ削り。	A:微細な白色砂粒を多量に、赤色粒を微量含む。B:やや不良。C:外にぶい赤褐2.5YR5/4、内橙7.5YR7/6、口縁部にぶい赤褐2.5YR5/4。	
410	須恵器	小壺？	灰原1-1下 3層	①(4.6)②1.4+α	回転ナデ成形。	A:微細な白色砂粒、黒色粒を微量含む。B:良好。C:外灰N6/、内暗灰N3/。	
411	須恵器	横瓶	灰原1-1 3層	①(11.4) ②32.7+α	体部外面は擬格子タタキ、内面同心円当て具。口縁回転ナデ。	A:3㎜以下の白色砂粒を少量、微細な黒色粒を多量に含む。B:良好。C:外青黒5B2/1～1.7/1、内暗青灰5B4/1、口縁部青黒5B2/1。	大きな歪みあり。体部外面別個体片釉着あり。
412	土師器	甕	灰原1-1 3層	①(28.6) ②8.3+α	体部外面タテハケ、内面縦方向ヘラ削り。口縁ヨコナデ。	A:0.5～4㎜の石英、白色砂粒を多量、0.5～1㎜の長石、微細な雲母をやや多量に含む。B:やや不良。C:内外共黄橙10YR8/6。	
413	須恵器	杯身	灰原1-2 1層	①(12.65)②4.4 ④7.0	回転ナデ成形後、底部内面不定方向ナデ。高台貼付。	A:0.5～1㎜の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外灰N6/～灰白N7/、内灰N6/。	体部外面降灰。
414	須恵器	杯	灰原1-2 1層	①12.7②4.6 ③9.0	回転ナデ成形。底部外面ヘラ切り後ナデ。板状圧痕あり。内面は磨滅。	A:0.5～1㎜の白色砂粒、雲母を多量に含む。B:不良。C:外黄灰2.5Y4/1～明黄褐10YR7/6、内明黄褐10Y7/6。	
415	須恵器	短頸壺	灰原1-2 1層 検出中	②5.9+α ④(10.4)	回転ナデ成形。底部外面ナデ。高台貼付。	A:0.5～3㎜の砂粒を少量、黒色粒を多量に含む。B:良好。C:外灰N4/、内灰N6/。	
416	瓦質土器	瓦塔	灰原1-2 1層	長3.0+α 幅6.1+α厚1.8	ナデ成形。側縁ヘラ切りか？ゆるやかに反る。	A:0.5～3㎜の白色砂粒、石英を多量に含む。B:良好。C:灰白N7/。	
417	須恵器	杯蓋	灰原1-2下 2層灰層	①14.4②3.0 天井径8.7	回転ナデ成形後、天井部内面不定方向ナデ。天井部外面はヘラ切り。つまみ貼付。	A:0.5～2㎜の白色砂粒、石英をやや多量に含む。B:良好。C:外灰N5/～N6/、内灰N5/。	口縁部外面降灰。歪みあり。
418	須恵器	杯身	灰原1-2 2層灰層	①11.0 ②3.3～3.6 ④7.05	回転ナデ成形後、底部内面不定方向ナデ。外面ヘラ切り後ナデ。高台貼付。	A:1㎜以下の白色砂粒を少量、1.5㎜以下の黒色粒を多量に含む。B:良好。C:外灰N5/、内灰N6/。	体部外面降灰。
419	須恵器	杯身	灰原1-2 2層灰層	①(14.7)②5.5 ④8.95	回転ナデ成形後、底部内面不定方向ナデ。外面はヘラ切り。高台貼付。	A:0.5～2㎜の白色砂粒をやや多量に含む。B:良好。C:内外共灰白N8/～N7/。	
420	須恵器	杯	灰原1-1 2層灰層	①(12.8)②3.55 ③8.8	回転ナデ成形後、底部内面不定方向ナデ。外面ヘラ切り後ナデ。板状圧痕あり。	A:0.5～2㎜の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:内外共灰N5/、口縁部暗灰N3/。	口縁部歪みあり。
421	須恵器	杯	灰原1-2 2層灰層	①13.3②4.0 ③9.0	回転ナデ成形後、底部内面不定方向ナデ。外面はヘラ切り後ナデ。	A:0.5～1㎜の白色砂粒を少量、黒色粒を多量に含む。B:良好。C:内外共灰N6/。	
422	須恵器	皿	灰原1-2 2層灰層	①(18.4)②2.9 ③13.6	回転ナデ成形後、底部内面中央部のみ不定方向ナデ。外面はヘラ切り後ナデ。	A:0.5～2㎜の白色砂粒を少量、黒色粒を多量に含む。B:良好。C:内外共灰N6/。	
423	須恵器	杯蓋	灰原1-2下 カクラン土3層	①(13.5)②4.0	回転ナデ成形後、天井部内面中央不定方向ナデ。外面1/3を回転ヘラ削り。中央はナデ。	A:1.5㎜の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外灰白N7/～灰N4/、内灰白N7/。	
424	須恵器	有蓋高杯	灰原1-2 3層	①10.9②5.4+α 受部径13.4	回転ナデ成形後、内面不定方向ナデ。	A:1～4㎜の白色砂粒を多量に含む。B:良好。C:外青灰5B6/1～青黒5B2/1、内暗青灰5B4/1。	
425	須恵器	杯蓋	灰原1-2 3層	①13.2②3.5	回転ナデ成形。外面2/5を回転ヘラ削り。	A:1～3㎜の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:内外共青灰5PB6/1。	天井部外面ヘラ記号。
426	須恵器	杯蓋	灰原1-2下 カクラン土3層	①12.6②3.5	回転ナデ成形。外面3/5を回転ヘラ削り。	A:微細な白色砂粒を少量含む。B:良好。C:内外共青灰5PB6/1。	天井部外面ヘラ記号。
427	須恵器	杯身	灰原1-2下 カクラン土	①11.7②4.5 受部径13.9	回転ナデ成形。外面1/2回転ヘラ削り。	A:1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B:やや不良。C:内外共灰白7.5YR8/1。	外面ヘラ記号。
428	土師器	器台？	灰原1-2下 カクラン土3層	①(25.0) ②4.6+α	磨滅の為、調整不明。	A:微細な白色砂粒を少量含む。B:良好。C:内外共橙7.5YR6/6。	
429	須恵器	杯蓋	灰原1-3西 1層	①12.0②1.7 つまみ径1.4	回転ナデ成形後、天井部内面不定方向ナデ。天井部外面ヘラ切り後ナデ。つまみ貼付。	A:1㎜の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外青灰5B6/1～灰N5/、内青灰5B6/1。	重ね焼きの色ムラあり。
430	須恵器	杯蓋	灰原1-3西 1層	①15.3②3.4 つまみ径2.0	回転ナデ成形後、天井部内面不定方向ナデと同心円のヨコナデ。天井部外面はナデ。つまみ貼付。	A:微細な白色砂粒を微量含む。B:良好。C:内外共灰白N7/～灰N4/～灰N6/。	歪みあり。重ね焼きの色ムラあり。
431	須恵器	壺蓋	灰原1-3西 1層	①8.9②3.2 受部径10.9 つまみ径1.5	回転ナデ成形後、天井部内面不定方向ナデ。外面1/2を回転ヘラ削り。つまみ貼付。	A:1㎜の白色砂粒をやや多量に含む。B:良好。C:外紫灰5P6/1～青灰5PB6/1、内青灰5PB5/1。	天井部外面ヘラ記号。
432	須恵器	杯身	灰原1-3西 1層	①10.1②3.1 受部径12.1	回転ナデ成形後、底部内面不定方向ナデ。外面はヘラ切り後ナデ。	A:微細な白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外灰N6/、内青灰5PB6/1。	
433	須恵器	杯身	灰原1-3西 1層	①10.0②3.7 受部径12.0	回転ナデ成形後、底部内面不定方向ナデ。外面ヘラ切り後ナデ。	A:0.5～1㎜の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外青灰5PB6/1～灰白5Y7/1～灰N4/、内明青灰5PB7/1。	底部外面ヘラ記号か？外面一部降灰。
434	須恵器	杯身	灰原1-3下 1層	①10.6②4.2 受部径12.5	回転ナデ成形後、底部内面不定方向ナデ。外面3/5を回転ヘラ削り。	A:微細な白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外灰5Y5/1、内灰白5Y7/1。	底部外面ヘラ記号。歪みあり。

表19　本堂遺跡第13次調査出土遺物観察表③

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高 ③底径④高台径 ⑤最大径 ()は復元	形態・技法の特徴	A：胎土B：焼成C：色調	備考
435	須恵器	杯身	灰原1-3下 1層	①13.7②4.6 受部径16.2	回転ナデ成形後、底部内面不定方向ナデ。外面1/2を回転ヘラ削り。	A:2㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B:やや不良。C:内外共灰黄2.5Y6/2。	底部外面ヘラ記号。
436	須恵器	杯身	灰原1-3下 1層	①(17.2)②5.4 ④(10.7)	回転ナデ成形後、底部内面不定方向ナデ。底部外面不定方向ナデ。高台貼付。	A:微細な白色砂粒を少量含む。B:やや不良。C:内外共灰白2.5Y7/1。	
437	須恵器	短頸壺	灰原1-3西 1層	①(5.4)②3.4+α	回転ナデ成形。	A:微細な白色砂粒を微量含む。B:良好。C:外灰白7.5Y7/1～5/1、内灰7.5Y6/1～5/1。	口縁外面色ムラあり。
438	須恵器	長頸壺	灰原1-3西 1層 灰原1-3下 1層	①(8.4)②8.2+α	回転ナデ成形。内面下位にシボリ痕。外面中位に2条沈線。	A:1㎜の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外灰N6/～暗灰N3/、内灰N6/。	
439	土師器	甕	灰原1-3下 1層	①(13.0) ②6.3+α	体部外面タテハケ、内面斜方向のヘラ削り。口縁ヨコナデ。	A:0.5～3㎜の白色砂粒を多量に含む。B:良好。C:外褐灰7.5YR4/1～にぶい橙7.5YR6/4、内黒褐10YR3/1～灰黄褐10YR6/2。	
440	土師器	甑	灰原1-3西 1層	②14.7+α	外面はタテハケ。内面は磨滅。把手は指頭痕を残すナデ成形。差込式の把手。	A:2.5㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B:良好。C:外橙5YR6/8、内にぶい黄橙10YR7/4。	差込式把手。
441	土製品	不明	灰原1-3下 1層	長7.1幅3.7厚2.0	ナデ成形。一側面は指の跡が明瞭。	A:1.5㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B:良好。C:浅黄2.5Y7/3～黄灰2.5Y4/1。	
442	石器	砥石	灰原1-3下 1層	長10.5幅7.3 厚2.9重248.4	裏面以外の5面を使用。		花崗岩？
443	須恵器	壺蓋	灰原1-3下 2層灰層	②3.3+α 裾部径(13.6)	回転ナデ成形。外面に3条沈線。	A:微細な白色砂粒、黒色粒を多量に含む。B:不良。C:内外共灰黄2.5Y7/2。	脚部。
444	須恵器	杯蓋	灰原1-3 2層灰層	①12.95②2.9 天井径6.9	回転ナデ成形後、天井部内面不定方向ナデ。天井部外面はヘラ切り後ナデ。つまみ貼付。	A:0.5～3㎜の白色砂粒、石英、黒色粒をやや多量に含む。B:良好。C:内外共灰N5/。	天井部内面別個体片釉着。
445	須恵器	杯蓋	灰原1-3下 2層灰層	①14.4②3.0	回転ナデ成形後、天井部内面を不定方向ナデ。天井部外面ヘラ切り後ナデ。つまみ貼付。	A:2㎜以下の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外青灰5B5/1、口縁部暗青灰5B3/1、内灰N5/、口縁部黒5Y2/1。	内面降灰。重ね焼きの色ムラあり。
446	須恵器	杯蓋	灰原1-3 2層灰層	①12.9②1.5 天井径9.7	回転ナデ成形後、天井部内面不定方向ナデ。天井部外面はヘラ切り後回転ナデ。つまみ貼付。	A:1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:内外共暗灰N3/～灰白7.5Y7/1。	
447	須恵器	杯蓋	灰原1-3下 2層灰層	①(16.0) ②1.7+α	2点の杯蓋が内面で釉着。1点の天井部一部にヘラナデあり。2点ともつまみ欠損。	A:微細な白色砂粒、黒色粒を少量含む。B:良好。C:内外共青灰5B5/1、口縁部暗灰N3/～灰N6/。	内面杯蓋釉着。
448	須恵器	杯蓋	灰原1-3下 2層灰層	①14.6②1.0	回転ナデ成形後、天井部外面不定方向ナデ。天井部外面ヘラ切り後回転ナデ。つまみ貼付。天井部外面に板状圧痕あり。	A:3㎜以下の白色砂粒を多量に含む。B:良好。C:内外共青灰10BG5/1。	
449	須恵器	杯蓋	灰原1-3下 2層灰層	①19.0②2.0	回転ナデ成形後、天井部内面不定方向ナデ。天井部外面ヘラ切り後回転ナデ。つまみ貼付。	A:1㎜以下の白色砂粒を少量、微細な黒色粒を多量に含む。B:良好。C:内外共灰N5/、口縁部暗青灰5B4/1～灰N6/。	全体に歪みあり。 内外面重ね焼き痕あり。
450	須恵器	杯蓋	灰原1-3 2層灰層	①(16.0) ②2.1+α	回転ナデ成形。補修痕あり。	A:0.5～1㎜の白色砂粒、石英を多量に含む。B:良好。C:内外共灰白5Y7/1。	
451	須恵器	杯蓋	灰原1-3 2層灰層	①(15.4) ②2.7+α	回転ナデ成形後、天井部内面不定方向ナデ。天井部外面はヘラ切り後ナデ。補修痕あり。	A:1㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B:良好。C:外灰白N6/、口縁部N7/、内灰N6/。	
452	須恵器	杯身	灰原1-3下 2層灰層	①11.6②2.8 ③7.1	回転ナデ成形後、底部内面不定方向ナデ。底部外面ヘラ切り。高台貼付。	A:0.5～2㎜の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外青灰5PB4/1～6/1～青黒5PB2/1、内暗青灰5PB4/1。	やや歪みあり。
453	須恵器	杯身	灰原1-3 2層灰層	①11.65②3.6 ④8.0	回転ナデ成形後、底部内面不定方向ナデ。外面ヘラ切り後ナデ。高台貼付。	A:1㎜以下の白色砂粒、黒色粒を多量に含む。B:良好。C:外灰7.5Y6/1、内灰白N7/。	
454	須恵器	杯身	灰原1-3 2層灰層	①(13.3)②3.9 ④6.8	回転ナデ成形後、底部内面不定方向ナデ。外面ヘラ切り後ナデ。高台貼付。	A:0.5～2㎜の白色砂粒、黒色粒を多量に含む。B:良好。C:内外共灰N6/。	
455	須恵器	杯身	灰原1-3 2層灰層 清掃中	①12.7②4.7 ④8.3	回転ナデ成形後、底部内面不定方向ナデ。底部外面中央ナデ。高台貼付。	A:微細な白色砂粒、黒色粒を多量に含む。B:良好。C:外灰N5/、内灰N6/。	体部外面降灰。歪みあり。 重ね焼きの色ムラあり。 杯蓋片釉着。
456	須恵器	杯	灰原1-3下 2層灰層	①14.7②2.6 ③8.1	回転ナデ成形後、底部外面～体部外面1/4を回転ヘラ削り。体部外面3/4と内面全面を回転ヘラミガキ。	A:1～2㎜の白色砂粒、微細な黒色粒を多量に含む。B:良好。C:外青灰5B4/1口縁部灰N5/～黒N2/、内青灰5B6/1、口縁部青黒5B2/1。	杯d。
457	須恵器	杯	灰原1-3下 2層灰層	①14.9②2.5 ③8.1	回転ナデ成形後、底部外面を回転ヘラ削り。体部外面と内面全面を回転ヘラミガキ。	A:1～3㎜の白色砂粒、微細な黒色粒を多量に含む。B:良好。C:内外共青灰5PB5/1、口縁部暗青灰5PB3/1～4/1～青灰5PB6/1。	杯d。
458	須恵器	高杯	灰原1-3 2層灰層 灰原1-2・3区間ベルト2層灰層 灰原1-3下 2層灰層	①24.3②3.4+α	回転ナデ成形後、底部内面不定方向ナデ。外面2/3を回転ヘラ削り。脚部欠損。	A:0.5～2㎜の白色砂粒、石英をやや多量に含む。B:良好。C:外灰7.5Y6/1、内灰白5Y7/2。	
459	須恵器	高杯	灰原1-3 2層灰層	②11.4+α 裾部径(12.5)	回転ナデ成形。外面上半にカキメ。中位に2条沈線。透かしは2段で2ヶ所にあり。	A:1.5～2㎜の白色砂粒を多量に含む。B:良好。C:内外共灰N5/。	

表20 本堂遺跡第13次調査出土遺物観察表④

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高 ③底径④高台径 ⑤最大径 ()は復元	形態・技法の特徴	A：胎土B：焼成C：色調	備考
460	須恵器	壺蓋	灰原1-3下 2層灰層	①(14.0) ②2.3+α	回転ナデ成形。天井部外面回転ヘラ削り。	A:1～3㎜の白色砂粒をやや少量含む。 B:良好。C:外暗青灰5B3/1、内暗青灰5PB4/1。	
461	須恵器	鉢	2-3区 2層灰層	②3.6+α	回転ナデ成形。	A:2㎜以下の砂粒を少量、微細な黒色粒を多量に含む。B:良好。C:外灰N6/、内灰白N7/。	
462	須恵器	鉢	灰原1-3 2層灰層 灰原1-3下 2層灰層	①(22.0) ②9.8+α ⑤(23.6)	回転ナデ成形。体部外面全面を回転ヘラ削り。内外全面を回転ヘラミガキ。	A:0.5～1.5㎜の白色砂粒、黒色粒をやや多量に含む。B:良好。C:外灰N5/、内灰6/。	金属器模倣仏鉢。
463	須恵器	壺	灰原1-3下 2層灰層	②7.0+α ③(25.0)	回転ナデ成形。底部内面1/2にカキメ。体部外面～底部2/5を回転ヘラ削り(単位不明瞭)底部外面3/5を不定方向ナデ。	A:2㎜以下の白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:外青黒5PB2/1～暗青灰5PB3/1、内灰7.5Y5/1。	
464	須恵器	杯蓋	灰原1-3下+南側 3層	①(14.0)②3.9 天井径(10.1)	回転ナデ成形。外面2/3を回転ヘラ削り。	A:2㎜以下の砂粒、黒色粒を少量含む。 B:良好。C:外灰N6/、内灰白N7/。	
465	須恵器	杯蓋	灰原1-3下 3層	①(14.4)②2.55	回転ナデ成形後、天井部内面不定方向ナデ。天井部外面ヘラ切り。つまみ貼付。	A:微細な白色砂粒、黒色粒を少量含む。B:不良。C:内外共浅黄5Y7/3。	歪みあり。
466	須恵器	杯身	灰原1-3下+南側 2層灰層	①(11.8)②3.9 ④8.2	回転ナデ成形後、底部内面不定方向ナデ。外面はヘラ切り。高台貼付。	A:1㎜以下の砂粒を少量含む。B:良好。 C:内外共灰N6/～灰白N7/。	
467	須恵器	杯	灰原1-0 1層	①(13.4)②2.7 ③8.4	回転ナデ成形。底部外面～体部外面1/2を回転ヘラ削り。内外面全面を回転ヘラミガキ。	A:1㎜の白色砂粒を少量含む。B:良好。 C:内外共紫灰5P5/1～青灰5PB5/1。	
468	須恵器	杯	灰原1-0 1層	①(13.9)②2.8 ③8.0	回転ナデ成形。底部外面～体部外面1/2を回転ヘラ削り。内外面全面を回転ヘラミガキ。	A:1.5㎜以下の白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:外青灰5PB5/1～灰N6/、内青灰5PB5/1。	
469	須恵器	杯	灰原1-3下 3層	①(15.4)②2.8 ③(9.2)	回転ナデ成形。体部外面1/2を回転ヘラ削り。体部外面～内面全面を回転ヘラミガキ。底部内面はヘラ切り後ナデか？	A:2㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B:良好。C:外灰N5/～黄灰2.5Y6/2、内灰N6/。	杯ｄ。
470	須恵器	短頸壺	灰原1-3下 カクラン土	②7.9+α④9.4	回転ナデ成形後、底部内面不定方向ナデ。体部外面回転ヘラ削り。高台貼付。	A:1㎜以下の白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:外灰白N7/～灰N4/、内灰白N8/。	
471	須恵器	甕	灰原1-3下 カクラン土	①(35.3) ②11.3+α	体部外面擬格子のタタキ後カキメ、内面同心円当て具。口縁回転ナデ。	A:微細な白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:外灰7.5Y5/1、内灰5Y6/1。	
472	石器	石鏃	灰原1-3下 3層	長2.2+α 幅1.9+α 厚0.3重1.0	両脚を欠損。		黒曜石。
473	須恵器	杯蓋	灰原1-3下(SX04周辺) 4層	①12.2②4.0	回転ナデ成形後、天井部内面不定方向ナデ。外面1/2を回転ヘラ削り。	A:1～2㎜の白色砂粒をやや多量に含む。B:やや不良。C:外黒N2/～褐7.5YR4/4、内暗赤褐7.5R3/2～暗青灰10BG3/1。	天井部外面ヘラ記号。
474	瓦？	不明	灰原1-3下(SX04周辺) 4層	長19.5+α 幅15.6+α 厚3.6～4.3	板状工具によるナデ。	A:6㎜以下の白色砂粒を多量に含む。 B:不良。C:にぶい黄橙10YR6/4～明赤褐5YR5/6一部黒10YR2/1。	
475	須恵器	杯蓋	灰原1-2・3区間ベルト 2層灰層	①14.2②3.1 天井径10.1	回転ナデ成形後、天井部内面不定方向ナデ。天井部外面はヘラ切り後ナデ。つまみ貼付。	A:1㎜以下の白色砂粒を少量、黒色粒を多量に含む。B:良好。C:内外共灰N6/。	
476	須恵器	杯蓋	灰原1-2・3区間ベルト 2層灰層	①13.3②1.5	回転ナデ成形後、天井部内面不定方向ナデ。天井部外面はヘラ切り後ナデ。つまみ貼付。	A:0.5㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B:良好。C:内外共灰N4/～6/。	歪みあり。
477	須恵器	杯蓋	灰原1-2・3区間ベルト 2層灰層	①13.9②1.0	回転ナデ成形後、天井部内面不定方向ナデ。天井部外面はヘラ切り後ナデ。つまみ貼付。	A:0.5～2㎜の白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:内外共灰N6/。	歪みあり。
478	須恵器	杯身	灰原1-2・3区間ベルト 2層灰層	①14.7②3.95 ④8.7	回転ナデ成形後、底部内面不定方向ナデ。外面はヘラ切り後ナデ。高台貼付。	A:1㎜以下の白色砂粒を多量に含む。 B:良好。C:外灰7.5Y5/1～浅黄5Y7/3、内にぶい赤褐5YR5/3。	
479	須恵器	杯身	灰原1-2・3区間ベルト 2層灰層	①13.2②4.0 ④7.65	回転ナデ成形後、底部内面不定方向ナデ。底部外面中央に指頭痕あり。高台貼付。	A:1㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B:良好。C:外灰N4/～灰白7.5Y7/2、内灰N5/。	
480	須恵器	甕	灰原1-1・2区間ベルト 2層灰層	①(14.0) ②19.2+α ⑤(24.2)	体部外面擬格子のタタキ後上位1/3にカキメ、内面は同心円当て具。口縁回転ナデ成形。頸部外面にハケ状の痕跡あり。	A:0.5～2㎜の白色砂粒をやや多量に含む。B:良好。C:内外共灰N4/、断面灰白N7/。	
481	土師器	甕	灰原1-1・2区間ベルト 2層灰層	①(32.5)②8.9	体部外面タテハケ、内面斜方向ヘラ削り。口縁はヨコナデ。	A:0.5～2㎜の白色砂粒、石英、褐色粒を多量に含む。B:不良。C:外橙5YR7/6、内橙5YR7/6～明黄褐10YR7/6。	
482	土師器	甑	灰原1-1・2区間ベルト 3層	①(30.4) ②15.5+α	外面はタテハケ。内面は縦方向ヘラ削り。	A:1～5㎜の白色砂粒を多量に含むB:やや不良。C:内外共明赤褐5YR5/8～黄橙7.5YR7/8。	外面黒斑あり。
483	須恵器	杯身	SK01-2 埋土上層	①(10.2) ②3.3+α 受部径(12.9)	回転ナデ成形。外面2/3を回転ヘラ削り。	A:微細な石英を微量含む。B:良好。 C:外灰赤2.5YR4/2～灰N4/、内灰赤2.5YR4/2。	
484	須恵器	杯身	SK02 埋土上層(1・2・3層)	①(11.4) ②3.6+α 受部径(13.6)	回転ナデ成形。	A:微細な白色砂粒、長石、石英、細粒の黒色粒をやや多量に含む。B:良好。 C:内外共灰N4/。	体部外面ヘラ記号。 内外面降灰。

表21　本堂遺跡第13次調査出土遺物観察表⑤

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高 ③底径④高台径 ⑤最大径 ()は復元	形態・技法の特徴	A：胎土B：焼成C：色調	備考
485	弥生土器	甕	SK02 埋土上層(1・2・3層)	①(19.8) ②4.8+α	体部外面タテハケ、内面強いナデ。口縁内面ヨコハケ。	A:2mm以下の石英、白色砂粒を多量、微細な長石、雲母を微量含む。B:やや不良。C:内外共黄橙7.5YR7/8～黄橙10YR8/6。	
486	弥生土器	壺	SK02 下層 レベル有	②7.9+α	磨滅の為、調整不明。口縁上下に刻みあり。	A:4mm以下の石英を多量に含む。B:不良。C:内外共赤10R4/8。	口径は約60cm。
487	弥生土器	甕	SK02 中層	②3.8+α ③(10.0)	磨滅の為、調整不明。	A:礫を多量に、1mmの白色砂粒をやや多量、雲母を微量含む。B:不良。C:内外共黄橙10YR8/6～黄橙7.5YR7/8。	
488	石器	石鏃	SK02 下層 黒曜石	長1.6+α 幅1.3+α厚0.25 重0.4	片脚を欠損。		黒曜石。
489	石器	石鏃	SK05-2 下層 石鏃No.①	長1.6幅1.6 厚0.25重0.6	正三角形に近い形状。		安山岩。
490	石器	石鏃	SK05-2 下層 石鏃No.② ポイント有	長2.0+α 幅1.6+α厚0.3 重0.8	抉りが浅く、二等辺三角形に近い形状。		黒曜石。
491	石器	不明	SK05-2 下層	長5.3+α 幅5.0+α厚2.8 重67.3			
492	須恵器	杯身	3-3・4区間ベルト 1層(1・2層SK07)	①(16.8) ②4.1+α 受部径20.0	回転ナデ成形。	A:微細な長石、石英、黒色粒を少量含む。B:良好。C:内外共灰N6/。	
493	弥生土器	壺	SK07-2 埋土最下層(11層～16層)	②10.1+α ③(12.0)	磨滅著しい。内面はナデか？	A:2mm以下の石英を多量、雲母、長石を微量含む。B:不良。C:外明赤褐5YR5/6～明黄褐10YR7/6、内明黄褐10YR7/6、剥離部明黄褐10YR6/8。	
494	弥生土器	甕	SK08 棺材検出面 土器No.②	②4.2+α③6.6	外面はタテハケ、内面ナデ。底部外面は磨滅。	A:1～3mmの石英を多量に含む。B:不良。C:外橙7.5YR7/6～6/8～褐7.5YR4/6～暗褐7.5YR3/4、内明黄褐10YR7/6。	
495	弥生土器	甕	SK08 棺材検出面 土器No.①	②4.8+α③8.0	外面はタテハケ、内面ナデ。底部外面ナデ。	A:2mm以下の石英を多量、雲母を少量含む。B:良好。C:外橙5YR6/8、内橙7.5YR7/6～にぶい褐7.5YR5/4。	内面煤付着か？
496	石器	石鏃	SK10周辺 流土	長2.1+α幅1.4 厚0.3重0.8	両脚を欠損。		黒曜石。
497	弥生土器	甕	SK11 埋土上層	②9.4+α ③(10.6)	外面ミガキ？内面ナデ？(磨滅)	A:6mm以下の石英をやや多量、微細な長石を微量含む。B:良好。C:内外共黄橙10YR8/6。	体部外面黒斑あり。
498	弥生土器	甕	SK17 埋土上層	②3.6+α③5.0	外面タテナデ。内面指頭痕あり。全面磨滅。	A:3mm以下の白色砂粒、石英を多量に含む。B:良好。C:外明黄褐10YR6/8～橙2.5YR6/6、内にぶい黄橙10YR7/3。	
499	須恵器	杯身	SX02-2 2層	①(12.4) ②3.3+α 受部径(15.2)	回転ナデ成形。	A:微細な黒色粒、2mm以下の白色砂粒を多量に含む。B:良好。C:外灰10Y5/1～黄灰2.5Y5/1、内黄灰2.5Y6/1～暗灰黄2.5Y5/2。	
500	須恵器	杯身	SX02-2 2層	①(11.4) ②2.8+α 受部径(13.5)	回転ナデ成形。	A:微細な石英を少量含む。B:良好。C:外灰N4/～黒N1.5/～灰白N7/～オリーブ灰2.5GY6/1、内灰N4/。	外面降灰。
501	土製品	土錘	SX02-2 2層	長7.7幅2.6 孔径0.6重45.6	ナデ成形。中心に穿孔。	A:微細な石英、長石を微量含む。B:良好。C:灰黄褐10YR5/2～4/2～黒10YR2/1～褐灰10YR4/1。	
502	須恵器	杯蓋	SX03-1 埋土中No.2	①11.4②3.7	回転ナデ成形。外面2/3を回転ヘラ削り。外面回転ナデのロクロ目が強い。	A:微細な石英、長石を少量含む。B:良好。C:外黄灰2.5Y5/1～灰黄2.5Y7/2～灰10Y5/1、内黄灰2.5Y5/1。	
503	須恵器	杯身	SX03-1 埋土中No.1	①11.0②3.9 受部径13.3	回転ナデ成形後、底部内面一定方向ナデ。外面1/2を回転ヘラ削り。	A:微細な石英、黒色粒を多量に含む。B:良好。C:内外共灰N5/。	
504	須恵器	杯身	SX03-1 埋土中No.3	①10.8②3.6 受部径12.8	回転ナデ成形後、底部内面広範囲を不定方向ナデ。外面ヘラ切り後ナデ。	A:微細な白色砂粒、石英をやや多量に含む。B:良好。C:外灰N7/～3/、内灰10Y5/1～4/1。	大きな歪みあり。体部外面板状圧痕か？
505	須恵器	杯身	SX03-1 埋土中No.3下	①9.1②3.2 受部径11.2	回転ナデ成形。底部外面ヘラ切り後ナデ。内面は降灰の為、不明。	A:微細な白色砂粒、石英、微細な長石を少量含む。B:良好。C:外灰N4/～2/、内灰N4/。	底部外面ヘラ記号。 内面降灰。
506	須恵器	杯身	SX03-2 埋土中No.4	①11.0②3.6 受部径12.9	回転ナデ成形後、底部内面不定方向ナデ。外面3/5を回転ヘラ削り。	A:2mm以下の石英をやや多量に含む。B:良好。C:内外共灰N4/。	底部外面ヘラ記号。
507	須恵器	杯身	SX03-1 埋土	①10.1②3.7 受部径12.3	回転ナデ成形後、底部内面不定方向ナデ。外面ヘラ切り後ナデ。	A:細粒の石英を微量含む。B:良好。C:外灰白5Y7/1～灰5Y5/1～灰白N7/、内灰5Y5/1～4/1。	外面降灰。
508	須恵器	杯身	SX03-1 埋土	①9.5②3.1 受部径11.8	回転ナデ成形後、底部内面不定方向ナデ。外面ヘラ切り後ナデ。	A:細粒の石英、長石を微量含む。B:良好。C:外灰N5/～3/～灰白2.5GY8/1、内灰N5/。	底部外面ヘラ記号。受部上面降灰。口縁部杯蓋片釉着。
509	須恵器	杯身	SX03-2 埋土中 SX03-1 埋土中	①10.9②3.8 受部径13.0	回転ナデ成形後、底部内面不定方向ナデ。外面3/5を回転ヘラ削り後ナデ。	A:1～5mmの石英を多量に含む。B:良好。C:外灰N4/～N6/、内灰N4/。	底部外面ヘラ記号。
510	須恵器	杯身	SX03-2 埋土中No.5	①11.3②4.1 受部径13.6	回転ナデ成形後、底部内面を不定方向ナデ。外面3/5を回転ヘラ削り。	A:1mmの石英をやや多量に含む。B:良好。C:内外共暗灰N3/。	外面降灰。
511	須恵器	杯身	SX03-2・3区間ベルト 埋土上層(9層)	①(10.0) ②4.4+α 受部径(11.8)	回転ナデ成形後、底部内面不定方向ナデ。外面3/5を回転ヘラ削り。	A:微細な白色砂粒、石英、黒色粒を微量含む。B:良好。C:外灰N7/～3/～灰白2.5GY8/1、内灰N7/。	大きな歪みあり。

表22 本堂遺跡第13次調査出土遺物観察表⑥

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高 ③底径④高台径 ⑤最大径 ()は復元	形態・技法の特徴	A：胎土B：焼成C：色調	備考
512	須恵器	杯身	SX03-2 埋土中	①13.2②3.9 ③8.2	回転ナデ成形後、底部外面ナデ。高台貼付。	A:1㎜以下の石英を少量含む。B:良好。C:外灰白7.5Y7/1～灰7.5Y6/1、内灰5Y6/1。	
513	須恵器	鉢	SX03-1 埋土中	②7.6+α	回転ナデ成形。外面中位に3条沈線。下位を回転ヘラ削り。	A:微細な石英、微細な長石を少量含む。B:やや良好。C:外灰褐7.5YR5/2、内にぶい赤褐5YR5/3～黒褐5YR3/1。	
514	須恵器	高台付壺	SX03-3 埋土上層	②10.6+α⑤13.8	回転ナデ成形後、外面中位に沈線、斜線文。以下を回転ヘラ削り。	A:2㎜以下の石英を少量含む。B:良好。C:外灰N5/～N4/、内灰白N7/～灰白5Y7/2。	体部外面上半降灰。
515	須恵器	杯身	SX03-3 埋土上層No.1～3	①28.1②7.6+α 受部径32.3	回転ナデ成形後、底部内面を不定方向ナデ。外面2/5を回転ヘラ削り。底部内面に同心円当て具あり。底部欠損。	A:2㎜以下の白色砂粒を多量に含む。B:良好。C:外明オリーブ灰2.5GY7/1～灰10Y5/1、内明青灰5B7/1。	
516	須恵器	壺	SX03-2 埋土中No.7 SX03-1 埋土下層 SX03-2 埋土中 SX03-2・3区間ベルト 埋土下層(10・11層) SX03-3 埋土上層 SX03-1・2区間ベルト 埋土2層 灰原1-3下 1層	①11.6②19.7+α ⑤(21.5)	体部外面下3/5を擬格子タタキ、同内面同心円当て具。以上は回転ナデ。体部外面上位にカキメあり。	A:1～3㎜の石英をやや多量に含む。B:良好。C:内外共灰N5/。	外面上半～口縁内面上位降灰。
517	須恵器	甕	SX03-2・3区間ベルト 埋土上層(9層) 灰原1-3下+南側3層	①21.1②21.0+α	体部外面は擬格子タタキ後カキメ、内面同心円当て具。口縁回転ナデ成形。	A:0.5㎜の白色砂粒を少量、微細な黒色粒を微量含む。B:良好。C:内外共暗灰N3/～灰白N7/。	頸部外面ヘラ記号。
518	土師器	高杯	SX03-1 埋土中	②7.6+α	磨滅の為、調整不明。	A:微細な長石をやや多量に含む。B:良好。C:外橙5YR6/8、内にぶい黄橙10YR7/4。	
519	土師器	甕	SX03-1 埋土中	①(14.0) ②7.2+α	体部外面タテハケ、内面縦方向ヘラ削り。口縁ヨコナデ。	A:2㎜以下の白色砂粒、石英、多量、微細な雲母を微量含む。B:良好。C:内外共橙5YR6/8。	
520	土師器	甑	SX03-2 埋土中	①(22.6) ②11.1+α	体部外面タテハケ、内面縦方向ヘラ削り。口縁ヨコナデ。把手欠損。	A:1～4㎜の石英をやや多量、微細な雲母を少量含む。B:良好。C:内外共橙7.5YR7/6。	
521	土師器	甕	SX03-2 埋土中	①(13.2) ②10.4+8.7+α	外面タテハケ、内面ヘラ削り。口縁ヨコナデ。底部外面はナデ？(磨滅)、内面は不定方向のナデ。	A:2.5㎜以下の白色砂粒を多量に含む。B:良好。C:内外共赤褐2.5YR4/8。	接合不可。体部外面黒斑あり。
522	土師器	甑	SX03-2 埋土下層	②14.0+α	体部外面タテハケ、内面ヘラ削り。差込式の把手は指頭痕を残すナデ。	A:1～3㎜の石英をやや多量、微細な雲母を少量含む。B:良好。C内外共橙7.5YR7/6。黒斑暗灰N3/。	体部外面黒斑あり。
523	須恵器	杯蓋	SX04-0・1区間ベルト 埋土上層	①12.6②4.4	回転ナデ成形後、天井部内面不定方向ナデ。外面1/2を回転ヘラ削り。天井部内面に同心円当て具、シッタ痕あり。	A:微細な石英を多量に含む。B:良好。C:外灰N6/、内灰N7/。	
524	須恵器	杯身	SX04 検出中	①(9.7)②3.3 ③6.5 受部径(11.6)	回転ナデ成形後、底部内面不定方向ナデ。外面ヘラ切り後ナデ。	A:2㎜以下の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外灰N7/、内灰N7/～4/。	外面降灰。
525	須恵器	杯身	SX04-3 P-1 埋土中	①(17.0)②5.6 ④10.5	回転ナデ成形。底部外面はヘラ切り後ナデ。高台貼付。	A:微細な白色砂粒、石英、長石をやや少量含む。B:良好。C:外灰白N8/～灰N6/、内灰白N8/。	
526	須恵器	杯蓋	SX05-2・3区間ベルト 埋土(10層)	①(13.0)②4.2	回転ナデ成形後、天井部内面中央を一定方向ナデ。外面2/3回転ヘラ削り。	A:1～3㎜の石英を少量含む。B:良好。C:外灰N4/、内灰N5/。	天井部外面ヘラ記号。
527	須恵器	杯身	SX05-2・3区間ベルト 埋土上層	①11.7②4.0 受部径14.0	回転ナデ成形後、底部内面を一定方向ナデ。外面1/2を回転ヘラ削り。	A:1～2㎜の石英をやや多量に含む。B:良好。C:内外共灰N5/。	天井部外面ヘラ記号。
528	須恵器	甕	SX05-2 埋土上層No.6	①(28.1) ②8.3+α	回転ナデ成形。頸部外面に斜線文、沈線。	A:1㎜以下の石英を少量含む。B:良好。C:外灰N5/～4/、内灰N5/。	
529	土師器	甕	SX05-2 埋土上層No.3	①(18.0) ②6.2+α	体部外面タテハケ。内面斜方向のヘラ削り後ナデ。口縁ヨコナデ。	A:1～4㎜の石英を多量に含む。B:良好。C:内外共淡黄2.5Y8/3。	体部外面黒斑あり。
530	須恵器	杯身	SX07ベルト 4層	①(10.8) ②4.1+α 受部径(13.5)	回転ナデ成形。	A:微細な白色砂粒を微量含む。B:良好。C:内外共灰白N7/。	
531	須恵器	壺	SX07ベルト 3層南	②7.3+α③(8.8) ⑤(14.1)	回転ナデ成形。体部外面カキメ。外面下位～底部はナデ。	A:微細な長石、2㎜以下の石英をやや多量に含む。B:良好。C:外暗緑灰5G4/1～オリーブ黒7.5Y3/1、内青灰5B6/1。	底部外面ヘラ記号。
532	土師器	杯	SX07 床面直上No.2	①15.8②2.8 ③8.3	回転ナデ成形。底部外面ヘラ切り。板状圧痕あり。内面磨滅。	A:1～3㎜の白色砂粒、石英を多量に含む。B:やや不良。C:外浅黄橙10YR8/3～橙7.5YR7/6、内灰白10YR8/2～淡赤橙2.5YR7/4。	
533	土師器	丸底杯	SX07 床面直上No.3	①14.3②4.3	底部外面ヘラ切り。内面は不定方向ナデ。体部外面～内面上位は磨滅。	A:0.5～3㎜の白色砂粒をやや多量に含む。B:不良。C:外浅黄2.5Y8/3、内浅黄橙10YR8/3。	
534	鉄製品	刀子	SX07-1 床面直上No.1	長5.1+α 幅1.6+α厚0.3			
535	鉄製品	刀子	SX07ベルト 4層	長1.7+α 幅0.9+α厚4.5	刃部先端。		
536	須恵器	杯蓋	SX09-0 埋土下層	①13.2②3.9	回転ナデ成形後、天井部内面不定方向ナデ。外面1/3を回転ヘラ削り。	A:0.5～3㎜の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:内外共青灰10BG5/1。	

表23 本堂遺跡第13次調査出土遺物観察表⑦

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高 ③底径④高台径 ⑤最大径 ()は復元	形態・技法の特徴	A：胎土B：焼成C：色調	備考
537	須恵器	杯身	SX09-1 埋土中	①11.0②4.1 受部径13.2	回転ナデ成形後、底部内面不定方向ナデ。外面1/2を回転ヘラ削り。	A:2mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:やや不良。C:外にぶい橙5YR6/4、一部青灰5B6/1、内赤褐10R5/3、一部青灰5B6/1。	還元不良。
538	須恵器	甕	SX09-0 埋土下層	①(31.8) ②12.8+α	体部外面平行タタキ、内面同心円当て具。口縁は回転ナデ成形。頸部外面に連続斜線文、沈線。	A:微細な白色砂粒を微量含む。B:やや良好。C:外黒N2/～灰N6/、内灰N5/～灰7.5Y6/1。	口縁～頸部内面に降灰。
539	土師器	ミニチュア土器	SX09-1 埋土中	①4.1②3.6	手づくね成形。	A:1～2mmの白色砂粒を少量、微細な赤色粒、黒色粒を微量含む。B:やや不良。C:外明赤褐5YR5/6、口縁黒褐5YR2/1、内浅黄橙7.5YR8/6～橙7.5YR6/6～黒7.5YR2/1(マーブル状)。	
540	須恵器	杯蓋	SX14-1 埋土中	①11.4②4.2	回転ナデ成形。天井部1/2を回転ヘラ削り。外面に2条沈線。	A:3mm以下の白色砂粒をやや多量、微細な黒色粒を多量に含む。B:良好。C:外灰N6/～暗灰N3/～明青灰5B7/1、内暗オリーブ黒7.5Y3/1～明青灰5B7/1。	外面降灰。
541	須恵器	杯蓋	SX14-1 埋土中	①12.5②4.2	回転ナデ成形後、天井部内面不定方向ナデ。外面1/2を回転ヘラ削り。	A:2mm以下の白色砂粒、石英をやや多量、微細な黒色粒を少量含む。 B:良好。C:外灰白N7/～5/～灰N4/～黒N2/、内灰N4/～黒N2/～灰白N7/。	体部外面にヘラ記号。内外面降灰。
542	須恵器	蓋	SX14-2 埋土中	①8.4②2.6	回転ナデ成形後、天井部内面不定方向ナデ。外面3/5を手持ちヘラ削り。	A:3mm以下の砂粒、微細な黒色粒をやや多量に含む。B:やや不良。C:外青灰5B5/1～暗青灰5B3/1～灰白10Y7/1～灰10Y4/1、内灰N4/～黒N2/～灰白N7/。	体部外面ヘラ記号。
543	須恵器	蓋	SX10 床面直上	①6.6②2.3	回転ナデ成形後、天井部内面不定方向ナデ。外面3/4回転ヘラ削り。	A:0.5～2mmの白色砂粒、石英を多量に含む。B:良好。C:内外共灰5Y6/1。	
544	須恵器	高杯蓋	SX10-1 埋土中	①12.4②4.5 つまみ径1.6	回転ナデ成形後、天井部外面不定方向ナデ。外面1/2を回転ヘラ削り。つまみ貼付。	A:1mm以下の白色砂粒をやや多量、微細な黒色粒を多量に含む。B:良好。C:内外共灰N5/。	天井部外面ヘラ記号。
545	須恵器	高杯	SX14-2 埋土中	②14.8+α 裾部径(15.0)	磨滅の為、調整不明。内面にシボリ痕あり。外面中位に2条沈線。	A:2mm以下の砂粒を微量含む。B:不良。C:内外共橙5YR7/6。	
546	土師器	甕	SX15 焼土直上	①(14.0)②17.8	体部外面はタテハケ、底部外面は不定方向ハケ。体部内面上位は横方向ヘラ削り。内面中位以下は縦方向ヘラ削り？(磨滅)。口縁はヨコナデ。	A:1～6mmの白色砂粒、石英を多量に含む。B:不良。C:外灰白10YR8/2～黄橙10YR8/6一部にぶい赤褐10R6/3～黒N2/、内浅黄橙10YR8/4、口縁部褐灰10YR5/1。	
547	黒色土器B類	椀	SX20 埋土中	①15.6②6.5 ④8.1	底部はヘラ切り。高台貼付。あとは磨滅の為、不明。	A:2mm以下の白色砂粒を少量、微細な赤色粒をやや少量含む。B:不良。C:外浅橙10YR8/4～褐灰10YR4/1、内黒10YR2/1、高台内黒10YR2/1。	
548	須恵器	杯身	SX22 P-1 埋土中	①10.9②3.9 受部径12.6	回転ナデ成形後、底部内面不定方向ナデ。外面1/2を回転ヘラ削り。	A:2mm以下の白色砂粒、微細な黒色粒を少量含む。B:良好。C:外青灰5PB6/1、内暗青灰5PB4/1。	底部外面ヘラ記号。
549	土師器	甕	SX22 かまど No.1 9層直上	①(15.8) ②5.4+α	体部はタテハケ、内面は縦方向ヘラ削り。口縁はヨコナデ。	A:2mm以下の白色砂粒、石英をやや多量、微細な雲母を多量に含む。B:やや不良。C:外にぶい黄橙10YR7/3、一部灰黄褐10YR4/2～浅赤橙2.5YR7/3、内灰白10YR8/2～灰黄褐10YR5/2。	
550	須恵器	短頸壺	2-5区 2層(褐灰色土)	①(9.3)②4.1+α	回転ナデ成形。肩部外面カキメ。	A:1mmの砂粒を少量含む。B:良好。C:内外共青灰5PB6/1。	体部外面降灰。肩部に蓋口縁片が釉着。
551	須恵器？	鉢	2-5区 裾3層	②7.6+α	回転ナデ成形。内面下位に同心円当て具。	A:1.5mmの砂粒をやや多量に含む。B:不良。C:内外共橙5YR7/8～灰白10YR8/2。	外面黒斑。外面下位竹管文か？
552	石器	石鏃	2-5-3-1区間ベルト 2層(10層)	長1.9幅1.6厚0.3 重0.7	両脚を欠損。		黒曜石。
553	陶器	椀	2-4区 2層(褐灰色土)	②2.9+α④7.3	削り出し高台。残存部全面に施釉。見込みと畳付けに目跡あり。	A:灰N6/。1mmの石英をやや多量に含む。B:良好。釉調:浅黄5Y7/3。厚く施釉。不透明で細かい気泡を多量に含む。	朝鮮系雑釉陶器。内面5ヶ所外面4ヶ所に目跡。
554	須恵器	杯身	2-4区 3層(暗灰色粘質土)	①(11.9) ②3.7+α 受部径(14.0)	回転ナデ成形。外面1/2を回転ヘラ削り。	A:微細な白色砂粒、黒色粒をやや多量に含む。B:良好。C:内外共灰N6/。	
555	須恵器	鉢	2-5区 3層(暗灰色土)	①(11.2) ②3.9+α	回転ナデ成形後、底部内面不定方向ナデ。外面1/3を回転ヘラ削り。	A:0.5～1.5mmの白色砂粒をやや多量に含む。B:良好。C:外明青灰5PB7/1、内暗青灰5PB4/1。	体部外面ヘラ記号。
556	須恵器	短頸壺	2-5区 3層(暗灰色土)	②5.8+α③5.3	回転ナデ成形。外面下半は磨滅。体部外面中位に1条沈線あり。	A:微細な白色砂粒を微量含む。 B:不良。C:外灰白2.5Y7/1、内灰白2.5Y8/1。	
557	須恵器	稜椀	2-5区 下方 3層(暗灰色土)	②3.1+α	回転ナデ成形。外面はタタキ後カキメか？	A:1mm以下の砂粒を少量含む。B:良好。C:内外共灰N6/。	
558	弥生土器	甕	2-5区 下方 3層(暗灰色土)	②3.2+α	ヨコナデ成形後、口唇部に刻み。	A:1～2mmの白色砂粒をやや多量に含む。B:良好。C:外褐灰7.5YR4/1、内橙5YR6/6。	
559	須恵器	杯蓋	2-4区裾 4層	①12.8②4.1 天井径10.0	回転ナデ成形後、天井部内面不定方向ナデ。外面1/2を回転ヘラ削り。	A:2mm以下の砂粒、黒色粒をやや多量に含む。B:良好。C:外灰N5/、内灰N6/。	体部外面ヘラ記号。 外面降灰。
560	須恵器	杯身	2-4区裾 4層	②3.2+α 受部径(12.4)	回転ナデ成形後、底部内面ナデ。外面2/3を回転ヘラ削り。	A:微細な砂粒を少量含む。B:良好。C:外灰N6/、内褐灰5YR5/2。	底部外面2ヶ所竹管文。
561	須恵器	壺	2-4区裾 4層 2-4区 検出中1・2層	①18.2②17.9+α ⑤30.5	体部外面カキメ。内面同心円当て具。口縁回転ナデ成形後、頸部外面に斜線文。体部1ヶ所を焼成後に打ち欠いて穿孔。	A:0.5～2mmの砂粒を少量含む。 B:良好。C:内外共灰N6/～灰N4/。	外面降灰。

表24 本堂遺跡第13次調査出土遺物観察表⑧

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高 ③底径④高台径 ⑤最大径 ()は復元	形態・技法の特徴	A：胎土B：焼成C：色調	備考
562	土師器	甕	2-4区裾2区 4層	②12.15+α	体部外面タテハケ、内面縦方向ヘラ削り。口縁外面ヨコハケ。	A:1～7mmの石英を多量に含む。 B:不良。C:内外共灰白2.5Y8/2。	
563	土師器	甑	2-4区裾2区 4層	②7.5+α	指頭痕を残すナデ成形。内面に指頭痕あり。	A:0.5～3mmの石英を多量に含む。 B:不良。C:内外共にぶい黄橙10YR7/4。	把手。
564	土師器	ミニチュア土器	2-4区裾2区 4層	①2.8②1.8③2.6	手づくね成形。	A:0.5～2mmの白色砂粒を少量含む。 B:不良。C:内外共にぶい黄橙10YR6/4。	
565	土師器	ミニチュア土器	2-4区裾2区 4層	長2.2厚0.7	磨滅の為、調整不明。先端部欠損。	A:混入物はほとんど無い。B:不良。 C:灰白2.5Y8/2。	把手。
566	須恵器	杯身	3-1・2区間ベルト 3層	①11.4②4.1 受部径13.4	回転ナデ成形後、底部内面不定方向ナデ。外面1/3を回転ヘラ削り。	A:0.5～1.5mmの白色砂粒をやや多量に含む。B:良好（赤焼）。C:外にぶい赤褐2.5YR5/4～青灰5B5/1、内にぶい赤褐2.5YR5/4。	底部外面ヘラ記号。
567	須恵器	杯蓋	3-1・2区間ベルト 3層	①(7.9)②3.1 受部径(9.8) つまみ径(1.9)	回転ナデ成形。つまみ貼付。	A:0.5mmの白色砂粒を微量含む。 B:良好。C:内外共灰N5/。	
568	須恵器	壺蓋	3-1・2区間ベルト 3層	①(6.2)②2.6+α 受部径(9.7)	回転ナデ成形。天井部2/3を回転ヘラ削り。つまみは欠損。	A:1mmの白色砂粒をやや多量、3～5mmの礫を微量含む。B:良好。C:外暗青灰5PB3/1～灰白N7/、内暗青灰5B3/1。	
569	須恵器	甕	3-2区裾 カクラン土	①10.9②13.7+α 孔径1.3	回転ナデ成形。体部外面1/2を回転ヘラ削り。中位に2条沈線、斜線文。頸部接合部にシボリ痕。頸部外面に沈線。	A:1mmの白色砂粒をやや多量に含む。 B:良好。C:内外共灰N5/。	底部外面竹管文あり。
570	須恵器	鉢	3-2区裾 カクラン土	②3.5+α	回転ナデ成形後、底部内面不定方向ナデ。底部外面ヘラ削り。外面中位に2条沈線。	A:微細な白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:内外共青灰10BG6/1。	
571	須恵器	大甕	3-1区 3層(暗灰色土)	①(58.8) ②15.1+α	口縁回転ナデ成形後、頸部外面にカキメ、沈線、連続斜線文の順に施文。口縁一部に刻みあり。	A:1～3mmの白色砂粒をやや多量に含む。B:良好。C:内外共暗灰N3/～灰白N7/。	
572	須恵器	杯蓋	丘陵裾トレンチ2・3間 包含層	①(12.6)②4.0	回転ナデ成形後、天井部外面不定方向ナデ。外面1/3を回転ヘラ削り。	A:0.5～2mmの白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:外暗灰N3/、内灰N5/。	天井部外面ヘラ記号。
573	須恵器	杯身	丘陵裾トレンチ2・3間 包含層	①11.1②4.0 受部径13.1	回転ナデ成形後、底部内面一定方向ナデ。外面1/2を回転ヘラ削り。	A:0.5～2mmの白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:外灰白5Y7/1～明青灰5PB7/1(降灰)、内灰N5/。	底部外面ヘラ記号。 外面降灰。
574	須恵器	杯身	丘陵裾トレンチ2・3間 包含層	①11.8②4.0 受部径13.8	回転ナデ成形。外面1/2を回転ヘラ削り。底部内面にシッタ痕あり。	A:0.5mmの白色砂粒を少量含む。 B:不良。C:外にぶい黄橙10YR7/2、内黄灰2.5Y6/1。	底部外面ヘラ記号。
575	須恵器	壺蓋	丘陵裾トレンチ2・3間 包含層	①(6.0)②3.9 受部径(9.6) つまみ径2.3	回転ナデ成形後、天井部内面不定方向ナデ。外面カキメ。つまみ貼付。	A:0.5mmの白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:内外共明青灰5PB7/1、外一部灰N6/、断面にぶい赤褐2.5YR5/3。	天井部外面ヘラ記号。
576	須恵器	杯身	丘陵裾トレンチ2・3間 包含層	①(25.1) ②5.7+α	回転ナデ成形。外面下位の一部にカキメ。底部は磨滅。底部内面は不定方向ナデ。	A:0.5mmの白色砂粒を少量含む。 B:不良。C:外灰白2.5Y8/2、内灰白10Y7/1。	
577	須恵器	杯蓋	3-3区(SX09周辺)検出中	①12.0②3.5	回転ナデ成形後、天井部内面不定方向ナデ。外面2/3を回転ヘラ削り。	A:1mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:内外共灰5Y6/1。	天井部外面ヘラ記号。
578	須恵器	杯蓋	2区 表採(表土剥ぎ時出土)	①12.3②3.8 天井径7.35	回転ナデ成形後、天井部内面不定方向ナデ。外面1/2を回転ヘラ削り。	A:1～2mmの砂粒を少量含む。B:良好。 C:外暗灰N3/(一部浅黄5Y7/3)、内灰N4/。	天井部外面ヘラ記号。外面降灰。
579	須恵器	杯蓋	2-1・2区間ベルト 2層灰層(3層)	①(14.9)②1.9 つまみ径2.2 天井径(9.35)	回転ナデ成形後、天井部内面不定方向ナデ。外面はヘラ切り。つまみ貼付。	A:1～3mmの砂粒、黒色粒をやや多量に含む。B:良好。C:内外共灰白5Y8/1～灰白N7/。	重ね焼きの色ムラあり。
580	須恵器	杯身	検出中(窯跡・下方)	①(11.1)②4.3 受部径(13.1)	回転ナデ成形。外面2/3を回転ヘラ削り。	A:0.5～2mmの白色砂粒をやや多量に含む。B:良好。C:内外共暗灰N3/。	外面降灰。
581	須恵器	杯身	1号窯跡 東側斜面 表土ハギ中	①11.3②4.0 受部径13.5	回転ナデ成形。外面2/5を回転ヘラ削り。	A:微細な白色砂粒を微量含む。 B:良好。C:外灰白N7/～灰5Y4/1、内明青灰5PB7/1。	
582	須恵器	杯身	2-1・2区間ベルト 2層灰層(3層)	①(13.6)②4.15 ④(6.9)	回転ナデ成形後、底部内面不定方向ナデ。底部はヘラ切り。板状圧痕あり。高台貼付。	A:微細な砂粒、黒色粒を多量に含む。 B:良好。C:外灰N6/～灰黄2.5Y7/2、内灰白2.5Y7/1。	
583	須恵器	杯身	2-1・2区間ベルト 2層灰層(3層)	①13.6 ②3.9～4.3 ④8.8	回転ナデ成形後、底部内面ナデ。外面ヘラ切り。高台貼付。	A:1mm以下の砂粒、黒色粒を多量に含む。B:良好。C:内外共灰白7.5Y7/1。	口縁～体部歪みあり。
584	須恵器	杯	2-1・2区間ベルト 2層灰層(3層)	①(14.4)②2.55 ③(8.7)	回転ナデ成形後、内面全面を回転ヘラミガキ。底部外面～体部外面3/5を回転ヘラ削り。	A:2mm以下の砂粒、黒色粒を多量に含む。B:良好。C:外灰5Y5/1～灰N6/、内灰N6/。	
585	須恵器	皿	2-1・2区間ベルト 2層灰層(3層)	①16.6②2.35 ③13.45	回転ナデ成形後、底部内面不定方向ナデ。外面はヘラ切り後ナデ。	A:3mm以下の砂粒、黒色粒をやや多量に含む。B:良好。C:内外共灰白5Y7/2。	
586	須恵器	椀	1号窯跡 東側斜面 表土ハギ中	①(13.2)②10.4	回転ナデ成形後、外面沈線。外面2/5を回転ヘラ削り。	A:0.5～2mmの白色砂粒をやや多量に含む。B:良好。C:外暗灰N3/～灰N6/、内灰N5/。	底部外面ヘラ記号。
587	須恵器	壺	2-1・2区間ベルト 2層灰層(3層)	②2.95+α ③(8.6)	回転ナデ成形後、底部内面不定方向ナデ。外面はヘラ切り後ナデ。体部外面下位に3条沈線あり。	A:微細な砂粒を少量含む。B:良好。 C:内外共灰N6/。	底部外面ヘラ記号か板状圧痕あり。
588	須恵器	横瓶	1号窯跡 東側斜面 表土ハギ中	①(12.8) ②9.1+α	体部外面は擬格子タタキ、内面は同心円当て具。口縁回転ナデ成形。	A:1.5mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:内外共青灰5PB6/1～灰N4/。	体部外面個体片釉着。

表25　本堂遺跡第13次調査出土遺物観察表⑨

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高 ③底径④高台径 ⑤最大径 ()は復元	形態・技法の特徴	A：胎土B：焼成C：色調	備考
589	須恵器	甕	2区 表採(表土剥ぎ時出土)	①23.0②8.0+α	体部外面擬格子タタキ、内面同心円当て具。口縁は回転ナデ。頸部外面にハケ状の痕跡あり。	A:2mm以下の砂粒、黒色粒を少量含む。 B:不良。C:内外共灰白2.5Y8/2。	
590	須恵器	甕	1号窯跡 東側斜面 表土ハギ中	①37.2②15.9+α	口縁回転ナデ成形。頸部内面をヨコナデ。頸部外面にカキメ、沈線、連続斜線文の順に施文。体部内面同心円当て具。	A:1～2mmの白色砂粒をやや多量に含む。B:良好。C:内外共褐灰5YR4/1。	
591	石器	石鏃	4-2区 検出中	長2.1幅1.4厚0.4 重0.9	片脚と先端部を欠損。		黒曜石。
592	須恵器	切削物	検出中(管の北側)	長8.6幅3.6厚1.9	内面は同心円当て具、外面は擬格子タタキ。側縁はヘラ切り。	A:1～2.5mmの白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:青灰5PB6/1。	

Ⅲ．まとめ

奈良時代の牛頸窯跡群

牛頸窯跡群では８世紀代に須恵器生産の最盛期を迎え、南部の山間部において盛んに操業がおこなわれるとともに、北部の平野に近い本堂・野添・浦ノ原・宮ノ本遺跡群においても操業がおこなわれていた。また同時期の北部の集落である本堂遺跡群においては、最近の調査成果により、須恵器工人集落が存在したことおよび仏教的性格の祭祀の場と「村落寺院」が展開する状況も伺えるようになってきている（註１）。須恵器生産と仏教施設での活動は並行しておこなわれており、これらの関係性についてはまだまだ不明確である。本報告の本堂８・13次調査においては、８世紀中頃から後半を中心に窯の操業が認められており、概期の須恵器生産の様相を伺い知ることができる。以下では、窯跡出土の特徴的な遺物を取り上げて検討することにより、生産の様相について考えてみる。さらに須恵器生産と仏教施設との関係性について若干触れてみたい。

（１）須恵質焼成土師器杯ｄ

13次調査の１号窯跡に伴うと考えられる灰原３区の中から土師器の手法で作られた須恵器（456・457・467～469）が出土している。それらに共通し特徴づける属性としては、（１）底部から体部にかけて回転ヘラケズリが施される、（２）体部内外面に丁寧な回転ヘラミガキが施される、（３）底径と口径の差が大きい器形である。これらの属性をもつものとしては、大宰府分類土師器杯ｄが相当する。非常に丁寧に作られ、杯ｄと比較しても手法上の手抜き・変容は認められず、杯ｄそのものといえる。ただ１つ須恵器のように還元炎焼成による堅緻で青灰色の焼き上がりのみが異なる。杯ｄの時期としては８世紀後半が考えられるが、共伴する須恵器の年代とも齟齬はない。これらの事実関係から、土師器工人により製作され、須恵器工人により焼成されたと考えるのが妥当であろう。８世紀後半という時期は、土師器の杯・椀・皿などの器形が須恵器と共通するなど須恵器と土師器の共通性が強まり盛行する時期であり、密接な技術交流を示すものと考えられる。

また杯ｄの系譜・性格については、出現系譜は畿内の土師器に求められ仏器の模倣土器に位置付けられること、さらに官的な場と祭祀の場に集中することなどがいわれている（註２）。13次調査に隣接する仏教的な祭祀の場である７次調査地の谷部においても、８世紀後半に大量に杯ｄが廃棄されていた。須恵質焼成のものは出土していないが、祭祀の場で使用された土師器杯ｄが８次調査地などの近隣において生産されていた可能性を考えることができる。

（２）金属器模倣須恵器

本堂８・13次調査地出土遺物の中で注目されるものとして、金属器模倣須恵器がある。13次灰原３区２層では仏鉢形の鉢（462）が出土している。鉢は内外面とも丁寧な回転ヘラミガキが施されており、土師器生産との関係も示唆する土器である。８次ＳＤ０２・２層では椀と思われるもの（155）が出土している。口縁部が短く外反し、体部下半が丸みをもって椀形に近いプロポーションで器壁が薄く丁寧なつくりである。椀は大量の失敗品須恵器とともに出土し、鉢は窯跡に伴う灰原から出土しており、周辺で生産されたことは確実であると考えられる。

以上のことから、本堂８・13次調査地において須恵質焼成土師器杯ｄや仏鉢形の鉢が須恵器生産

に関わる遺構から出土したことにより、須恵器と土師器の密接な技術交流を示す場が８世紀後半の牛頸窯跡群内の上大利地区に存在した可能性が高いといえる。

さらに牛頸窯跡群内の上大利地区における仏教関係遺物の生産については、５次調査地で仏器模倣土器や瓦塔が確認されていたが、本堂８・13次調査地においても仏器模倣土器が確認されたことから、これを補強する結果となった。

牛頸窯跡群内の８世紀後半の上大利地区には、須恵器生産が土師器生産と密接に交流する場が存在した可能性があり、生産された土器は仏教的な性格をもつものであった。須恵器においても仏器模倣土器が生産されており、仏教的な性格をもつモノの生産が集中して盛んにおこなわれていた地区であることが再確認された。上大利地区は牛頸窯跡群の操業が開始された場所であり、さらに７世紀後半以降は畿内の陶邑窯跡群との関係が深く、須恵器生産を管掌した集団が存在した可能性が想定される地区である。このような牛頸窯跡群内の特別な地区において仏教的な性格をもつモノの操業と並行して村落寺院が展開しており、これらを総合的に捉えて検討することにより、仏教施設の位置付けや信仰の内容、さらには８世紀後半代における牛頸窯跡群の生産の実態とその背景が明らかになると思われる。これらの検討については今後の課題としたい。（早瀬）

註１　石木秀啓・久住愛子・北川貴洋・上田龍児・大里弥生 2008『牛頸本堂遺跡群Ⅵ』大野城市文化財調査報告書第 80 集

石木秀啓・大里弥生・中島圭 2008『牛頸本堂遺跡群Ⅶ』大城市文化財調査報告書第 81 集

註２　中島恒次郎 1992「都へ行った土器―長岡京右京 第 102 次調査ＳＤ 1020 出土資料―」『古文化談叢』第 28 集

図　　版



（1）８次１号窯跡灰原検出状況（北東から）



（2）８次１号窯跡検出状況（南西から）

図版 2



（1）8次1号窯跡焚口部遺物
出土状況（北から）



（2）8次1号窯跡焼成部
右側壁（東から）



（3）8次1号窯跡焼成部
左側壁（北から）



（1）8次1号窯跡 c－c’ 間
天井部残存状況（北東から）



（2）8次1号窯跡d—d’ 間
天井部残存状況（北東から）



（3）8次1号窯跡焼成部天井
崩落状況（北東から）

図版 4



（1）8次1号窯跡 c－c’ 間
土層（北東から）



（2）8次1号窯跡 d－d’ 間
土層（北東から）



（3）8次1号窯跡 e － e’ 間
土層（北東から）



（1）8次1号窯跡天井部
残存状況（北東から）



（2）8次1号窯跡 a－a’ 間
土層（北から）



（3）8次1号窯跡焚口部
土層（北から）

図版 6



（1）8次1号窯跡 a－a’ 間
主軸土層（東から）



（2）8次1号窯跡 a－a’ 間
主軸土層（東から）



（3）8次1号窯跡主軸断割
（北から）



（1）8次1号窯跡焼成部1次
床面検出状況（北東から）



（2）8次1号窯跡焼成部側壁
c－c’ 間断割（北から）



（3）8次1号窯跡焼成部側壁
e－ e’ 間断割（東から）

図版 8



（1）8次1号窯跡焼成部側壁
e－e’ 間断割（東から）



（2）8次1号窯跡最終床面検出状況（北東から）



（1）8次1号窯跡完掘状況全景（北東から）



（2）8次北側斜面平坦部完掘状況（北から）

図版 10



（1）8次北側斜面平坦部完掘状況（北東から）



（2）8次北側斜面平坦部第2面完掘状況（北東から）



（1）8次SD01完掘状況（東から）



（2）8次SD02 a－a’間
土層（北東から）

図版 12



（1）8次SD02 b－b’ 間
ベルト土層（北東から）



（2）8次SD02 c－c’ 間土層
（南から）



（3）8次SD02北端壁 d－d’
間土層（東から）



（1）8次SD02底面ピット完掘状況（北東から）



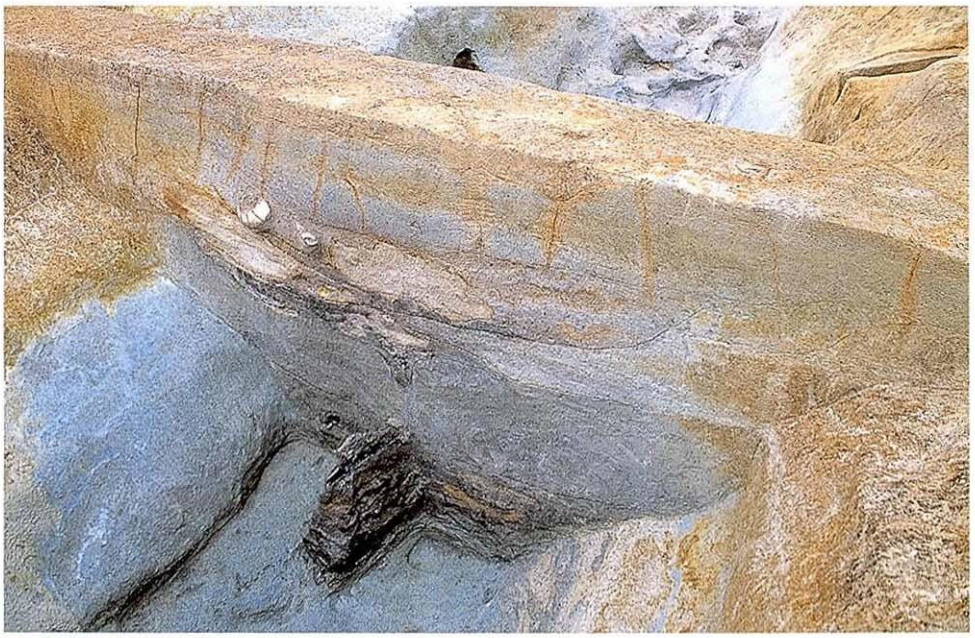
（2）8次SD02完掘状況（南西から）



（1）8次SD02完掘状況全景（南西から）



（2）8次SD03 a－a’間土層（北東から）



（1）8次SD03 b－b’ 間土層
（北から）



（2）8次SD03 c－c’ 間土層
（北東から）



（3）8次SD03 d－d’ 間土層
（北東から）

図版 16



（1）8次SD02 ・03完掘状況（南から）



（2）8次SD03完掘状況全景（南西から）



（1）8次SD03完掘状況全景（北東から）



（2）8次SD04完掘状況全景（北東から）

図版 18



（1）8次SK02・SX04完掘状況（北から）



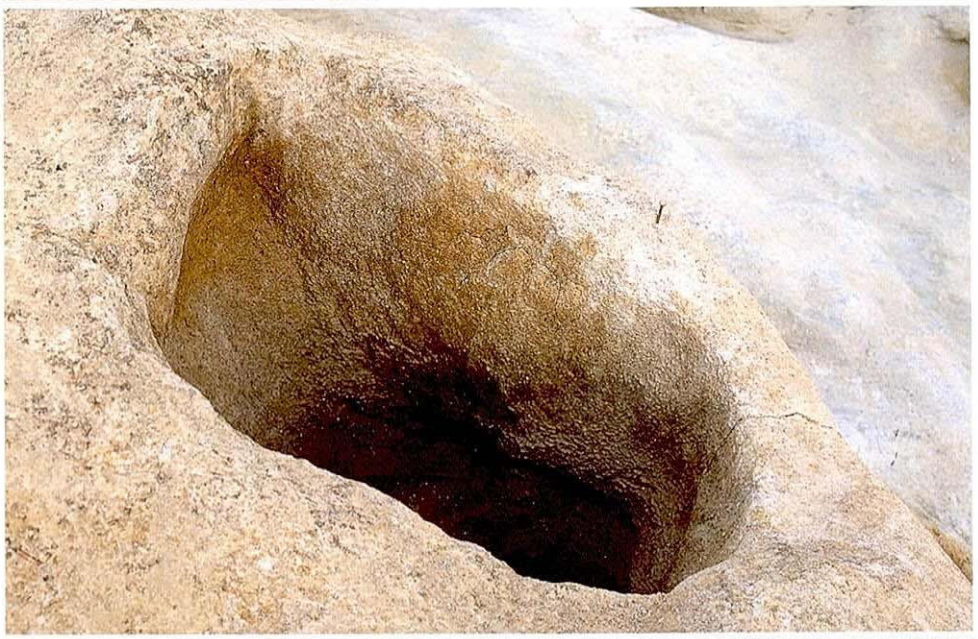
（2）8次SK03内白磁出土状況（南西から）



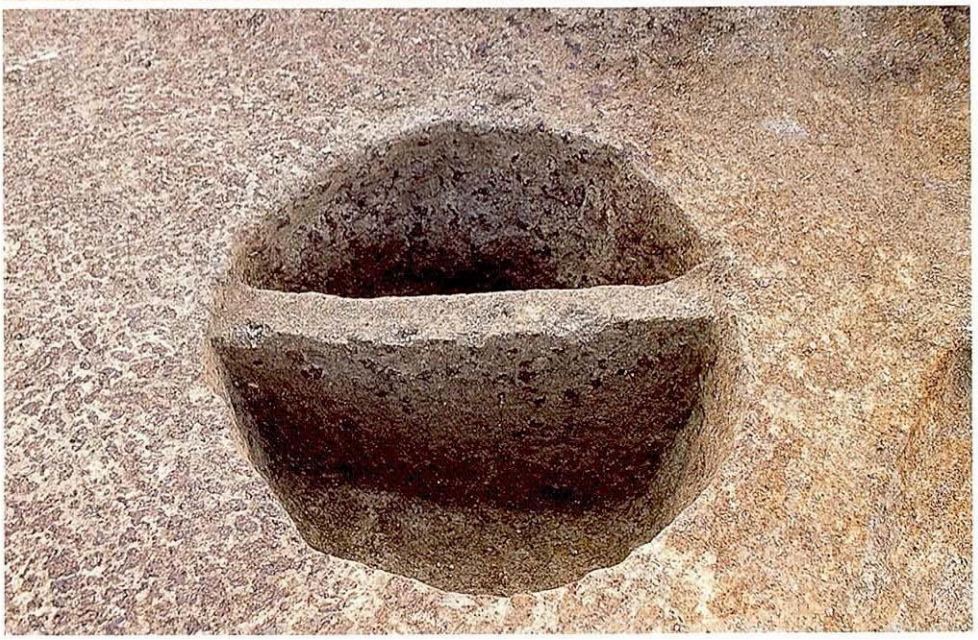
（3）8次SK06完掘状況（北東から）



（1）8次SK07土層断面
（南から）



（2）8次SK07完掘状況
（西から）



（3）8次SK08土層断面
（北から）

図版 20



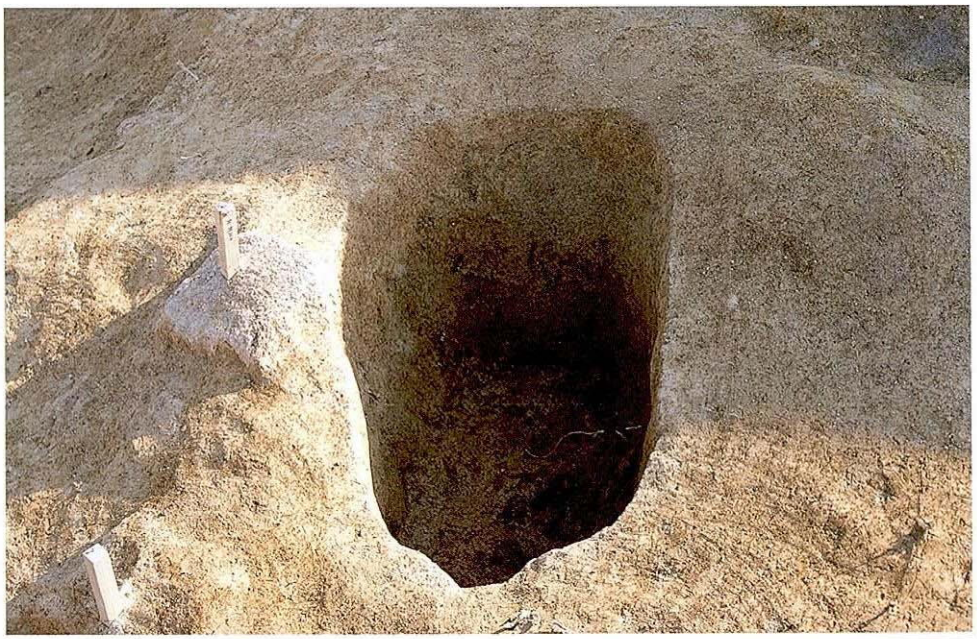
（1）8次SK08完掘状況
（南から）



（2）8次SK09完掘状況
（南東から）



（3）8次SK10完掘状況
（北から）



（1）8次SK13完掘状況
（北から）



（2）8次SX03遺物出土状況
1（東から）

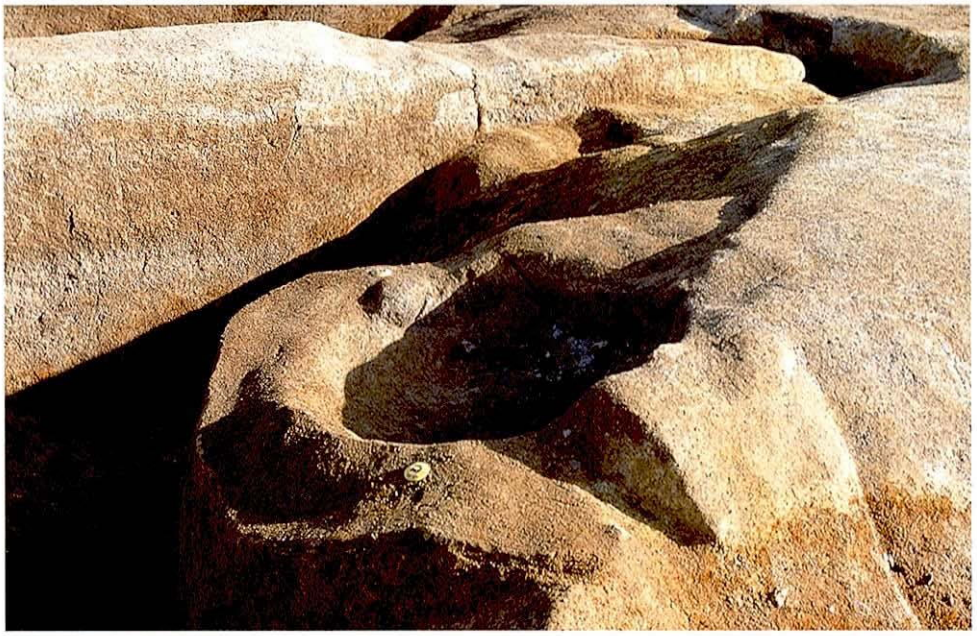


（3）8次SX03遺物出土状況
2（北東から）

図版 22



（1）8次SX04遺物出土状況
（東から）



（2）8次SX04完掘状況
（南西から）



（3）8次SX09遺物出土状況
（北東から）



8次SX07完掘状況（北東から）

図版 24



（1）13次調査区全景（南から）



（2）13次1区全景（南東から）



（1）13次2区斜面裾部全景（SX07周辺）（南から）

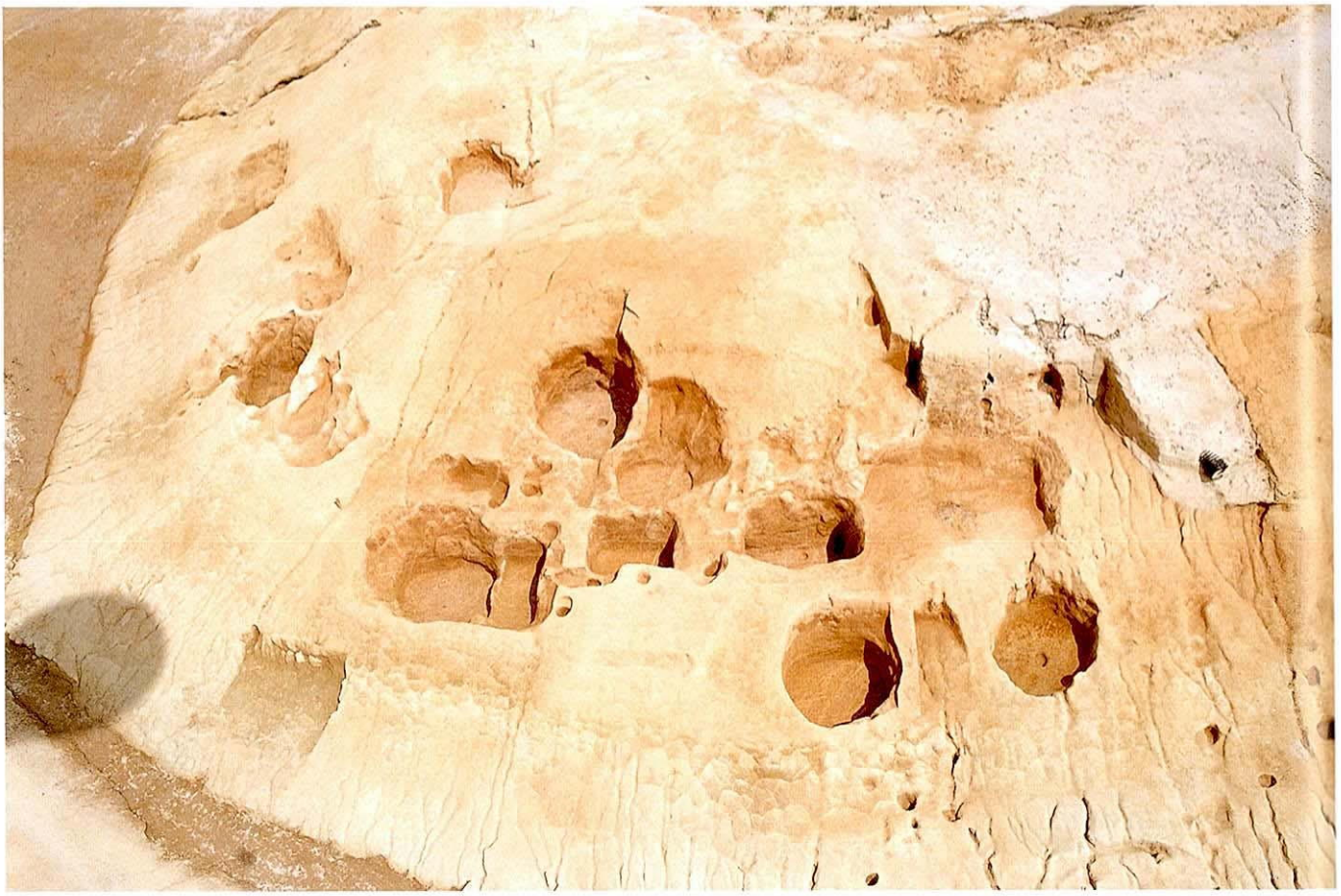


（2）13次1号窯跡全景（南東から）

図版 26



（1）13次3区全景（南西から）



（2）13次貯蔵穴群全景（SK07周辺）（南東から）



（1）13次灰原検出状況
（南東から）



（2）13次灰原1区 b－b’ 間
土層（南東から）



（3）13次灰原2区 b－b’ 間
土層（南東から）

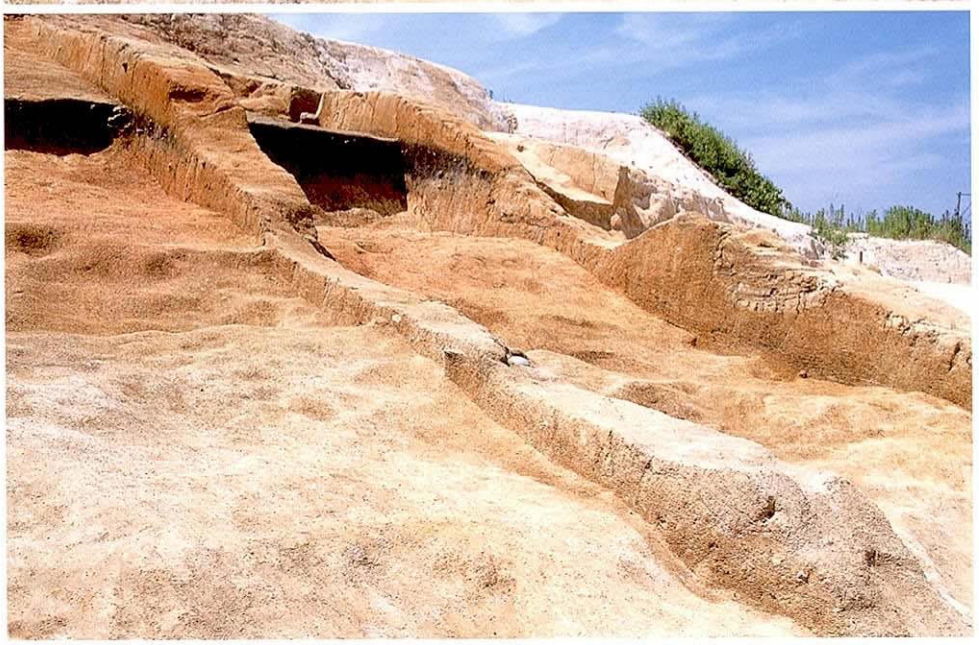
図版 28



（1）13次灰原3区 b－b’ 間
土層（南東から）



（2）13次灰原1－1・2区
a－a’ 間土層（南から）



（3）13次灰原1－2・3区
土層（南から）



（1）13次2－3・4区 c－c’
間土層（南から）



（2）13次2－5・3－1区 e－e’
間土層（南から）



（3）13次1号窯跡煙道部
a－a’ 間土層（南東から）

図版 30



（1） 13次1号窯跡右側壁面
（南西から）



（2） 13次1号窯跡左側壁面
（東から）



（3） 13次1号窯跡底面直上
遺物出土状況（南東から）



（1）13次1号窯跡焼成部
c－c’間土層（南東から）



（2）13次1号窯跡焼成部
a－a’間土層（東から）



（3）13次1号窯跡主軸
a－a’間土層（南東から）



（1） 13次1号窯跡前庭部遺物
出土状況（北西から）



（2） 13次1号窯跡前庭部
a－a’間土層（南西から）



（3） 13次1号窯跡焚口床面
直上遺物出土状況（南西から）



（1）13次1号窯跡横断割
（北東から）



（2）13次1号窯跡縦断割1
（南東から）

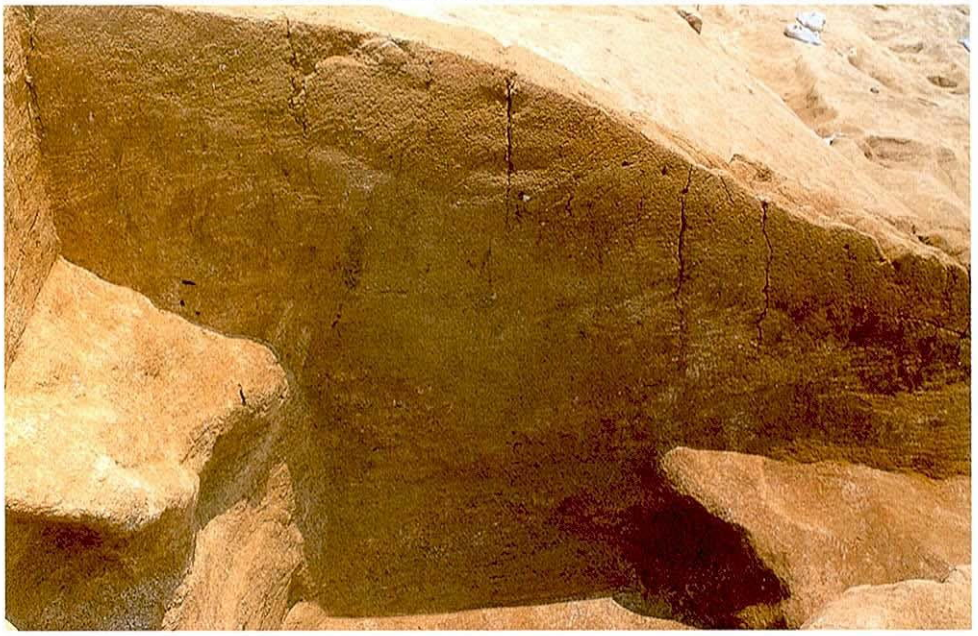


（3）13次1号窯跡縦断割2
（南東から）

図版 34



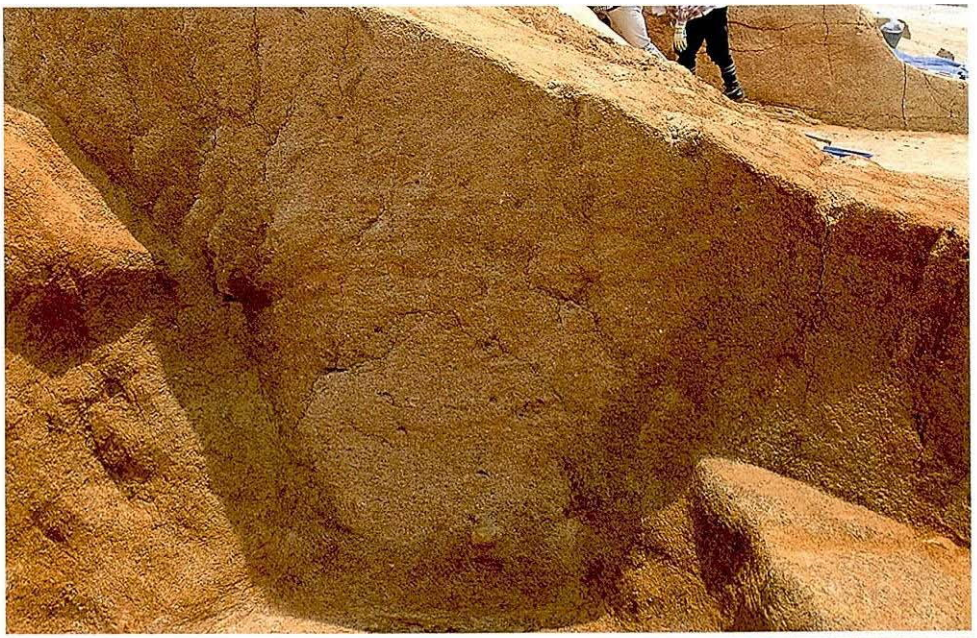
（1）13次SK01土層（南から）



（2）13次SK02土層
（南西から）



（3）13次SK02完掘状況
（南東から）



（1）13次SK05土層
（南西から）



（2）13次SK05完掘状況
（南から）



（3）13次SK07・13完掘
状況（南から）

図版 36



（1）13次SK08土層（西から）



（2）13次SK08完掘状況
（南から）



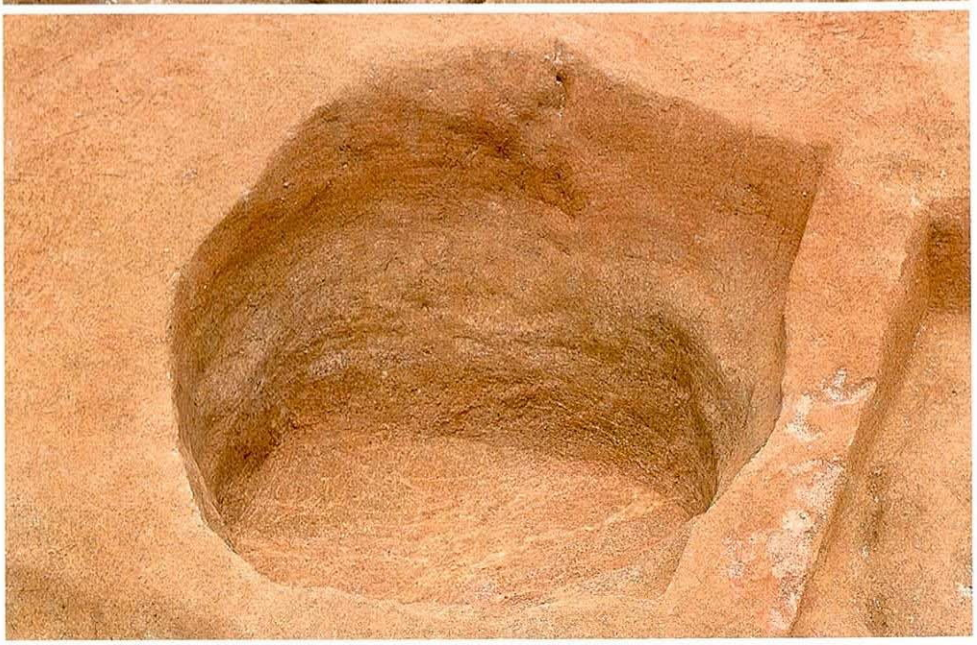
（3）13次SK08・09完掘
状況（西から）



（1）13次SK10土層（南から）



（2）13次SK10完掘状況
（南から）



（3）13次SK11完掘状況
（南から）

図版 38



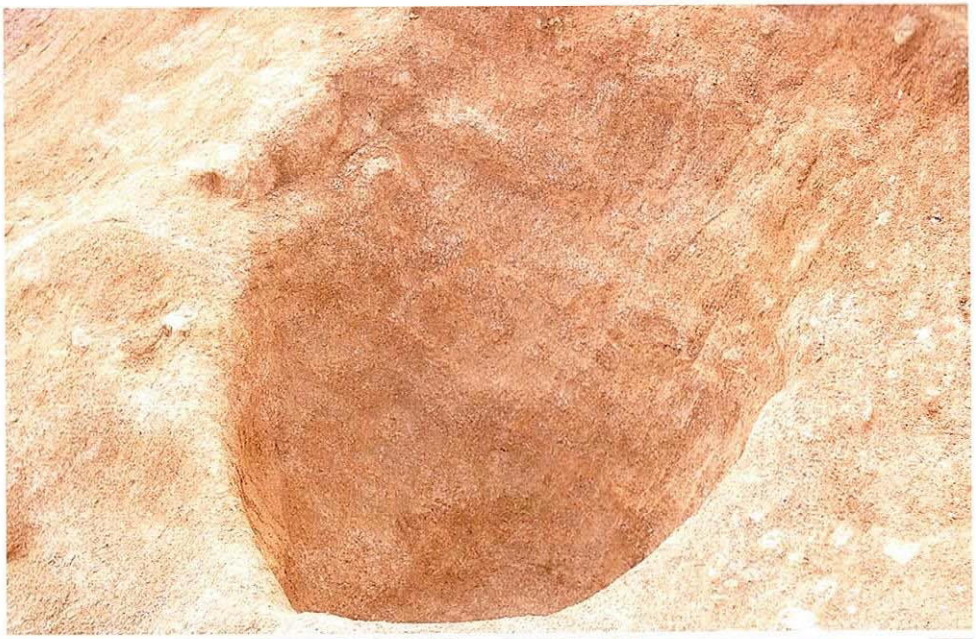
（1） 13次SK12完掘状況
（北東から）



（2） 13次SK13・17・SX
07・11完掘状況（南から）



（3）13次SK13土層（東から）



（1）13次SK16完掘状況
（東から）



（2）13次SX03土層
（南西から）



（3）13次SX03－1・2遺物
出土状況（東から）

図版 40



（1）13次SX03－3遺物出土状況（大型杯蓋）（南から）



（2）13次SX04－2・3遺物出土状況（南から）



（3）13次SX05遺物出土状況（北東から）



（1）13次SX07土層
（北東から）



（2）13次SX07遺物出土
状況（北東から）



（3）13次SX07全景
（北東から）

図版 42



（1）13次SX13完掘状況
（西から）



（2）13次SX14完掘状況
（南から）



（3）13次SX15完掘状況
（南から）



（1）13次SX19土層
（南西から）



（2）13次SX19・01完掘
状況（東から）



（3）13次SX22竈全景
（南東から）





8次調査出土遺物集合写真


1


2


3


6


7


10


13




14




16


19

8次調査出土遺物①























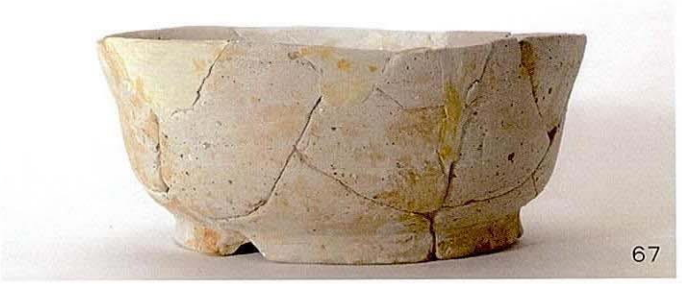






8次調査出土遺物②


55

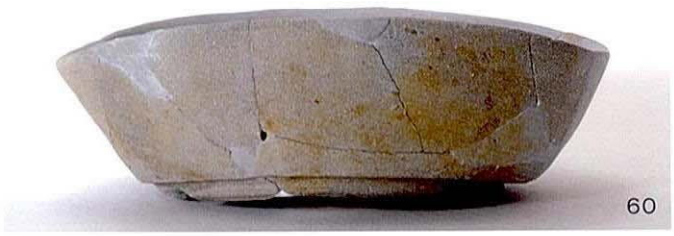

67


56


70


59


75


60


76


61


77


64


78


66


79

8次調査出土遺物③


80


93


82


94


83


96


84


98


89


99


90


101


91


102

8次調査出土遺物④


104


110


111


106


112




114


107


115


109


116

8次調査出土遺物⑤


119


122


124


125


127


126


132


133


134


136


139


140






142


144


150


152


153


155


158


159


161


163




167


168


169


170


171


172


174


175


182


184


185


189


190


192


199


200


202


203


206


209


210


212

8次調査出土遺物⑨


214




216


231


220


232


228


233


229

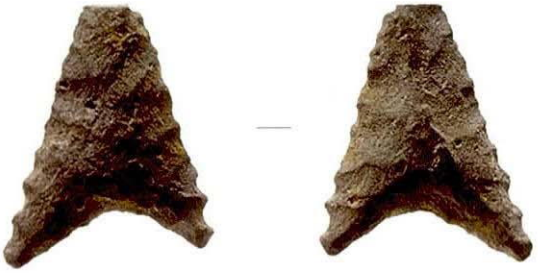

239


230


242



246



247



249



250



251



253



254



256





257



262



263.



268

図版 56


273


274


275


277


278


280


281


287


288

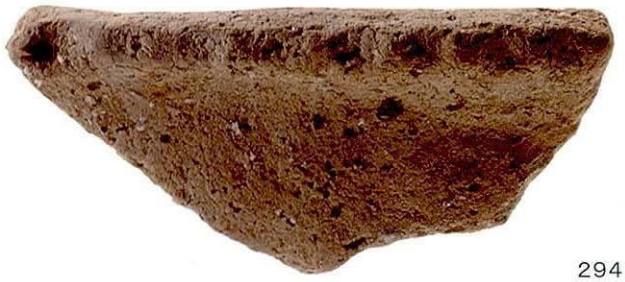

290


291


292

8次調査出土遺物⑫


293

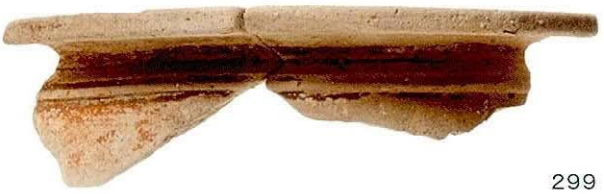

294


295


296


297


298


299


300


301


302

8次調査出土遺物⑬



303



304



305



306



307



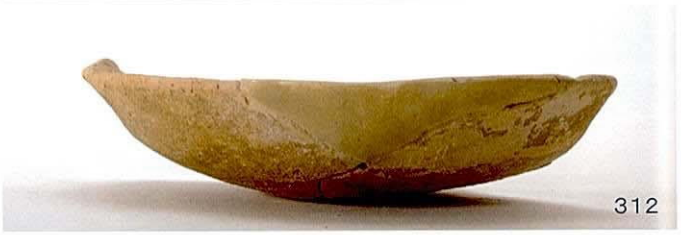
308



309



310



312



313



314


317


318


319


320


321


322


323


324


326


327


328


329


331


332

8次調査出土遺物⑮


333


334


336


337


338


339




340


341




342


343


348


344


349






345


350


346


351


347


352


353


354


355


357


359


360


361


362


366


367

8次調査出土遺物⑱


371


372




375


376

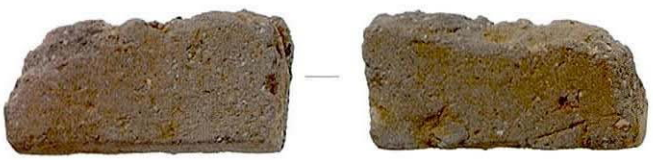

377

8次調査出土遺物⑲


411


412


414


416


417


418

13次調査出土遺物①


419


421


424


425


426


427


428


429


430


431

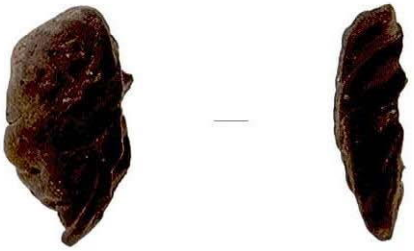

433


434




435

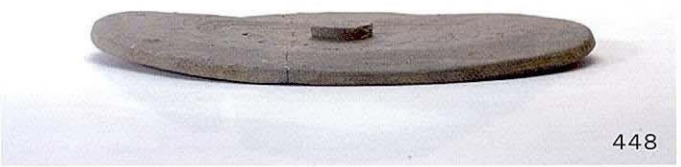

438


441


445




447


448

13次調査出土遺物③





450







451



452





455



456



457



458



462


463




468



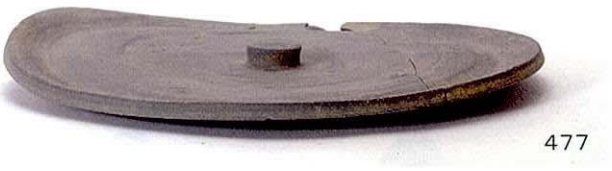

471


474




476

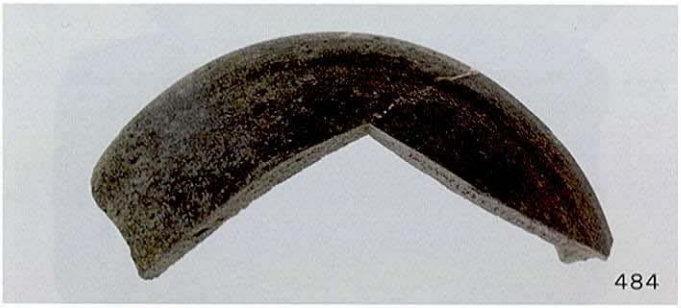

473

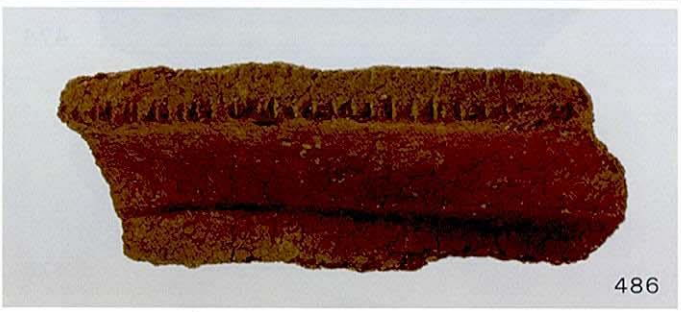

477


478


479


480


484

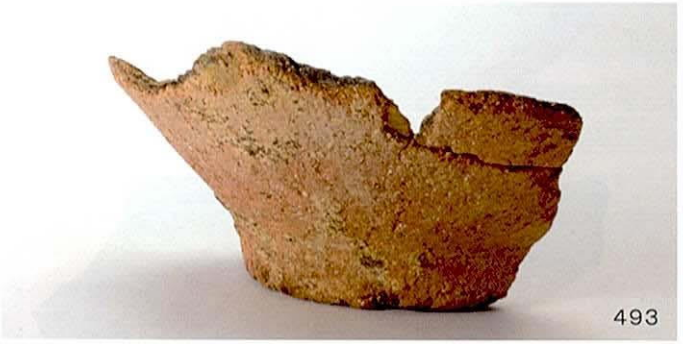

486


488


489


490


491


493

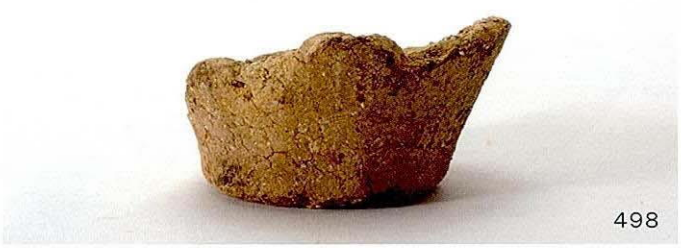

494


495


496


497

13次調査出土遺物⑥


498


499


501


502


503


504




505




506


508





509



510



511



512



514



515



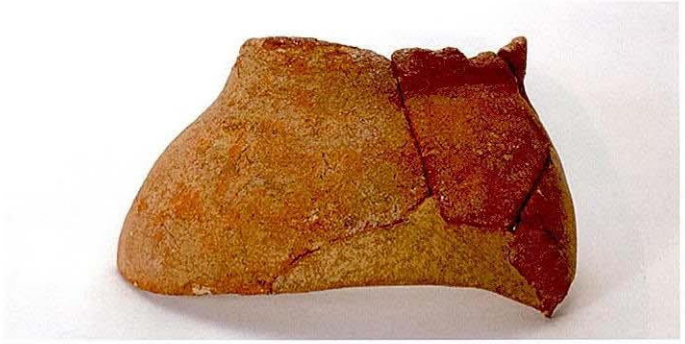
516

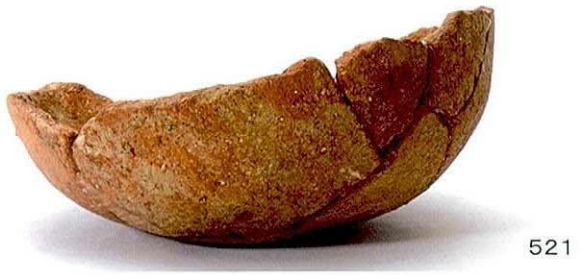


517



519





521



522



523



524



525





526





527



528

13次調査出土遺物⑨


529


531


532


533


534


535


536




537


538


539


540



541



542



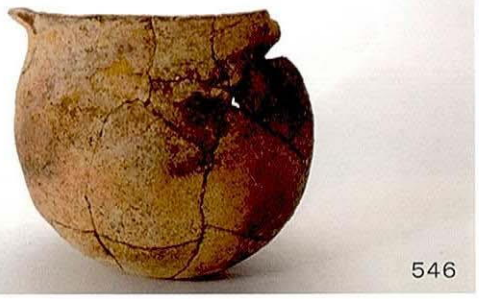
543



544



545



546



547





548



550



559



553



560



561



564



565





566



568





569





575



13次調査出土遺物⑭



8次調査SX04出土遺物（341 ～ 351）

報告書抄録

ふりがな	うしくびほんどういせきぐんはち
書名	牛頸本堂遺跡群Ⅷ
副書名	上大利北土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	X
シリーズ名	大野城市文化財調査報告書
シリーズ番号	第82集
編著者名	早瀬 賢・平島義孝・松﨑卓郎
編集機関	大野城市教育委員会
所在地	〒816-8510　福岡県大野城市曙町二丁目２番１号　　電話092（501）2211
発行年月日	2008年9月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
ほんどういせき 本堂遺跡 第８次調査	ふくおかけんおおのじょうしおおあざかみおおり 福岡県大野城市大字上大利619番地他			33° 30′ 58″	130° 28′ 54″	2004. 8. 23 ～ 2005. 3. 28	4,200㎡	区画整理

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
本堂遺跡 第８次調査	生産遺跡・集落遺跡	弥生～平安	窯跡・灰原・溝跡・土坑・ピット	弥生土器・須恵器・土師器・黒色土器・陶磁器・石器・土製品	

要約

調査地は丘陵の北東緩斜面に位置する。牛頸窯跡群最古の須恵器を出土した14次調査地が東側に隣接する。大規模な造成により遺構面は大きく削平されていたが、窯跡・灰原・溝跡・土坑などが確認された。弥生時代には溝跡の自然堆積層より土器が出土しており、周辺に集落が存在していた可能性は高い。古墳時代には溝跡から14次調査出土の須恵器と同様の時期の須恵器が出土しており、牛頸窯跡群操業開始期の遺構が展開していた可能性がある。奈良時代の遺構として窯跡・灰原と失敗品の須恵器を大量に廃棄された溝跡が確認されており、この時期に非常に大規模に須恵器生産がおこなわれていたことが再確認された。また溝跡からは、肥後系壺が出土しており、注目される。平安時代の遺構としては、完形品の土師器・黒色土器が入れられた土坑があり、何らかの祭祀行為に伴うものである可能性が高い。

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
ほんどういせき 本堂遺跡 第13次調査	ふくおかけんおおのじょうしおおあざかみおおり 福岡県大野城市大字上大利666番地１他			33° 30′ 47″	130° 28′ 52″	2005. 5. 9 ～7. 31	1,500㎡	区画整理

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
本堂遺跡 第13次調査	生産遺跡・集落跡	弥生～平安	窯跡・灰原・竪穴住居跡・貯蔵穴・溝・土坑・木棺墓	弥生土器・須恵器・土師器・陶磁器・石器・瓦・土製品	

要約

調査地は丘陵の南東～南斜面に位置する。５次調査地が北側に隣接する。弥生時代には、最も古いもので前期末から中期初頭の甕棺小片が出土しており、甕棺墓が存在した可能性がある。中期になると遺構が増加し、貯蔵穴が確認されたほか、中期中葉以降の木棺墓と考えられるものが１基確認された。古墳時代には、Ⅳ A期にあたる斜面をテラス状に削って作られた竪穴住居状遺構が確認された。隣接する５次調査地でも同様の遺構が確認され、須恵器工人の集落の可能性が考えられている。本調査地のものについても同じ性格の集落である可能性が考えられる。奈良時代には８世紀後半の窯跡が１基確認されているほか、竪穴住居跡が確認されている。木棺墓・灰原の中には土師器杯dを須恵質に焼成したものが含まれ注目される。平安時代以降は、竪穴住居跡１棟と僅かながら遺物が確認されている。

大野城市文化財調査報告書　第82集

牛頸本堂遺跡群Ⅷ

平成20年9月30日

発行　大野城市教育委員会
福岡県大野城市曙町2-2-1

印刷　大同印刷株式会社
佐賀市久保泉町大字上和泉1848-20

図書
21.2.18
九州国立博物館